

平成28年度

海外における特定複合観光施設に関する調査分析業務委託

報告書

平成29年3月





## 目 次

用語定義等.....	1
第1章 はじめに.....	2
1.1 調査分析の目的.....	2
1.2 調査分析対象国・地域選定の考え方.....	2
1.3 調査分析方法.....	3
第2章 IR・カジノの現状.....	4
2.1 韓国.....	5
2.1.1 国・地域の概要.....	5
2.1.2 IR・カジノの開業状況.....	7
2.1.3 運営概要.....	10
2.2 マカオ.....	19
2.2.1 国・地域の概要.....	19
2.2.2 IR・カジノの開業状況.....	22
2.2.3 運営概要.....	25
2.3 シンガポール.....	42
2.3.1 国・地域の概要.....	42
2.3.2 IR・カジノの開業状況.....	44
2.3.3 運営概要.....	45
2.4 カンボジア.....	49
2.4.1 国・地域の概要.....	49
2.4.2 IR・カジノの開業状況.....	51
2.4.3 運営概要.....	54
2.4.4 参考情報.....	56
2.5 北朝鮮.....	57
2.5.1 国・地域の概要.....	57
2.5.2 IR・カジノの開業状況.....	58
2.5.3 運営概要.....	59
2.6 フィリピン.....	60
2.6.1 国・地域の概要.....	60
2.6.2 IR・カジノの開業状況.....	62
2.6.3 運営概要.....	68
2.7 ベトナム.....	76
2.7.1 国・地域の概要.....	76
2.7.2 IR・カジノの開業状況.....	78
2.7.3 運営概要.....	79
2.7.4 参考情報.....	79
2.8 マレーシア.....	80
2.8.1 国・地域の概要.....	80
2.8.2 IR・カジノの開業状況.....	82
2.8.3 運営概要.....	83
2.9 ミャンマー.....	85
2.9.1 国・地域の概要.....	85
2.9.2 IR・カジノの開業状況.....	87

2.9.3 運営概要.....	89
2.10 ラオス.....	90
2.10.1 国・地域の概要.....	90
2.10.2 IR・カジノの開業状況.....	92
2.10.3 運営概要.....	93
2.11 ロシア沿海地方.....	94
2.11.1 国・地域の概要.....	94
2.11.2 IR・カジノの開業状況.....	96
2.11.3 運営概要.....	97
2.11.4 参考情報.....	98
2.12 カジノが合法化されていない国・地域.....	99
2.12.1 インドネシア.....	99
2.12.2 タイ.....	99
2.12.3 台湾.....	100
2.12.4 中国.....	101
2.12.5 東ティモール.....	101
2.12.6 ブルネイ.....	102
2.12.7 香港.....	102
2.12.8 モンゴル.....	102
<b>第3章 新規 IR・カジノの開発動向.....</b>	<b>103</b>
3.1 韓国.....	105
3.1.1 新規 IR・カジノの開発動向.....	105
3.1.2 計画概要.....	107
3.2 マカオ.....	113
3.2.1 新規 IR・カジノの開発動向.....	113
3.2.2 計画概要.....	115
3.3 カンボジア.....	119
3.3.1 新規 IR・カジノの開発動向.....	119
3.3.2 計画概要.....	120
3.4 フィリピン.....	122
3.4.1 新規 IR・カジノの開発動向.....	122
3.4.2 計画概要.....	125
3.5 ベトナム.....	132
3.5.1 新規 IR・カジノの開発動向.....	132
3.5.2 計画概要.....	134
3.6 ロシア沿海地方.....	136
3.6.1 新規 IR・カジノの開発動向.....	136
3.6.2 計画概要.....	137
3.6.3 参考情報.....	140
<b>第4章 IR・カジノ市場の分析及び IR 導入にあたっての課題.....</b>	<b>141</b>
4.1 アジアを取り巻く IR・カジノ市場の分析.....	141
4.1.1 主要国におけるカジノ市場の動向.....	141
4.1.2 主要国における顧客属性及び売上分析.....	147
4.1.3 マス層の獲得に向けた動き.....	152
4.2 日本及び東京の特性.....	157
4.2.1 外国人旅行者数の推移.....	157

4.2.2 各国・地域の分析 .....	160
4.2.3 競合分析.....	163
4.3 IR 導入にあたっての課題.....	164



## 用語定義等

### ● I R

Integrated Resort の略で、一般的には「統合型リゾート」と呼称される。本報告書では、平成28年12月に成立した「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」に準拠し、「カジノ施設」及び「会議場施設、レクリエーション施設、展示施設、宿泊施設その他の観光の振興に寄与すると認められる施設」が一体となっている施設を指す。ただし、海外の国・地域では、IR の概念及び定義が必ずしも明確でないところもある。

### ● M I C E

M:Meeting（企業系会議）、I:Incentive（企業の報奨・研修旅行）、C:Convention（国際会議）、E:Exhibition/Event（展示会・見本市、イベント等）を総称した造語である。

### ● ギャンブル

金銭を賭ける行為をいう。

### ● V I P

Very Important Person の略であり、カジノにおいては、主に特別エリアでプレイし、賭け金が多い客層を指す。

### ● マス

mass（大衆、一般客）のことであり、カジノにおいては、VIP以外の客層を指す。

### ● 売上高

各社の年次報告書等で記載されている売上高の数字。特に、カジノ等のギャンブルに関する売上高は、顧客の賭け金の総額から、顧客に支払った額を差し引いたものを基本とし、金額を調整したもの。各国の会計基準や各社でそれぞれ「Casino Revenue」、「Operating Revenue」、「Casino Sales」等の用語が用いられ調整項目が異なるが、本報告書においては便宜的に「カジノ売上高」等としている。

### ※為替レート

本報告書において、現地通貨を記載した部分については、参考として次のレートで換算した日本円額を併記している。

図表 為替レート

通貨	レート	通貨	レート
1 米ドル	115 円	1 フィリピンペソ	2.3 円
1 韓国ウォン	0.1 円	1 ベトナムドン	0.005 円
1 マカオパカタ	15 円	1 マレーシアリングgit	25 円
1 香港ドル	15 円	1 ロシアルーブル	1.8 円
1 シンガポールドル	80 円	1 モンゴルトウグル	0.05 円

※本報告書のグラフ等の数値は、単位未満四捨五入による端数処理のため、合計が一致しないことがある。

# 第1章 はじめに

## 1.1 調査分析の目的

都はこれまで、外国人旅行者の増加、都内産業のビジネス機会やイノベーションの創出等を図るため、MICE 誘致を積極的に推進してきた。2015(平成 27)年 7 月に策定した「東京都 MICE 誘致戦略」においても、MICE 開催都市東京としての揺るぎないプレゼンスを確立するため、2024(平成 36)年頃までに国際会議の開催件数を世界トップクラスとなる年間 330 件とする目標を掲げている。

一方で、海外に目を向けると、シンガポールやマカオでは MICE 施設だけではなく、ホテルやエンターテインメント施設、ショッピングモール、カジノ等を含む統合型リゾート、いわゆる IR (Integrated Resort) の整備等を行い、MICE 開催件数及び外国人旅行者数を増やしてきた。また、韓国やフィリピン、ロシア沿海地方等では、新たに IR を建設し、外国人旅行者を呼び込む計画を進めている。加えて、カジノ合法化や自国民へのカジノ開放の動きを見せるアジアの国・地域も存在する。

我が国においても、2016 年(平成 28 年)12 月に、「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」、いわゆる「IR 推進法」が成立した。今後「IR 実施法案」が国会に提出されることとなっており、これから国内で具体的な議論が進むことが見込まれる。

このような中、IR に関する検討を進めるにあたっては、上述のような日本の周辺諸国・地域における IR・カジノの現状や、新規 IR・カジノの建設予定、合法化検討状況等の情報を収集・分析し、IR・カジノをめぐる最新の動きを把握することが重要である。

このため、IR の検討に資することを目的として、次の事項について調査分析を行った。

- 各国・地域における IR・カジノの現状
- 各国・地域における IR・カジノの開発動向・合法化検討状況
- アジアを取り巻く IR・カジノ市場の分析
- IR 導入にあたっての課題

## 1.2 調査分析対象国・地域選定の考え方

調査対象国・地域は、日本に距離的に近く、近年 IR・カジノ建設の動きが活発な東アジア、東南アジア及びロシア沿海地方とした。具体的には、外務省 HP<sup>1</sup>で公表されている国・地域から、インド、スリランカ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、ブータン、モルディブを除き、ロシア沿海地方を加えた国・地域である。

調査対象国・地域(19 箇国・地域)
韓国、マカオ、シンガポール、インドネシア、カンボジア、北朝鮮、タイ、台湾、中国(香港、マカオ除く)、東ティモール、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、香港、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、ラオス、ロシア沿海地方

<sup>1</sup> 外務省 HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>



### 1.3 調査分析方法

本調査・分析においては、行政機関やカジノ運営事業者等のウェブサイトや関連書籍等で公表されている情報を調査するとともに、調査対象国・地域のうち、韓国、マカオ、シンガポールについては、現地の規制当局の職員やカジノ運営事業者へのヒアリング等を行うことにより情報を収集した。

本報告書に記載した内容は、こうして収集した情報を総合的に分析した上でまとめたものである。したがって、報告書本文の出所のうち、関係機関のウェブサイト等で公表されている資料のように出典として明記できるものはその旨を記しているが、ヒアリングによって得られた情報についてはその都度説明していない。

なお、本報告書は、原則として2017年（平成29年）2月時点の情報に基づき、記載している。

## 第2章 IR・カジノの現状

本章では、調査対象国・地域の IR・カジノの開業状況や各施設の概要、運営事業者の収益状況等について取り上げるとともに、カジノが合法されていない国・地域における合法化検討状況について述べる。

調査対象国・地域における IR・カジノの開業状況は以下のとおりである。

図表 2-1 IR・カジノの開業状況

国・地域	施設数	備考
韓国	17	廃鉱跡地に政策的に開業したカンウォンランドカジノ 1 箇所を除き、16 箇所は外国人専用カジノである。
マカオ	36	長らく一社独占市場であったが、2002 年に外国資本へ市場開放し、6 事業者にカジノライセンスが付与された。近年は、コタイ地区を中心に大型 IR 建設が進み、アジアにおける IR・カジノ施設の一大集積地となっている。
シンガポール	2	2005 年にカジノが合法化され、2010 年に 2 つの IR が開業した。
カンボジア	32※	多数の外国人専用カジノが開業している。このうち、国内最大の IR 施設であるナガワールドが、政府のカジノ税収の約 4 割を占めている。
北朝鮮	2	外国人が宿泊するホテル 2 箇所にカジノが併設されている。
フィリピン	54	2009 年以降、複数の大型 IR が開業している。このほかフィリピン人を主な顧客とした小・中規模のカジノが多数存在する。
ベトナム	7	外国人専用カジノが 7 箇所開業している。 注)2017 年 3 月より試験的に、条件付きでベトナム人のカジノ利用が認められる。
マレーシア	1	リゾートワールド・ゲンティン 1 箇所のみが開業している。
ミャンマー	3	タイとの国境近くに 3 箇所の外国人専用カジノが開業している。
ラオス	3	タイとの国境沿いに 3 箇所の外国人専用カジノが開業している。特別経済区に限りカジノの設置が認められている。
ロシア沿海地方	1	ロシア国内でカジノの設置が認められた特区の一つである。4 つの IR・カジノ計画のうち、ティグレ・デ・クリスタル 1 箇所が開業済みである。
インドネシア	0	非合法
タイ	0	非合法
台湾	0	非合法
中国	0	非合法
東ティモール	0	非合法
ブルネイ	0	非合法
香港	0	非合法
モンゴル	0	非合法

※カンボジアにおいては、77 のカジノにライセンスが与えられており、そのうち 65 のカジノが営業しているが、本調査で確認できたのは 32 施設であった。

## 2.1 韓国

### 2.1.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

韓国は、アジア大陸北東部に位置する、面積約 10 万 km<sup>2</sup> の国である。首都はソウル。人口は約 5,150 万人。人口の約 50%が首都圏（ソウル、仁川、京畿道）に集中し、うち約 20%がソウルに集中している。

図表 2-2 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約10万km <sup>2</sup>	
人口	約5,150万人	2015年
言語	韓国語	
宗教	仏教、プロテスタント、カトリック、その他	
通貨	韓国ウォン	
名目GDP	1兆3,770億米ドル(158兆3,550億円)	2015年
1人あたり名目GDP	27,397米ドル(315万円)	2015年
実質経済成長率	2.6%	2015年

出典：JETRO HP<sup>2</sup>、国連統計<sup>3</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

ソウルの西約 50km に位置する仁川国際空港及びソウル市内の金浦国際空港へ、日本・中国の各都市から就航している。

図表 2-3 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	成田→ソウル	2時間30分	
	羽田→ソウル	2時間20分	
	大阪→ソウル	1時間50分	
	札幌→ソウル	3時間	
	福岡→ソウル	1時間20分	
中国から	北京→ソウル	2時間	
	上海→ソウル	1時間50分	
	香港→ソウル	3時間40分	

出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>2</sup> JETRO HP <https://www.jetro.go.jp/world/>

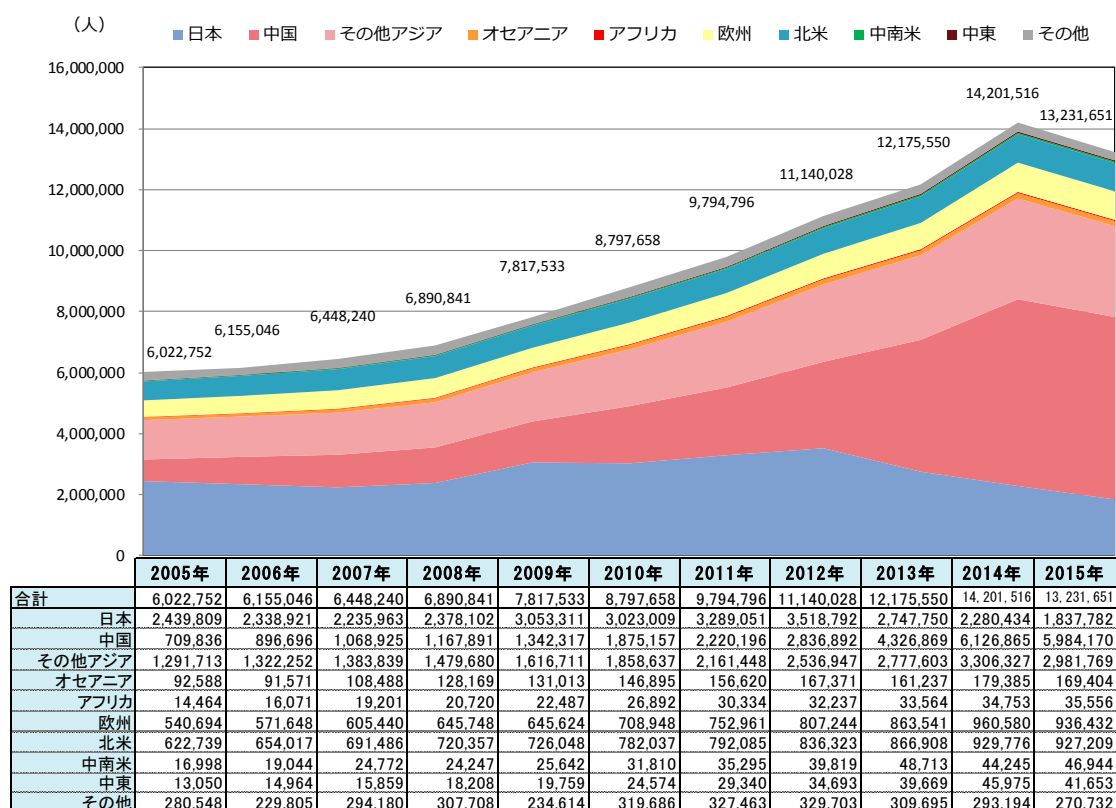
<sup>3</sup> 国連統計 <http://unstats.un.org/unsd/snaama/dnlList.asp>

### (3) 外国人旅行者の状況

韓国への外国人旅行者数の推移をみると、2005年からの10年間で約2.2倍に増加し、2015年は約1,323万人であった。

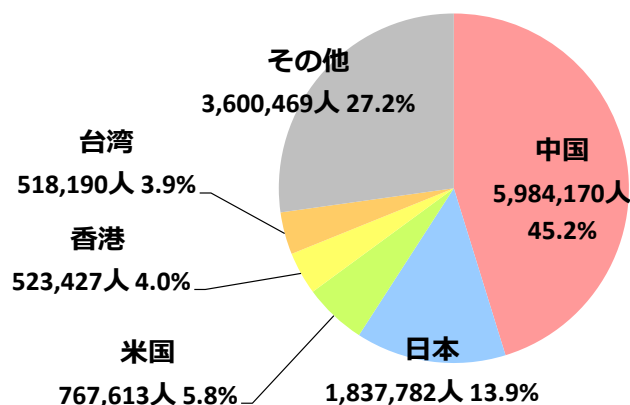
日本からの旅行者数は2015年時点で全体の13.9%であり、2012年の約352万人をピークとして減少傾向である。一方、中国からの旅行者数は急増しており、2015年時点で約598万人と全体の45.2%を占めている。

図表 2-4 韓国への外国人旅行者数(2005年～2015年の推移)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2-5 韓国への外国人旅行者数(2015年の上位5箇国・地域)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.1.2 IR・カジノの開業状況

韓国においては、外国人旅行者の誘客や外貨獲得等を目的としてカジノを合法化し、1967年に仁川のオリンパスホテル内に国内初のカジノが開業した。当初は韓国人も入場が可能であったが、社会的問題が発生したため、1969年に「観光振興法」を改正し、韓国人の入場を禁止した。それ以降、ソウルや釜山、済州島などを中心として、外国人専用カジノが設置され、その数は16施設に上る。

一方、1995年には、廃鉱地域の振興を目的として、「廃鉱地域開発支援に関する特別措置法」が制定された。これを受け、国内で唯一韓国人が入場可能なカジノを備えたカンウォンランドが2003年に全面開業した。同施設は、カジノの他に、スキー場やゴルフ場、観光ホテルを備えた総合的なリゾート施設である。

現在、韓国国内には、17のカジノ施設があり、うち16箇所が外国人専用カジノ、残り1箇所が韓国人も入場可能なカンウォンランドカジノである。

図表 2-6 韓国のIR・カジノ施設一覧

※2016年6月現在

No	施設名	立地	運営事業者	許可年	従事者数 (人)	売上高 <sup>4</sup> (億円)	訪問者数 <sup>5</sup> (人)	営業面積 <sup>6</sup> (㎡)
1	パラダイスカジノウォーカーヒル (Paradise Casino Walker-Hill)	ソウル	パラダイス (Paradise)	1968年	923	355	572,959	3,970.97
2	セブンラックカジノソウル江南(Seven Luck Casino Gangnam)	ソウル	グランドコリアレジャー (Grand Korea Leisure)	2005年	809	215	470,735	6,093.57
3	セブンラックカジノミレニアムソウルヒルトン (Seven Luck Casino Millennium Seoul Hilton)	ソウル	グランドコリアレジャー	2005年	493	196	919,799	2,811.94
4	パラダイスカジノ釜山 (Paradise Casino Busan)	釜山	パラダイス	1978年	352	73	90,098	2,283.50
5	セブンラックカジノ釜山ロッテ(Seven Luck Casino Busan Lotte)	釜山	グランドコリアレジャー	2005年	320	85	210,276	2,554.50
6	パラダイスカジノ仁川 (Paradise Casino Incheon)	仁川	パラダイスセガサミー (Paradiseseegasammy)	1967年	412	95	48,526	1,703.57
7	アルペンシアカジノ (Alpensia Casino)	江原	カバズ(Cozana)	1980年	8	0	3,893	689.51
8	インターブルゴテグ (Hotel Inter-Burgo Casino)	大邱	ゴールドデンクラウン (Golde Crown)	1979年	171	13	69,483	3,473.37
9	ケイ済州ホテルカジノ (The-K Casino)	済州	エンエスディーヤングサング (NSD Media)	1975年	158	18	30,734	2,359.10

<sup>4</sup> 数値は2015年度

<sup>5</sup> 数値は2015年度

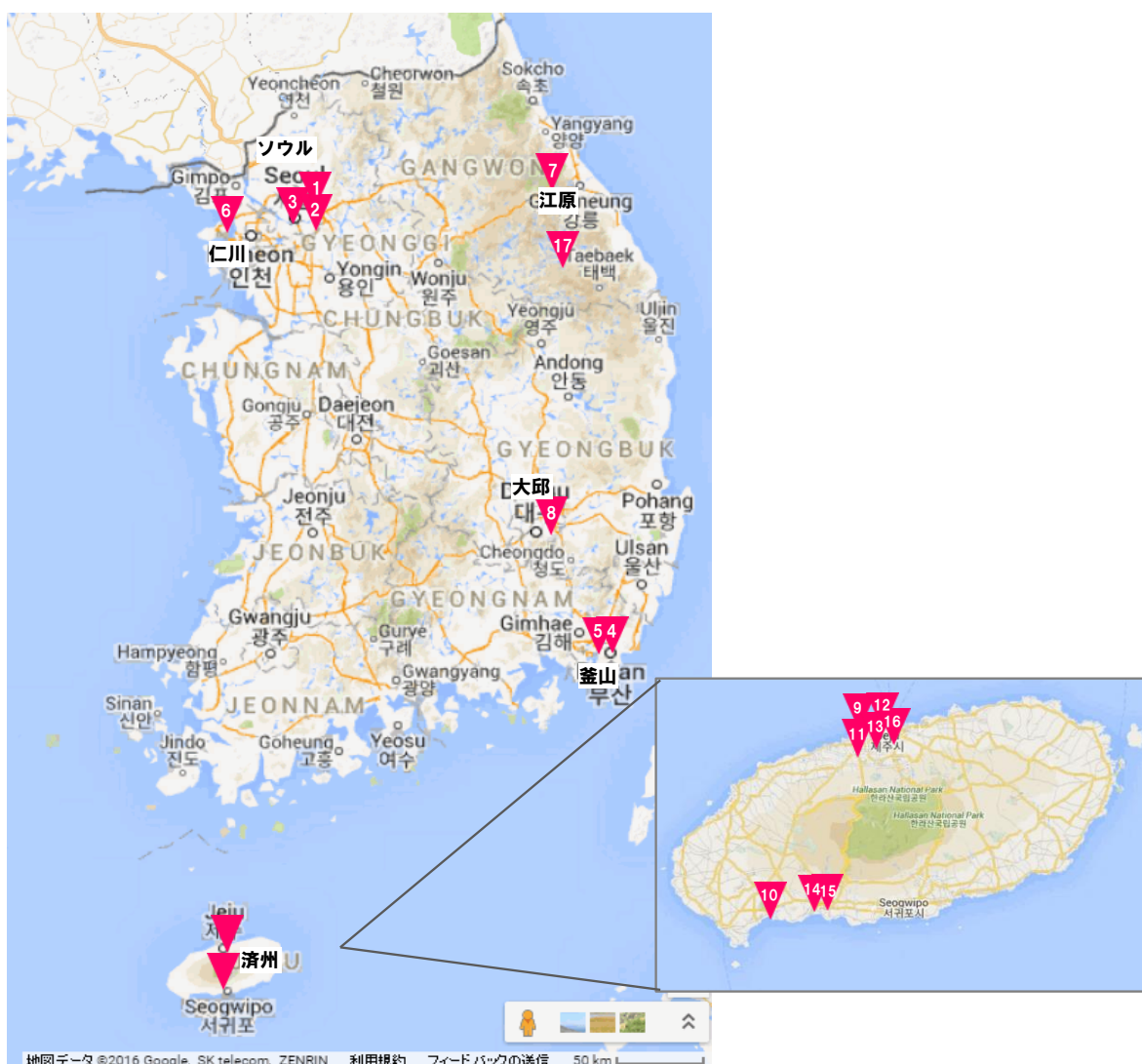
<sup>6</sup> 政府から許可された営業面積

No	施設名	立地	運営事業者	許可年	従事者数 (人)	売上高 <sup>4</sup> (億円)	訪問者数 <sup>5</sup> (人)	営業面積 <sup>6</sup> (㎡)
10	パラダイスカジノ済州 ロッテ(Paradise Casino Jeju Lotte)	済州	パラダイス	1985年	189	37	33,461	1,205.41
11	パラダイスカジノ済州 グランド(Paradise Casino Jeju Grand)	済州	パラダイス	1990年	252	50	45,702	2,756.76
12	ロイヤルパレスカジノ (済州オリエンタルホ テル)(Royal Palace Casino)	済州	ゴンハ(Pung hwa)	1990年	199	16	18,362	1,353.18
13	済州サンホテル&カ ジノ(Lvegas Casino)	済州	GNL(GNL)	1990年	217	4	19,559	2,802.09
14	ランディングカジノ(ハ イアットホテル)(Hyatt Hotel Casino)	済州	グランド・エクス プレス・コリア (Beluga OCEAN)	1990年	230	32	15,474	803.30
15	シエラカジノ(Shilla Hotel Casino)	済州	マジェスタ (Majesta)	1991年	264	40	36,597	2,886.89
16	ゴールドンビーチカ ジノ(Golden Beach Casino)	済州	ゴールドンビー チ (GoldenBeach)	1995年	157	13	27,962	1,528.58
17	カンウォンランドカジ ノ(Kangwon Land Casino)	江原	カンウォンランド (Kangwon Land)	2000年	3672	1,561	3,133,391	12,792.95

出典：韓国政府文化体育観光部 HP<sup>7</sup> を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>7</sup> 韓国政府文化体育観光部 HP 2016 年 6 月 30 日付公表  
[http://www.mcst.go.kr/web/s\\_data/statistics/statList.jsp?pSearchType=01&pSearchWord=%EC%B9%B4%EC%A7%80%EB%85%B8](http://www.mcst.go.kr/web/s_data/statistics/statList.jsp?pSearchType=01&pSearchWord=%EC%B9%B4%EC%A7%80%EB%85%B8)

図表 2-7 韓国におけるIR・カジノ位置図



1	パラダイスカジノウォーカーヒル	10	パラダイスカジノ済州ロッテ
2	セブンラックカジノソウル江南	11	パラダイスカジノ済州グランド
3	セブンラックカジノミレニアムソウルヒルトン	12	ロイヤルパレスカジノ
4	パラダイスカジノ釜山	13	済州サンホテル&カジノ
5	セブンラックカジノ釜山ロッテ	14	ランディングカジノ(ハイアットホテル)
6	パラダイスカジノ仁川	15	シェラカジノ
7	アルペンシアカジノ	16	ゴールデンビーチカジノ
8	インターブルゴテグ	17	カンウォンランドカジノ
9	ケイ済州ホテルカジノ		

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.1.3 運営概要

### (1) パラダイスグループ

#### ① 運営事業者の概要

パラダイスグループは、韓国に本社を置くカジノ運営事業者である。1967年に韓国で最初のカジノ施設を仁川に開業した<sup>8</sup>。現在は、韓国において5箇所の外国人専用カジノを運営している。

図表 2-8 運営事業者の概要

事業者名	パラダイスグループ(Paradise Group)
所在地	韓国ソウル
設立	1972年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="http://www.paradisegroup.co.kr/">http://www.paradisegroup.co.kr/</a>

出典：パラダイスグループ HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

パラダイスグループが韓国で運営している IR・カジノ施設のうち、主な施設の概要は以下のとおりである。

図表 2-9 主な運営施設の概要(パラダイスグループ)

	パラダイスカジノウォーカーヒル	パラダイスカジノ釜山
外観	 株式会社日本能率協会総合研究所撮影	 パラダイスグループ HP より引用
地区	ソウル	釜山
面積	カジノ面積 3,178 m <sup>2</sup>	カジノ面積 2,284 m <sup>2</sup>
開業時期	1968年	1978年
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 841 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 105 台、スロットマシン 135 台、電子ゲーム 34 台)</li> <li>・その他(宴会場、スパ、ショッピングセンター、シアター、免税店)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 481 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 36 台、スロットマシン 58 台、電子ゲーム 21 台)</li> <li>・その他(宴会場、スパ、スポーツジム、免税店)</li> </ul>

出典：パラダイスグループ HP、韓国政府文化体育観光部 HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>8</sup> 当時は、パラダイスグループの前身となるオリンポス観光産業(株)であった。



図表 2- 10 主な運営施設の概要(パラダイスグループ)

	パラダイスカジノ済州グランド	パラダイスカジノ仁川
外 観	 パラダイスグループ HP より引用	 パラダイスグループ HP より引用
地 区	済州	仁川
面 積	カジノ面積 2,757 ㎡	カジノ面積 1,311 ㎡
開業時期	1990 年	1967 年
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 512 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 41 台、スロットマシン 52 台)</li> <li>・その他(フィットネスクラブ、スパ、宴会場、プール)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 1,022 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 52 台、スロットマシン 45 台、電子ゲーム 20 台)</li> <li>・その他(スポーツクラブ、スパ)</li> </ul>

出典：パラダイスグループ HP、韓国政府文化体育観光部 HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

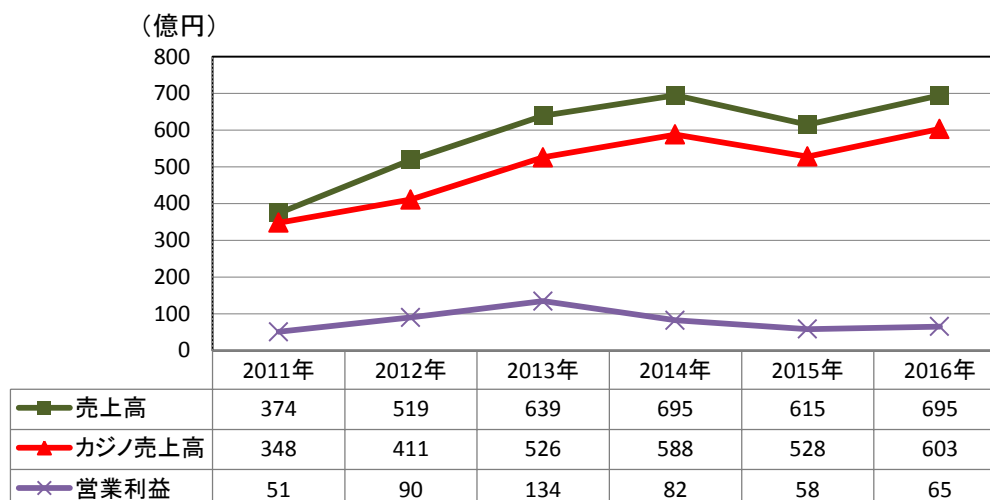
### ③ 顧客内訳

2014 年度においてパラダイスカジノ仁川の国籍別顧客数の割合は、中国人 6 割、日本人 2 割程度である。

### ④ 売上高等の推移

パラダイスグループの売上高等の推移をみると、2011 年以降、堅調に売上高、カジノ売上高を伸ばしてきたが、2015 年に減少に転じた。2016 年は売上高、カジノ売上高ともに 2014 年の水準を回復している。

図表 2- 11 売上高等の推移(パラダイスグループ)

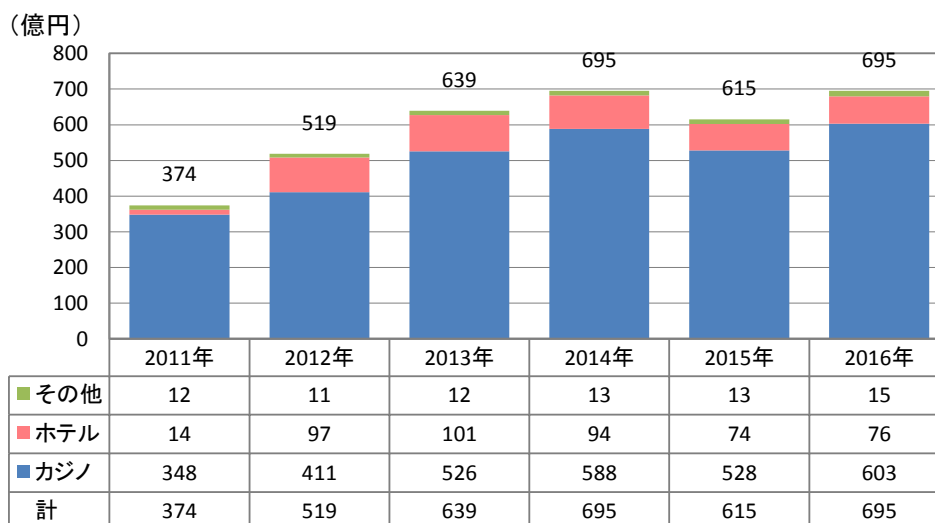


出典：パラダイスグループ Earnings Result を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## ⑤ 事業別売上高の推移

売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が高く、2016年は全体の86.8%を占めている。

図表 2- 12 事業別売上高等の推移(パラダイスグループ)

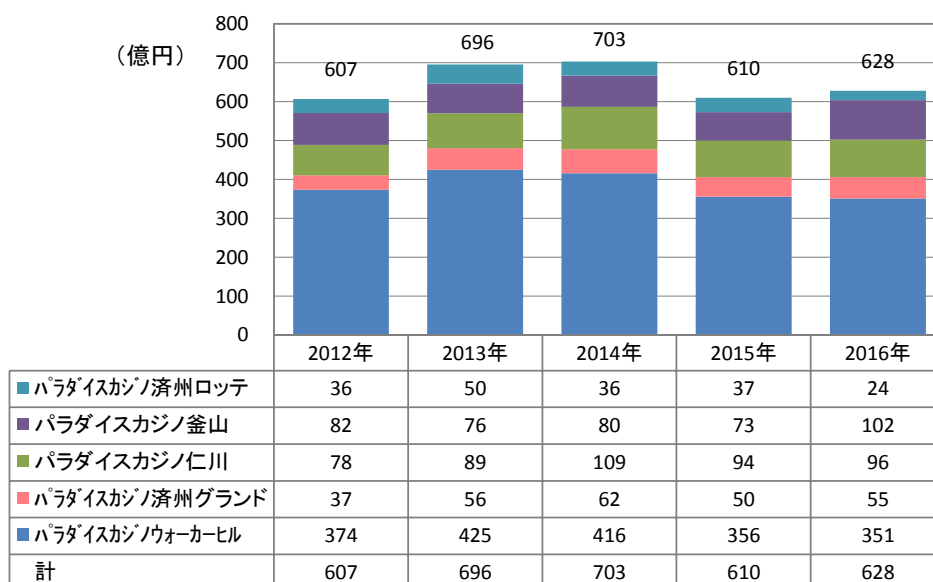


出典：パラダイスグループ Earnings Result を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## ⑥ 施設別カジノ売上高の推移

カジノ売上高を施設別にみると、ソウルのパラダイスカジノが売上高の半分以上を占めている。

図表 2- 13 施設別売上高等の推移(パラダイスグループ)



出典：パラダイスグループ Earnings Result<sup>9</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>9</sup> パラダイスグループ Earnings Result において韓国カジノ協会(Korean Casino Association)の数値を引用したものであり、集計方法が異なるため、本図表の合計の数値は前出のカジノ売上高の数値と一致しない。

## (2) グランドコリアレジャー

### ① 運営事業者の概要

グランドコリアレジャーは、韓国観光公社の子会社であり、2006年からセブンラックブランドでカジノを展開するカジノ運営事業者である。現在は、韓国において、3箇所の外国人専用カジノを運営している。

図表 2-14 運営事業者の概要

事業者名	グランドコリアレジャー(Grand Korea Leisure Co., Ltd)
所在地	韓国ソウル
設立	2005年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="http://www.grandkorea.com/">http://www.grandkorea.com/</a>

出典：グランドコリアレジャーHPを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ② 運営施設の概要

グランドコリアレジャーが韓国で運営しているIR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2-15 運営施設の概要(グランドコリアレジャー)

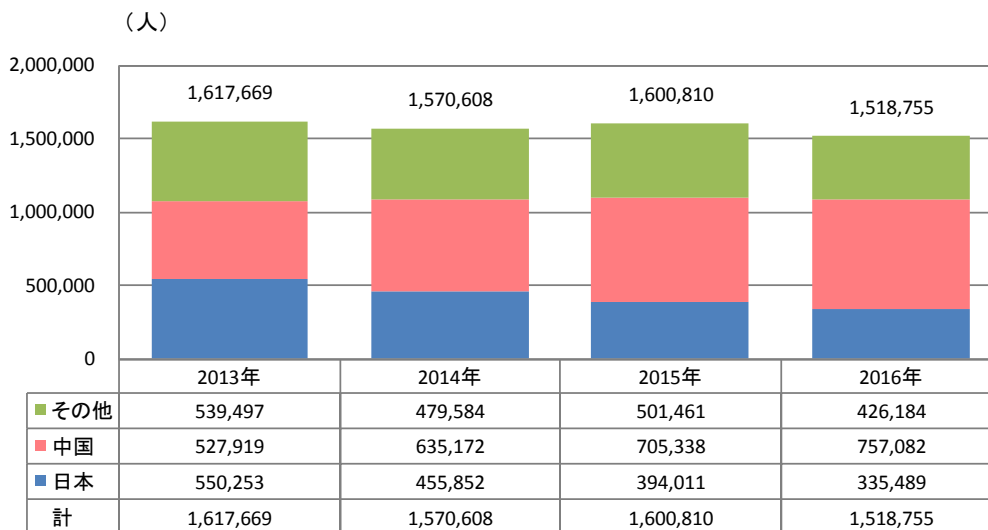
	セブンラックカジノ ソウル江南	セブンラックカジノミレニウム ソウルヒルトン	セブンラックカジノ 釜山ロッテ
外観	 グランドコリアレジャーHPより	 グランドコリアレジャーHPより	 グランドコリアレジャーHPより
地区	ソウル江南地区	ソウル中心街	釜山
面積	営業面積 6,094 m <sup>2</sup> カジノ面積 6,093 m <sup>2</sup>	営業面積 2,812 m <sup>2</sup> カジノ面積 2,812 m <sup>2</sup>	営業面積 2,555 m <sup>2</sup> カジノ面積 1,583 m <sup>2</sup>
開業時期	2006年	2006年	2006年
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル ・カジノ(テーブル 82 台、スロットマシン 121 台) ・コンベンション ・その他(ショッピングモール、水族館)	・ホテル ・カジノ(テーブル 51 台、スロットマシン 152 台)	・ホテル ・カジノ(テーブル 45 台、スロットマシン 116 台) ・ショッピングモール

出典：グランドコリアレジャーGKL Investor Relations 2016 4Q、韓国政府文化体育観光部 HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ③ 顧客内訳

国籍別入場者数をみると、日本と中国の顧客が大半を占めている。2013年から2016年にかけて、日本人の入場者数が減少する一方、中国人の入場者数は年々増加している。

図表 2- 16 国籍別入場者数(グランドコリアレジャー)

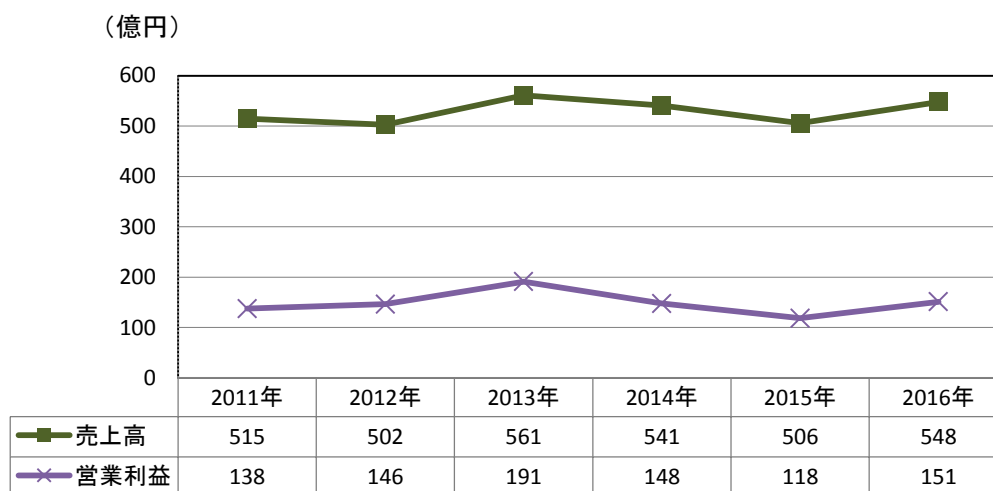


出典：グランドコリアレジャー2016年度第4四半期の Fact Sheet<sup>10</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 売上高等の推移

グランドコリアレジャーの売上高等の推移をみると、近年の売上高は2013年をピークとして、横ばい傾向である。

図表 2- 17 売上高等の推移(グランドコリアレジャー)



出典：グランドコリアレジャーGKL INVESTOR RELATIONS<sup>11</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

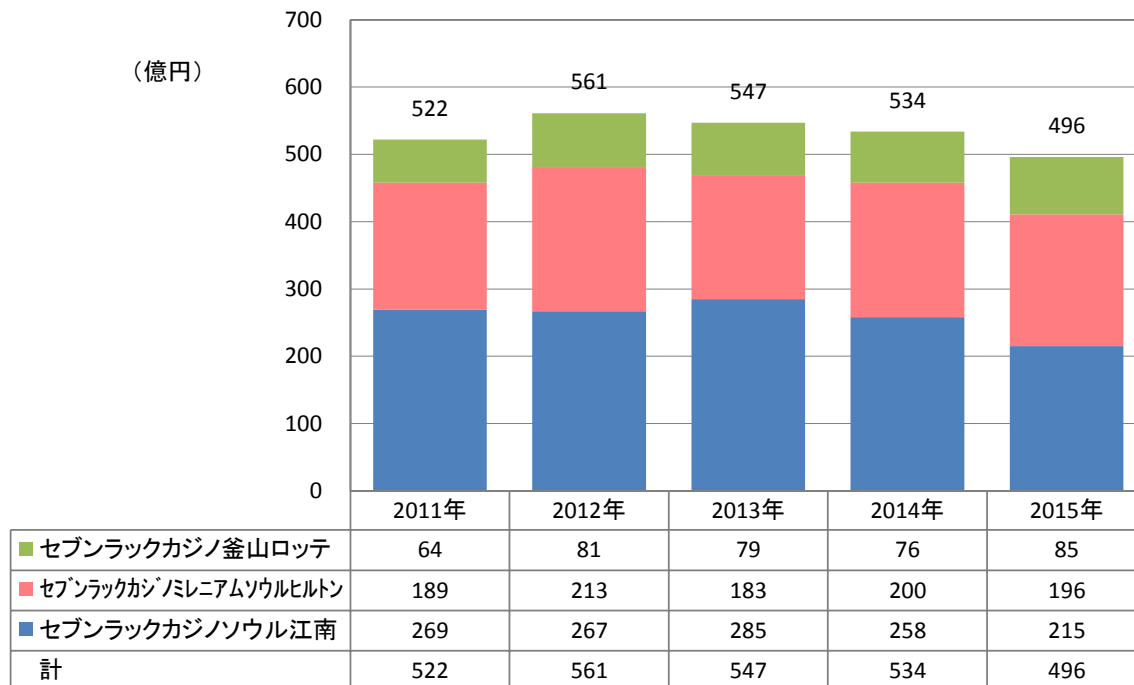
<sup>10</sup> グランドコリアレジャー2016年度第4四半期の Fact Sheet  
[http://www.grandkorea.com/DISC\\_30/detail?TMENUID=US\\_DISC\\_03&SMENUID=US\\_DISC\\_03\\_03&MMENUID=&EMENUID=&URL\\_JSP=&sel\\_lang\\_typ=KR&REC\\_SEQ=&seq=8849&PAGENUM=](http://www.grandkorea.com/DISC_30/detail?TMENUID=US_DISC_03&SMENUID=US_DISC_03_03&MMENUID=&EMENUID=&URL_JSP=&sel_lang_typ=KR&REC_SEQ=&seq=8849&PAGENUM=)

<sup>11</sup> グランドコリアレジャーGKL INVESTOR RELATIONS  
[http://www.grandkorea.com/DISC\\_30/default?TMENUID=US\\_DISC\\_03&SMENUID=US\\_DISC\\_03\\_03&MMENUID=&EMENUID=&URL\\_JSP=&sel\\_lang\\_typ=KR&REC\\_SEQ=](http://www.grandkorea.com/DISC_30/default?TMENUID=US_DISC_03&SMENUID=US_DISC_03_03&MMENUID=&EMENUID=&URL_JSP=&sel_lang_typ=KR&REC_SEQ=)

## ⑤ 施設別カジノ売上高の推移

カジノ売上高を施設別にみると、2015年は、セブンラックカジノソウル江南とセブンラックカジノミレニアムソウルヒルトンがそれぞれ全体の売上高の約4割ずつを占めている。

図表 2-18 施設別カジノ売上高等<sup>12</sup>の推移(グランドコリアレジャー)



出典：韓国政府文化体育観光部 HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>12</sup> 韓国政府文化体育観光部集計の資料を基に作成。集計方法が異なるためグランドコリアレジャーが発表している売上高とは一致しない。

### (3) カンウォンランド

#### ① 運営事業者の概要

カンウォンランドは、韓国の江原道に本社を置くカジノ運営事業者であり、韓国においてカンウォンランドカジノを運営している。同社は、江原道が設立した江原道開発公社、政府管轄の韓国鉦山開拓株式会社及び4つの地方自治体が株式の51%を保有している。

なお、カンウォンランドカジノは、国内で韓国人が入場できる唯一のカジノ施設である。

図表 2-19 運営事業者の概要


事業者名	カンウォンランド(Kangwon land Co., Ltd)
所在地	韓国江原道
設立	1998年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="http://kangwonland.high1.com/">http://kangwonland.high1.com/</a>

出典：カンウォンランド HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

カンウォンランドが韓国で運営している IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2-20 運営施設の概要(カンウォンランド)

カンウォンランドカジノ	
外観	 カンウォンランド HP より引用
地区	江原道
面積	カジノ面積 12,793 m <sup>2</sup> <sup>13</sup>
開業時期	2000年
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 1,827 室)</li> <li>・カジノ施設(テーブル 200 台、スロットマシン 1,360 台)</li> <li>・その他(ゴルフ場、スキー場)</li> </ul>

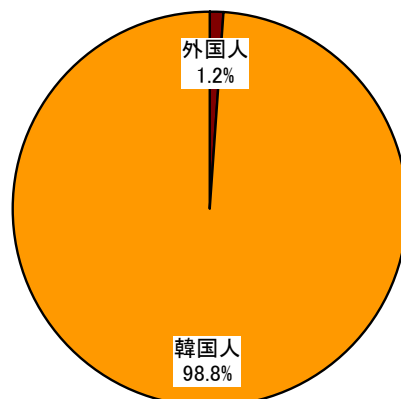
出典：カンウォンランド HP、韓国政府文化体育観光部 HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>13</sup> 政府から許可された営業面積

### ③ 顧客内訳

カンウォンランドにおける直近1年間の顧客内訳をみると、韓国人が313万6千人、外国人が3万8千人であり、韓国人が98.8%を占めている。

図表 2- 21 直近1年間における顧客内訳(カンウォンランド)



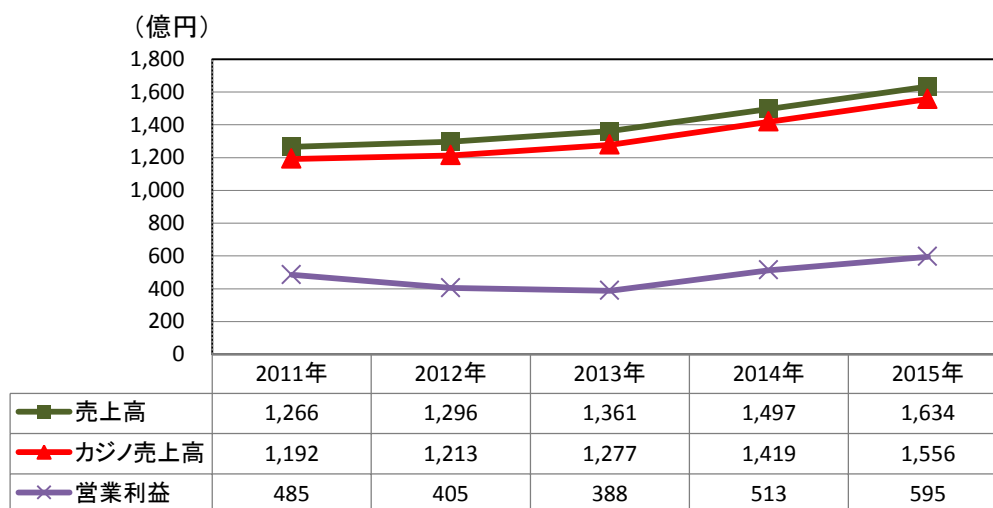
※直近1年間（2015年第4四半期から2016年第3四半期）の計

出典：カンウォンランド四半期 Results <sup>14</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 売上高等の推移

カンウォンランドの売上高等の推移をみると、2011年以降、売上高、カジノ売上高ともに堅調に伸びている。

図表 2- 22 売上高等の推移(カンウォンランド)



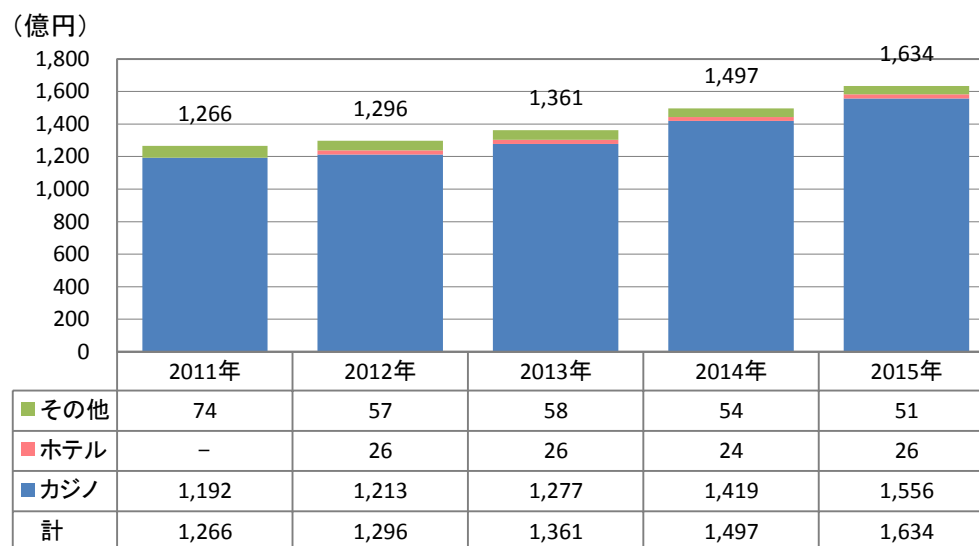
出典：カンウォンランド四半期 Results を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>14</sup> カンウォンランド四半期 Results (Earnings) <http://kangwonland.high1.com/eng/ndr/board-list.high1>

## ⑤ 事業別売上高の推移

売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が圧倒的に高く、2015年は全体の95.2%を占めている。

図表 2-23 事業別売上高等の推移(カンウォンランド)



※2011年の「その他」はホテルを含む

出典：カンウォンランド四半期 Results を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成



## 2.2 マカオ

### 2.2.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

マカオは、中国広東省南部、珠江デルタの西岸、香港の西約 60km の距離に位置し、マカオ半島、タイパ島、コロアネ島及び両島をつなぐ埋め立て地に新しく開発されたコタイ地区により構成されている。香港と同様、外交・国防を除き、高度の自治権が認められた中国の特別行政区の一つである。

観光及びカジノ産業がマカオの主要産業であり、カジノ産業は GDP の約 6 割を占めている<sup>15</sup>。2015 年の一人あたり名目 GDP は 71,077 米ドル（817 万円）で世界第 4 位の高い水準である。

図表 2- 24 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約30km <sup>2</sup>	2015年
人口	約65万人	2015年
言語	ポルトガル語、中国語(広東語と北京語)	
宗教	仏教、道教、キリスト教、イスラム教、ゾロアスター教	
通貨	マカオパタカ	
名目GDP	462億米ドル(5兆3,130億円)	2015年
1人あたり名目GDP	71,077米ドル(817万円)	2015年
実質経済成長率	-20.3%	2015年

出典：IMF、世界銀行、マカオ政府統計局（DSEC）「2015 Yearbook of Statistics」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>15</sup> マカオ政府統計局（DSEC）「2015 Yearbook of Statistics」

## (2) 日本・中国からの交通アクセス

マカオへは、成田、大阪、福岡から直行便が就航している。中国の各都市からも概ね就航しているが、隣の香港からは空路ではなく、フェリーでの移動となる。

また、マカオまで直行便のほかに、便数の多い香港まで空路で行き、そこからフェリーでマカオに向かうルートもよく利用される。

なお、2017 年末に、マカオと香港を結ぶ港珠澳大橋が完成する予定であり、開通後は、香港・マカオ間の移動が車で約 30 分程度に短縮される見込みである。

図表 2- 25 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	成田→マカオ	5時間	
	大阪→マカオ	4時間10分	
	福岡→マカオ	3時間30分	
中国から	北京→マカオ	3時間50分	
	上海→マカオ	2時間40分	
	香港→マカオ(飛行機)	直行便なし	
	香港→マカオ(フェリー)	約60分	香港(香港国際空港)→マカオ(マカオ・アウター・ハーバー・フェリーターミナル)
	香港→マカオ(ヘリコプター)	約15分	香港島(上環)→マカオ(マカオ・フェリーターミナル) ※料金は2,200香港ドル(3万3,000円)と高額

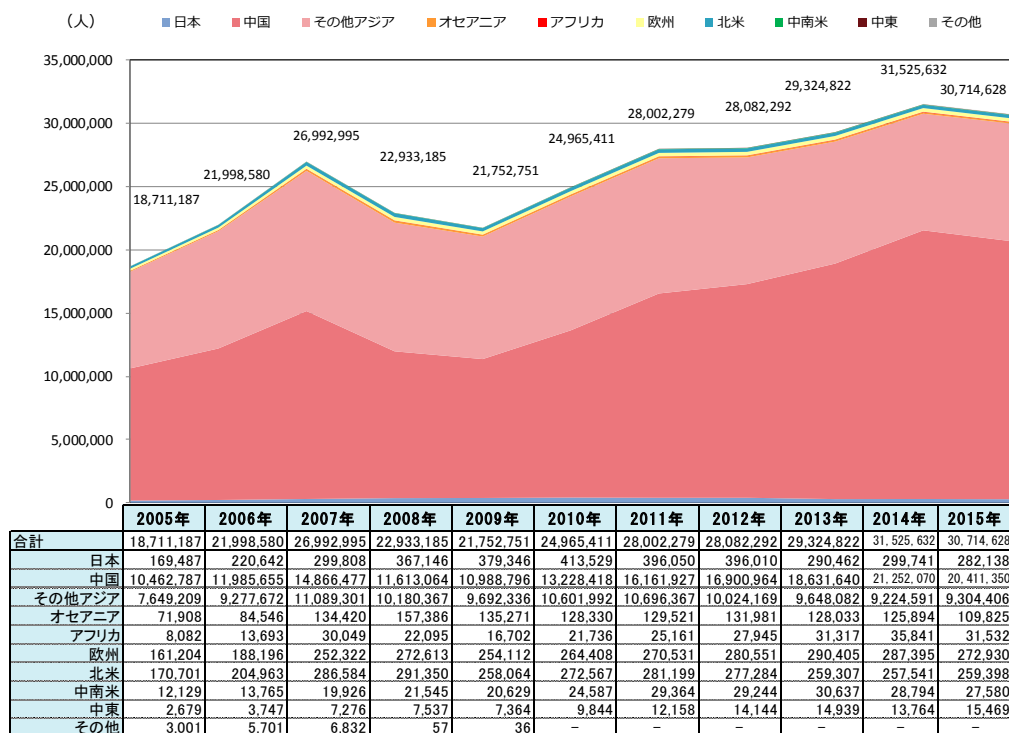
出典：各社航空ダイヤ、フェリーダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) 外国人旅行者の状況

マカオへの外国人旅行者数の推移をみると、2005年からの10年間で約1.6倍に増加し、2015年は約3,071万人であった。

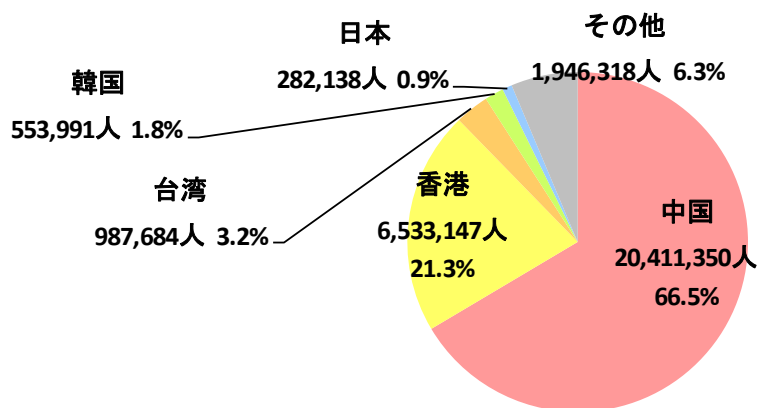
日本からの旅行者数は2015年時点で全体の0.9%であり、2010年の約41万人をピークとして減少傾向である。一方、中国からの旅行者数は増加傾向にあり、2015年時点で約2,041万人と全体の66.5%を占めている。

図表 2- 26 マカオへの外国人旅行者数(2005年～2015年の推移)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2- 27 マカオへの外国人旅行者数(2015年の上位5箇国・地域)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.2.2 IR・カジノの開業状況

マカオでは、ポルトガルの植民地時代の1847年にカジノが合法化されて以降、単一事業者によるカジノ経営が続いた。1962年からは、カジノ王と呼ばれるスタンレー・ホー氏が経営するマカオ旅遊娯楽有限公司（STDM）が40年間、カジノの経営権を独占していた。

しかし、1999年に中国へマカオが返還された後、2001年にマカオ政府は、観光産業の振興による経済発展を目的として、カジノ市場の自由化に舵を切り、カジノライセンスの国際入札を行った。その結果、2002年に、STDMの後継企業であるSJMを含め、3社にカジノの運営ライセンスが付与された。さらに、各社から1社のみサブライセンスの付与が認められ、合計6事業者にライセンスが付与されることとなった。

図表 2- 28 マカオでのカジノの運営ライセンスを付与された6事業者

	ライセンス形態	事業者名 <sup>16</sup>	備考
1	メイン	SJM	2002年ライセンス契約
2	メイン	ウィンリゾート	2002年ライセンス契約
3	メイン	ギャラクシー	2002年ライセンス契約
4	サブ	ラスベガス・サンズ	2002年サブライセンス契約 ギャラクシーのサブライセンス
5	サブ	MGM	2005年サブライセンス契約 SJMのサブライセンス
6	サブ	メルコ・クラウン	2006年サブライセンス契約 ウインのサブライセンス

マカオでは、現在、これら6事業者が36箇所のIR・カジノ施設を運営している。2002年の市場開放以降、コンベンションやシアター等のエンターテイメントを備えた大規模なIR施設が多く建設され、世界有数のIR・カジノ施設の集積地となっている。

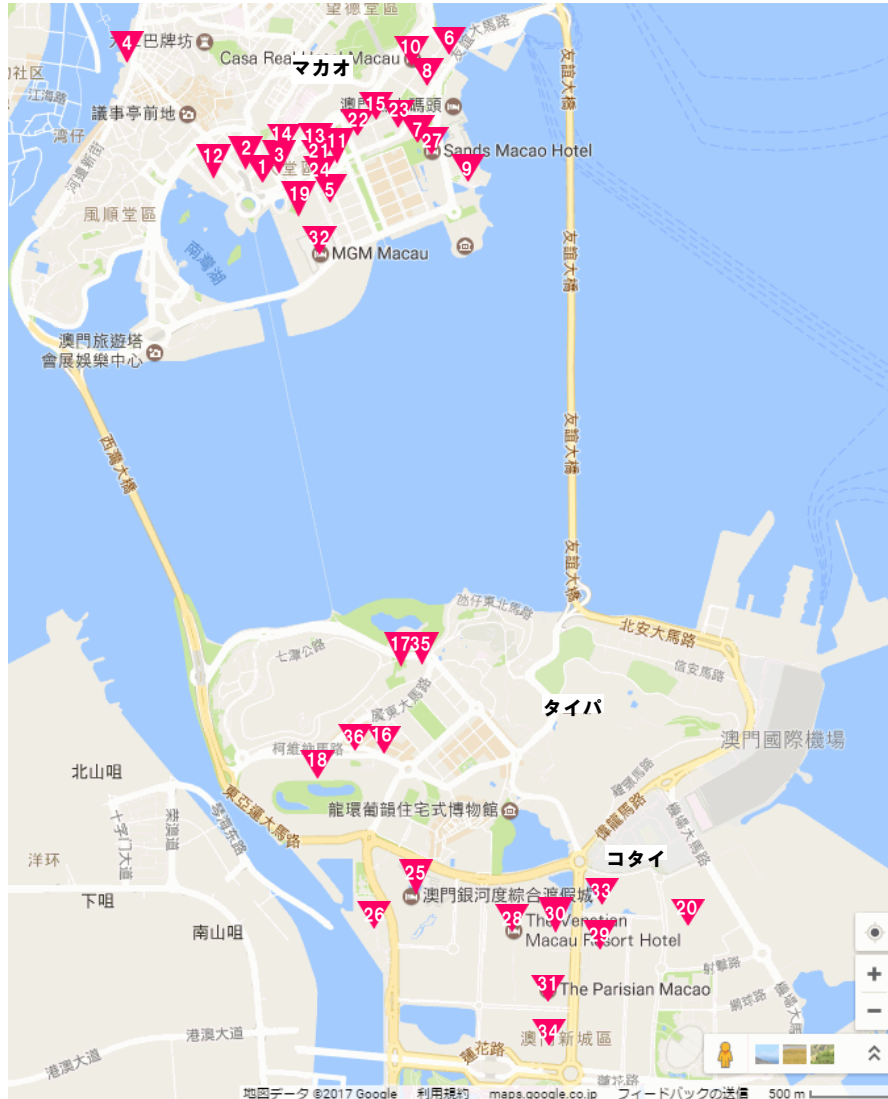
図表 2- 29 マカオのIR・カジノ施設一覧

No.	施設名	立地	運営事業者	開業年
1	カジノリスボア(Casino Lisboa)	マカオ	SJM	1970年
2	グランドリスボア(Grand Lisboa)	マカオ	SJM	2007年
3	カムベックパラダイスカジノ (Casino Kam Pek Paradise)	マカオ	SJM	2007年
4	ポンテ16カジノ(Casino Ponte 16)	マカオ	SJM	2008年
5	ラルクマカオカジノ(Casino L'Arc Macau)	マカオ	SJM	2009年
6	オセアナスカジノ(Casino Oceanus at Jai Alai)	マカオ	SJM	2009年
7	ジーマイカジノ(Casino Jimei)	マカオ	SJM	不明
8	ゴールドドラゴンカジノ(Casino Golden Dragon)	マカオ	SJM	不明
9	バビロンカジノ(Casino Babylon)	マカオ	SJM	不明
10	カーサリアルカジノ(Casino Casa Real)	マカオ	SJM	不明
11	クラブVIPレジェンドカジノ (Casino Club VIP Legend)	マカオ	SJM	不明

<sup>16</sup> ライセンスを受けた事業者の正式名称は次のとおり。(1) Sociedade de Jogos de Macau, S.A.、(2) Wynn Resorts (Macau), S.A.、(3) Galaxy Casino, S.A.、(4) Venetian Macau, S.A.、(5) MGM Grand Paradise, S.A.、(6) Melco Crown (Macau) Limited

No.	施設名	立地	運営事業者	開業年
12	エンペラーパレスカジノ(Casino Emperor Palace)	マカオ	SJM	不明
13	ダイヤモンドカジノ(Casino Diamond)	マカオ	SJM	不明
14	フォーチュナカジノ(Casino Fortuna)	マカオ	SJM	不明
15	ランカイフォンカジノ(Casino Lan Kwai Fong)	マカオ	SJM	不明
16	グランドビューカジノ(Casino GrandView)	タイパ	SJM	1998 年
17	タイパカジノ(Casino Taipa)	タイパ	SJM	不明
18	マカオジョッキークラブカジノ (Casino Macau Jockey Club)	タイパ	SJM	不明
19	ウインマカオ(Wynn Macau)	マカオ	ウインリゾート	2006 年
20	ウインパレス(Wynn Palace)	コタイ	ウインリゾート	2016 年
21	プレジデントカジノ(President Casino )	マカオ	ギャラクシー	2006 年
22	リオカジノ(Rio Casino)	マカオ	ギャラクシー	2006 年
23	ワルドカジノ(Waldo Casino)	マカオ	ギャラクシー	2004 年
24	スターワールドホテル(StarWorld Hotel)	マカオ	ギャラクシー	2006 年
25	ギャラクシーマカオ(Galaxy Macau)	コタイ	ギャラクシー	2011 年
26	ブロードウェイマカオ(Broadway Macau)	コタイ	ギャラクシー	2015 年
27	サンズマカオ(Sands Macao)	マカオ	ラスベガス・サンズ	2004 年
28	ヴェネチアンマカオ(The Venetian Macao)	コタイ	ラスベガス・サンズ	2007 年
29	サンズコタイセントラル(Sands Cotai Central)	コタイ	ラスベガス・サンズ	2012 年
30	プラザマカオ(The Plaza Macao )	コタイ	ラスベガス・サンズ	2008 年
31	パリジャンマカオ(The Parisian Macao)	コタイ	ラスベガス・サンズ	2016 年
32	MGM マカオ(MGM Macau)	マカオ	MGM	2007 年
33	シティオブドリームス(City of Dreams)	コタイ	メルコ・クラウン	2009 年
34	スタジオシティ(Studio City)	コタイ	メルコ・クラウン	2015 年
35	アルティラマカオ(Altira Macau)	タイパ	メルコ・クラウン	2007 年
36	タイパスクエアカジノ(Casino Taipa Square)	タイパ	メルコ・クラウン	不明

図表 2-30 マカオにおけるIR・カジノ位置図



1	カジノリスボア	11	クラブVIPレジェンドカジノ	21	プレジデントカジノ	31	パリジャンマカオ
2	グランドリスボア	12	エンペラーパレスカジノ	22	リオカジノ	32	MGM マカオ
3	カムベックパラダイスカジノ	13	ダイヤモンドカジノ	23	ワールドカジノ	33	シティオブドリームス
4	ポンテ16カジノ	14	フォーチュナカジノ	24	スターワールドホテル	34	スタジオシティ
5	ラルクマカオカジノ	15	ランカイフォンカジノ	25	ギャラクシーマカオ	35	アルティラマカオ
6	オセアナスカジノ	16	グランドビューカジノ	26	ブロードウェイマカオ	36	タイパスクエアカジノ
7	ジーマイカジノ	17	タイパカジノ	27	サンズマカオ		
8	ゴールドドラゴンカジノ	18	マカオジョッキークラブカジノ	28	ヴェネチアンマカオ		
9	バビロンカジノ	19	ウインマカオ	29	サンズコタイセントラル		
10	カーサレアルカジノ	20	ウインパレス	30	ブラザマカオ		

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.2.3 運営概要

### (1) SJM ホールディングス

#### ① 運営事業者の概要

SJM ホールディングス（以下「SJM」という。）は、香港に本社を置くカジノ運営事業者である。同社の前身は、2002年のカジノ市場の自由化以前に、マカオのカジノ経営権を40年にわたり独占していたマカオ旅遊娛樂有限公司（STDM）である。

現在、マカオにおいて、18箇所のIR・カジノ施設を運営している。

図表 2- 31 運営事業者の概要

事業者名	SJM ホールディングス(SJM Holdings Limited)
所在地	香港特別行政区
設立	2006年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="http://www.sjmholdings.com/">http://www.sjmholdings.com/</a>

出典：SJM HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

SJM がマカオで運営している IR・カジノ施設のうち、主な施設の概要は以下のとおりである。

図表 2- 32 主な運営施設の概要(SJM)

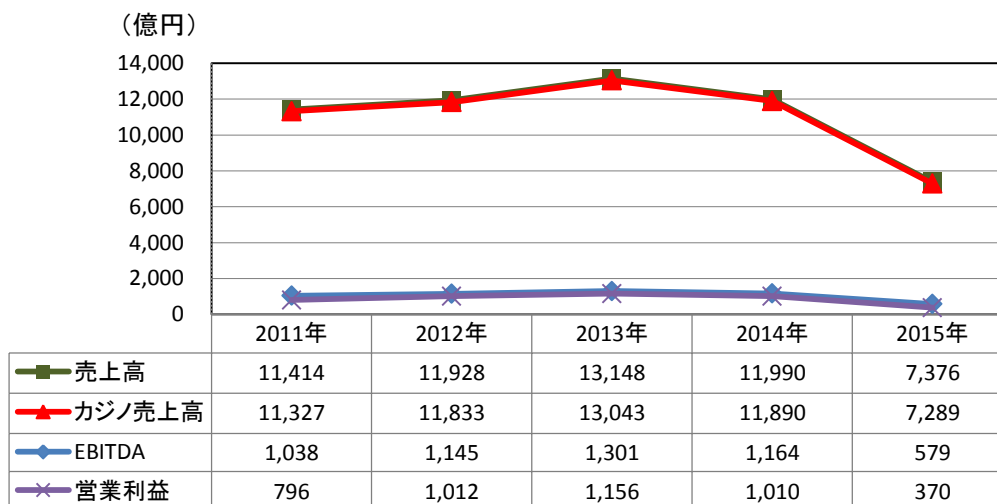
	カジノリスポア	グランドリスポア
外 観	 SJM HP より引用	 SJM Annual Report2015 より引用
地 区	マカオ地区	マカオ地区
面 積	カジノ面積 17,670 m <sup>2</sup> コンベンション面積 279 m <sup>2</sup>	カジノ面積 38,382 m <sup>2</sup> コンベンション面積 1,933 m <sup>2</sup>
開業時期	1970年	2007年2月
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 1,000 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 146 台、スロットマシン 107 台)</li> <li>・その他(ショッピングモール)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 431 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 404 台、スロットマシン 794 台)</li> <li>・その他(シアター、フィットネス)</li> </ul>

出典：SJM HP、Casino City Press 「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ③ 売上高等の推移

マカオにおける SJM の売上高等の推移をみると、2011 年以降、売上高、カジノ売上高は着実に伸びていたが、2014 年に減少に転じ、2015 年に大きく落ち込んだ。

図表 2- 33 売上高等の推移(SJM)

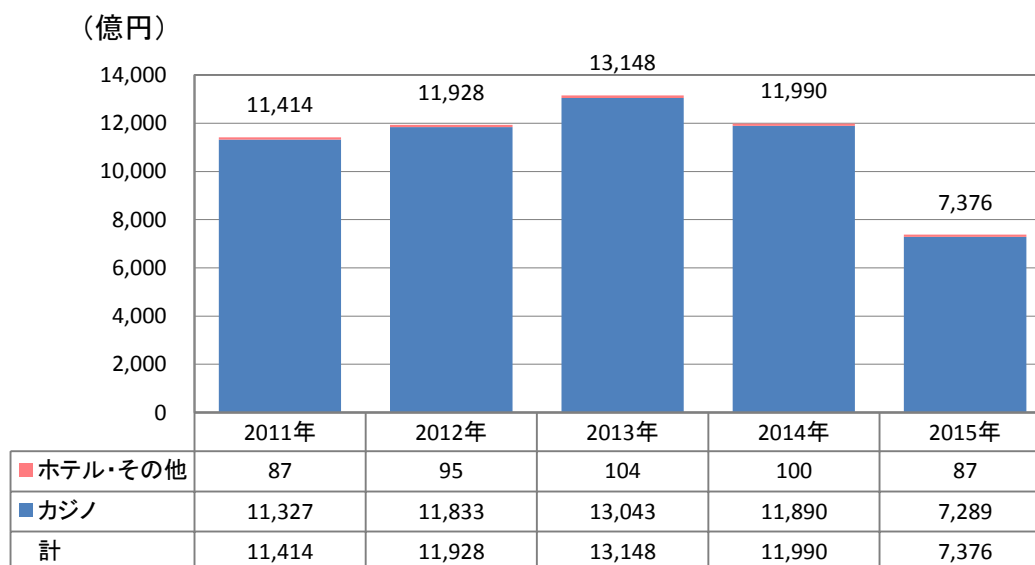


出典：SJM Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 事業別売上高の推移

マカオにおける売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が圧倒的に高く、2015 年は全体の 98.8%を占めている。

図表 2- 34 事業別売上高等の推移(SJM)



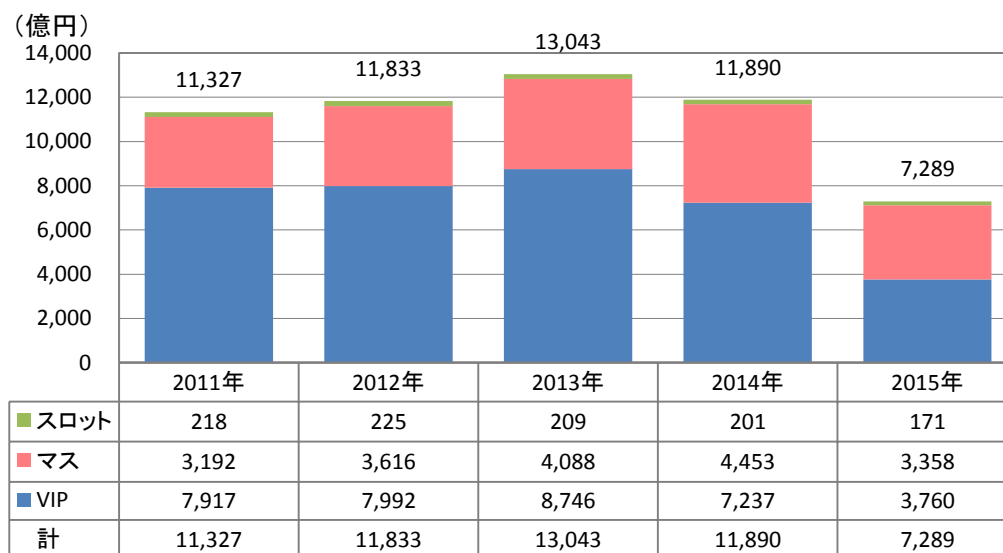
出典：SJM Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成



## ⑤ 顧客別カジノ売上高の推移

マカオにおけるカジノ売上高の内訳の推移をみると、2014年まで全体の6割以上を占めていたVIP売上高が、2015年に前年の約半分にまで落ち込んだ結果、全体のカジノ売上高が38.7%も減少した。一方、スロット売上高、マス売上高はそれぞれ2014年比14.9%、24.6%の減少と、VIP売上高ほどの落ち込みはなかった。

図表 2- 35 顧客別カジノ売上高等の推移(SJM)



出典：SJM Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## (2) MGM リゾーツ・インターナショナル

### ① 運営事業者の概要

MGM リゾーツ・インターナショナル（以下「MGM」という。）は、米国ネバダ州ラスベガスに本社を置くカジノ運営事業者である。米国とマカオにおいて IR・カジノを運営している。

現在、マカオにおいては、子会社の MGM チャイナ・ホールディングスを通じて、1 箇所の IR・カジノ施設を運営している。

図表 2-36 運営事業者の概要


事業者名	MGM リゾーツ・インターナショナル(MGM Resorts International)
所在地	米国ネバダ州ラスベガス
設立	1986 年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="https://www.mgmresorts.com/">https://www.mgmresorts.com/</a>

出典：MGM HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ② 運営施設の概要

MGM がマカオで運営している IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2-37 運営施設の概要(MGM)

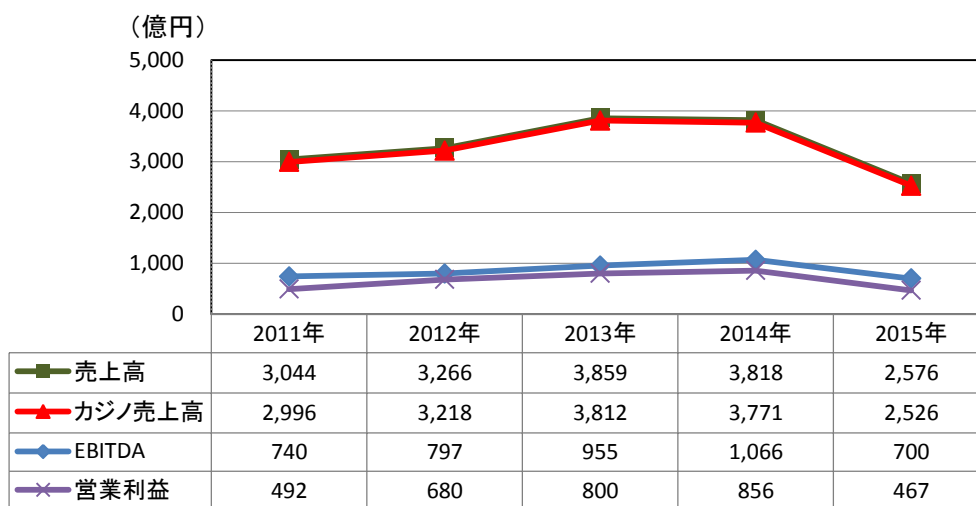
	MGM マカオ
外 観	 <p>MGM チャイナ・ホールディングス Annual Report 2015 より引用</p>
地 区	マカオ地区
面 積	カジノ面積 25,500 m <sup>2</sup> コンベンション面積 1,600 m <sup>2</sup>
開業時期	2007 年 12 月
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 579 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 427 台、スロットマシン 1,174 台)</li> <li>・コンベンション</li> <li>・その他(シアター、ショッピングモール、フィットネス、プール)</li> </ul>

出典：MGM HP、Casino City Press「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ③ 売上高等の内訳の推移

マカオにおける MGM の売上高等の推移をみると、2011 年以降、売上高、カジノ売上高、営業利益のいずれも着実に伸びていたが、2015 年に大きく落ち込んだ。

図表 2- 38 売上高等の推移(MGM)

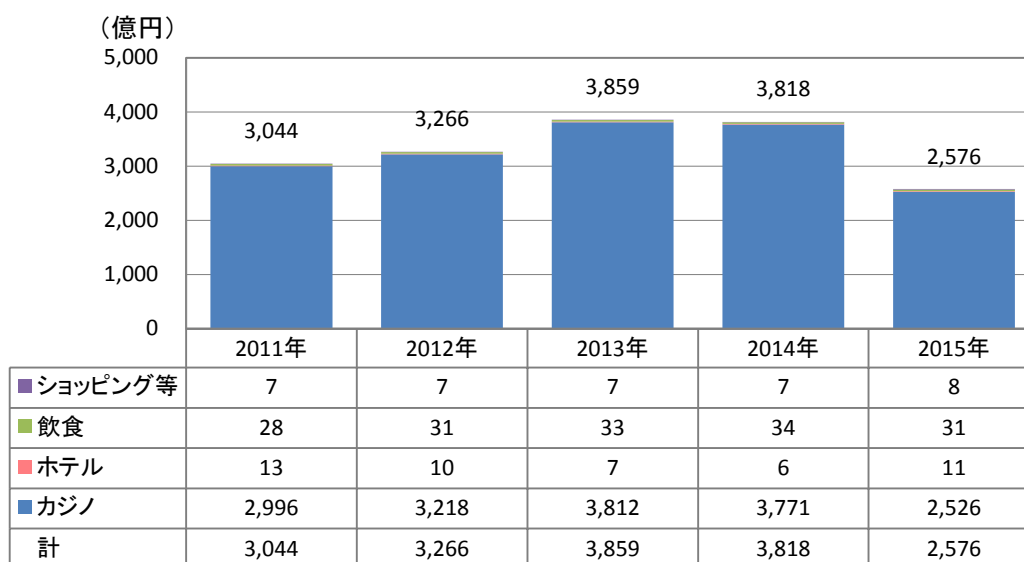


出典：MGM Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 事業別売上高の推移

マカオにおける売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が圧倒的に高く、2015 年は全体の 98.1%を占めている。

図表 2- 39 事業別売上高等の推移(MGM)

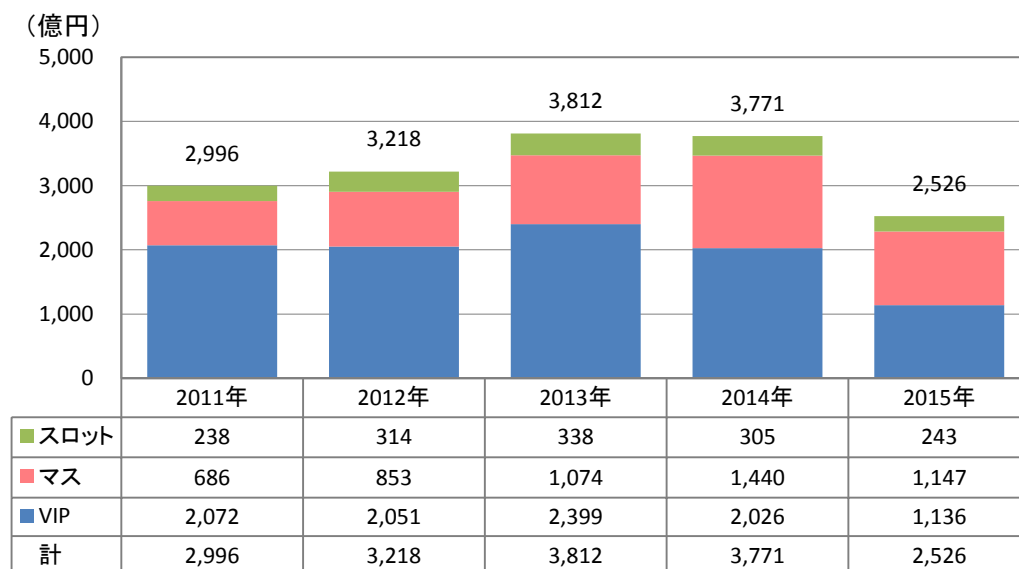


出典：MGM Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## ⑤ 顧客別カジノ売上高の推移

マカオにおけるカジノ売上高の内訳の推移をみると、2013年まで全体の6割以上を占めていたVIP売上高が、2014年に減少に転じ、2015年には前年比で43.9%も減少した。一方、スロット売上高、マス売上高いずれも2014年比20.3%の減少であり、VIP売上高ほどの落ち込みはなかった。この結果、2015年はマス売上高がVIP売上高をわずかに上回った。

図表 2-40 顧客別カジノ売上高の推移(MGM)



出典：MGM Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) ウィンリゾート

#### ① 運営事業者の概要

ウィンリゾートは、米国ネバダ州ラスベガスに本社を置くカジノ運営事業者である。米国とマカオにおいて IR・カジノを運営している。

現在、マカオにおいては、子会社のウィン・マカオを通じて、2 箇所の IR・カジノ施設を運営している。

図表 2-41 運営事業者の概要

事業者名	ウィンリゾート(Wynn Resorts Limited)
所在地	米国ネバダ州ラスベガス
設立	2002 年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="http://www.wynnresorts.com/">http://www.wynnresorts.com/</a>

出典：ウィンリゾート HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

マカオにおけるウィンリゾートが運営している IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2-42 運営施設の概要(ウィンリゾート)

	ウィンマカオ	ウィンパレス
外 観	 ウィンリゾート HP より引用	 ウィンリゾート HP より引用
地 区	マカオ地区	コタイ地区
面 積	カジノ面積約 26,400 m <sup>2</sup> コンベンション面積 2,900 m <sup>2</sup> ショッピングモール面積 5,300 m <sup>2</sup>	敷地面積 450,000 m <sup>2</sup> 以上 <sup>17</sup> カジノ面積約 46,500 m <sup>2</sup> コンベンション面積約 3,700 m <sup>2</sup> ショッピングモール面積約 18,600 m <sup>2</sup>
開業時期	2006 年 9 月	2016 年 8 月
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 1,008 室) ・カジノ(テーブル 422 台、スロットマシン 805 台) ・その他(スパ、フィットネス、プール、ショッピングモール、シアター、パフォーマンススレイク)	・ホテル(客室数 1,706 室) ・カジノ(テーブル 350 台、スロットマシン 1,145 台) ・その他(スパ、フィットネス、プール、ショッピングモール、ゴンドラ、パフォーマンススレイク)

出典：ウィンリゾート HP、ウィンリゾート Interim Report 2016、Casino City Press「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

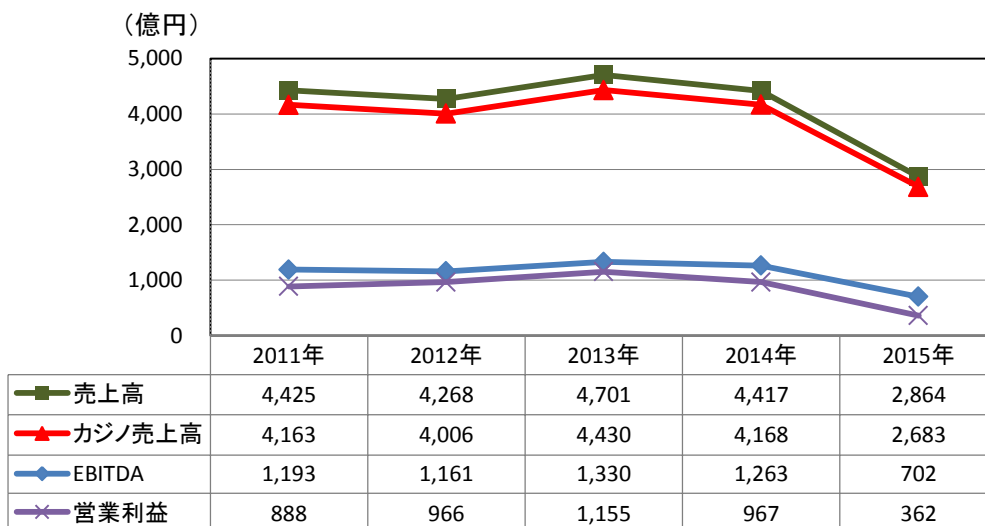
<sup>17</sup> THE AUSTRALIAN BUSINESS REVIEW HP

<http://www.theaustralian.com.au/business/companies/leighton-finalises-28bn-contract-to-build-new-wynn-resort-in-macau/news-story/41bfae9efdec01c2d593626a1a371a94>

### ③ 売上高等の推移

マカオにおけるウィンリゾーツの売上高等の推移をみると、2011年以降、売上高、カジノ売上高、営業利益のいずれも安定して推移していたが、2015年に大きく減少した。

図表 2- 43 売上高等の推移(ウィンリゾーツ)

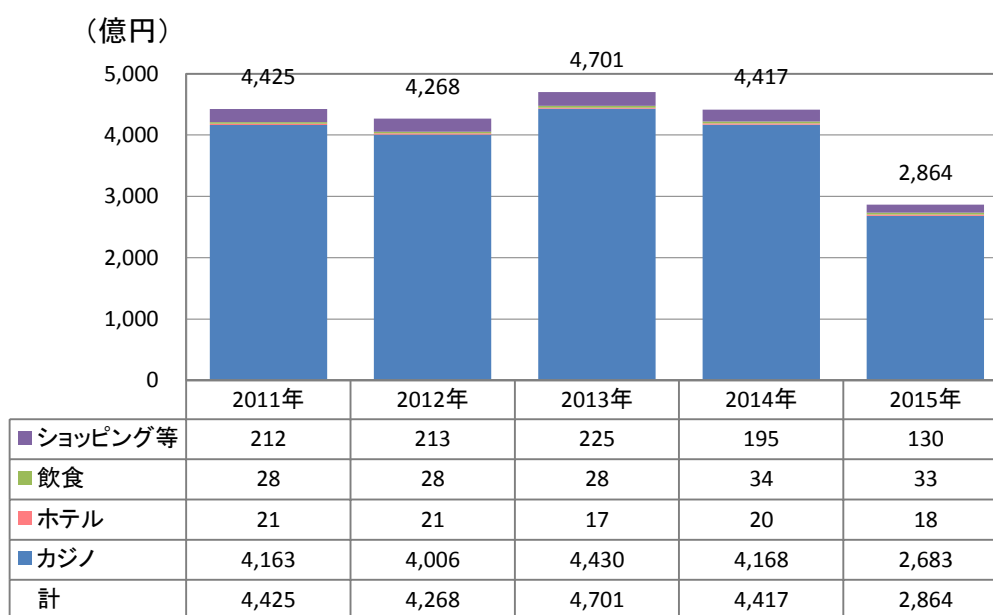


出典：ウィンリゾーツ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 事業別売上高の推移

マカオにおける売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が圧倒的に高く、2015年は全体の93.7%を占めている。

図表 2- 44 事業別売上高の推移(ウィンリゾーツ)

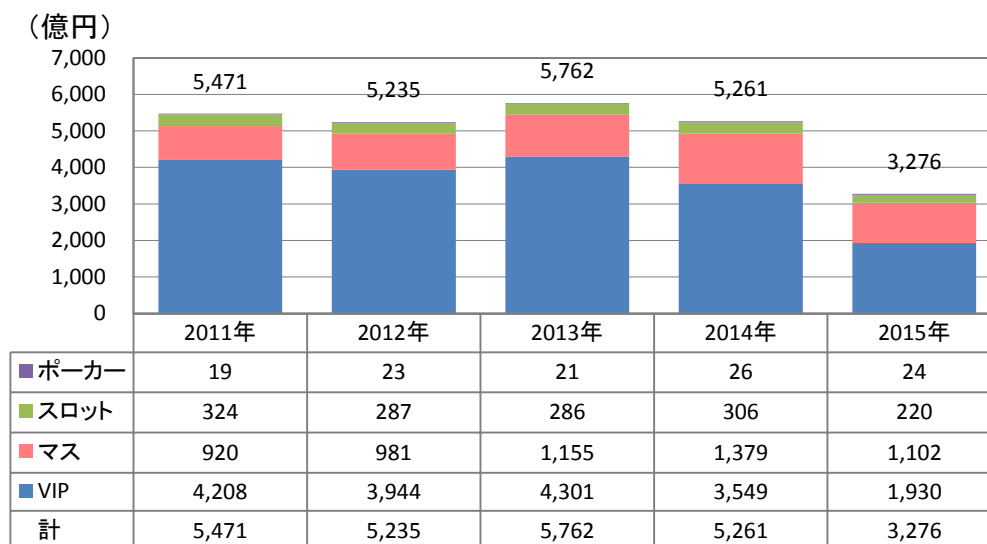


出典：ウィンリゾーツ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## ⑤ 顧客別カジノ売上高の推移

マカオにおけるカジノ売上高の内訳の推移をみると、2013年まで全体の約75%を占めていたVIP売上高が、2014年に減少に転じ、2015年に前年比で45.6%減少した。一方、マス売上高は2014年比20.1%の減少であり、VIP売上高ほどの落ち込みはなかった。

図表 2- 45 顧客別カジノ売上高の推移(ウィンリゾーツ)



※関連手数料を引く前の売上高

出典：ウィンリゾーツ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (4) ギャラクシーエンターテインメントグループ

##### ① 運営事業者の概要

ギャラクシーエンターテインメントグループ（以下「ギャラクシー」という。）は、香港に本社を置くカジノ運営事業者である。

現在、マカオにおいて、6箇所の IR・カジノ施設を運営している。

図表 2-46 運営事業者の概要

事業者名	ギャラクシーエンターテインメントグループ (Galaxy Entertainment Group Ltd)
所在地	香港特別行政区
設立	2005 年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="https://www.galaxyentertainment.com/">https://www.galaxyentertainment.com/</a>

出典：ギャラクシーHP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

##### ② 運営施設の概要

ギャラクシーがマカオで運営している IR・カジノ施設のうち、主な施設の概要は以下のとおりである。

図表 2-47 主な運営施設の概要(ギャラクシー)

	ギャラクシーマカオ	ブロードウェイマカオ	スターワールドホテル
外 観	 ギャラクシーHP より引用	 ギャラクシーHP より引用	 ギャラクシーHP より引用
地 区	コタイ地区	コタイ地区	マカオ地区
面 積	敷地面積 110 万㎡ ショッピングモール面積 100,000 ㎡以上	カジノ面積 57,226 ㎡	カジノ面積 13,020 ㎡
開業時期	第一期 2011 年 5 月 第二期 2015 年 5 月	2015 年 5 月	2006 年 10 月
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 3,600 室) ・カジノ(テーブル約 950 台、スロットマシン 2,500 台以上) <sup>18</sup> ・その他(シアター、プール、ショッピングモール、テーマパーク)	・ホテル(客室数 320 室) ・カジノ(テーブル 40 台、スロットマシン 150 台) ・その他(シアター)	・ホテル(客室数 500 室以上) ・カジノ(テーブル 247 台、スロットマシン 250 台)

出典：ギャラクシーHP、ギャラクシーInterim Report 2016、Casino City Press「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>18</sup> テーブル台数及びスロットマシン台数については、第二期の計画当初の数値を記載。設置台数はマカオ政府により段階的に承認されており、最終的に当初計画通りに設置されていない可能性がある。

GALAXY MACAU PHASE 2 A new chapter BEGINS 2012 年 4 月 26 日

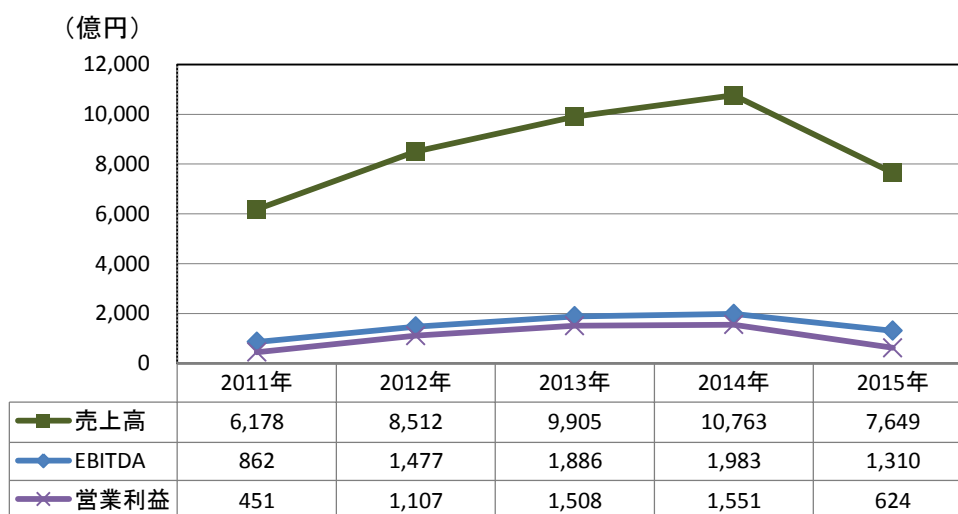
[https://www.galaxyentertainment.com/uploads/investor/476\\_eLdq2.pdf](https://www.galaxyentertainment.com/uploads/investor/476_eLdq2.pdf)



### ③ 売上高等の推移

2011年以降着実に売上を伸ばしてきたものの、2015年に大きく減少した。

図表 2- 48 売上高等の推移(ギャラクシー)

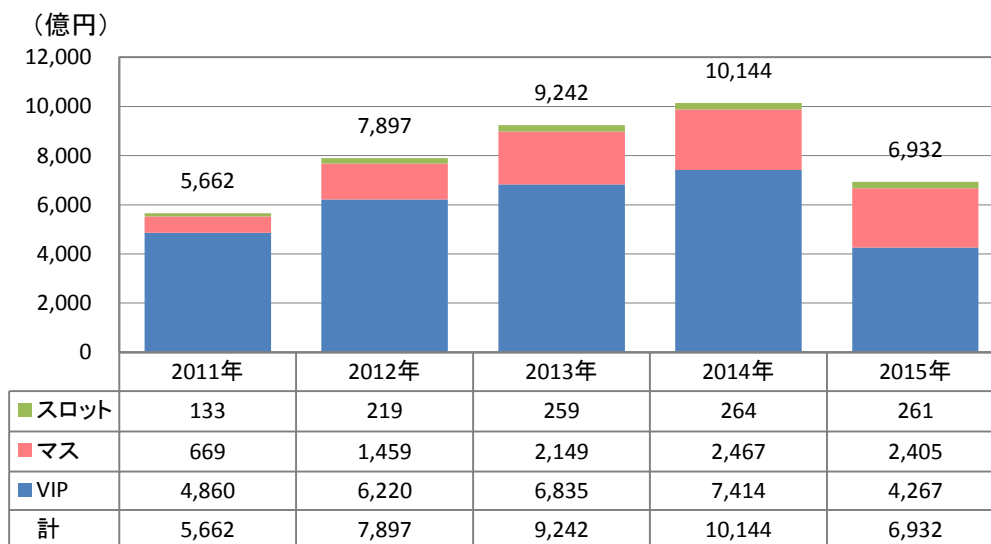


出典：ギャラクシーAnnual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 顧客別カジノ売上高の推移

主要3施設<sup>19</sup>のカジノ売上高の内訳の推移をみると、2014年まで全体の7割以上を占めていたVIP売上高が、2015年には前年比で42.4%も減少した。一方、スロット売上高とマス売上高は、2011年以降順調に推移しており、VIP売上高が大きく減少した2015年も落ち込みは見られなかった。

図表 2- 49 顧客別カジノ売上高の推移(ギャラクシー)



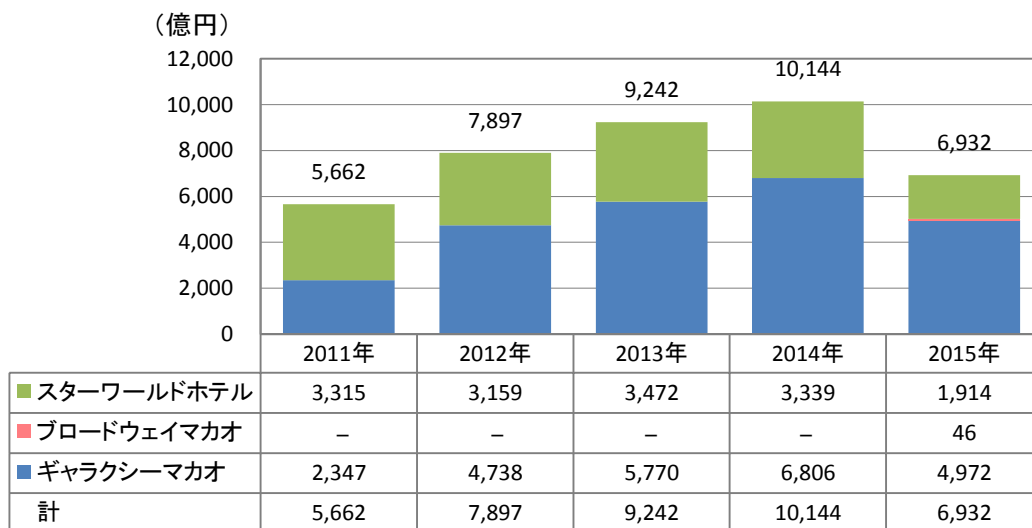
出典：ギャラクシーAnnual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>19</sup> ギャラクシーマカオ、ブロードウェイマカオ、スターワールドホテルの3施設

## ⑤ 施設別カジノ売上高の推移

カジノ売上高を施設別にみると、ギャラクシーマカオが全体に占める割合が年々増している。2015年5月に開業したブロードウェイマカオは、カジノ台数が少なく、また、2015年時点ではVIPテーブルを持っていなかったこともあり、カジノ売上高は他2施設よりも少ない。

図表 2-50 施設別カジノ売上高の推移(ギャラクシー)



出典：ギャラクシーAnnual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## (5) ラスベガス・サンズ

### ① 運営事業者の概要

ラスベガス・サンズは、米国ネバダ州ラスベガスに本社を置くカジノ運営事業者である。米国、マカオ、シンガポールにおいて IR・カジノを運営している。

現在、マカオにおいては、子会社のサンズ・チャイナを通じて、5 箇所の IR・カジノ施設を運営している。

図表 2- 51 運営事業者の概要

事業者名	ラスベガス・サンズ(Las Vegas Sands Corporation)
所在地	米国ネバダ州ラスベガス
設立	2004 年
主な事業	IR・カジノの運営、コンベンション等の運営
ホームページ	<a href="https://www.sands.com/">https://www.sands.com/</a>



出典：ラスベガス・サンズ HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ② 運営施設の概要

ラスベガス・サンズがマカオで運営している IR・カジノ施設のうち、主な施設の概要は以下のとおりである。

図表 2- 52 主な運営施設の概要(ラスベガス・サンズ)

	サンズマカオ	ヴェネチアンマカオ
外 観	 ラスベガス・サンズ HP より引用	 ラスベガス・サンズ HP より引用
地 区	マカオ地区	コタイ地区
面 積	カジノ面積 19,800 m <sup>2</sup> ショッピングモール面積 1,500 m <sup>2</sup>	カジノ面積 34,700 m <sup>2</sup> コンベンション面積 111,500 m <sup>2</sup> (ボールルーム約 80,000 m <sup>2</sup> ) ショッピングモール面積 85,300 m <sup>2</sup>
開業時期	2004 年 5 月	2007 年 8 月
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 238 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 210 台、スロットマシン 634 台)</li> <li>・その他(スパ、プール、シアター、ショーラウンジ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室 2,841 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 540 台、スロットマシン 1,265 台)</li> <li>・コンベンション</li> <li>・その他(ショッピングモール、アリーナ、シアター、プール、キッズコーナー、ゴンドラ)</li> </ul>

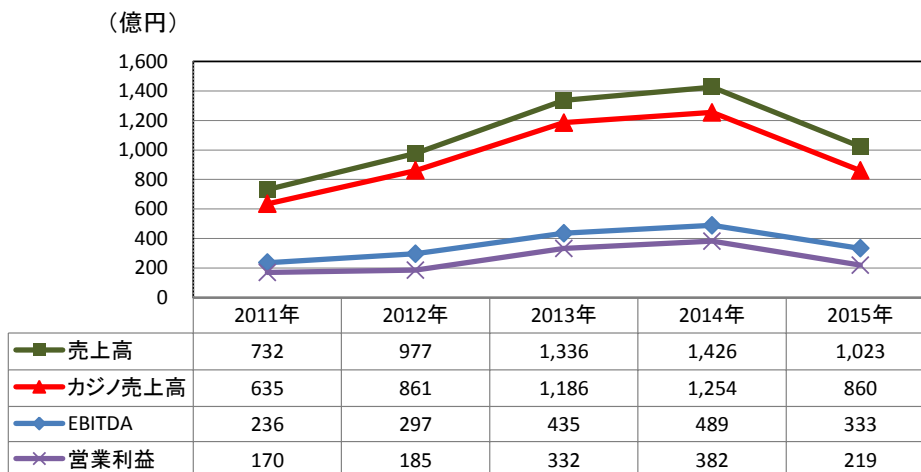
	サンズコタイセントラル	パリジャンマカオ
外 観	 ラスベガス・サンズ HP より引用	 ラスベガス・サンズ HP より引用
地 区	コタイ地区	コタイ地区
面 積	カジノ面積 34,100 m <sup>2</sup> コンベンション面積 34,300 m <sup>2</sup> ショッピングモール面積 37,800 m <sup>2</sup>	カジノ面積 23,500 m <sup>2</sup> コンベンション面積 5,900 m <sup>2</sup> ショッピングモール面積 27,900 m <sup>2</sup>
開業時期	2012 年 4 月	2016 年 9 月
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 6,246 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 410 台、スロットマシン 1,184 台)</li> <li>・コンベンション</li> <li>・その他(ショーラウンジ、テーマパーク、シアター、キッズコーナー、ショッピングモール)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 2,743 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 382 台、スロットマシン 1,296 台)</li> <li>・コンベンション</li> <li>・その他(ショッピングモール、シアター)</li> </ul>

出典：ラスベガス・サンズ HP、サンズマカオ HP<sup>20</sup>、ヴェネチアンマカオ HP<sup>21</sup>、サンズコタイセントラル HP<sup>22</sup>、パリジャンマカオ HP<sup>23</sup>、サンズチャイナ Annual Report 2016、Casino City Press「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ③ 売上高等の推移

マカオにおけるラスベガス・サンズの売上高等の推移をみると、2011 年以降、売上高、カジノ売上高、営業利益のいずれも着実に伸びていたが、2015 年に大きく減少した。

図表 2- 53 売上高等の推移(ラスベガス・サンズ)



出典：サンズチャイナ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>20</sup> サンズマカオ HP <http://www.sandsmacao.com/>

<sup>21</sup> ヴェネチアンマカオ HP <https://www.venetianmacao.com/>

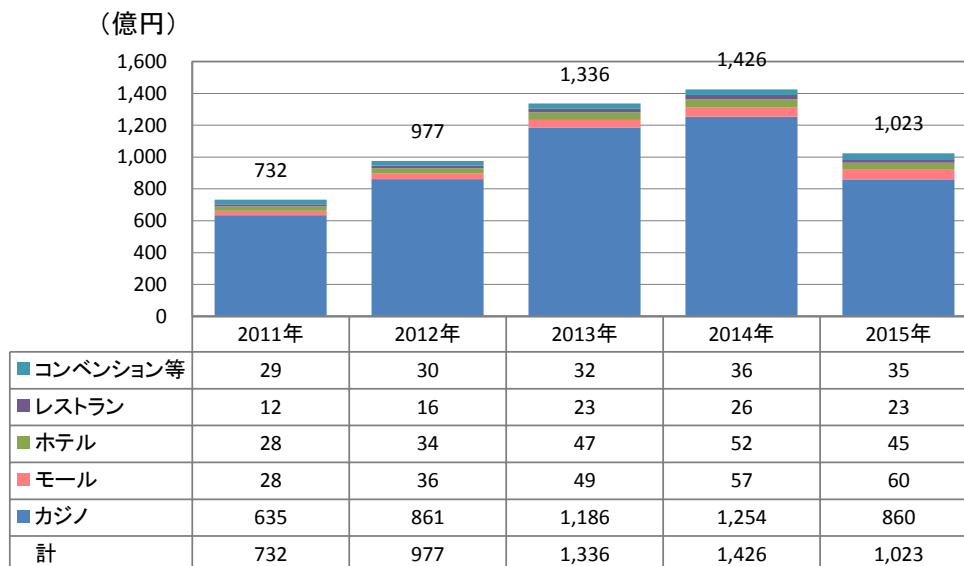
<sup>22</sup> サンズコタイセントラル HP <https://www.sandscotaicentral.com/>

<sup>23</sup> パリジャンマカオ HP <https://www.parisianmacao.com/>

#### ④ 事業別売上高の推移

マカオにおける売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が高く、2015年は全体の84.1%を占めている。

図表 2-54 事業別売上高の推移(ラスベガス・サンズ)

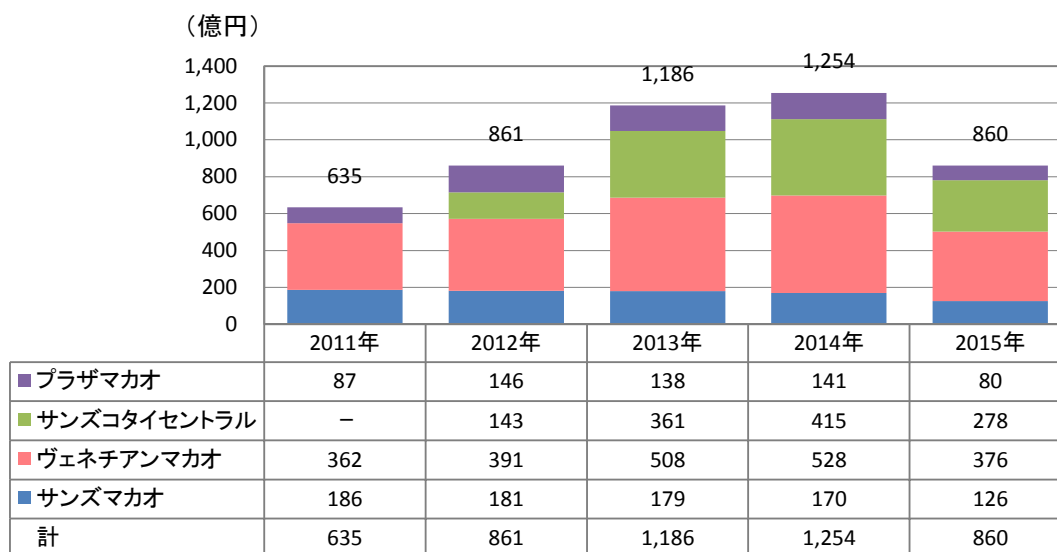


出典：サンズチャイナ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ⑤ 施設別カジノ売上高の推移

マカオにおけるカジノ売上高を施設別にみると、ヴェネチアンマカオと2012年に開業したサンズコタイセントラルが売上高をけん引し、2014年には全体のカジノ売上高が2011年の約2倍にまで増加したが、2015年はいずれの施設も減少した。

図表 2-55 施設別カジノ売上高の推移(ラスベガス・サンズ)



出典：サンズチャイナ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## (6) メルコ・クラウン・エンターテイメント

### ① 運営事業者の概要

メルコ・クラウン・エンターテイメント（以下「メルコ・クラウン」という。）は、マカオでの IR 開発のため、香港の企業「メルコ・インターナショナル・ディベロプメント」とオーストラリアのカジノ運営事業者「クラウンリゾート」の共同出資で設立された。

現在、マカオにおいては、3 箇所の IR・カジノ施設のほか、カフェスタイルの電子ゲーミング施設「モカクラブ」を運営している。また、近年は、フィリピンにも進出している。

図表 2- 56 運営事業者の概要

事業者名	メルコ・クラウン・エンターテイメント (Melco Crown Entertainment Limited)
所在地	香港特別行政区
設立	2003 年
主な事業	IR・カジノの運営、エンターテイメント事業
ホームページ	<a href="http://www.melco-crown.com/">http://www.melco-crown.com/</a>

出典：メルコ・クラウン HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ② 運営施設の概要

メルコ・クラウンがマカオで運営している IR・カジノ施設のうち、主な施設の概要は以下のとおりである。

図表 2- 57 主な運営施設の概要(メルコ・クラウン)

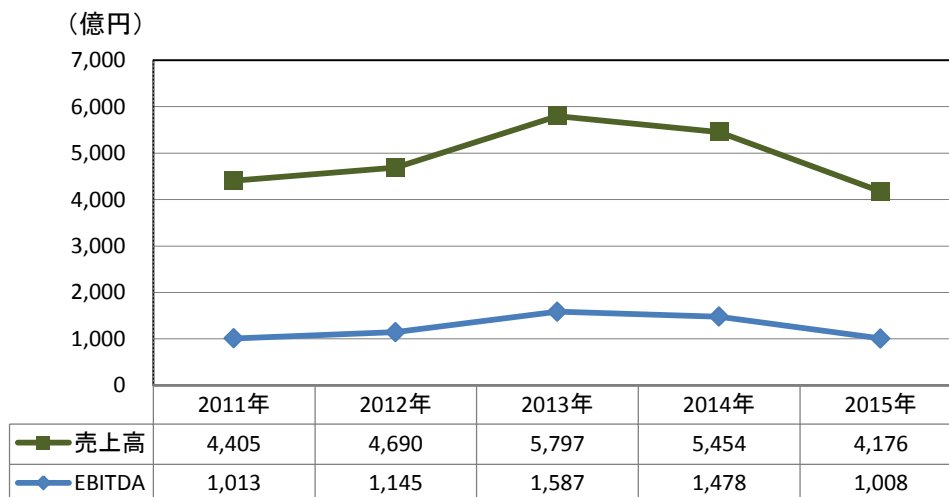
	シティオブドリームス	スタジオシティ
外 観	 メルコ・クラウン HP より引用	 メルコ・クラウン HP より引用
地 区	コタイ地区	コタイ地区
面 積	敷地面積 113,325 m <sup>2</sup> カジノ面積 41,600 m <sup>2</sup>	敷地面積 130,789 m <sup>2</sup> 延床面積 477,336 m <sup>2</sup> カジノ面積 46,500 m <sup>2</sup>
開業時期	2009 年 6 月	2015 年 10 月
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 2,500 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 500 台、スロットマシン 1,250 台)</li> <li>・コンベンション</li> <li>・その他(シアター、ショッピングモール、スパ、フィットネス、ナイトクラブ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 1,600 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 200 台、スロットマシン 1,175 台)</li> <li>・その他(シアター、観覧車、ショッピングモール、アリーナ、テーマパーク)</li> </ul>

出典：メルコ・クラウン HP、メルコ・クラウン Annual Report 2015、Casino City Press「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ③ 売上高等の推移

マカオにおけるメルコ・クラウンの売上高等の推移をみると、2011年以降、売上高は着実に伸びていたが、2014年に減少に転じ、2015年に大きく落ち込んだ。

図表 2-58 売上高等<sup>24</sup>の推移(メルコ・クラウン)

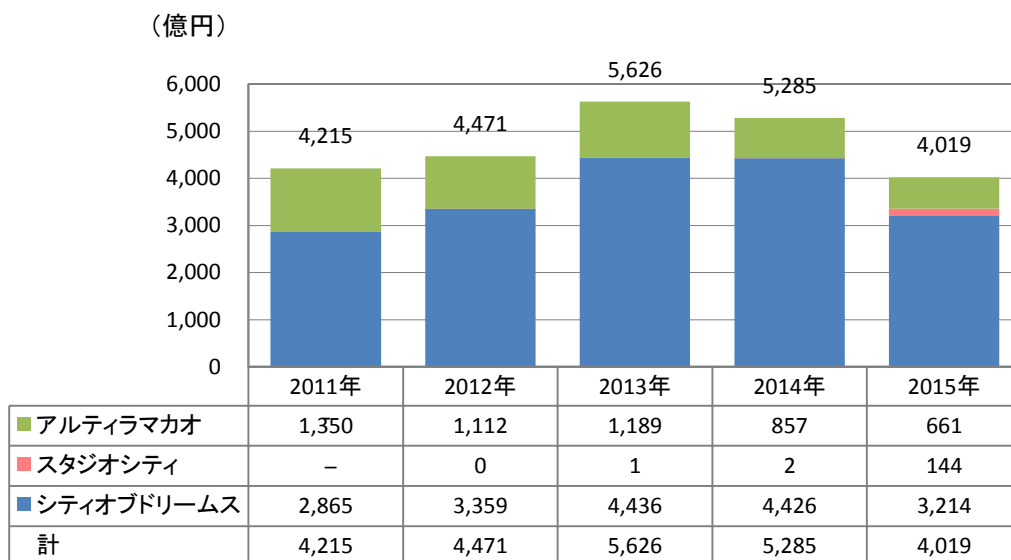


出典：メルコ・クラウン Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 施設別売上高等の推移

施設別売上高等<sup>25</sup>をみると、シティオブドリームスが売上高の大半を占めている。

図表 2-59 施設別カジノ売上高推移



※スタジオシティは2015年から開業しているが、2012年から2014年までは利子収入が計上されている。

出典：メルコ・クラウン Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>24</sup> シティオブドリームス、スタジオシティ、アルティラマカオのほか、mocha clubs の売上高等も含まれる。

<sup>25</sup> カジノ以外の売上高も含まれる。

## 2.3 シンガポール

### 2.3.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

シンガポールは、マレー半島南端沖に位置する島国で、面積約 716km<sup>2</sup>の国土に人口は約 547 万人もの人口を抱える都市国家である。発展の過程で多くの移民が流入したシンガポールでは、様々な民族が暮らしている。

強い政府主導のもと、外資を活用してハブ機能を強化し、産業の育成や高度化を図っており、2015 年の一人あたり名目 GDP は 52,888 米ドル（608 万円）で、世界第 8 位の高い水準である。

図表 2- 60 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約716 km <sup>2</sup>	東京23区と同程度
人口	約547万人	2013年 (うちシンガポール人・永住者は 387万人)
言語	マレー語	公用語として英語、中国語、マレー語、タミール語
宗教	仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教	
通貨	シンガポールドル	
名目GDP	2,927億米ドル(33兆6,605億円)	2015年
1人あたり名目GDP	52,888米ドル(608万円)	2015年
実質経済成長率	2.0%	2015年

出典：JETRO HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

シンガポールのシンガポール・チャンギ国際空港は、東南アジア有数のハブ空港であり、日本・中国の各都市から直行便が就航している。

図表 2- 61 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	成田→シンガポール	7時間20分	
	羽田→シンガポール	7時間	
	大阪→シンガポール	6時間40分	
	名古屋→シンガポール	6時間50分	
	福岡→シンガポール	6時間20分	
中国から	北京→シンガポール	6時間10分	
	上海→シンガポール	5時間20分	
	香港→シンガポール	3時間50分	

出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

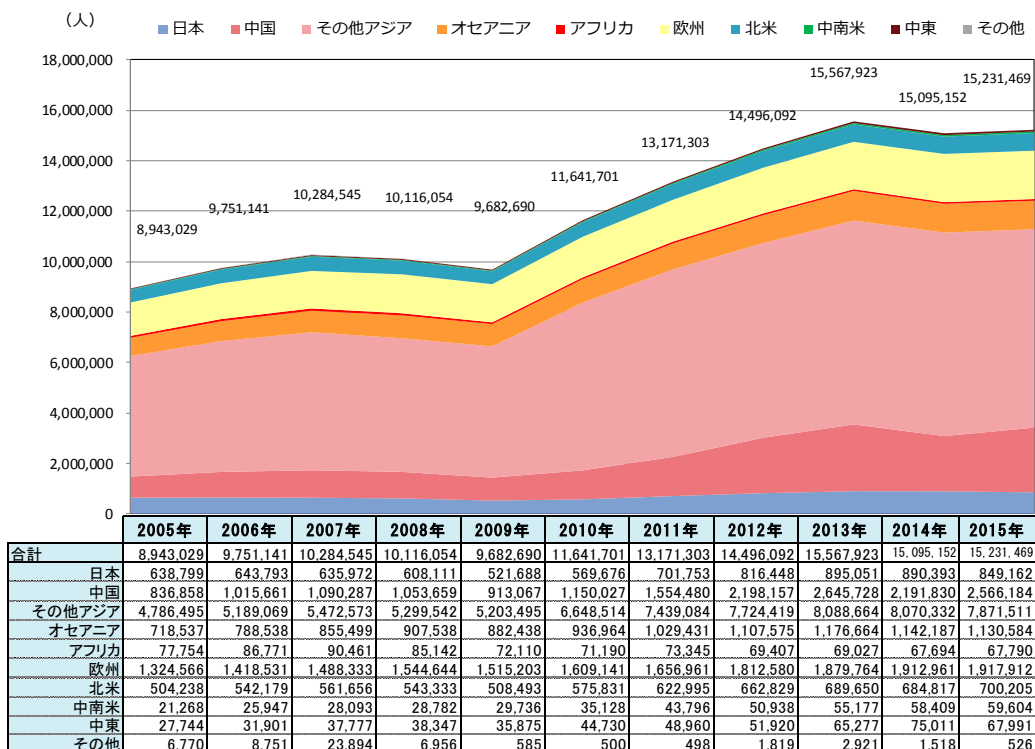


### (3) 外国人旅行者の状況

シンガポールへの外国人旅行者数の推移をみると、後述する2箇所のIRが開業した2010年以降旅行者数を伸ばしており、2015年は1,523万人であった。2015年に最も旅行者数の割合が多かったのは隣国インドネシアで、全体の17.9%である。

日本からの旅行者数は、ここ数年は横ばい傾向であり、2015年時点で約85万人と全体の5.6%である。一方、中国からの旅行者数は増加傾向にあり、2015年時点で約257万人と全体の16.8%を占めている。

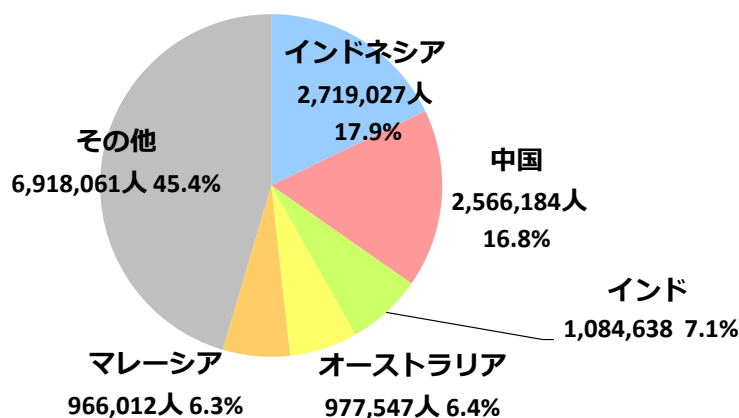
図表 2- 62 シンガポールへの外国人旅行者数(2005年～2015年の推移)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による

「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2- 63 シンガポールへの外国人旅行者数(2015年の上位5箇国・地域)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.3.2 IR・カジノの開業状況

シンガポールでは、1965年の建国以来、内需中心の経済発展が期待できないという制約から、海外の多国籍企業を誘致し、輸出促進に努めるとともに、国際観光客を呼び込むため、観光資源の開発に力を入れてきた。

カジノが禁止されていたシンガポールにおいては、カジノ導入案が度々浮上していたものの、建国の父と呼ばれるリー・クアンユー元首相の反対姿勢やギャンブル依存等の社会的影響への懸念を理由に、実現に至らなかった。

しかし、1997年のアジア経済危機や2003年のSARS発生等により観光収入が低迷したことや、近隣諸国の観光産業の台頭への危機感から、カジノ導入の議論が再燃した。

2004年に就任したリー・シェンロン首相の下、政府はIR導入の検討を開始し、2005年4月に、単なるカジノ施設でなく、滞在型複合観光施設としてのIR導入を決定した。2006年にマリーナベイ地区、セントーサ島のIR建設の国際入札が行われ、2010年に2つのIRが開業した。

図表 2-64 シンガポールのIR・カジノ施設一覧

No.	施設名	立地
1	マリーナベイサンズ (Marina Bay Sands)	マリーナベイ地区
2	リゾートワールドセントーサ (Resorts World Sentosa)	セントーサ島

図表 2-65 シンガポールにおけるIR・カジノ位置図



出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.3.3 運営概要

### (1) ラスベガス・サンズ

#### ① 運営事業者の概要

ラスベガス・サンズは、米国ネバダ州ラスベガスに本社を置くカジノ運営事業者である。米国、マカオ、シンガポールにおいて IR・カジノを運営している。

現在、シンガポールにおいては、1 箇所の IR・カジノ施設を運営している。

図表 2- 66 運営事業者の概要


事業者名	ラスベガス・サンズ(Las Vegas Sands Corporation)
所在地	米国ネバダ州ラスベガス
設立	2004 年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="https://www.sands.com/">https://www.sands.com/</a>

出典：ラスベガス・サンズ HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

ラスベガス・サンズがシンガポールで運営している IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 67 運営施設の概要(ラスベガス・サンズ)

マリーナベイサンズ	
外 観	 ラスベガス・サンズ HP より引用
地 区	マリーナベイ地区
面 積 <sup>26</sup>	敷地面積 154,938 m <sup>2</sup> 延床面積 581,400 m <sup>2</sup> カジノ面積約 15,000 m <sup>2</sup> コンベンション面積 120,000 m <sup>2</sup> 以上 ショッピングモール面積 74,322 m <sup>2</sup> 以上
開業時期	2010 年 4 月
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数約 2,600 室)</li> <li>・カジノ(テーブル約 610 台、スロットマシン約 2,500 台)</li> <li>・コンベンション(45,000 人収容可能(8,000 m<sup>2</sup>のボールルームを含む))</li> <li>・ショッピングモール</li> <li>・エンターテイメント施設(スカイパーク(総面積 12,400 m<sup>2</sup>)、科学美術館、シアター4,000 席)</li> </ul>

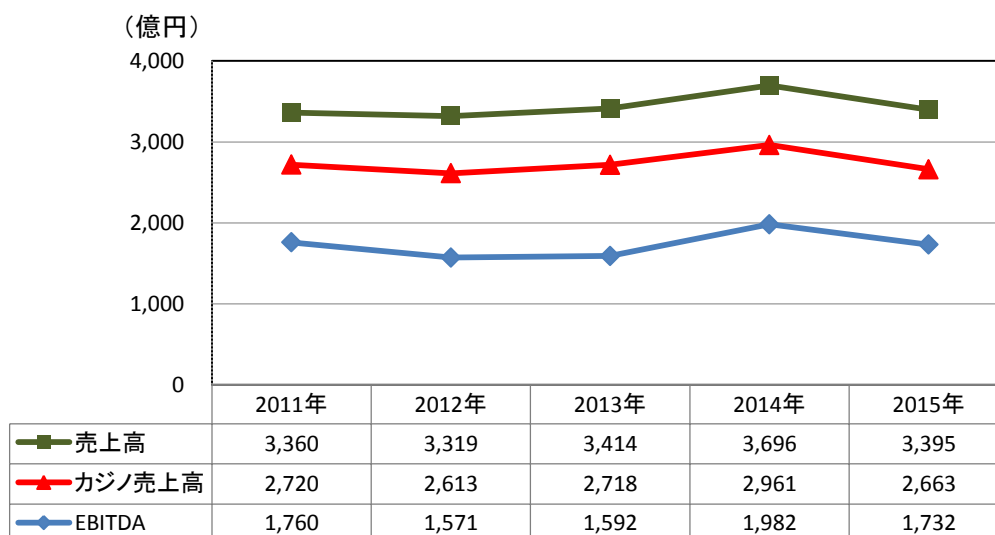
出典：ラスベガス・サンズ HP、ラスベガス・サンズ Annual Report2015 を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>26</sup> 敷地面積、延床面積及びショッピングモール面積 Safadie Architects HP <http://www.msafadie.com/file/1698>

### ③ 売上高等の推移

シンガポールにおけるラスベガス・サンズの売上高等の推移をみると、2011年から2013年までは売上高、カジノ売上高ともほぼ横ばいであった。2014年にはいずれも伸びをみせたが、2015年にはやや減少した。

図表 2- 68 売上高等の推移(ラスベガス・サンズ)

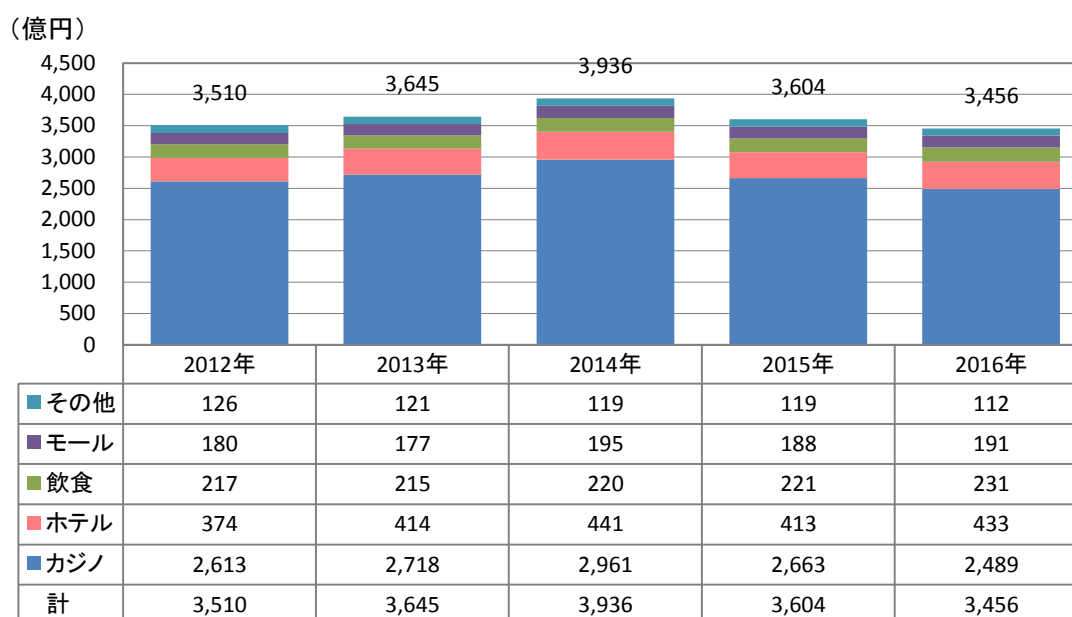


出典：ラスベガス・サンズ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 事業別売上高の推移

シンガポールにおける売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が高く、2016年は全体の72.0%を占めている。

図表 2- 69 事業別売上高の推移(ラスベガス・サンズ)



※広告費等の手数料を差し引く前の値。また、四半期報告の合計であるため、前表のカジノ売上高と端数が一致しない  
出典：ラスベガス・サンズ Quarter Result を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## (2) ゲンティン・シンガポール

### ① 運営事業者の概要

ゲンティン・シンガポールは、マレーシアに本社を置くゲンティン・バーハッドの子会社として設立されたカジノ運営事業者である。

現在、シンガポールにおいては、1箇所の IR・カジノ施設を運営している。

図表 2-70 運営事業者の概要

事業者名	ゲンティン・シンガポール(Genting Singapore PLC)
所在地	シンガポール
設立	1988年
主な事業	IR・カジノの運営、観光関連事業
ホームページ	<a href="http://www.gentingsingapore.com/">http://www.gentingsingapore.com/</a>

出典：ゲンティン・シンガポール HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ② 運営施設の概要

ゲンティン・シンガポールがシンガポールで運営している IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2-71 運営施設の概要(ゲンティン・シンガポール)

リゾートワールドセントーサ	
外観	 <p>ゲンティン・シンガポール HP より引用</p>
地区	セントーサ島
面積 <sup>27</sup>	敷地面積 490,000 m <sup>2</sup> 延床面積 343,000 m <sup>2</sup> カジノ面積 15,000 m <sup>2</sup> コンベンション面積 61,064 m <sup>2</sup> ショッピングモール面積 30,658 m <sup>2</sup>
開業時期	2010年2月
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 1,500 室以上)</li> <li>・カジノ(テーブル 500 台以上、スロットマシンと電子ゲーム 2,400 台以上)</li> <li>・コンベンション</li> <li>・ショッピングモール</li> <li>・エンターテイメント施設(ユニバーサルスタジオ、海洋水族館、シアター)</li> </ul>

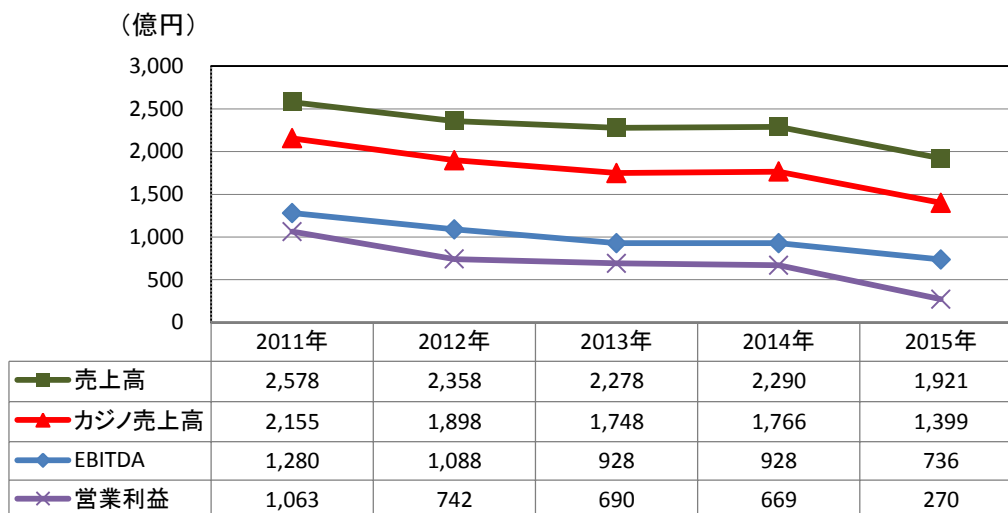
出典：ゲンティン・シンガポール HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>27</sup> 敷地面積、延床面積、カジノ面積及びショッピングモール面積 月刊レジャー産業資料 2014年2月

### ③ 売上高等の推移

シンガポールにおけるゲンティン・シンガポールの売上高等の推移をみると、2011年以降、売上高は減少傾向で推移しており、2015年にはさらに落ち込んだ。

図表 2- 72 売上高等の推移(ゲンティン・シンガポール)

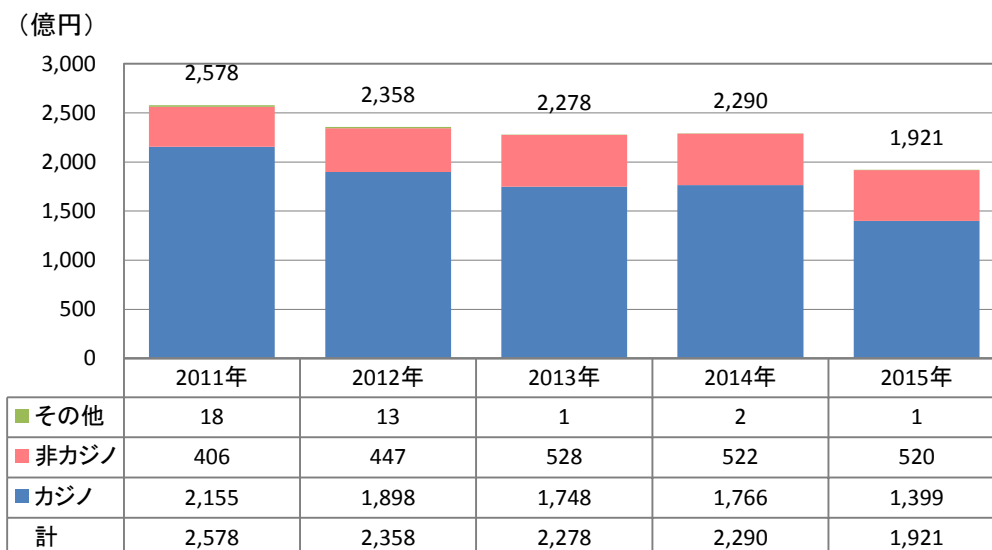


出典：ゲンティン・シンガポール Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 事業別売上高の推移

シンガポールにおける売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が高く、2015年は全体の72.8%を占めている。

図表 2- 73 事業別売上高の推移(ゲンティン・シンガポール)



出典：ゲンティン・シンガポール Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.4 カンボジア

### 2.4.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

カンボジアは、東南アジアのインドシナ半島南部に位置する国土面積約 18 万 km<sup>2</sup> の国である。北はラオス、東はベトナム、西はタイと国境を接している。首都はプノンペン。人口は約 1,470 万人で、90%以上が仏教徒である。2015 年の一人あたり名目 GDP は 1,168 米ドル（13 万円）と、東南アジアでも低い水準であるが、近年、高い経済成長を続けており、2015 年の経済成長率は 6.9%である。

図表 2-74 当該国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約18万km <sup>2</sup>	日本の約2分の1弱
人口	約1,470万人	2013年
言語	カンボジア語	
宗教	仏教	
通貨	カンボジアリエル	
名目GDP	182億米ドル(2兆930億円)	2015年
1人あたり名目GDP	1,168米ドル(13万円)	2015年
実質経済成長率	6.9%	2015年

出典：JETRO HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

プノンペンの西 7km に立地するプノンペン国際空港が首都への玄関口となっている。現在、成田及び中国の各都市から直行便が就航している。

この他、世界遺産アンコールワット観光の拠点となるシェムリアップ国際空港もあるが、日本からの直行便は就航していない。

図表 2-75 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	成田→プノンペン	6時間20分	
中国から	北京→プノンペン	直行便なし	乗継便7時間40分～
	上海→プノンペン	4時間20分	
	香港→プノンペン	2時間40分	

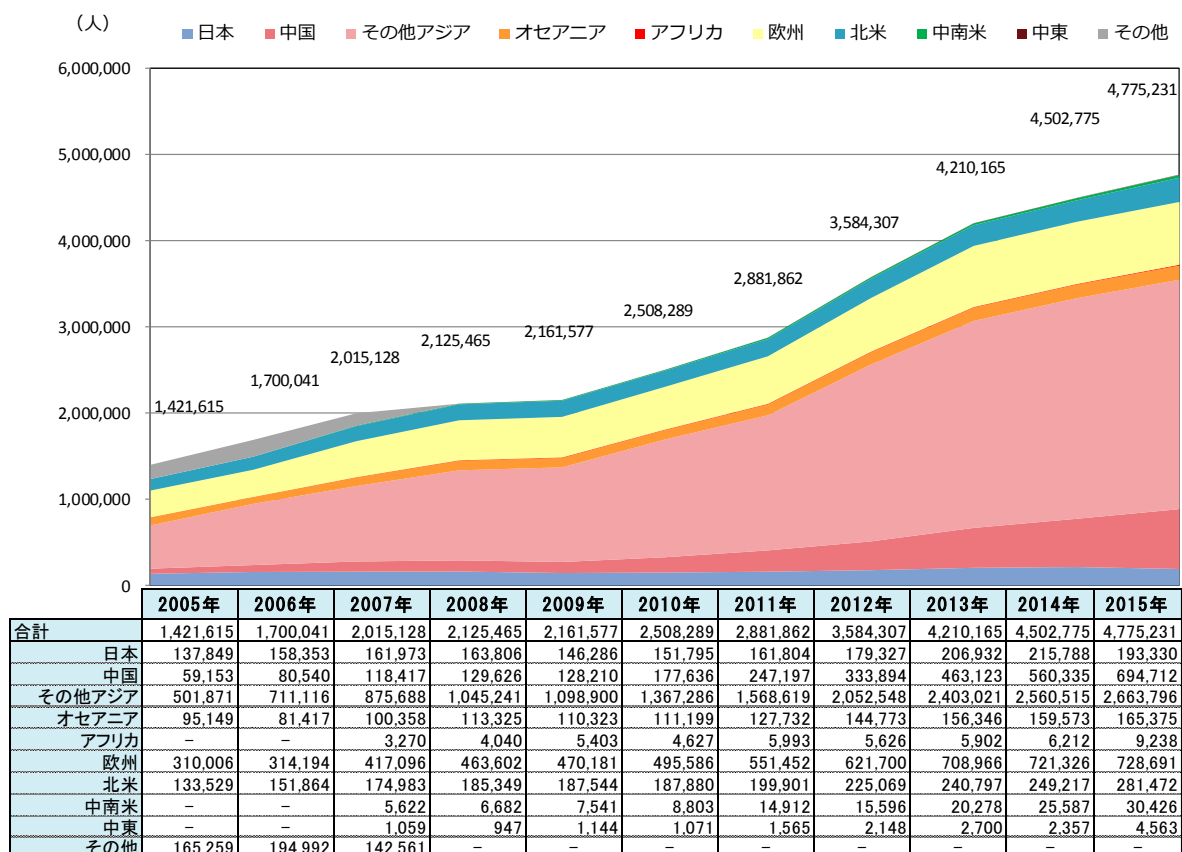
出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) 外国人旅行者の状況

カンボジアへの外国人旅行者数の推移をみると、2005年からの10年間で約3.4倍に増加し、2015年は約478万人であった。2015年に最も旅行者数の割合が多かったのは隣国ベトナムで、全体の20.7%である。

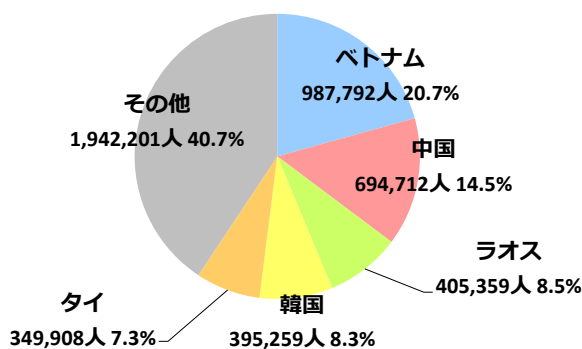
日本からの旅行者数は、2015年時点で約19万人と全体の4.0%である。一方、中国からの旅行者数は増加傾向にあり、2015年は約69万人と全体の14.5%を占めている。

図表 2- 76 カンボジアへの外国人旅行者数(2005年～2015年の推移)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による2005-2007は「Arrivals of non-resident visitors at national borders」、2009-2014はArrivals of non-resident tourists at national bordersを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2- 77 カンボジアへの外国人旅行者数(2015年の上位5箇国・地域)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による Arrivals of non-resident tourists at national borders を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成



## 2.4.2 IR・カジノの開業状況

カンボジアでは、1996年に成立した賭博禁止法<sup>28</sup>により、賭博は禁止されており、カジノに入場できるのは外国人に限定されている。

現在、77のカジノにライセンスが与えられており、そのうち65のカジノが営業を行っている<sup>29</sup>。首都プノンペン、リゾート地のシアヌークビルのほか、ベトナム国境のバベットやタイ国境のポイペトなどに施設が集積している。これは、自国民のカジノ利用を認めていないベトナムやカジノ非合法のタイといった隣国からの誘客を意図したものである。

プノンペンにあるナガワールドは国内最大のIR施設で、2016年1～9月までの政府のカジノ税収3,740万米ドル（43億円）のうち、ナガワールドからの税収が1,600万米ドル（18億円）、約43%を占めている<sup>30</sup>。

現在開業しているIR・カジノ施設のうち、本調査で確認できたものは以下のとおりである。

図表 2-78 カンボジアのIR・カジノ施設一覧

No.	施設名	立地
1	コンフォートスロットクラブ (Comfort Slot Club)	プノンペン
2	マカオクラブ (Macau Club)	プノンペン
3	ナガワールド (Naga World)	プノンペン
4	ティンティンスロットクラブ (Tin Tin Slot Club)	プノンペン
5	カジノトロピカーナ (Casino Tropicana)	ポイペト
6	ドリームワールドポイペト (Dreamworld Poipet)	ポイペト
7	ゴールデンクラウンカジノ (Golden Crown Casino)	ポイペト
8	グランドダイヤモンドシティ (Grand Diamond City)	ポイペト
9	ホリデイパレスホテル・リゾート (Holiday Palace Hotel & Resort)	ポイペト
10	ホリデイポイペト (Holiday Poipet)	ポイペト
11	プリンセスホテル・カジノ (Princess Hotel and Casino)	ポイペト
12	スターベガスインターナショナルリゾート・カジノ (Star Vegas International Resort and Casino)	ポイペト
13	カジノバベット・モクバイ (Casino Bavet - Muckbay)	バベット
14	フルハウスホテル・カジノ (Full House Hotel & Casino)	バベット
15	ラスベガスサンホテル・カジノ (Las Vegas Sun Hotel & Casino)	バベット

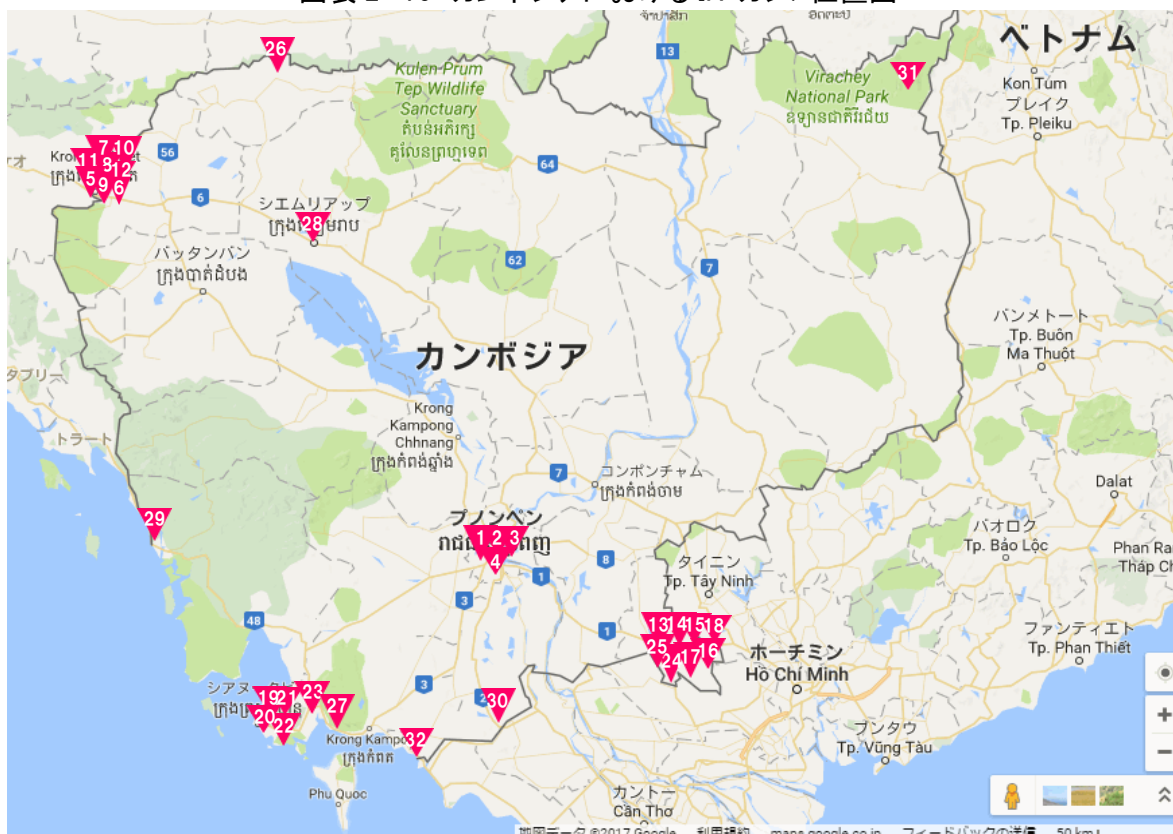
<sup>28</sup> Law on the Suppression of Gambling

<sup>29</sup> Khmer Times 2016年12月8日記事  
<http://www.khmertimeskh.com/news/32896/gov---t-to-manage-online-gaming/>

<sup>30</sup> Khmer Times 2016年12月8日記事  
<http://www.khmertimeskh.com/news/32896/gov---t-to-manage-online-gaming/>

No.	施設名	立地
16	ルマカオカジノ・ホテル (Le Macau Casino & Hotel)	バベット
17	ニューワールドカジノホテル (New World Casino Hotel)	バベット
18	チタンキングリゾート・カジノ (Titan King Resort and Casino)	バベット
19	ゴールデンキャッスルカジノ・ホテル (Golden Castle Casino and Hotel)	シアヌークビル
20	ホリデイパレスリゾート・カジノ (Holiday Palace Resort & Casino)	シアヌークビル
21	ジンディンインターナショナルカジノ (Jin Ding International Casino)	シアヌークビル
22	ピークホテル・カジノ (Peak Hotel and Casino)	シアヌークビル
23	クイーンコホテル・カジノ (Queenco Hotel and Casino)	シアヌークビル
24	ラッキーラグビーカジノ・リゾート (Lucky Ruby Casino & Resort)	コンポンロウ地区
25	ラッキー89カジノ・リゾート (Lucky89 Casino & Resort)	コンポンロウ地区
26	カジノオサメ (Casino O Samet)	アスメチ
27	タンスールボコールハイランドリゾート・カジノ (Thansur Bokor Highland Resort and Casino)	コンポット
28	ラッキーダイヤモンドカジノ (Lucky Diamond Casino)	シエムリアップ
29	コーコンカジノ (Koh Kong Casino)	スロクモンドルセイマ
30	トップダイヤモンドカジノ (Top Diamond Casino)	プノンデン
31	トライペップミットカジノエンターテイメントリゾート (Try Pheap Muttapheap Casino Entertainment Resort)	ラタナキリ
32	ハティアンベガス (Ha Tien Vegas)	ラックザー

図表 2-79 カンボジアにおけるIR・カジノ位置図



1	コンフォートスロットクラブ	17	ニューワールドカジノホテル
2	マカオクラブ	18	チタンキングリゾート・カジノ
3	ナガワールド	19	ゴールデンキャッスルカジノ・ホテル
4	ティンティンスロットクラブ	20	ホリデイパレスリゾート・カジノ
5	カジノトピカーナ	21	ジンディンインターナショナルカジノ
6	ドリームワールドポイベト	22	ピークホテル・カジノ
7	ゴールデンクラウンカジノ	23	クイーンコホテル・カジノ
8	グランドダイヤモンドシティ	24	ラッキービーカジノ・リゾート
9	ホリデイパレスホテル・リゾート	25	ラッキー89カジノ・リゾート
10	ホリデイポイベト	26	カジノオサメ
11	プリンセスホテル・カジノ	27	タンスールボコールハイランドリゾート・カジノ
12	スターベガスインターナショナルリゾート・カジノ	28	ラッキーダイヤモンドカジノ
13	カジノパベット・モクバイ	29	コーコンカジノ
14	フルハウスホテル・カジノ	30	トップダイヤモンドカジノ
15	ラスベガスサンホテル・カジノ	31	トライペップミットカジノエンターテイメントリゾート
16	ルマカオカジノ・ホテル	32	ハティアンベガス

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.4.3 運営概要

### (1) ナガコープ

#### ① 運営事業者の概要

ナガコープは、カンボジアを本拠としたカジノ運営事業者である。今後、ロシアのウラジオストクにも新規 IR の建設を予定している。

カンボジアにおいては、首都プノンペンで、国内最大の IR 施設、ナガワールドを運営している。ナガワールドへの誘客のため、隣国のベトナムとタイに現地事務所を置いて営業活動を行っている。

図表 2- 80 運営事業者の概要

事業者名	ナガコープ(Naga Corp Ltd.)
所在地	カンボジア プノンペン
設立	1995 年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="http://www.nagacorp.com/">http:// www.nagacorp.com/</a>

出典：ナガコープ HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

ナガコープがカンボジアで運営している IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 81 運営施設の概要(ナガコープ)

	ナガワールド
外 観	 ナガワールドの HP <sup>31</sup> より引用
地 区	プノンペン
面 積	延床面積 113,307 m <sup>2</sup> カジノ面積 24,400 m <sup>2</sup>
開業時期	2008 年
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 700 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 262 台、スロットマシン 1,600 台)</li> <li>・コンベンション</li> <li>・その他(スパ、フィットネス、シアター)</li> </ul>

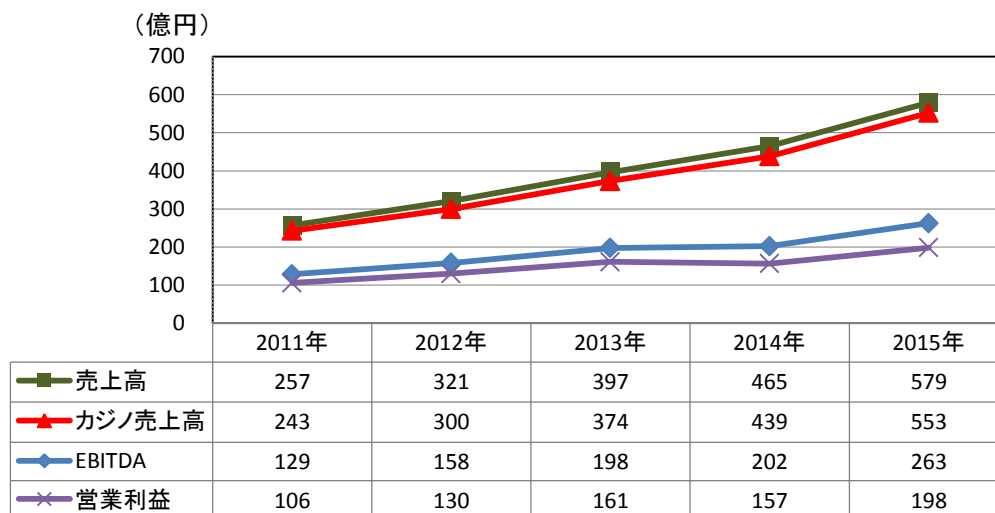
出典：ナガコープ HP、Casino City Press 「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>31</sup> ナガワールド HP <http://www.nagaworld.com/>

### ③ 売上高等の推移

カンボジアにおけるナガコープの売上高等の推移をみると、2011年以降、順調に売上高、カジノ売上高を伸ばしてきた。2015年の売上高は、2014年比24.5%の増加であった。

図表 2- 82 売上高等の推移(ナガコープ)

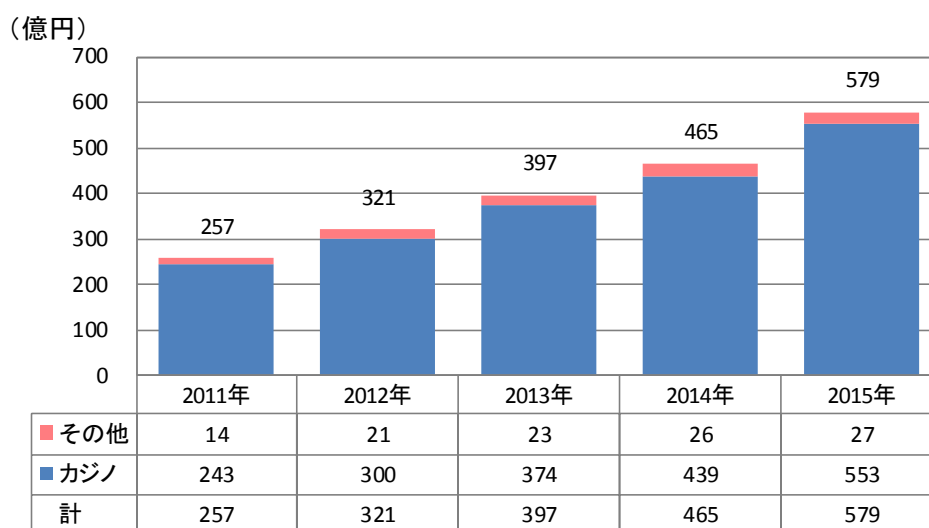


出典：ナガコープ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 事業別売上高の推移

売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が高く、2015年は全体の95.5%を占めている。

図表 2- 83 事業別売上高等の推移(ナガコープ)

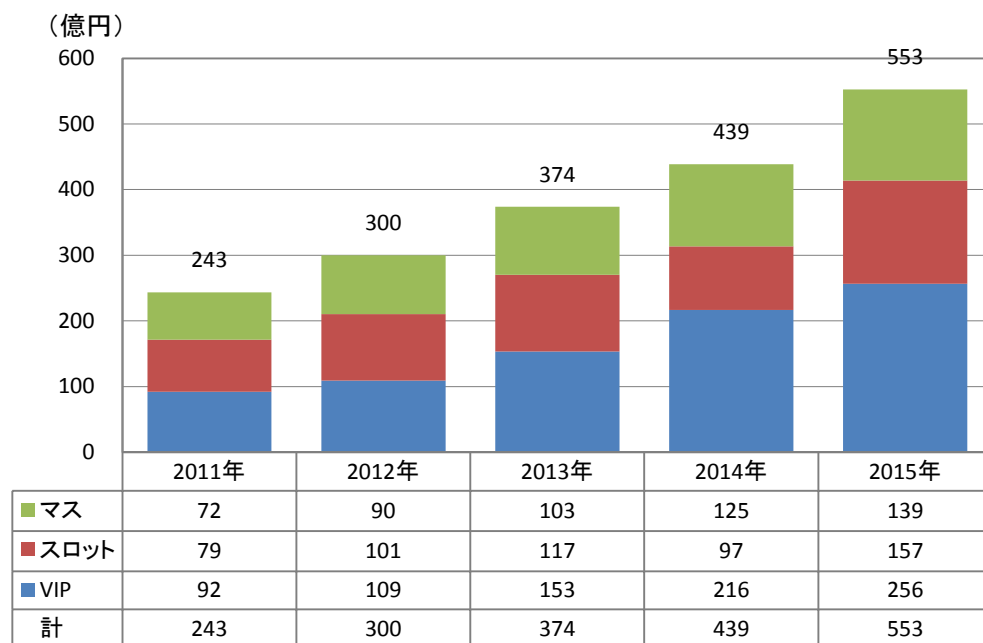


出典：ナガコープ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## ⑤ 顧客別カジノ売上高の推移

顧客別カジノ売上高の推移をみると、全体的に増加している中でも特にVIP売上高が増加しており、2015年はカジノ売上高の46.3%を占めている。

図表 2-84 顧客別カジノ売上高等の推移(ナガコープ)



出典：ナガコープ Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.4.4 参考情報

カンボジアでは、ギャンブルに関する法整備が不十分な状況であった。そのため、政府は、新たなギャンブル法制による国際基準の規制の構築を検討している<sup>32</sup>。

<sup>32</sup> Khmer Times 2016年9月21日記事  
<http://www.khmertimeskh.com/news/31116/draft-gaming-law-a-step-closer/>

## 2.5 北朝鮮

### 2.5.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

北朝鮮は、アジア北東の朝鮮半島の北部に位置し、面積は約 12 万 km<sup>2</sup>である。首都は平壤。人口は約 2,516 万人。

食糧、原油など重要物資の多くを中国に依存しており、中国と緊密な関係を保っている。

図表 2- 85 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約12万km <sup>2</sup>	日本の約3分の1に相当
人口	約2,516万人	2015年
言語	朝鮮語	
宗教	仏教、キリスト教	
通貨	北朝鮮ウォン	
名目GDP	161億米ドル(1兆8,515億円)	2015年
1人あたり名目GDP	642米ドル(7万円)	2015年
実質経済成長率	-1.1%	2015年

出典：JETRO HP、国連統計、外務省資料<sup>33</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

平壤市の北 24km に平壤国際空港が立地しており、国際線は北京、上海、瀋陽、ウラジオストクから出ている。香港からは平壤までの直行便はなく、乗継便を利用することとなる。

日本では平成 28 年 2 月に、外交上の観点から、外務省より北朝鮮への渡航自粛要請が通達された。これにより、現在、乗継便としての航空券も販売されていない。

なお、入国にあたっては、政府が指定したガイドを同伴することが必要であり、宿泊可能な施設も限られる。また、ガイドの許可を得ない自由な移動や写真撮影などはできない。<sup>34</sup>

図表 2- 86 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	—	直行便なし	※乗継便の設定なし
中国から	北京→平壤	2時間	
	上海→平壤	2時間20分	
	香港→平壤	直行便なし	乗継便6時間50分～

出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (3) 外国人旅行者の状況

北朝鮮への外国人旅行者の状況に関する統計情報は得られなかった。

<sup>33</sup> 外務省 HP [http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/n\\_korea/](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/n_korea/)

<sup>34</sup> New Korea Tours HP [http://www.newkoreatours.com/north\\_korea\\_travel\\_rules.html](http://www.newkoreatours.com/north_korea_travel_rules.html)

## 2.5.2 IR・カジノの開業状況

北朝鮮では、カジノに入場できるのは外国人に限定されている。

現在、北朝鮮においては、ホテル内に併設された2箇所のカジノが開業している。

図表 2- 87 北朝鮮のIR・カジノ施設一覧

No.	施設名	立地
1	エンペラー・ホテル・カジノ(Emperor Hotel & Casino)	羅先
2	平壤カジノ・羊角島国際ホテル(Pyongyang Casino and Yanggakdo Hotel)	平壤

図表 2- 88 北朝鮮におけるIR・カジノ位置図



出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成



## 2.5.3 運営概要

北朝鮮における IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 89 北朝鮮の IR・カジノ施設の概要

	エンペラー・ホテル・カジノ	平壤カジノ・羊角島国際ホテル
外 観	 Daily NKより引用 <sup>35</sup>	 羊角島国際ホテル公式コマーシャル映像(YouTube)より引用
地 区	羅先	平壤
面 積	延床面積 120,000㎡	不明
運営企業	エンペラー・エンターテイメント・ホテル(Emperor Entertainment Hotel Limited)	不明
開業時期	2000年	1999年7月 <sup>36</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数150室以上)</li> <li>・カジノ(テーブル16台、スロットマシン52台)</li> <li>・その他(プール、サウナ、スポーツセンター)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数1,001室<sup>37</sup>)</li> <li>・カジノ</li> <li>・その他(ボーリング、カラオケ、プール)</li> </ul>
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国・ロシアとの国境付近に立地する香港資本の北朝鮮最高級のホテルの一つ</li> <li>・中国延辺州の幹部が2004年にカジノで公金約425,000米ドル(4,888万円)相当を使い果たした事件を機に、中国政府からの要求で一旦閉鎖されたが、2007年に営業を再開している<sup>38</sup>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が平壤に泊まる際に宿泊地として選択できるホテルの一つ</li> </ul>

出典：DailyNK、NK News、You Tube<sup>39</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>35</sup> DailyNK 2007年6月14日記事

[http://www1.dailynk.com/english/read\\_photo.php?cataId=nk03100&num=2222&page=30](http://www1.dailynk.com/english/read_photo.php?cataId=nk03100&num=2222&page=30)

<sup>36</sup> Casino City Press 「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」 GamingDirectory HP

<http://www.GamingDirectory.com>

<sup>37</sup> 株式会社中外旅行社 HP <http://www.chugai-trv.co.jp/>

<sup>38</sup> DailyNK 2007年6月13日記事 <http://dailynk.jp/archives/753>

NK News 2013年8月23日記事

<https://www.nknews.org/2013/08/an-inside-look-at-north-koreas-luxury-hotel-industry/>

<sup>39</sup> 羊角島国際ホテル公式コマーシャル映像(YouTube)

[https://www.youtube.com/watch?v=rz1sadURGBg&feature=player\\_embedded#!](https://www.youtube.com/watch?v=rz1sadURGBg&feature=player_embedded#!)

## 2.6 フィリピン

### 2.6.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

フィリピンは、東南アジアに位置し、南北 1,851km にわたって散在する 7,109 の島々からなる島嶼国家である。国土面積は約 30 万 km<sup>2</sup> で、ルソン、ミンダナオ、ミンドロ、サマル、レイテ、セブなどの 11 の大きな島がその面積の 96% を占める。

首都はマニラ。人口は約 1 億 98 万人。近年、経済成長が目覚ましいが、その一方で、貧富の差が大きく、貧困撲滅が国家の直面する課題の一つになっている。

図表 2- 90 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約30万km <sup>2</sup>	日本の約8割。 7,109の島々がある。
人口	約1億98万人	2015年
言語	国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語及び英語	80前後の言語がある
宗教	キリスト教、イスラム教	90%強がキリスト教
通貨	フィリピンペソ	補助通貨センタボ
名目GDP	2,850億米ドル(32兆7,750億円)	2014年
1人あたり名目GDP	2,850米ドル(33万円)	2014年
実質経済成長率	6.1%	2014年

出典：JETRO HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

フィリピンへは、日本、中国の各都市から首都マニラ郊外のニノイ・アキノ国際空港へ直行便が出ている。

図表 2- 91 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	成田→マニラ	5時間	
	羽田→マニラ	4時間40分	
	大阪→マニラ	4時間	
	名古屋→マニラ	4時間10分	
	福岡→マニラ	3時間50分	
中国から	北京→マニラ	4時間40分	
	上海→マニラ	3時間40分	
	香港→マニラ	2時間10分	

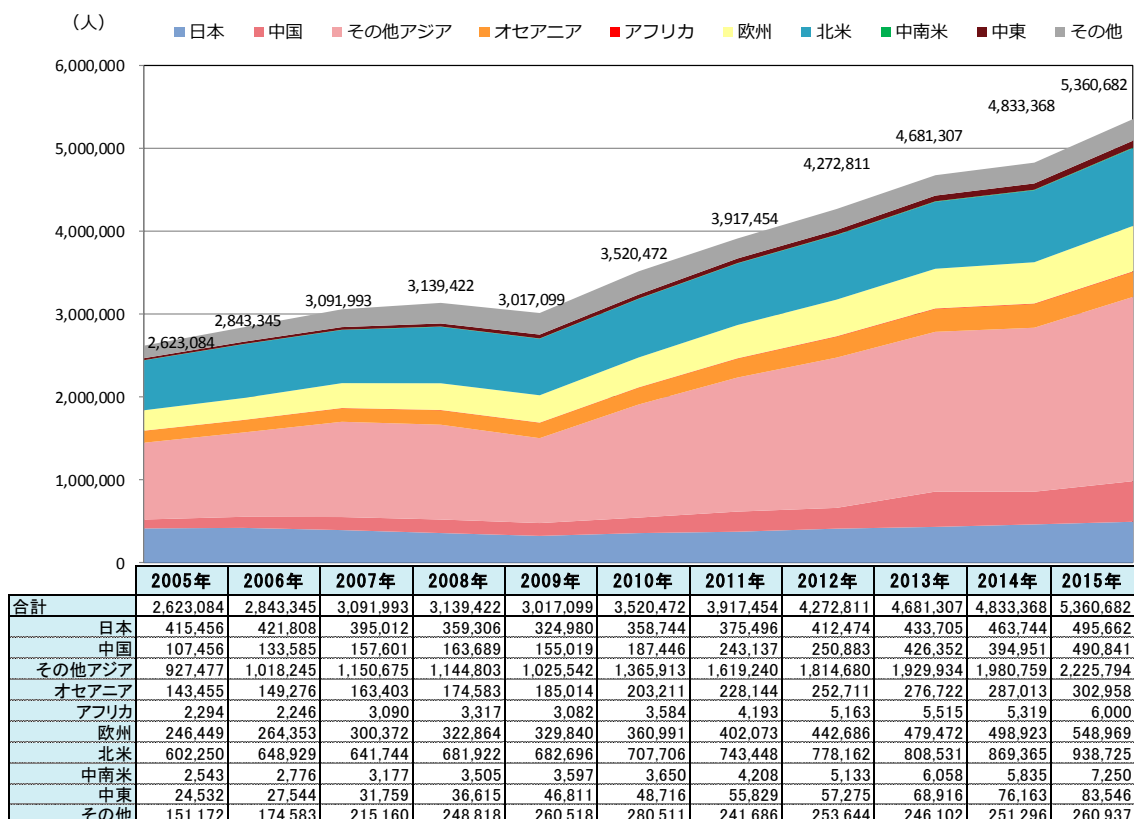
出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) 外国人旅行者の状況

フィリピンへの外国人旅行者数の推移をみると、2005年からの10年間で約2倍に増加し、2015年は約536万人であった。2015年に旅行者数の割合が多かったのは韓国、次いで米国で、それぞれ全体の25.0%、14.5%である。

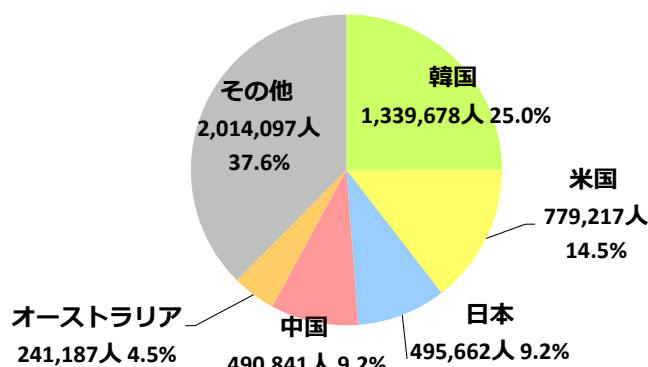
日本からの旅行者数は2010年以降増加傾向にあり、2015年時点で約50万人と全体の9.2%を占めている。一方、中国からの旅行者数も増加傾向にあり、2015年は日本とほぼ同じ約49万人であった。

図表 2- 92 フィリピンへの外国人旅行者数(2005年～2015年の推移)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2- 93 フィリピンへの外国人旅行者数(2015年の上位5箇国・地域)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.6.2 IR・カジノの開業状況

フィリピンでは、1976年に政府により設立されたフィリピン娯楽賭博公社（Philippines Amusement and Gaming Corporation、以下「PAGCOR」という。）が、国内のギャンブルを規制するとともに、自らもカジノ施設等を運営している。フィリピン人にもカジノ利用が認められているため、フィリピン人を主な顧客とした小規模・中規模のカジノが多く存在する。

一方で、2009年にニノイ・アキノ国際空港の隣に国内初の大型IRが開業したのを皮切りに、マニラ首都圏に大型IRの開業が相次いでいる。エンターテイメントシティ・マニラ・プロジェクトは、外国人観光客を呼び込むため、マニラ湾の埋立地に4つのIRを集積させ、魅力のあるエンターテイメント地区を開発する計画であり、このうちすでに3つのIRが開業している。

図表 2-94 フィリピンにおける大型IR開業の動き

時期	経緯	備考
2009年	リゾートワールドマニラ（Resorts World Manila）が開業	・国内第1号のIR
2013年	ソレアリゾート・カジノ（Solaire Resort & Casino）開業	・エンターテイメントシティ・マニラ・プロジェクトにおける最初のIR
2014年	シティオブドリームスマニラ（City of Dreams Manila）開業	・エンターテイメントシティ・マニラ・プロジェクト
2016年	オカダマニラ（Okada Manila）一部開業	・エンターテイメントシティ・マニラ・プロジェクト ・2017年3月全面開業

現在、フィリピンにおいては、54箇所の施設が営業を行っている。

なお、オカダマニラはこれら施設に含めず、新規IR施設として3章で述べる。

図表 2-95 フィリピンのIR・カジノ施設一覧

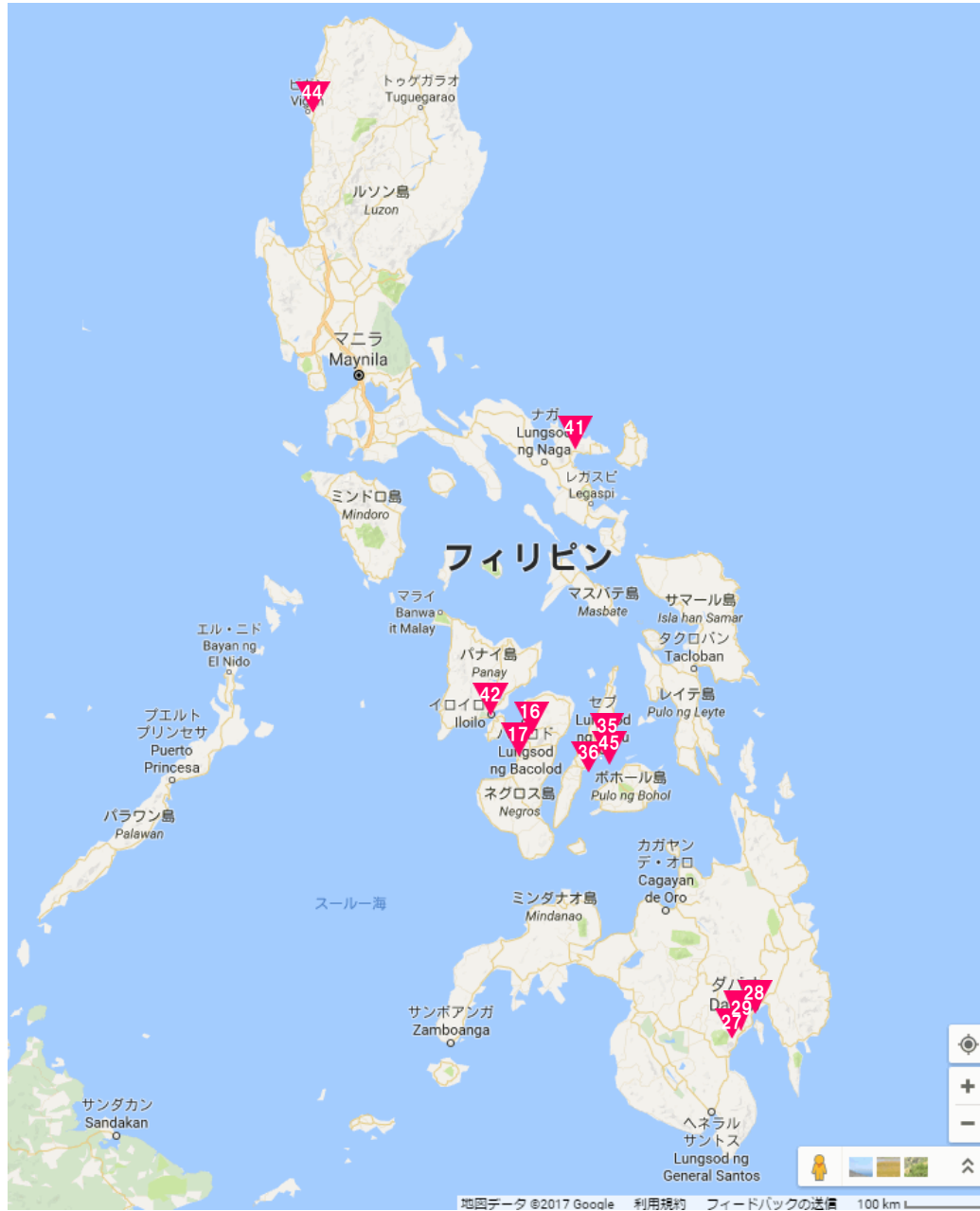
No.	施設名	立地 <sup>40</sup>
1	カジノフィリピンヘリテージ （Casino Filipino Heritage）	マニラ
2	カジノフィリピンニューワールドマニラベイホテル・カジノ （Casino Filipino New World Manila Bay Hotel & Casino）	マニラ
3	カジノフィリピンミダス （Casino Filipino Midas）	マニラ
4	カジノフィリピンパビリオン （Casino Filipino Pavilion）	マニラ
5	シティオブドリームスマニラ （City of Dreams Manila）	マニラ
6	グランドヴィラVIPスロットクラブ （Grand Villa VIP Slot Club）	マニラ
7	PAGCORクラブ・アドリアティコスクエア （PAGCOR Club - Adriatico Square）	マニラ
8	PAGCORクラブ・ビノンド （PAGCOR Club - Binondo）	マニラ
9	PAGCORクラブ・マディソン （PAGCOR Club - Madison）	マニラ

<sup>40</sup> 定着したカタカナ表記がない地名については、発音を基に株式会社日本能率協会総合研究所にて記載。現地名は次の通り：ラオアグ/Laoag、マバラカト/Mabalacat、バコオル/Bacoor、バカラー/Bacolor、バカケイ/Bacacay。

No.	施設名	立地 <sup>40</sup>
10	PAGCORクラブ・マニラグランドオペラ (PAGCOR Club - Manila Grand Opera)	マニラ
11	PAGCORクラブ・ロンキージョ (PAGCOR Club - Ronquillo)	マニラ
12	PAGCORクラブ・トロピカーナサンタメサ (PAGCOR Club - Tropicana Santa Mesa)	マニラ
13	PAGCORクラブ・ユニバーサル (PAGCOR Club - Universal)	マニラ
14	ソレアリゾート・カジノ (Solaire Resort & Casino)	マニラ
15	ウィンフォードホテル・カジノ (Winford Hotel and Casino)	マニラ
16	カジノフィリピンバコロド (Casino Filipino Bacolod)	バコロド
17	スロットマシンアルケード・バコロド (Slot Machine Arcade - Bacolod)	バコロド
18	PAGCORクラブ・レジャーワールド (PAGCOR Club - Leisure World)	バカラ
19	PAGCORクラブ・カヴィテコロッセオ (PAGCOR Club - Cavite Coliseum)	バカラ
20	アトリウムホテル (Atrium Hotel)	パサイ
21	PAGCORクラブ・マジェスティック (PAGCOR Club - Majestic)	パサイ
22	PAGCORクラブ・ソフィテル (PAGCOR Club - Sofitel)	パサイ
23	リゾートワールドマニラ (Resorts World Manila)	パサイ
24	ミドリホテル・カジノ (Midori Hotel and Casino)	クラーク経済特別区
25	パラダイスアイランドカジノ (Paradise Island Casino)	クラーク経済特別区
26	ウィダスリゾート・カジノ (Widus Resort & Casino)	クラーク経済特別区
27	カジノフィリピンアポビューホテル (Casino Filipino Apo View Hotel)	ダバオ
28	カジノフィリピンダバオ (Casino Filipino Davao)	ダバオ
29	メトロカードクラブダバオ (The Metro Card Club Davao)	ダバオ
30	カジノフィリピンオロンガポ (Casino Filipino Olongapo VIP Club)	オロンガポ
31	PAGCORクラブ・オリエンタルパラダイスカジノ (PAGCOR Club - Oriental Paradise Casino)	オロンガポ
32	PAGCORクラブ・ヴェネチア (PAGCOR Club - Venezia)	オロンガポ
33	カサブランカカジノ (Casablanca Casino)	アンヘレス
34	カジノフィリピンエンゼルス (Casino Filipino Angeles)	アンヘレス
35	カジノフィリピンセブ (Casino Filipino Cebu)	セブ
36	VIPクラブ・ラジャパークホテル (VIP Club and Rajah Park Hotel)	セブ
37	カジノフィリピンミモザ (Casino Filipino Mimosa)	マバラカト

No.	施設名	立地 <sup>40</sup>
38	フォンタナレジャーパーク (Fontana Leisure Park)	マバラカト
39	PAGCORクラブ・オリエンタルパビリオン (PAGCOR Club - Oriental Pavilion)	ブラカン
40	PAGCORクラブ・カルティニー (PAGCOR Club - Kartini)	カビテ
41	PAGCORクラブ・ミシビス (PAGCOR Club - Misibis)	バカカイ
42	カジノフィリピンイロイロ (Casino Filipino Iloilo)	イロイロ
43	PAGCORクラブ・サンタローザ (PAGCOR Club - Paseo de Santa Rosa)	ラグナ
44	カジノフィリピンラオアグ (Casino Filipino Laoag)	ラオアグ
45	カジノフィリピンマクタン (Casino Filipino Mactan)	ラブ・ラブ
46	PAGCORクラブ・トロピカーナラスピニャス (PAGCOR Club - Tropicana Las Pinas)	ラスピニャス
47	PAGCORクラブ・マラボン (PAGCOR Club - Malabon)	マラボン
48	PAGCORクラブ・ランカスター (PAGCOR Club - Lancaster)	マンダレーヨン
49	サンダーバードリゾートリサール (Thunderbird Resort Rizal and Fiesta Casino)	リサール
50	フィースタカジノポロポイント (Fiesta Casino at Poro Point)	サン・フェルナンド
51	PAGCORクラブ・サンペドロ (PAGCOR Club - San Pedro)	サン・ペドロ
52	レジェンダホテル・カジノ (Legenda Hotel and Casino)	スービック
53	オリエンタルパラダイスカジノ (Oriental Paradise Casino) (旧スービックダイヤモンドカジノSubic Diamond Casino)	スービック湾経済特別区
54	カジノフィリピンタガイタイ (Casino Filipino Tagaytay)	タガイタイ

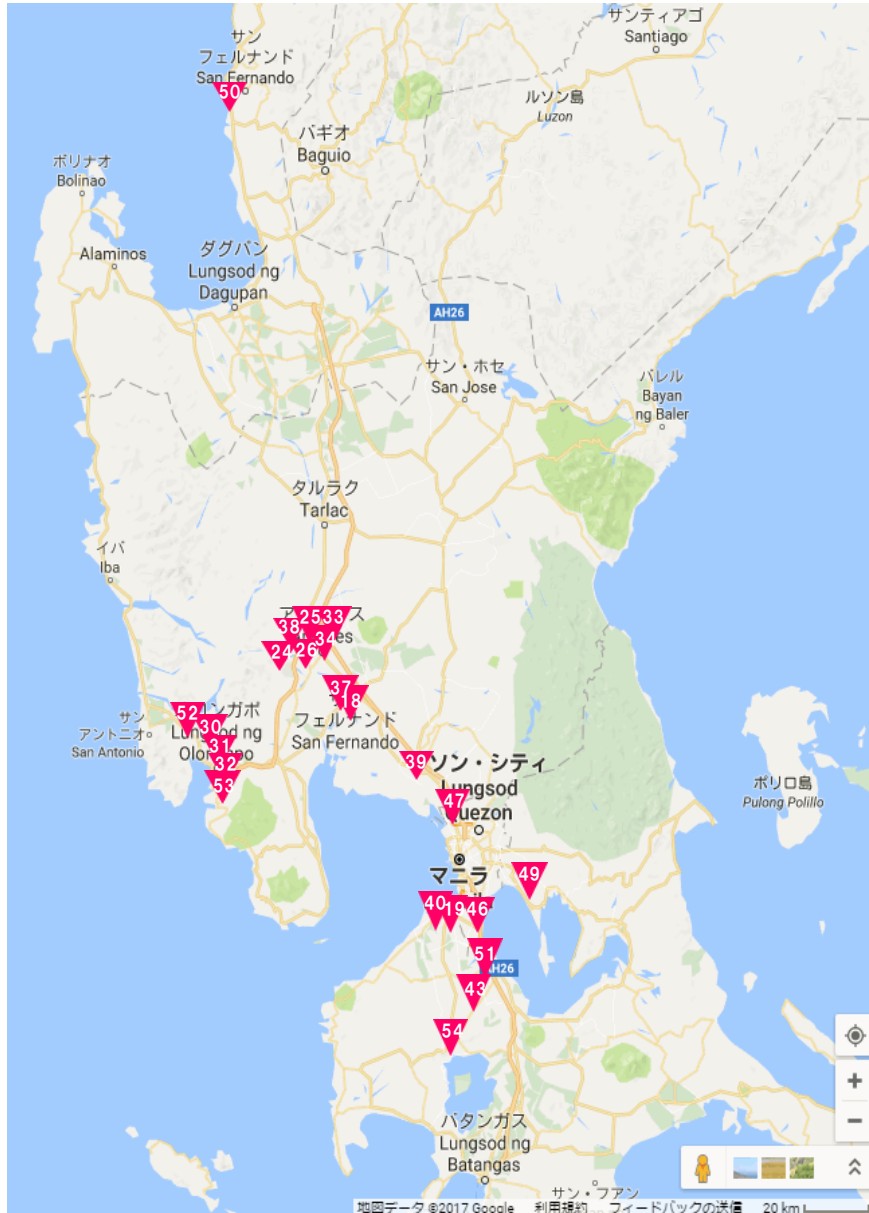
図表 2- 96 フィリピンにおけるIR・カジノ位置図(フィリピン全体図)



16	カジノフィリピンバコロド	36	VIP クラブ・ラジャパークホテル
17	ストゥマシナルケード・バコロド	41	PAGCOR クラブ・ミシビス
27	カジノフィリピンアポビューホテル	42	カジノフィリピンイロイロ
28	カジノフィリピンダバオ	44	カジノフィリピンラオアグ
29	メトロカードクラブダバオ	45	カジノフィリピンマクタン
35	カジノフィリピンセブ		

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2- 97 フィリピンにおける IR・カジノ位置図(ルソン島近郊)

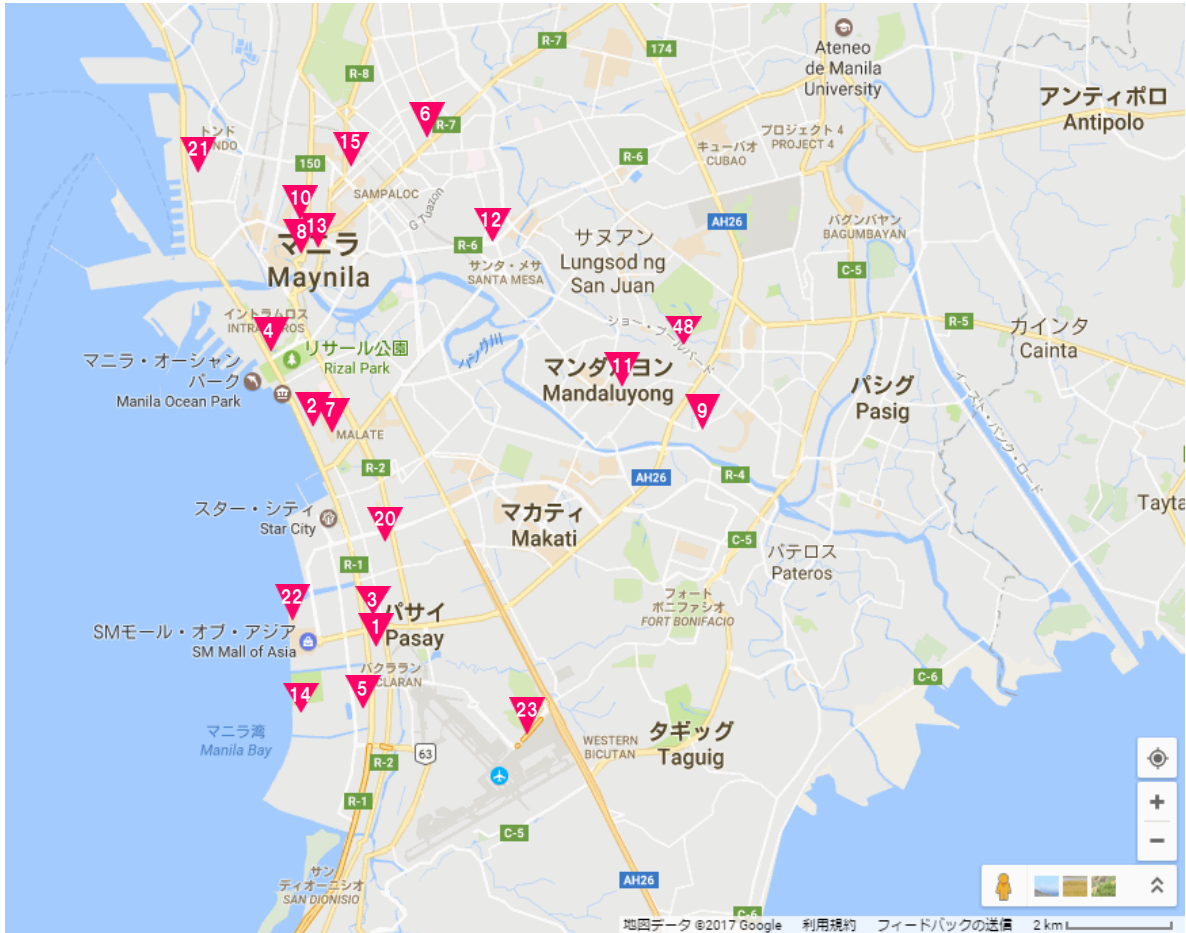


18	PAGCOR クラブ・レジャーワールド	39	PAGCOR クラブ・オリエンタルパビリオン
19	PAGCOR クラブ・カヴィテコロッセオ	40	PAGCOR クラブ・カルティニー
24	ミドリホテル・カジノ	43	PAGCOR クラブ・サンタローザ
25	パラダイスアイランドカジノ	46	PAGCOR クラブ・トロピカーナラスピニャス
26	ウィダスリゾート・カジノ	47	PAGCOR クラブ・マラボン
30	カジノフィリピンオロンガポ	49	サンダーバードリゾートリサール
31	PAGCOR クラブ・オリエンタルパラダイスカジノ	50	フィースタカジノポロポイント
32	PAGCOR クラブ・ヴェネチア	51	PAGCOR クラブ・サンペドロ
33	カサブランカカジノ	52	レジェンダホテル・カジノ
34	カジノフィリピンエンゼルス	53	オリエンタルパラダイスカジノ
37	カジノフィリピンミモザ	54	カジノフィリピンタガイタイ
38	フオンタナレジャーパーク		

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成



図表 2- 98 フィリピンにおけるIR・カジノ位置図(マニラ近郊)



1	カジノフィリピンヘリテージ	11	PAGCOR クラブ・ロンキージョ
2	カジノフィリピンニューワールドマニラベイホテル・カジノ	12	PAGCOR クラブ・トロピカーナサンタメサ
3	カジノフィリピンミダス	13	PAGCOR クラブ・ユニバーサル
4	カジノフィリピンパビリオン	14	ソレアリゾート・カジノ
5	シティオブドリームスマニラ	15	ウィンフォードホテル・カジノ
6	グランドヴィラ VIP スロットクラブ	20	アトリウムホテル
7	PAGCOR クラブ・アドリアティコスクエア	21	PAGCOR クラブ・マジスティック
8	PAGCOR クラブ・ピノンド	22	PAGCOR クラブ・ソフィテル
9	PAGCOR クラブ・マディソン	23	リゾートワールドマニラ
10	PAGCOR クラブ・マニラグランドオペラ	48	PAGCOR クラブ・ランカスター

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.6.3 運営概要

### (1) PAGCOR

#### ① 運営事業者の概要

PAGCOR は、1976 年に設立された政府所有の公社であり、国内のギャンブルを規制するとともに、自らもカジノ施設等を運営している。現在、13 の中規模なカジノ施設「カジノフィリピン」と、スロットを中心とする多数の「PAGCOR クラブ」を国内各地で運営している。

なお、PAGCOR の収益は、約半分が政府に納められるほか、スポーツ振興や政府の優先的なプロジェクト等のために用いられている。

図表 2-99 運営事業者の概要

事業者名	PAGCOR (Philippines Amusement and Gaming Corporation)
所在地	フィリピン マニラ
設立	1976 年
主な事業	IR・カジノの運営、エンターテインメント事業
ホームページ	<a href="http://www.pagcor.ph/">http://www.pagcor.ph/</a>

出典：PAGCOR HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

PAGCOR がフィリピンで運営している IR ・カジノ施設のうち、主な施設の概要は以下のとおりである。

図表 2-100 主な運営施設の概要(PAGCOR)

	カジノフィリピンパビリオン	カジノフィリピンセブ	カジノフィリピンタガイタイ
外 観	 カジノフィリピン HP より引用	 カジノフィリピン HP より引用	 カジノフィリピン HP より引用
地 区	マニラ	セブ	タガイタイ
面 積	不明	不明	不明
開業時期	不明	不明	不明
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 590 室) ・カジノ(テーブル 105 台、スロットマシン 700 台)	・ホテル(客室数 438 室) ・カジノ(テーブル 61 台、スロットマシン 429 台)	・ホテル(客室数 88 室) ・カジノ(テーブル 31 台、スロットマシン 302 台)

出典：PAGCOR HP、カジノフィリピン HP<sup>41</sup>とカジノシティ<sup>42</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

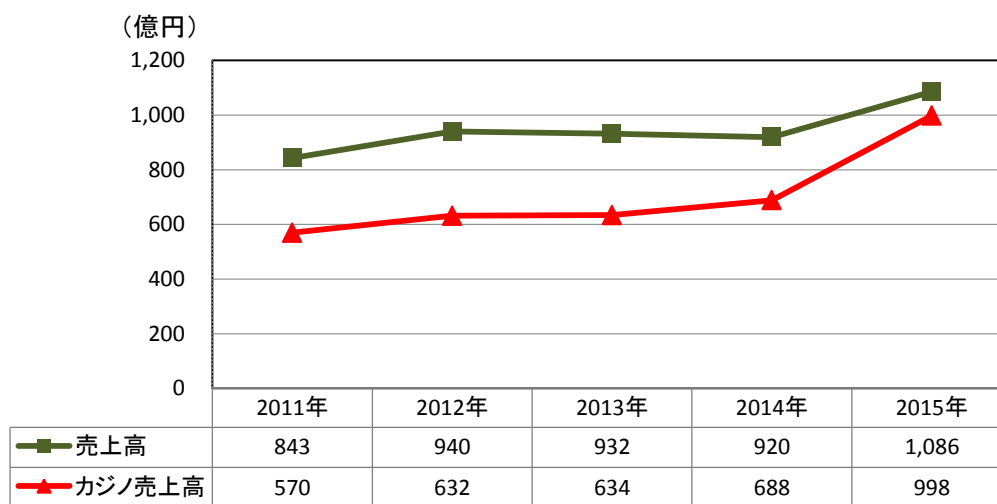
<sup>41</sup> カジノフィリピン HP <http://www.casinofilipino.ph/>

<sup>42</sup> カジノシティ HP <http://www.casinocity.ph/>

### ③ 売上高等の推移

フィリピンにおける PAGCOR の売上高等の推移をみると、2011 年以降、売上高、カジノ売上高は着実に伸びている。

図表 2- 101 売上高等の推移(PAGCOR)



出典：PAGCOR の各年の Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## (2) トラベラーズ・インターナショナル・ホテル・グループ

### ① 運営事業者の概要

トラベラーズ・インターナショナル・ホテル・グループ（以下「トラベラーズ」という。）は、フィリピンのアライアンスグローバルグループ（Alliance Global Group）とゲンティン香港（Genting Hong Kong）の合弁企業である。

現在、フィリピンにおいて、1箇所の IR・カジノ施設を運営している。

図表 2- 102 運営事業者の概要

事業者名	トラベラーズ・インターナショナル・ホテル・グループ (Travellers International Hotel Group, Inc.)
所在地	フィリピン パサイ
設立	2003 年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="http://www.travellers.com.ph/">http://www.travellers.com.ph/</a>

出典：トラベラーズ HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ② 運営施設の概要

トラベラーズがフィリピンで運営している IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 103 運営施設の概要(トラベラーズ)

リゾートワールドマニラ	
外 観	 トラベラーズ HP より引用
地 区	パサイ
面 積	敷地面積 76,000 m <sup>2</sup> カジノ面積 13,167 m <sup>2</sup>
開業時期	2009 年 8 月
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 1,226 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 311 台、スロットマシン 1,798 台、電子ゲーム 210 台)</li> <li>・その他(ショッピングモール、スパ、映画館、オフィス棟)</li> </ul>

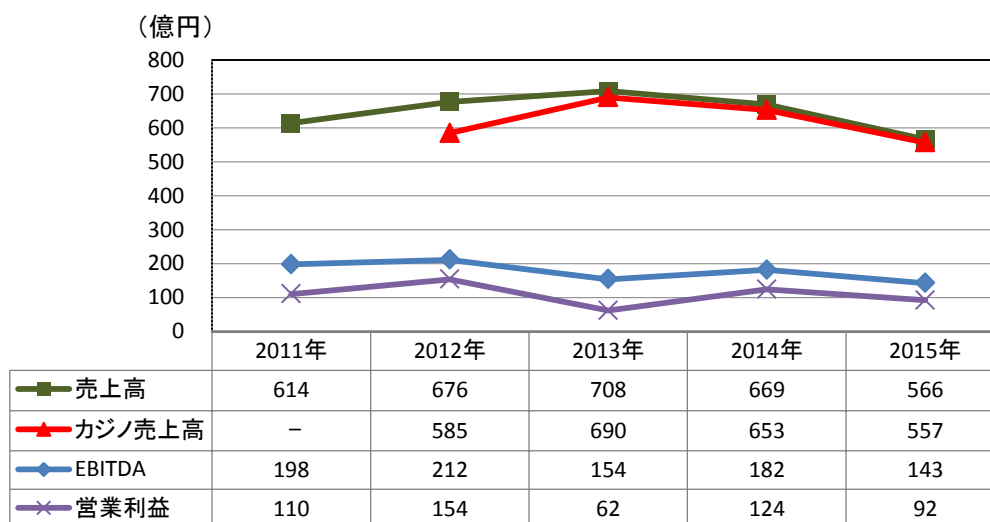
出典：リゾートワールドマニラ HP<sup>43</sup>、トラベラーズ HP、トラベラーズ Annual Report2015 を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>43</sup> リゾートワールドマニラ HP <https://www.rwmexclusives.com/>

### ③ 売上高等の推移

フィリピンにおけるトラベラーズの売上高等の推移をみると、2011年以降、売上高を伸ばしてきたが、2014年からは減少している。

図表 2-104 売上高等の推移(トラベラーズ)

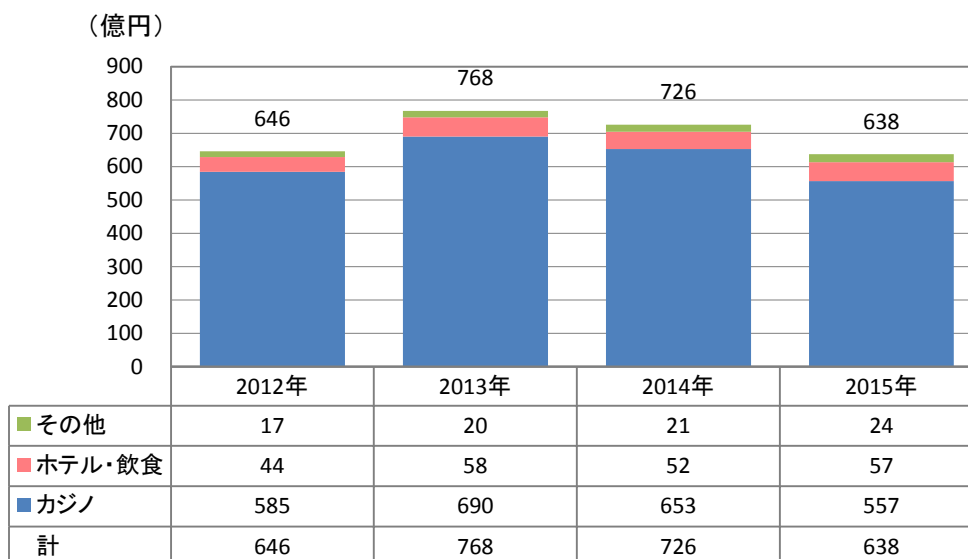


出典：トラベラーズの Financial Highlights、Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 事業別売上高の推移

売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が高く、2015年は全体の87.3%を占めている。

図表 2-105 事業別売上高の推移(トラベラーズ)



※広告費を差し引く前の売上高のため、合計値が前表の売上高と一致しない

出典：トラベラーズの Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) メルコ・クラウン・エンターテインメント

#### ① 運営事業者の概要

メルコ・クラウンは、マカオでの IR 開発のため、香港の企業「メルコ・インターナショナル・ディベロプメント」とオーストラリアのカジノ運営事業者「クラウンリゾート」の共同出資で設立された。

現在、フィリピンにおいては、子会社のメルコ・クラウン（フィリピン）リゾートコーポレーション（Melco Crown (Philippines) Resorts Corporation）を通じて、1 箇所の IR・カジノ施設を運営している。

図表 2- 106 運営事業者の概要

事業者名	メルコ・クラウン・エンターテインメント(Melco Crown Entertainment Limited)
所在地	香港特別行政区
設立	2003 年
主な事業	IR・カジノの運営、エンターテインメント事業
ホームページ	<a href="http://www.melco-crown.com/">http://www.melco-crown.com/</a>

出典：メルコ・クラウン HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

メルコ・クラウンがフィリピンで運営している IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 107 運営施設の概要(メルコ・クラウン)

	シティオブドリームスマニラ
外 観	 シティオブドリームスマニラ HP より引用
地 区	マニラ郊外
面 積	敷地面積 62,000 m <sup>2</sup> 延床面積 300,100 m <sup>2</sup> カジノ面積 20,100 m <sup>2</sup> <sup>44</sup>
開業時期	2014 年 12 月一部開業、2015 年 2 月に全面開業
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数約 950 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 261 台、スロットマシン 1,579 台、電子ゲーム 83 台)</li> <li>・その他(スパ、ショッピングモール、シアター、テーマパーク)</li> </ul>

出典：シティオブドリームスマニラ HP<sup>45</sup>、メルコ・クラウン Annual Report 2015、Casino City Press「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

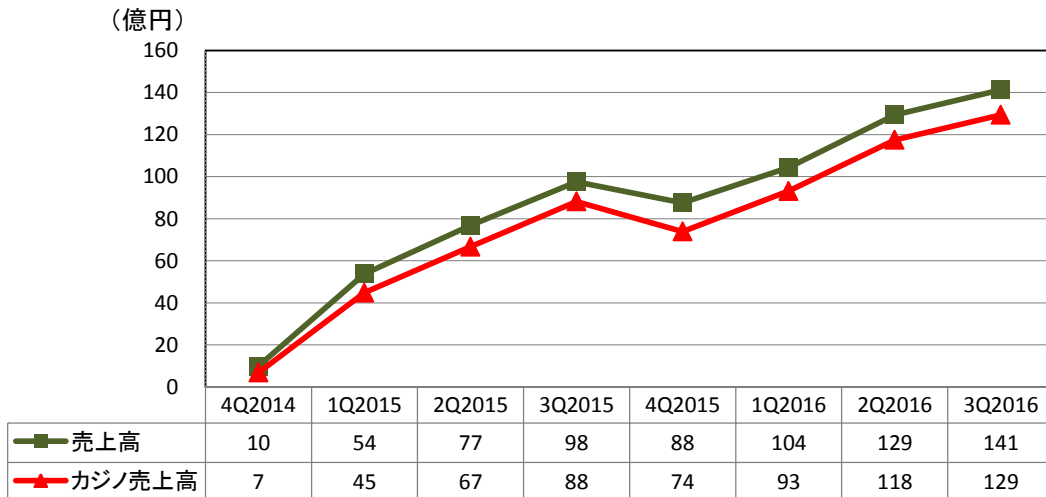
<sup>44</sup> Brand Launch Press release 2013 年 10 月 9 日  
[http://phx.corporate-ir.net/phoenix.zhtml?c=206322&p=irol-newsArticle\\_Print&ID=1862836](http://phx.corporate-ir.net/phoenix.zhtml?c=206322&p=irol-newsArticle_Print&ID=1862836)

<sup>45</sup> シティオブドリームスマニラ HP <https://www.cityofdreamsmanila.com/casino/>

### ③ 売上高等の推移

フィリピンにおけるメルコ・クラウンの四半期ごとの売上高等の推移をみると、2015年第4四半期にやや落ち込みをみせたものの、2014年12月に開業して以降、売上高、カジノ売上高のいずれも、全体として順調に伸びている。

図表 2- 108 四半期ごとの売上高等の推移(メルコ・クラウン)

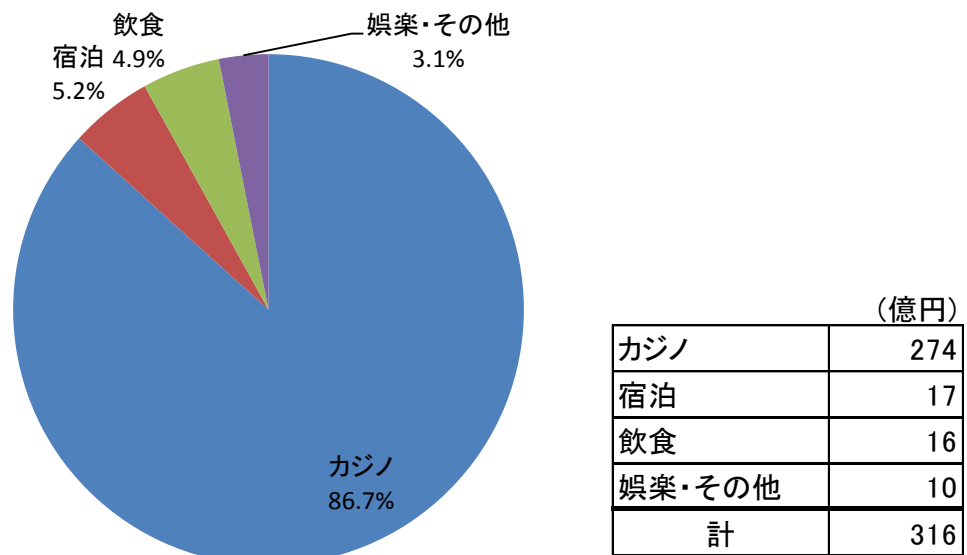


出典：メルコ・クラウンの Quarterly Report と Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 事業別売上高の推移

フィリピンにおける 2015 年の売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が高く、全体の 86.7%を占めている。

図表 2- 109 2015 年の事業別売上高(メルコ・クラウン)



出典：メルコ・クラウンの Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (4) ブルームベリー・リゾーツ

##### ① 運営事業者の概要

ブルームベリー・リゾーツ（以下「ブルームベリー」という。）は、フィリピンに本社を置くカジノ運営事業者である。2015年には、韓国においても、子会社を通じてカジノ事業を開始したが、業績が伸び悩み、売却を検討している。

現在、フィリピンにおいては、1箇所のIR・カジノ施設を運営している。

図表 2- 110 運営事業者の概要

事業者名	ブルームベリー・リゾーツ(Bloomberry Resorts Corporation)
所在地	フィリピン パラニャーケ
設立	1999年
主な事業	IR・カジノの運営、ホテル、エンターテインメント事業
ホームページ	<a href="http://bloomberry.ph/">http://bloomberry.ph/</a>

出典：ブルームベリーHPを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

##### ② 運営施設の概要

ブルームベリーがフィリピンで運営しているIR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 111 運営施設の概要(ブルームベリー)

	ソレア リゾート・カジノ
外観	 ソレア リゾート・カジノ HP より引用
地区	マニラ郊外
面積	敷地面積 83,000 m <sup>2</sup> カジノ面積 18,500 m <sup>2</sup>
開業時期	2013年
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 800 室以上)</li> <li>・カジノ(テーブル 361 台、スロットマシン 1,623 台、電子ゲーム 88 台)</li> <li>・コンベンション</li> <li>・その他(シアター、フィットネス、スパ、ショッピングモール)</li> </ul>

出典：ソレア リゾート・カジノ HP<sup>46</sup>、ブルームベリーAnnual Report2015、Casino City Press「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

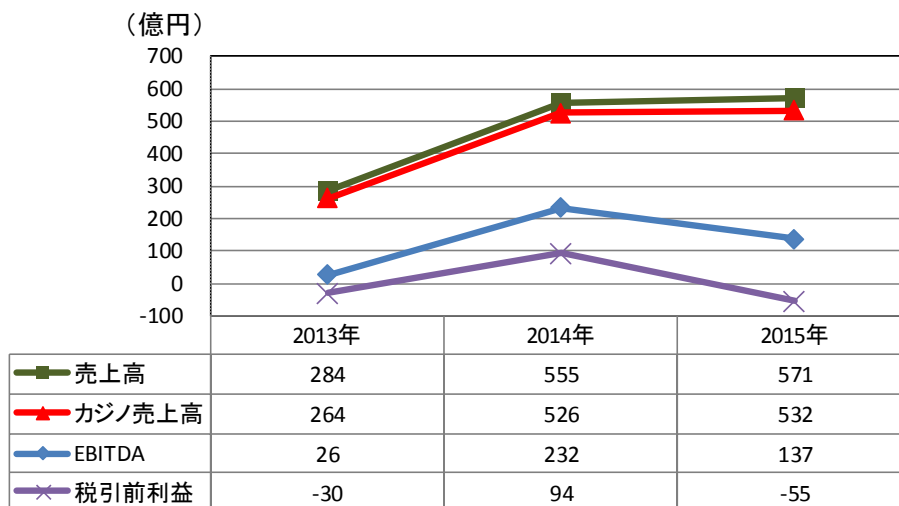
<sup>46</sup> ソレアリゾート・カジノ HP <https://www.solaireresort.com/>



### ③ 売上高等の推移

フィリピンにおけるブルームベリーの売上高等の推移をみると、2013年の開業以降、売上高、カジノ売上高のいずれも、増加傾向となっている。しかし、税引前利益をみると、黒字となっているのは2014年のみであり、2015年は赤字に転落している。

図表 2- 112 売上高等の推移(ブルームベリー)



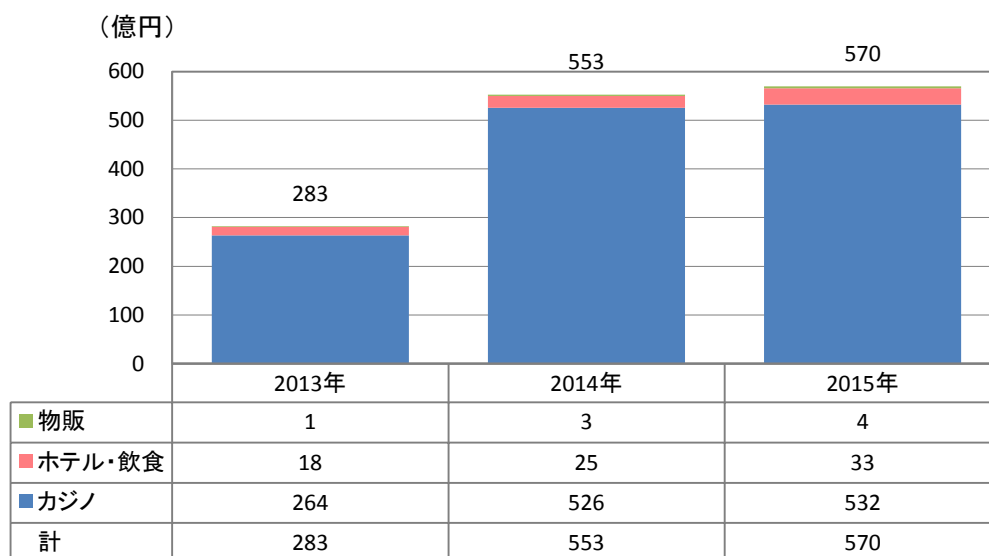
※売上高には利子収入を含む

出典：ブルームベリー・リゾートの Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### ④ 事業別売上高の推移

売上高を事業別にみると、カジノ事業の割合が高く、2015年は全体の93.3%を占めている。

図表 2- 113 事業別売上高の推移(ブルームベリー)



出典：ブルームベリー・リゾートの Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.7 ベトナム

### 2.7.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

ベトナムは、インドシナ半島東部に位置する面積約 33 万 km<sup>2</sup> の国である。南シナ海に面した国土は南北に長く、北は中国、西はラオス、カンボジアと国境を接している。首都はハノイ。人口は約 9,340 万人。2015 年の経済成長率は 6.0% であり、1990 年代以降、安定した経済成長を続けている。

図表 2-114 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約33万km <sup>2</sup>	
人口	約9,340万人	2015年
言語	ベトナム語	
宗教	仏教、カトリック、カオダイ教他	
通貨	ベトナムドン	
名目GDP	1,854億米ドル(21兆3,210億円)	2014年
1人あたり名目GDP	2,052米ドル(24万円)	2014年
実質経済成長率	6.0%	2014年

出典：JETRO HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

日本からベトナムへは、ホーチミン、ハノイへ成田、羽田、関西、名古屋、福岡から直行便が就航している。中国各都市からもホーチミン、ハノイ、ニャチャンなどに直行便が就航している。

図表 2-115 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	成田→ハノイ	6時間	
	羽田→ハノイ	5時間30分	
	大阪→ハノイ	5時間10分	
	名古屋→ハノイ	5時間30分	
	福岡→ハノイ	4時間30分	
中国から	北京→ハノイ	3時間40分	
	上海→ハノイ	3時間30分	
	香港→ハノイ	2時間	

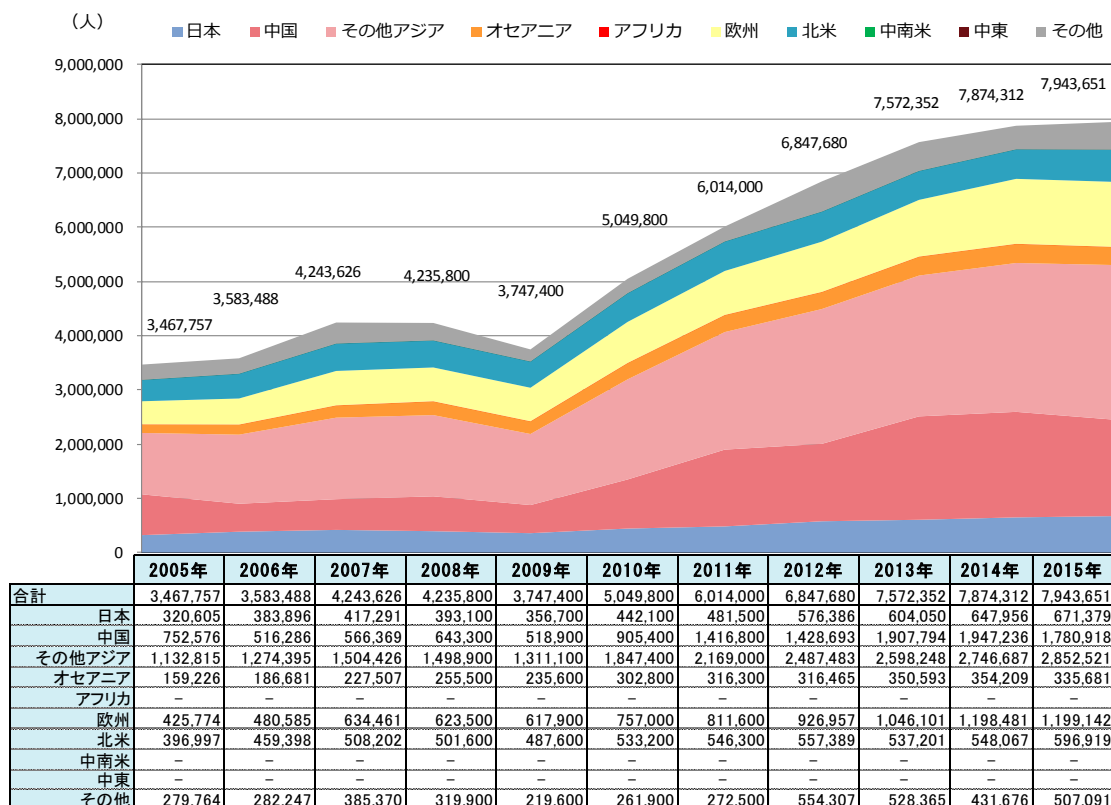
出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) 外国人旅行者の状況

ベトナムへの外国人旅行者数の推移をみると、2005年からの10年間で約2.3倍に増加し、2015年は約794万人であった。

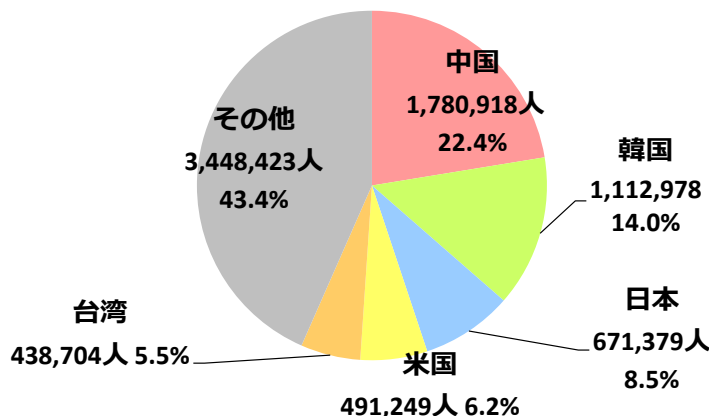
日本からの旅行者数は順調に増加しており、2015年時点で約67万人と全体の8.5%を占めている。一方、中国からの旅行者数も増加傾向にあり、2015年は約178万人と全体の22.4%を占めている。

図表 2-116 ベトナムへの外国人旅行者数(2005年～2015年の推移)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2-117 ベトナムへの外国人旅行者数(2015年の上位5箇国・地域)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.7.2 IR・カジノの開業状況

ベトナムにおいては、現在、カジノに入場できるのは外国人に限定されている。1994年に最初のカジノが開業し、現在では、7箇所のIR・カジノ施設が開業している<sup>47</sup>。

このうち、グランドホトラムは大規模な施設であることが確認できる。

図表 2- 118 ベトナムのIR・カジノ施設一覧

No.	施設名	立地
1	クラウンインターナショナルクラブ (Crowne International Club)	ダナン
2	ドソンカジノ (Do Son Casino)	ドソン
3	グランドホトラム (Grand Ho Tram)	バリア
4	クラブベガス (Club Vegas)	ホーチミン
5	ラオカイインターナショナルカジノ (Lao Gai International Casino)	ラオカイ
6	ロイヤルカジノ (Royal Casino)	ハロン
7	ハイニンロアライ (The Hai Ninh Loi Lai)	ロアライ

図表 2- 119 ベトナムにおけるIR・カジノ位置図



出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>47</sup> Casino Ctiy Press 「Casino City’ s Global Gaming Almanac 2016」

## 2.7.3 運営概要

ベトナムにおける主な IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 120 ベトナムの主な IR・カジノ施設の概要

	グランドホトラム	クラブベガス	ロイヤルカジノ
外 観	 グランドホトラム HP より引用	 カラベル・サイゴン HP より引用	 ロイヤルハロンホテル HP より引用
地 区	バリア・ブンタウ省(ホーチミン近郊)	ホーチミン	ハロン
面 積	カジノ面積 13,600 m <sup>2</sup> 敷地面積 1,620,000 m <sup>2</sup> 以上	カジノ面積 900 m <sup>2</sup>	カジノ面積 870 m <sup>2</sup>
運営企業	アジアンコーストディベロップメントリミテッド (Asian Coast Development Limited)	カラベルサイゴン (Caravelle Saigon)	ロイヤルインターナショナル (Royal International Corporation)
開業時期	2013 年	2004 年 <sup>48</sup>	2014 年 <sup>49</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 1,100 室) ・カジノ(テーブル 90 台、スロットマシン 500 台) ・その他(プール、ショッピングモール、カラオケ、スパ、フィットネス)	・ホテル(客室数 335 室) ・カジノ(テーブル 10 台) ・コンベンション ・その他(プール、スパ)	・ホテル ・カジノ(テーブル 18 台、スロットマシン 70 台) ・その他(スパ、シアター)

出典: グランドホトラム HP<sup>50</sup>、カラベル・サイゴン HP<sup>51</sup>、ロイヤルハロンホテル HP<sup>52</sup>、Vietnam Investment Review<sup>53</sup>、Casino City Press 「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」、World Casino Directory<sup>54</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.7.4 参考情報

ベトナム政府は、2017 年 3 月から試験的に、ベトナム人のカジノ入場を条件付きで許可する政令を発表した。条件は、①21 歳以上、②月収 1000 万ベトナムドン (5 万円) 以上<sup>55</sup>、③入場料を支払うこと等である。ベトナム人が国外でカジノを利用することによる資金流出を防止するとともに違法賭博を排除する等の目的がある。政府は、3 年間の試行期間の結果により、自国民のカジノ入場を継続するかどうかを決める方針である<sup>56</sup>。

<sup>48</sup> 一般社団法人日本海外ツアーオペレーター協会 海外旅行現地情報  
[http://www.otoa.com/news\\_detail.php?code=7893](http://www.otoa.com/news_detail.php?code=7893)

<sup>49</sup> ベトナムカジノクラブ HP <https://vietnamcasinoclub.wordpress.com/vietnam-casino-business/>

<sup>50</sup> グランドホトラム HP <http://www.thegrandhotram.com/>

<sup>51</sup> カラベル・サイゴン HP <http://www.caravellehotel.com/>

<sup>52</sup> ロイヤルハロンホテル HP <http://royalhalonghotel.com/>

<sup>53</sup> Vietnam Investment Review 2012 年 5 月 14 日記事 <http://www.vir.com.vn/ho-tram-ready-to-roll-dice.html>

<sup>54</sup> World Casino Directory HP <https://www.worldcasinodirectory.com>

<sup>55</sup> 2016 年のベトナム人の平均年収は約 25 万円であった。

<sup>56</sup> VN Express 2017 年 1 月 21 日記事  
<http://e.vnexpress.net/news/news/it-s-official-vietnam-oks-casino-gambling-for-locals-3531741.html>

## 2.8 マレーシア

### 2.8.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

マレーシアは、マレー半島南部とボルネオ島北部を領域とする面積約 33 万 km<sup>2</sup> の国である。タイ、インドネシア、ブルネイと国境を接し、シンガポール、フィリピンと海を隔てて近接している。首都はクアラルンプール。人口約 3,099 万人。2015 年の 1 人当たり名目 GDP は 9,560 米ドル（110 万円）と、東南アジア諸国の中でも高い水準である。

図表 2-121 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約 33 万 km <sup>2</sup>	
人口	約 3,099 万人	2015 年
言語	マレー語、英語、中国語、タミール語	
宗教	イスラム教(60%)、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教など	
通貨	マレーシアリングgit	
名目 GDP	2,970 億米ドル(34 兆 1,550 億円)	2015 年
1人あたり名目 GDP	9,560 米ドル(110 万円)	2015 年
実質経済成長率	3.5% <sup>57</sup>	2015 年

出典：JETRO HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

マレーシアへは、クアラルンプールの南約 50km にクアラルンプール国際空港が立地しており、日本や中国の主要都市からの直行便を含む国際線が数多く就航している。

図表 2-122 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	羽田→クアラルンプール	7 時間 30 分	
	成田→クアラルンプール	7 時間 10 分	
	大阪→クアラルンプール	6 時間 40 分	
	札幌→クアラルンプール	8 時間	
中国から	北京→クアラルンプール	6 時間 10 分	
	上海→クアラルンプール	5 時間 30 分	
	香港→クアラルンプール	3 時間 50 分	

出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

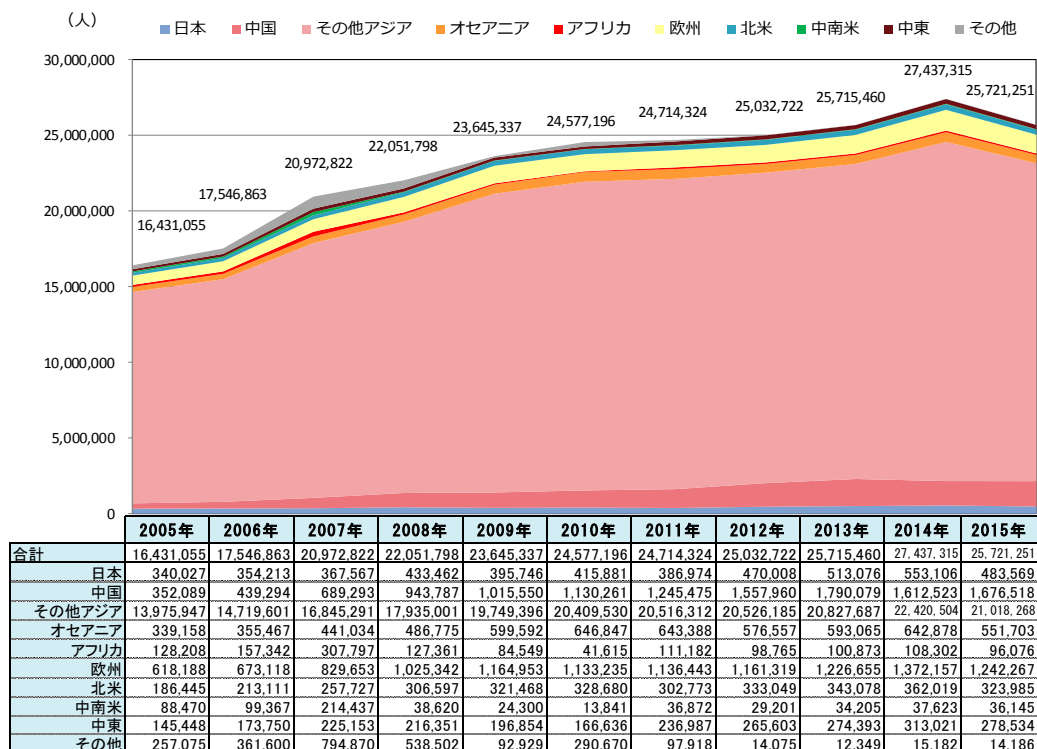
<sup>57</sup>国連統計 <http://unstats.un.org/unsd/snaama/dnlList.asp>

### (3) 外国人旅行者の状況

マレーシアの外国人旅行者数の推移をみると、政府が早くから観光政策に重点を置いて取り組んできたことから、東南アジア諸国の中でも特に旅行者数が多く、2007年には2,000万人を突破し、2015年は約2,570万人であった。旅行者の内訳としては、近隣の東南アジア諸国からの旅行者が多く、2015年に旅行者数の割合が多かったのはシンガポール、次いでインドネシアで、それぞれ全体の50.3%、10.8%である。

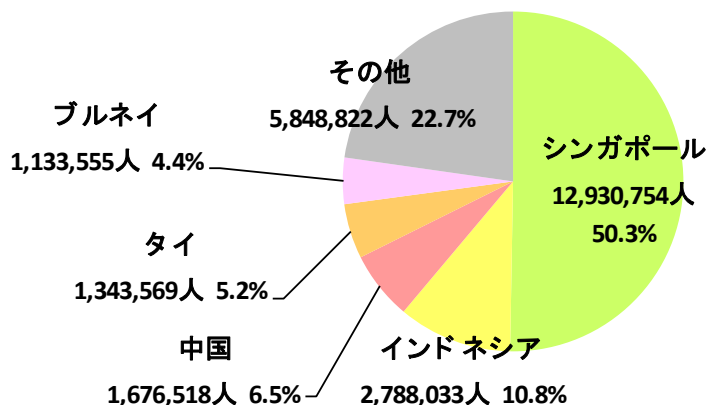
日本からの旅行者数は、2015年時点で約48万人と全体の1.9%である。一方、中国からの旅行者数は増加傾向であり、2015年は約168万人と全体の6.5%を占めている。

図表 2- 123 マレーシアへの外国人旅行者数(2005年～2015年の推移)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident tourists at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2- 124 マレーシアへの外国人旅行者数(2015年の上位5箇国・地域)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident tourists at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.8.2 IR・カジノの開業状況

マレーシアにおいてカジノが許可されているのは、1971年に開業した、クアラルンプール近郊の高原地帯ゲンティンハイランドにある複合観光施設リゾートワールドゲンティンのみである<sup>58</sup>。

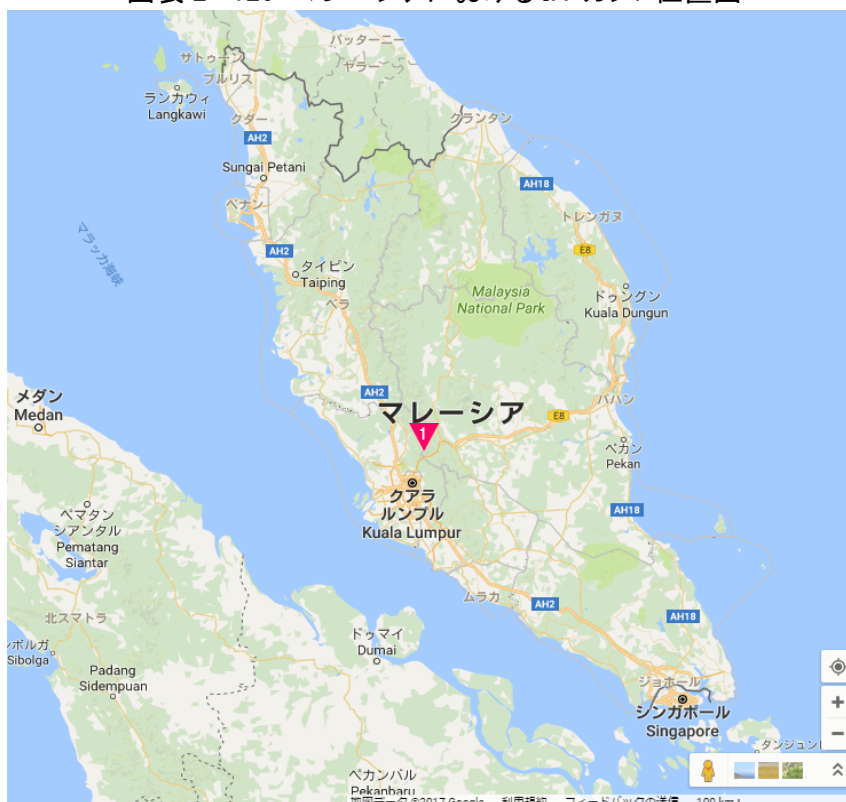
2003年、マレーシアの大手財閥ベルジャヤグループに国内2番目のカジノのライセンスが付与されたとの憶測が流れた。しかし、当時のマハティール首相はこれを否定し、これ以上カジノのライセンスを付与するつもりはないと明言した<sup>59</sup>。これ以降、現在に至るまで、ゲンティン・マレーシアによるカジノ事業の独占が続いている。

マレーシア国民の約60%はイスラム教を信仰しており、イスラム教では賭博を禁止しているため、カジノへの入場が許されるのは、中国系やインド系を中心とした非イスラム教徒や外国人に限られる。そのため、リゾートワールドゲンティンは、イスラム教徒でも楽しめるよう、テーマパークや映画館、ショッピングモールなどのカジノ以外の施設の充実を図っている。

図表 2-125 マレーシアのIR・カジノ施設一覧

No.	施設名	立地
1	リゾートワールドゲンティン (Resorts World Genting)	クアラルンプール

図表 2-126 マレーシアにおけるIR・カジノ位置図



出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>58</sup> Casino Ctiy Press 「Casino City' s Global Gaming Almanac 2016」

<sup>59</sup> The Star 2003年5月21日記事

<http://www.thestar.com.my/news/nation/2003/05/21/no-casino-at-bukit-tinggi-says-mahathir/>



## 2.8.3 運営概要

### (1) ゲンティン・マレーシア

#### ① 運営事業者の概要

ゲンティン・マレーシアは、マレーシアに本社を置くカジノ運営事業者である。1989年に親会社のゲンティン・バーハッドからカジノ事業やホテル事業等を引き継いだ。現在、マレーシアや英国、米国、バハマにおいて、IR・カジノ施設等を展開している。

マレーシアにおいては、リゾートワールドゲンティンのほか2箇所のリゾート施設を運営している。

図表 2- 127 運営事業者の概要

事業者名	ゲンティン・マレーシア (Genting Malaysia Berhad)
所在地	マレーシアクアラルンプール
設立	1980年 <sup>60</sup>
主な事業	IR・カジノの運営、ホテル運営
ホームページ	<a href="http://www.gentingmalaysia.com/">http://www.gentingmalaysia.com/</a>

出典：ゲンティン・マレーシア HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

ゲンティン・マレーシアがマレーシアにおいて運営している IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 128 運営施設の概要(ゲンティン・マレーシア)

リゾートワールドゲンティン	
外観	 <p>ゲンティン・マレーシア HP より引用</p>
地区	クアラルンプールの北東約55km
面積	敷地面積 6,000万㎡ カジノ面積 19,000㎡
開業時期	1971年

<sup>60</sup> 設立時は Resorts World Sdn Bhd。2009年より Genting Malaysia Berhad

リゾートワールドゲンティン	
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数10,000室) うち、ファースト・ワールド・ホテル(First World Hotel)の客室数は7,351室と世界最大</li> <li>・カジノ(テーブル 500台、スロット3,000台)</li> <li>・レストラン(29店舗)</li> <li>・エンターテイメント(ナイトクラブ、遊園地、映画館、ショッピングモール、ホール等8施設)</li> </ul>
備考	<p>ゲンティン・マレーシアは、2016年にリゾートワールドゲンティンに対する10年間の長期投資計画の拡大を発表し、現在、総額103.8億リンギット(2,595億円)の大規模な再開発が行われている。2017年末には、20億リンギット(500億円)を投じた20世紀FOXのテーマパークが完成予定である<sup>61</sup>。</p>

出典：ゲンティン・マレーシア HP、Casino City Press 「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

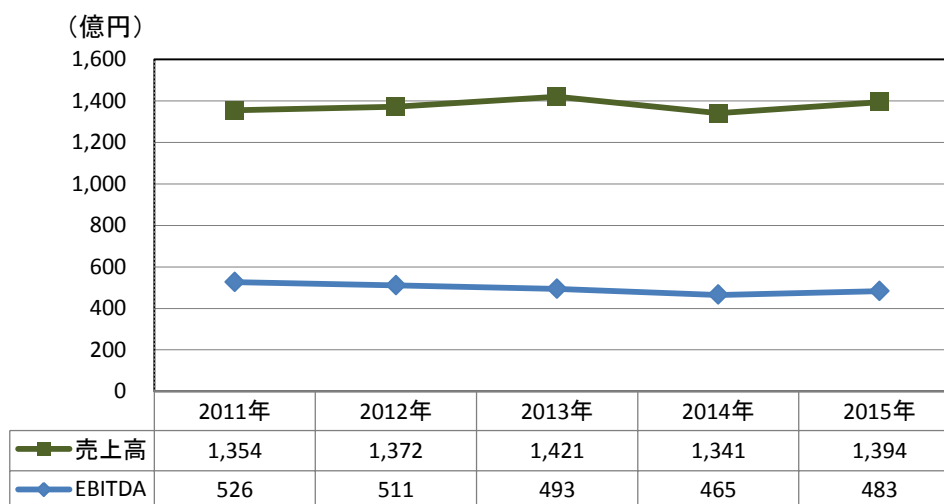
### ③ 顧客内訳

2015年の来場者は約1,940万人であり、そのうち、ホテルへの宿泊客が29%、日帰り客が71%である<sup>62</sup>。

### ④ 売上高等の推移

マレーシアにおけるゲンティン・マレーシアのレジャー・ホスピタリティ事業の売上高の推移をみると、2011年以降、ほぼ横ばいで推移している。

図表 2-129 売上高等の推移(ゲンティン・マレーシア)



※レジャー・ホスピタリティ事業のマレーシア分を計上

出典：ゲンティン・マレーシア Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>61</sup> ゲンティン・マレーシア 2016年2月23日付報道発表資料  
<http://www.bursamalaysia.com/market/listed-companies/company-announcements/5007189>

<sup>62</sup> ゲンティン・マレーシア Annual Report 2015 <http://www.gentingmalaysia.com/PDF/AR/2015.pdf>

## 2.9 ミャンマー

### 2.9.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

ミャンマーは、東南アジアのインドシナ半島西部に位置する面積約 68 万 km<sup>2</sup> の国である。国土は南北に長く、北は中国、東はラオス、タイ、西はインド、バングラディッシュと国境を接している。首都はネーピードー。人口は約 5,148 万人。1998 年まで軍事政権のもとビルマ式社会主義が敷かれ、国際経済界とはほぼ隔絶した状態にあったが、2011 年に開放路線へ転換して以来、アジア最後のフロンティアと呼ばれ、海外投資が加速している。

図表 2-130 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約 68 万 km <sup>2</sup>	
人口	約 5,148 万人	2015 年
言語	ミャンマー語、シャン語、カレン語、英語	
宗教	仏教(90%)、キリスト教、回教等	
通貨	ミャンマーチャット	
名目 GDP	670 億米ドル(7 兆 7,050 億円)	2015 年
1人あたり名目 GDP	1,292 米ドル(15 万円)	2015 年
実質経済成長率	7.0%	2015 年

出典：JETRO HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

ミャンマーの国際空港は、ヤンゴン国際空港、マンダレー国際空港、ネーピードー国際空港であるが、いずれも手狭であり、東南アジア諸国の中では比較的便数が少ない。現在、ヤンゴン国際空港への直行便は、日本は成田から、中国は北京、広州、昆明から就航している。

なお、ヤンゴンから北東約 80km に、新しくハンタワディ国際空港が建設されており、2022 年に供用を開始する予定である。

図表 2-131 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	成田→ヤンゴン	7 時間 10 分	
中国から	北京→ヤンゴン	4 時間 50 分	
	上海→ヤンゴン	直行便なし	乗継便 6 時間 40 分
	香港→ヤンゴン	3 時間 10 分	

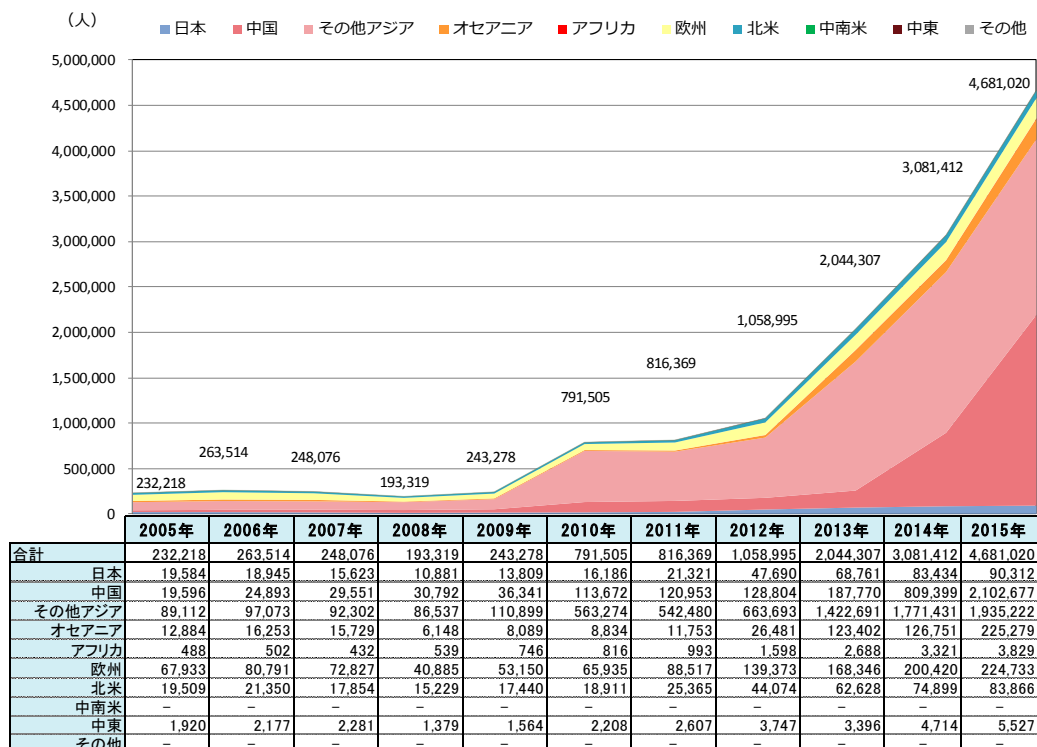
出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) 外国人旅行者の状況

ミャンマーは、軍事政権時代に多くの国からの経済制裁を受け観光業が低迷していたが、民主化の進展に伴い経済制裁が徐々に解除されたことから、外国人旅行者数は2009年からの6年間で約19.2倍に増加し、2015年は約468万人であった。

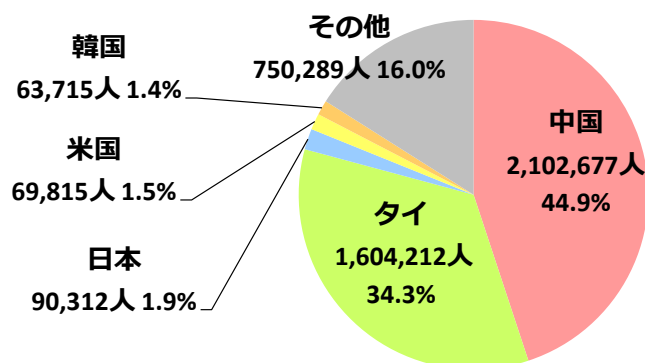
日本からの旅行者数は、2015年時点で約9万人と全体の1.9%である。一方、中国からの旅行者数は急増しており、2015年は約210万人と全体の44.9%を占めている。また、中国に次いで旅行者が多いのはタイであり、2015年は全体の34.3%を占めている。

図表 2- 132 ミャンマーへの外国人旅行者数(2005年～2015年の推移)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident tourists at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2- 133 ミャンマーへの外国人旅行者数(2015年の上位5箇国・地域)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident tourists at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.9.2 IR・カジノの開業状況

ミャンマーでは、カジノは禁止されているが、以前より許可を得ずに営業しているカジノが、中国との国境付近をはじめとする各地に多数存在している<sup>63</sup>。このような中、近年ミャンマー政府は、観光振興を目的として、カジノに関する法整備を進めている。2013年に制定された外国投資法<sup>64</sup>では、外国企業等は政府の許可を得れば、特定の地域のホテルで外国人を対象としたカジノ事業を行うことができる旨が定められた。また、2014年には国境地域の特定のホテルにカジノ開設が許可され、事業者が申請すれば正式に外国人専用カジノを運営できることとなった。

本調査において営業が確認されたミャンマーのIR・カジノは、以下の3箇所である。<sup>65</sup>

図表 2-134 IR・カジノ施設一覧

No.	施設名	立地
1	アリュールリゾート (Allure Resort)	タチレク
2	アンダマンクラブ (Andaman Club)	タタイクン島
3	レジーナエンターテイメントリゾート (Regina Entertainment Resort)	タチレク

<sup>63</sup> Myanmar Times 2015年7月31日記事  
<http://www.mmtimes.com/index.php/lifestyle/travel/15777-sin-city.html>

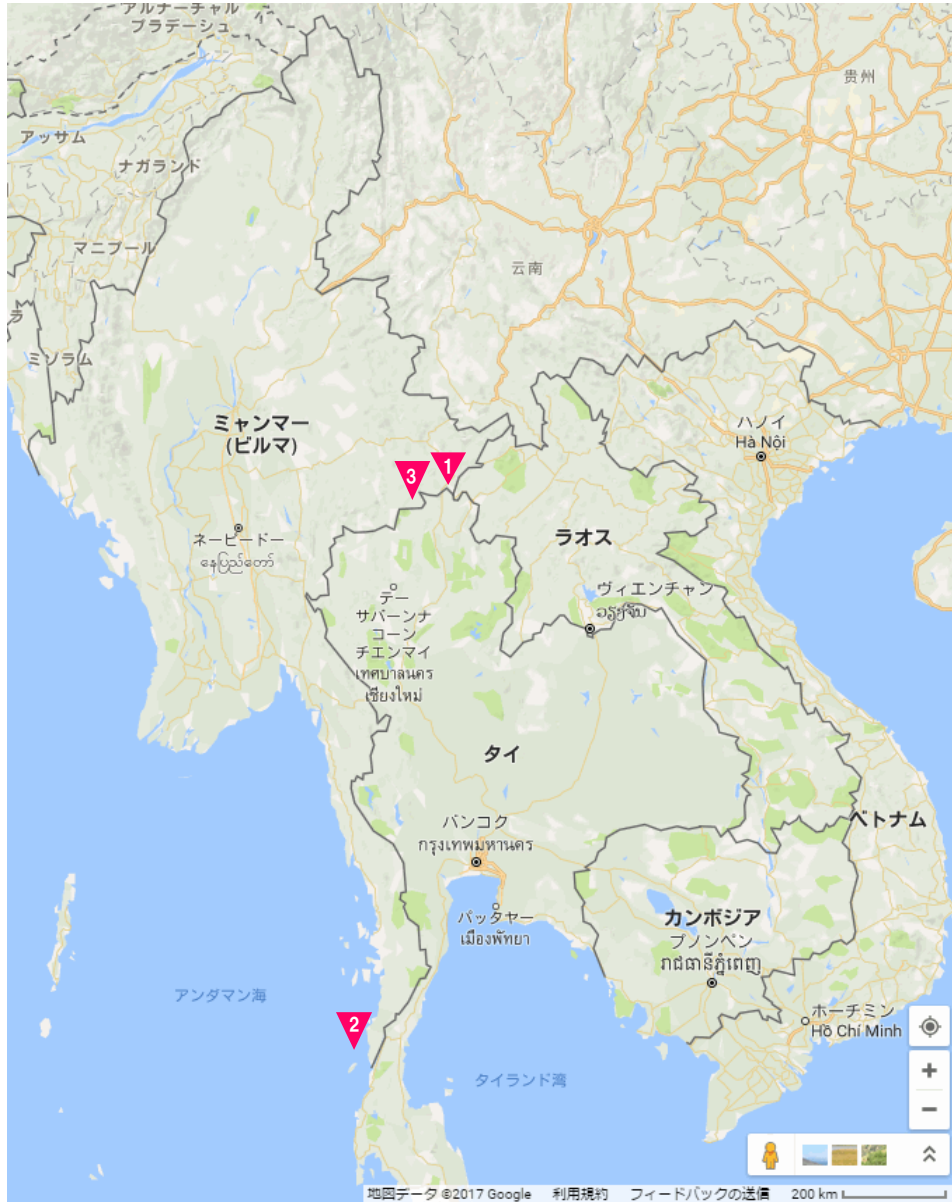
Myanmar Times 2015年11月30日記事  
<http://www.mmtimes.com/index.php/national-news/17884-laukkai-casinos-thrive-under-military.html>

Myanmar Times 2016年8月8日記事  
<http://www.mmtimes.com/index.php/business/21814-two-casinos-in-tanintharyi-under-government-scrutiny.html>

<sup>64</sup> Myanmar Foreign Investment Law

<sup>65</sup> Casino Ctiy Press 「Casino City' s Global Gaming Almanac 2016」

図表 2-135 ミャンマーにおけるIR・カジノ位置図



1	アリュールリゾート
2	アンダマンクラブ
3	レジーナエンターテイメントリゾート

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.9.3 運営概要

ミャンマーにおける主な IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 136 ミャンマーの主な IR・カジノ施設の概要

	アリュールリゾート	アンダマンクラブ
外 観	 アリュールリゾートHPより引用	 アンダマンクラブHPより引用
地 区	タチレク	タタイクン島
面 積	カジノ面積330㎡	カジノ面積650㎡ コンベンション面積1,460㎡
運営企業	ミャンマーアリュールグループ (Myanmar Allure Group Co., Ltd.)	グランドアンダマントラベル (Grand Andaman Travel)
開業時期	不明	1995年
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数90室) ・カジノ(テーブル13台、スロット120台)	・ホテル(客室数205室) ・カジノ(テーブル24台、スロット25台) ・その他(ゴルフコース、プール、フィットネス、スパ、プール)
備 考	・チェンライ国際空港(タイ)より62km ・カジノでの使用通貨はタイバーツ	・ラノーン空港(タイ)から20km

出典：アリュールリゾート HP<sup>66</sup>、アンダマンクラブ HP<sup>67</sup>、Casino Avenue、Casino City Press

World Casino Directory、「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」、Myanmar Times インタビュー記事<sup>68</sup>等を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>66</sup> アリュールリゾート HP <http://www.allureresort.com>

<sup>67</sup> アンダマンクラブ HP <http://www.andamanclub.com/>

<sup>68</sup> Myanmar Times 2016年8月8日記事  
<http://www.mmtimes.com/index.php/business/21814-two-casinos-in-tanintharyi-under-government-scrutiny.html>

## 2.10 ラオス

### 2.10.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

ラオスはインドシナ半島に位置し、北は中国、東はベトナム、南はカンボジア、タイ、西はミャンマーと国境を接する内陸国である。面積は約 24 万 km<sup>2</sup>。首都はビエンチャン。人口約 649 万人。2015 年の一人あたり名目 GDP は 1,779 米ドル（20 万円）と、東南アジアでも低い水準であるが、近年の経済成長は目覚ましく、2015 年の実質経済成長率は 7.0%と高い伸びを示している。

図表 2- 137 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約24万km <sup>2</sup>	
人口	約649万人	2015年
言語	ラオス語	
宗教	仏教	
通貨	ラオスキープ	
名目GDP	125億米ドル(1兆4,375億円)	2015年
1人あたり名目GDP	1,779米ドル(20万円)	2015年
実質経済成長率	7.0%	2015年

出典：JETRO HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

首都ビエンチャン西 8km にワットタイ国際空港が立地しているが、便数が限られており、国際線はタイ、シンガポール、ベトナム、中国、マレーシア、韓国間のみで、日本からの直行便は就航していない。中国は、主要都市からの直行便はないが、昆明から毎日直行便が出ているほか、広州、常州、南寧、長沙の 4 都市から週に数便が出ている。

図表 2- 138 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	成田→ビエンチャン	直行便なし	乗継便10時間20分～
中国から	北京→ビエンチャン	直行便なし	乗継便7時間～
	上海→ビエンチャン	直行便なし	乗継便7時間～ 常州から直行便3時間20分
	香港→ビエンチャン	直行便なし	乗継便5時間20分～ 広州から直行便2時間30分

出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

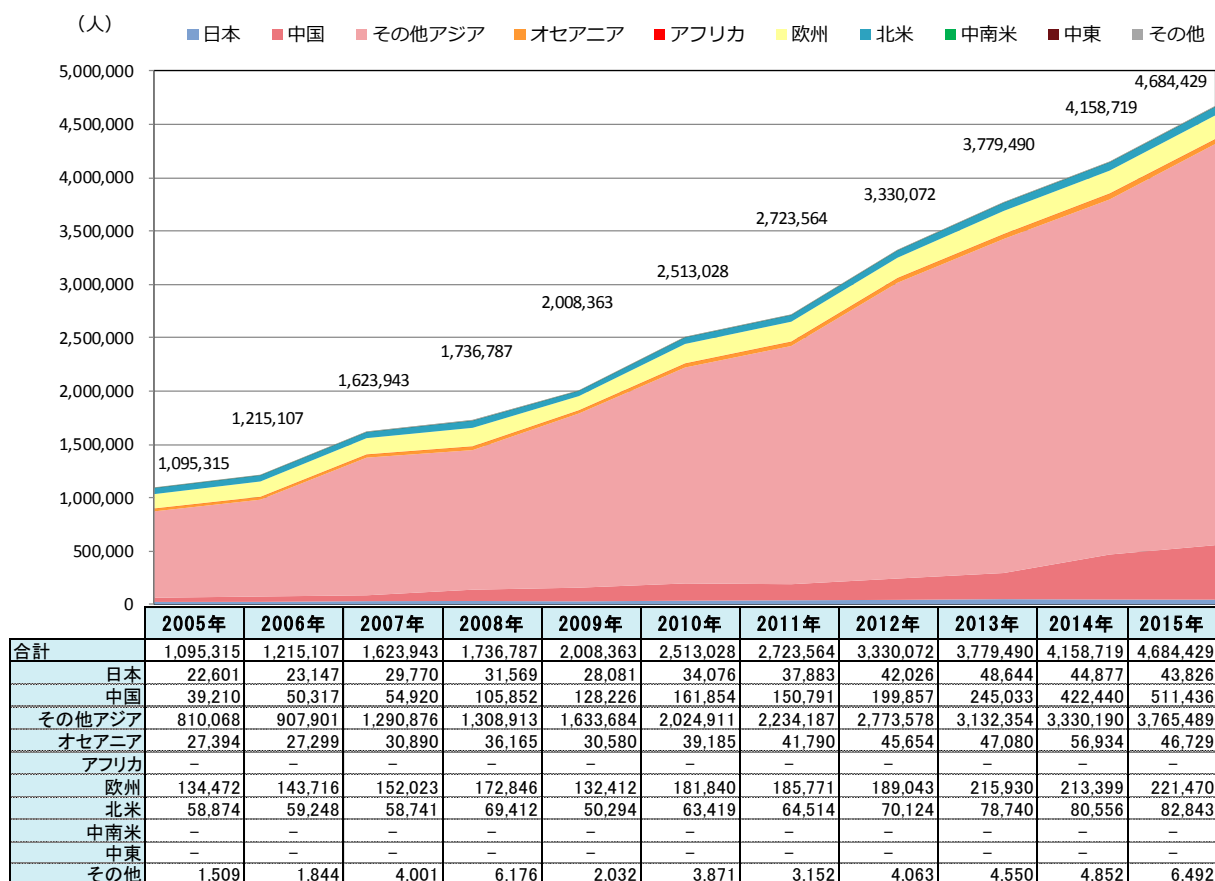


### (3) 外国人旅行者の状況

ラオスの外国人旅行者数の推移をみると、2005年からの10年間で約4.3倍に増加し、2015年は約468万人であった。2015年に旅行者数の割合が多かったのは隣国のタイとベトナムで、それぞれ全体の49.6%、25.4%である。

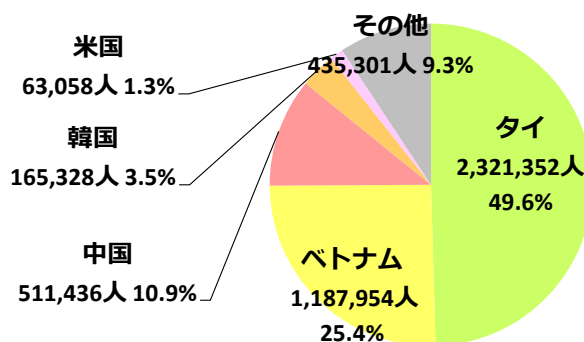
日本からの旅行者数は、2015年時点で約4万人と全体の0.9%である。一方、中国からの旅行者数は増加傾向であり、2015年は約51万人と全体の10.9%を占めている。

図表 2- 139 ラオスへの外国人旅行者数(2005年～2015年の推移)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 2- 140 ラオスへの外国人旅行者数(2015年の上位5箇国・地域)



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.10.2 IR・カジノの開業状況

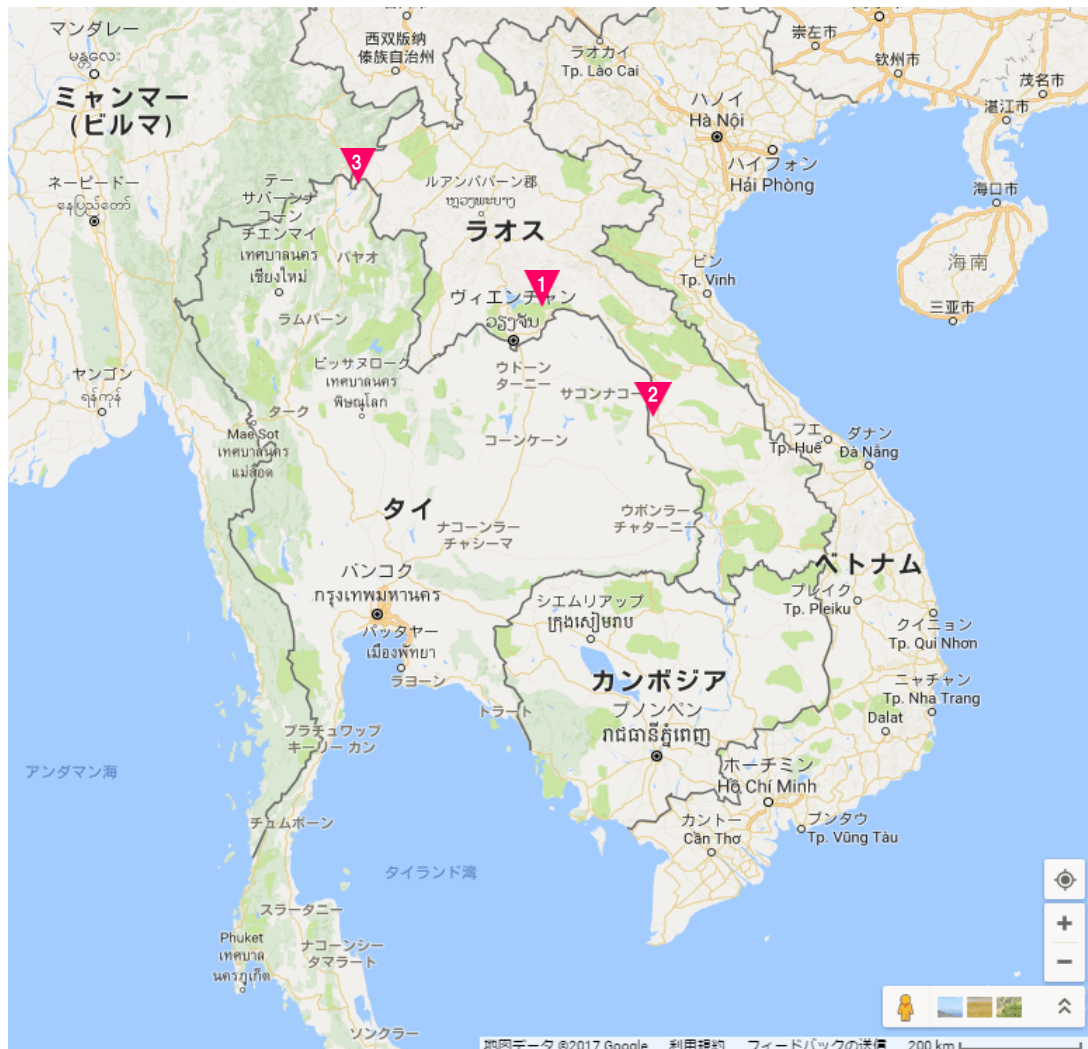
ラオスでは、原則としてカジノは非合法であるが、特別経済区に限りカジノの設置が認められている。また、カジノへの入場は外国人に限定されている。

現在、タイとの国境沿いに3箇所のIR・カジノ施設が開業している。

図表 2- 141 ラオスのIR・カジノ施設一覧

No.	施設名	立地
1	ダンサバーナムグムリゾート (Dansavanh Nam Ngum Resort)	ヴィエンチャン郊外
2	サワン・ベガスホテル・カジノ (Savan Vegas Hotel and Casino)	サワンナケート
3	キングス・ロマン・カジノ (Kings Roman Casino)	ボケオ

図表 2- 142 ラオスにおけるIR・カジノ位置図






出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### 2.10.3 運営概要

ラオスにおける IR・カジノ施設の概要は、以下のとおりである。

図表 2- 143 ラオスの IR・カジノ施設の概要

	ダンサバーンナムグム リゾート	サワン・ベガスホテル・カジノ	キングス・ロマン・カジノ
外 観	 ダンサバーンナムグムリゾ ート HP より引用	 サワン・ベガスホテル・ カジノ HP より引用	 チェンライ県(タイ)の観光 HPより引用
地 区	ヴィエンチャン	サワンナケート	ボケオ
面 積	カジノ面積600㎡	カジノ面積4,950㎡	敷地面積10,000㎡
運営企業	ラオス季節開発株式会社 <sup>69</sup> (老挝寮舜发展有限公司)	マカオレジェンド (Macau Legend Development Limited)	キングスロマングループ (Kings Romans Group)
開業時期	1996年 2014年リニューアルオープ ン	2009年 <sup>70</sup>	2007年 <sup>71</sup>
同一建物・ 敷地内にある 施設の内容	・ホテル(客室数185室) ・カジノ(テーブル60台、ス ロットマシン150台) ・その他(スパ、ゴルフ)	・ホテル(客室数482室) ・カジノ(テーブル85台、ス ロットマシン500台以上) ・レストラン(7店舗) ・その他(レジャー施設、ス パ、免税店)	・ホテル ・カジノ(テーブル30台、ス ロットマシン30台) ・その他(スパ、ゴルフ、ヨッ ト)
備 考	国定公園内の湖に面したり ゾート地区	2016年にマカオレジェンド が経営権を取得、今後拡 張工事予定 <sup>72</sup>	ゴールドトライアングル 特別経済区における観光 開発事業の一つ

出典：ダンサバーンナムグムリゾート HP<sup>73</sup>、Vansana Hotel Group HP<sup>74</sup>、サワン・ベガスホテル・カジノ HP<sup>75</sup>、  
チェンライ県観光 HP<sup>76</sup>、Casino Avenue、World Casino Directory、Los Angeles Times<sup>77</sup>、Casino City Press  
「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」等を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>69</sup> 老挝寮(ラオス)舜(季節)发展(開発)有限公司(株式会社)と直訳した。

<sup>70</sup> Poverty-Environment Initiative of Lao PDR 「Assessment of Economic, Social and Environmental Costs and Benefits of Savan Vegas Casino & Hotel: Case Study in Savannakhet Province」2011年

<sup>71</sup> Chris Lyttelton 「Intimate Economies of Development」2014年 Routledge

<sup>72</sup> マカオレジェンド 2016年8月19日付報道発表資料  
[http://www.macaulegend.com/attachment/201608191948291774823354\\_en.pdf](http://www.macaulegend.com/attachment/201608191948291774823354_en.pdf)

<sup>73</sup> ダンサバーンナムグムリゾート HP <https://www.dansavanh.net/>

<sup>74</sup> バンサナホテルグループ HP <http://www.vansanahotel-group.com/>

<sup>75</sup> サワン・ベガスホテル・カジノ HP <http://www.savanvegas.com>

<sup>76</sup> チェンライ県観光 HP <http://www.chiangraiprovince.org/chiang-rai-tourism>

<sup>77</sup> Los Angeles Times 2015年9月8日記事  
<http://www.latimes.com/world/asia/la-fg-ff-laos-golden-triangle-20150908-story.html>

## 2.11 ロシア沿海地方

### 2.11.1 国・地域の概要

#### (1) 国・地域の概要

ロシア沿海地方は、ロシア連邦を構成する連邦主体の一つで、ロシアの南東部に位置し、西は中国、南は北朝鮮と国境を接し、東及び南は日本海に面している。面積は約17万km<sup>2</sup>で、うち約70%が森林地帯である。人口は約193万人で、主要都市であるウラジオストクの人口が1/3を占める。主要産業の貿易業、商業、漁業、林業等に加え、シベリア鉄道の発着点であることや極東地域の主要港を有することから、極東地域の物流拠点としての役割を担っている<sup>78</sup>。

図表 2-144 国・地域の概要

	摘要	備考
面積	約17万km <sup>2</sup>	北海道の約2倍。ロシア全体の0.9%。
人口	約193万人	2016年。ロシア全体の1.3%。
言語	ロシア語	
宗教	ロシア正教、イスラム教、仏教、ユダヤ教等	
通貨	ロシアルーブル	
名目GDP	6,435億ルーブル(1兆1,583億円) <sup>79</sup>	2015年。ロシア全体の1.1%。
1人あたり名目GDP	333,420ルーブル(60万円) <sup>80</sup>	2015年。ロシア全体は401,943ルーブル(72万円)。
実質経済成長率	—	

出典：在ウラジオストク日本国総領事館「沿海地方経済概要」（平成28年9月）、JETRO HP、IMF World Economic Outlook Database 2016 を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (2) 日本・中国からの交通アクセス

ウラジオストクまでは、日本の成田や中国の各都市から直行便が就航している。また、2017年4月からは、大阪からの直行便も就航予定である<sup>81</sup>。

図表 2-145 日本・中国からの交通アクセス

		直行便所要時間	備考
日本から	成田→ウラジオストク	2時間40分	
中国から	北京→ウラジオストク	2時間20分	
	上海→ウラジオストク	3時間	
	香港→ウラジオストク	4時間40分	

出典：各社航空ダイヤを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>78</sup> 在ウラジオストク日本国総領事館「沿海地方概要」（平成28年9月）  
<http://www.vladivostok.ru.emb-japan.go.jp/jap/japan-info/index.html>  
 在ウラジオストク日本国総領事館「沿海地方経済概要」（平成29年3月）  
<http://www.vladivostok.ru.emb-japan.go.jp/jap/bilateral-relations/index.html>

<sup>79</sup> 沿海地方 GRP

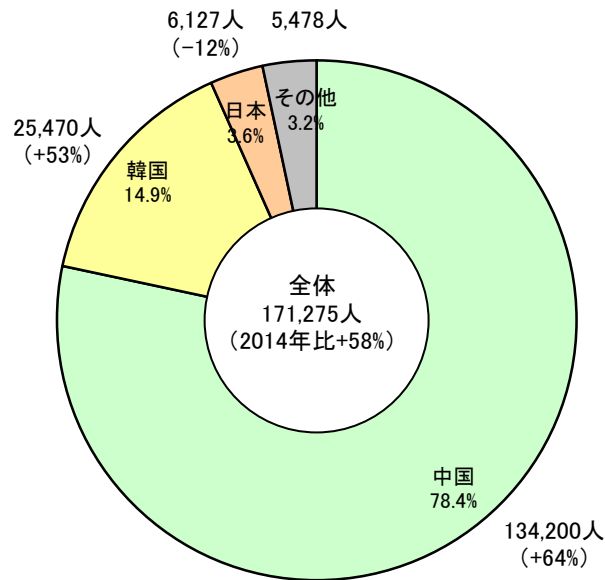
<sup>80</sup> 沿海地方 GRP

<sup>81</sup> 関西国際空港 2017年1月26日付報道発表資料  
[http://www.kansai-airports.co.jp/news/2016/2476/S7airlines\\_shinki.pdf](http://www.kansai-airports.co.jp/news/2016/2476/S7airlines_shinki.pdf)

### (3) 外国人旅行者の状況

2015年にロシア沿海地方を訪問した外国人観光客数は171,275人であり、2014年に比べて58%の増加となっている。そのうち、中国人の訪問者数は134,200人と全体の78.4%を占め、韓国人、日本人と続いている。2014年比では中国人、韓国人が増加する一方、日本人は減少している。

図表 2- 146 ロシア沿海地方を訪問した外国人観光客数(2015年)



出典：在ウラジオストク日本国総領事館「沿海地方経済概要」（平成 29 年 3 月）を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 2.11.2 IR・カジノの開業状況

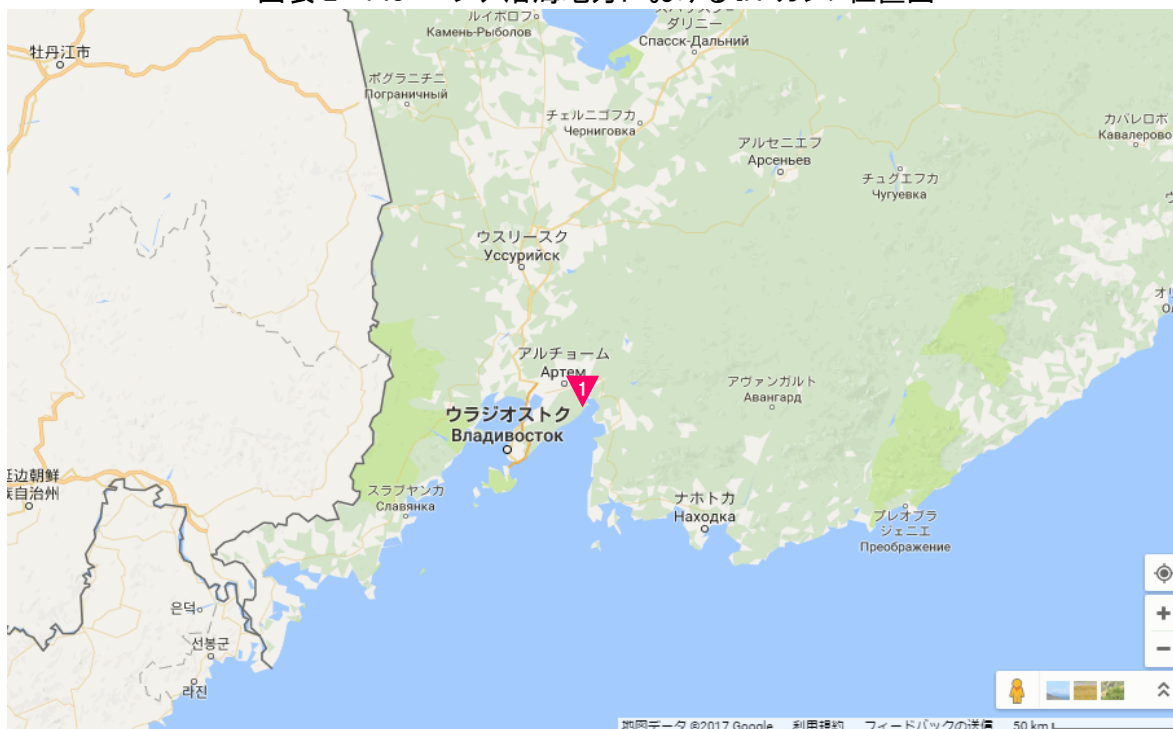
ロシア国内には、ソ連崩壊後、多数のカジノやスロットパーラーが存在したが、ロシア政府は2006年に賭博法でこれらの閉鎖を決定した<sup>82</sup>。同時に、4つの地方<sup>83</sup>に特区を設け、この特区においてのみカジノ開設を認めることとした。

そのうちの一つ、ロシア沿海地方ウラジオストク近郊のプリモリエ特区は、マカオと比較して、東京、北京、ソウルとの距離が近いという強みをもつ。4つのIR・カジノ建設が計画され、2015年10月には、第1号となるティグレデクリスタルが開業した。

図表 2- 147 ロシア沿海地方の IR・カジノ施設一覧

No.	施設名	立地
1	ティグレデクリスタル (Tigre de Cristal)	ウラジオストク近郊

図表 2- 148 ロシア沿海地方における IR・カジノ位置図



出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>82</sup> ロイター通信 2007年7月1日記事 <http://jp.reuters.com/article/idJPJAPAN-38834820090702>

<sup>83</sup> 特区の取消や追加があり、現在は5つの地方に特区の設置が認められている。

## 2.11.3 運営概要

### (1) G1 エンターテイメント

#### ① 運営事業者の概要

G1 エンターテイメントは、香港のサミットアセットホールディングス（Summit Ascent Holdings Limited）の子会社で、2010年にロシア・プリモリエ地区でのIR開発のため設立された。サミットアセットホールディングスは、メルコ・クラウンの関連会社である。

現在、ロシア沿海地方において、1箇所のIR・カジノ施設を運営している。

図表 2- 149 運営事業者の概要

事業者名	G1 エンターテイメント (G1 Entertainment Limited Liability Company)
所在地	ロシアアルチョーム
設立	2010年
主な事業	IR・カジノの運営
ホームページ	<a href="https://www.facebook.com/pg/fgce.ru/about/">https://www.facebook.com/pg/fgce.ru/about/</a> (Facebook)

出典：G1 エンターテイメント Facebook、B3 Group HP<sup>84</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### ② 運営施設の概要

G1 エンターテイメントがロシア沿海地方で運営しているIR・カジノ施設は、以下のとおりである。

図表 2- 150 運営施設の概要(G1 エンターテイメント)

ティグレデクリスタル	
外観	 <p>Russia Visa Center HP より引用</p>
地区	ウラジオストク近郊
面積	カジノ面積 3,350 m <sup>2</sup>
開業時期	2015年10月一部開業、2015年11月全面開業
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 121 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 61 台、スロットマシン 238 台)</li> <li>・その他(スパ、フィットネス)</li> </ul>

<sup>84</sup> B3 Group HP <http://www.b3groupinc.com/>

	ティグレデクリスタル
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開業以降、1年間の来場者数は約20万人。</li> <li>・投資額は約1億7,200万米ドル(198億円)(第一期)</li> <li>※最終的には約5億米ドル(575億円)を予定</li> <li>・雇用者数は1,000人以上</li> </ul>

出典: ティグレデクリスタル HP<sup>85</sup>、サミットアセットホールディングス HP<sup>86</sup>、G1 エンターテイメント Facebook、JETRO 「通商弘報」<sup>87</sup>、Russia Visa Center HP<sup>88</sup>を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### 2.11.4 参考情報

2016年8月、サミットアセットホールディングスは、韓国のカンウォンランドと戦略的協業パートナーシップに関する覚書を締結した<sup>89</sup>。内容は、ティグレ・デ・クリスタルとカンウォンランド間のマーケティングプログラムの構築や、両施設の第二期開発における協業を図ることなどである。

<sup>85</sup> ティグレデクリスタル HP <http://www.tigredecristal.com/>

<sup>86</sup> サミットアセットホールディングス HP <http://www.saholdings.com.hk/>

<sup>87</sup> JETRO 「通商弘報」 2016年12月27日記事  
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2016/12/e7cdf1b931c45ced.html>

<sup>88</sup> Russia Visa Center HP [http://visa.d2.r-cms.jp/blog\\_detail/id=102&blog\\_id=2](http://visa.d2.r-cms.jp/blog_detail/id=102&blog_id=2)

<sup>89</sup> サミットアセットホールディングス 2016年8月12日付報道発表資料  
<http://www.saholdings.com.hk/eng/ir-ann-2016.html>



## 2.12 カジノが合法化されていない国・地域

### 2.12.1 インドネシア

インドネシアでは、国民の9割近くがイスラム教徒であり、イスラム教は賭博を禁止しているため、カジノは非合法である。

過去の歴史においては、オランダ統治時代のインドネシアでは、ギャンブルが認められており、植民地支配の収入源とされていた。また、独立後は、首都ジャカルタにおいて、アリ・サディキン州知事の下、1967年から3つのカジノが合法的に営業を行っていた<sup>90</sup>が、1977年の同知事の辞任から間もなく閉鎖された。

近年では、2002年に、ジャカルタ州知事がスリブ群島におけるカジノ構想を発表した。本土において公然と営業している違法カジノを離島に誘導することなどを目的としていた<sup>91</sup>が、宗教指導者らの猛烈な反対により、計画を断念した<sup>92</sup>。

また、2007年には、ビンタン島の観光開発の一部として、カジノ構想が持ち上がったが、地元の反対により、許可されなかった<sup>93</sup>。

これ以降、カジノ合法化の具体的な動きは特に見当たらない。

### 2.12.2 タイ

タイでは、公営の宝くじと競馬を除き、法律<sup>94</sup>により賭博が禁止されており、カジノは非合法である。

ただし、周辺のラオス、ミャンマー、カンボジア、マレーシア、ベトナムなどではカジノが合法的に営業されており、タイとの国境近くには、タイ人顧客をターゲットとした施設が多く設置されている。タイでは、自国民のカジノ利用による周辺国への資金流出を懸念し、過去には国内における合法化も検討されてきた。

タクシン政権下の2005年には、プーケットにおける大規模開発事業「プーケットベイ・インターナショナル・シティ」の一環として、カジノ建設の構想が浮上した<sup>95</sup>が、実現には至らなかった。

軍主導の暫定政権下の2015年には、国家改革評議会(NRC)<sup>96</sup>の一部議員が、カジノ合法化を求める動きをみせたことで、再びカジノ合法化の機運が高まった<sup>97</sup>。リゾート地パタヤを候補地とするこの提案に対しては、国家警察長官が「合法カジノを開設しないかぎり、非合法カジノが蔓延する」として積極的に支持する考えを明らかにした<sup>98</sup>ほか、財務大臣も賛意を表したが<sup>99</sup>、プラユット首相がカジノ合法化に否定的な見解を示した

<sup>90</sup> Indonesiaexpat 2011年11月30日記事 <http://indonesiaexpat.biz/travel/history-culture/uneasy-money/>

<sup>91</sup> Liputan6.com 2002年4月15日記事  
<http://news.liputan6.com/read/32492/pulau-seribu-pulau-judi-baru>

<sup>92</sup> NNA 2002年4月24日記事 <http://www.nna.jp/articles/show/717871>

<sup>93</sup> The Star 2008年4月19日記事  
<http://www.thestar.com.my/business/business-news/2008/04/19/fresh-doubts-over-landmarks-bintan-casino/>

<sup>94</sup> Gambling Act B.E.2478 (1935)

<sup>95</sup> NNA 2005年10月21日記事 <http://www.nna.jp/articles/print/862850>

<sup>96</sup> National Reform Council

<sup>97</sup> Nation 2015年6月16日記事 <http://www.nationmultimedia.com/news/national/aec/30262402>

<sup>98</sup> Nation 2015年6月19日記事 <http://www.nationmultimedia.com/news/national/aec/30262651>

<sup>99</sup> Nation 2015年6月22日記事 <http://www.nationmultimedia.com/news/breakingnews/aec/30262828>

ことで<sup>100</sup>、議論は収束した。

これ以降、カジノ合法化の具体的な動きは特に見当たらない。

### 2.12.3 台湾

台湾では、公営の宝くじを除き、法律<sup>101</sup>で賭博が禁止されており、カジノは非合法である。

ただし、2009年に改正された離島開発法では、離島に限り、一定の条件を満たせば、カジノを含むリゾート施設を誘致することが認められている。同法においては、当該自治体の住民投票で過半数の同意を得ることを条件としている。また、同法のみでカジノが認められるわけではなく、カジノの申請手続きや設置基準等の詳細は、別途関連法を定めることとされている。

図表 2- 151 離島開発法抜粋

離島開発法第 10-2 条(離島建設条例第 10-2 條)

離島において観光用カジノが開設される前に、住民投票法に基づく地方住民投票を実施しなければならない。この住民投票の結果が、有効投票数の2分の1以上の同意を得、投票総数は県(市)の有権者数の2分の1以上の投票がなければならない。

前項における観光用カジノは国際観光地帯に設置するものとする。国際観光地帯の施設には、国際観光ホテル、観光・旅行施設、国際会議・展示施設、ショッピングモール、観光開発に関連するその他のサービス施設も含まなければならない。

国際観光地帯への投資計画の申請は、中央観光局に提出するものとする。申請スケジュール、審査および承認基準、関連手続およびその他の事項は、中央観光局により決定され、行政院の同意後に公布される。

観光カジノの申請手続き、設置基準、許可手数料、カジノ特別税及びその他監督管理に関する事項は法律により別途定める。

前項による観光カジノの経営、カジノ事業へ参加者は、刑法の賭博罪の規定の適用を受けない。

台湾の離島 6 島のうち、候補となるのは、中国に距離的に近く、中国人観光客の誘客が期待できる、馬祖、金門、澎湖の 3 島である。

このうち、澎湖島では 2009 年、2016 年に住民投票が実施されたが、いずれも賛成は過半数を得られなかった。

一方、馬祖島では 2012 年に住民投票が行われ、賛成票が過半数を占めた。これに対し、中国政府は警戒を強め、2015 年に中国政府の台湾担当者が金門島を訪問した際には、カジノ構想が実現するならば、小三通（中国福建省と台湾の金門島及び馬祖島間の郵便・交通・通商を可能とする協定）を無効とする考えを示し、強く牽制した<sup>102</sup>。

このような事情もあり、現在のところ、政府による、カジノ設置のための関連法の整備は進んでいない。

<sup>100</sup> Nation 2015 年 6 月 24 日記事 <http://www.nationmultimedia.com/news/breakingnews/aec/30263020>

<sup>101</sup> 中華民国刑法 第 266 条から第 270 条

<sup>102</sup> EJ インサイト 2015 年 5 月 26 日記事 <http://www.ejinsight.com/20150526-beijing-warns-against-casinos-taiwan-s-kinmen-island/>

図表 2- 152 台湾における IR・カジノ設置候補地位置図



出典：台湾観光局の地図を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### 2.12.4 中国

中国では、公営の宝くじを除き、法律<sup>103</sup>で賭博が禁止されており、カジノは非合法である。

2013年2月、中国南端のリゾート地、海南島にあるマングローブツリーリゾートワールド内に、当局の許可を得たとして、カジノバーが開業した<sup>104</sup>。通常のカジノと異なり、カジノで勝てば現金ではなく、ホテル代の精算やリゾート内でのショッピングモールで使用できるショッピングポイントが渡される仕組みであった。マカオを除き中国でカジノが認められるのは初めてのことであったため、報道機関が大きく報じたが、報道から2日後に当局の査察が入り、カジノバーは閉鎖された。地元当局は、本来エンターテイメントとして許可をしたが、実際はその範囲を超えていたため閉鎖したと説明しており<sup>105</sup>、同島ではカジノは認められないとの姿勢を明らかにしている<sup>106</sup>。

これ以降、カジノ合法化の具体的な動きは特に見当たらない。

#### 2.12.5 東ティモール

東ティモールでは、賭博は禁止されており、カジノは非合法である。また、現在のところ、カジノ合法化の具体的な動きは特に見当たらない。

<sup>103</sup> 中華人民共和国刑法 第 303 条、中華人民共和国治安管理処罰法 第 70 条

<sup>104</sup> ロイター通信 2013 年 2 月 17 日記事  
<http://www.reuters.com/article/us-china-sanya-casino-idUSBRE91G00Q20130217>

<sup>105</sup> ロイター通信 2013 年 2 月 19 日記事  
<http://www.reuters.com/article/uk-china-gambling-sanya-idUSLNE91I00U20130219>

<sup>106</sup> ロイター通信 2014 年 5 月 6 日記事  
<http://www.reuters.com/article/china-hainan-casino-idUSL3N0M40W120140307>

### 2.12.6 ブルネイ

ブルネイでは、国教であるイスラム教が賭博を認めていないことを背景に、あらゆる賭博が法律<sup>107</sup>により禁止されており、カジノは非合法である。また、現在のところ、カジノ合法化の具体的な動きは特に見当たらない。

### 2.12.7 香港

香港では、賭博条例<sup>108</sup>により、政府が認めた競馬やくじ等を除いて賭博は禁止されており、カジノは非合法である。また、現在のところ、カジノ合法化の具体的な動きは特に見当たらない。

ただし、船内にカジノを備えたクルーズ船が8隻営業しており<sup>109</sup>、香港政府の規制外となる公海上に出ている時間のみカジノを開いている。

### 2.12.8 モンゴル

モンゴルでは、一部のくじ等を除き、法律<sup>110</sup>により賭博は禁止されており、カジノは非合法である。

モンゴルでは、1998年にカジノの合法化法案が議会で審議されて以降、2007年、2010年、2015年と、たびたびカジノ合法化が議論されてきた。背景には、鉱業生産に依存した産業構造からの脱却を目指す狙いがあるが、汚職や社会問題への懸念から、いずれも実現しなかった。

そのような中、2017年に入り、再びカジノ合法化に向けた動きを見せている。2017年1月に、国家大会議司法常任委員会は、カジノ法案策定のワーキンググループを立ち上げることを決定した。草案によると、①21歳以上の外国人のみ入場可能、②国内では最大2箇所までの開設を認める、③350億トゥグルグ（18億円）以上のライセンス料で10年間の運営権利を得るという内容である<sup>111</sup>。

---

<sup>107</sup> Common Gaming House Act, Cap 28

<sup>108</sup> Gambling Ordinance, Cap 148

<sup>109</sup> Casino City Press 「Casino City's Global Gaming Almanac 2016」  
<http://www.globalgamingalmanac.com/facilities/asia-and-middle-east/hong-kong/>

<sup>110</sup> Criminal Code of Mongolia

<sup>111</sup> Medee.MN 2017年1月10日記事 <http://www.medee.mn/main.php?eid=87819>

### 第3章 新規 IR・カジノの開発動向

調査対象国・地域における新規 IR・カジノの開発計画の状況及びカジノ合法化の検討状況は以下のとおりである。

本章では、調査において新規開発計画が確認された韓国、マカオ、カンボジア、フィリピン、ベトナム、ロシア沿海地方を取り上げる。

図表 3-1 新規開発予定の IR・カジノ及び合法化検討状況

国・地域	新規開発計画の有無	新規開発予定の IR・カジノ/合法化検討の状況
韓国	計画あり	(1)パラダイスシティ、(2)シーザーズカジノ仁川(仮称)、(3)インスパイアインテグレートリゾート、(4)済州シンファワールド、(5)ドリームタワープロジェクト
マカオ	計画あり	(1)MGM コタイ、(2)グランドリスボアパレス、(3)ギャラクシーマカオ(第 3 期、第 4 期)
カンボジア	計画あり	(1)ナガ2
フィリピン	計画あり	(1)オカダマニラ、(2) ウェストサイドシティリゾートワールド、(3) マクタンレジャーシティ、(4) ブルームベリーリゾートツケソンシティ、(5)リゾートワールドマニラ(第 3 期)
ベトナム	計画あり	(1)ヴァンパールフーコックカジノ・リゾート、(2)ナムホイアンカジノリゾート ※2017 年 3 月より試験的に、条件付きでベトナム人のカジノ利用が認められる。
ロシア沿海地方	計画あり	(1)プリモリエエンターテイメントリゾートシティ、(2)セレナワールドリゾート・カジノ、(3)フェニックスリゾートカジノプリモリエ、(4)ティグレデクリスタル(第 2 期)
シンガポール	計画なし	カジノ管理法 <sup>112</sup> に基づくライセンス制度において、既存 2 社に 2017 年までの独占ライセンスを認めているため、新規 IR・カジノを建設する動きはみられない。また、2017 年以降も当面の間、政府が新規ライセンスを発行する可能性は低いとみられている。
北朝鮮	計画なし	新規 IR・カジノを建設する動きはみられない。
マレーシア	計画なし	既存のリゾートワールド・ゲンティンのリニューアル計画があるのみで、新規 IR・カジノを建設する動きはみられない。
ミャンマー	計画なし	新規 IR・カジノを建設する動きはみられない。
ラオス	計画なし	新規 IR・カジノを建設する動きはみられない。
インドネシア	非合法	合法化の動きはみられない。
タイ	非合法	合法化の動きはみられない。
台湾	非合法	離島に限って IR 設置を認める制度的な枠組みはあるものの、IR 実現のための関連法整備は進んでおらず、合法化の見通しは立っていない。また、2016 年に澎湖島で行われた IR 誘致についての住民投票では、反対票が過半数を占めた。
中国	非合法	合法化の動きはみられない。
東ティモール	非合法	合法化の動きはみられない。

<sup>112</sup> Casino Control Act

国・地域	新規開発計画の有無	新規開発予定の IR・カジノ/合法化検討の状況
ブルネイ	非合法	合法化の動きはみられない。
香港	非合法	合法化の動きはみられない。
モンゴル	非合法	2017 年 1 月に、国家大会議司法常任委員会が、カジノ法案策定のワーキンググループを立ち上げることを決定するなど、外国人専用カジノの合法化に向けた動きがみられる。

## 3.1 韓国

### 3.1.1 新規 IR・カジノの開発動向

近年韓国政府は、外国企業のカジノ事業参入に関する規制緩和を行うなど、外貨獲得を目的として IR 建設を推進してきた。その結果、IR 建設の動きが活発化し、現在、韓国では、外国人を対象とした 5 つの IR・カジノの建設計画が進められている。

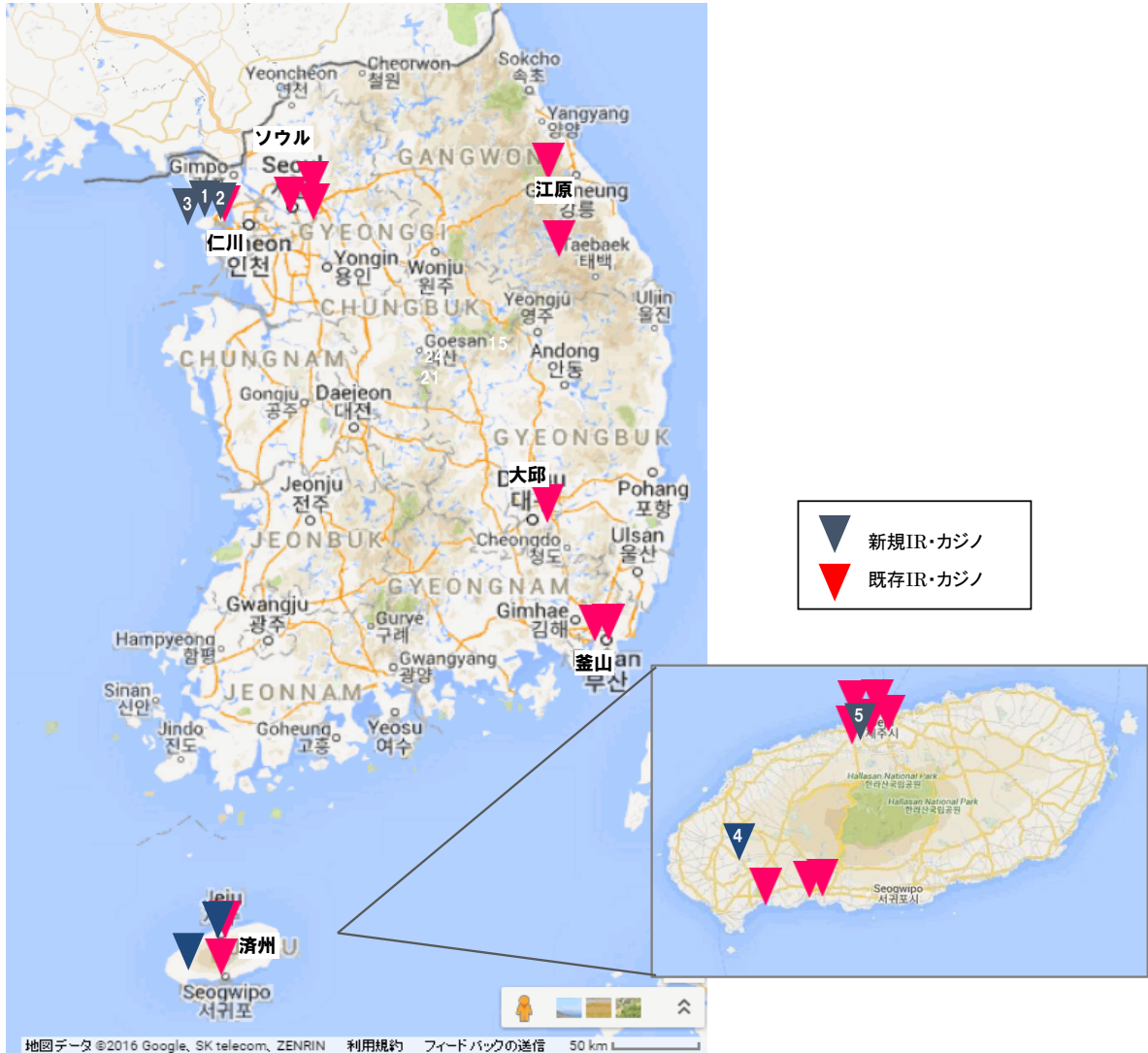
このうちの 3 つは、ソウルの西約 50km に位置する仁川・永宗島における計画である。アジアを代表するハブ空港である仁川国際空港周辺に IR を集積し、海外からの旅行者を呼び込むことを狙いとしている。

また、朝鮮半島の西南に位置する済州島においては、すでに 8 箇所の外国人専用カジノが存在するが、加えて、中国人を中心とする外国人旅行者の増加を背景に、2 つの新規 IR・カジノの建設が予定されている。なお、済州島には済州特別自治道が置かれ、韓国政府が持つカジノ許可及び指導・監督に対する権限が道知事に委譲されている。

図表 3-2 韓国において開発予定の IR・カジノ一覧

No.	施設名	立地	新規・拡張
1	パラダイスシティ(Paradise City)	仁川	新規
2	シーザーズカジノ仁川(仮称)(Caesar's Casino Incheon)	仁川	新規
3	インスパイアインテグレートッドリゾート(Inspire Integrated Resort)	仁川	新規
4	済州シンファワールド(Jeju Shinhwa World)	済州	新規
5	ドリームタワープロジェクト(Dream Tower Project)	済州	新規

図表 3-3 韓国において開発予定のIR・カジノ位置図



1	パラダイスシティ
2	シーザーズカジノ仁川(仮称)
3	インスパイアインテグレートッドリゾート
4	済州シンファワールド
5	ドリームタワープロジェクト

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成



### 3.1.2 計画概要

#### (1) パラダイスシティ

##### ① 開発事業者の概要

パラダイスシティの開発事業者は、パラダイスセガサミー（PARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.）である。同社は、韓国で外国人専用カジノを手掛けるパラダイスと、遊技機事業やゲーム事業などを手掛ける日本のセガサミーホールディングス（以下「セガサミー」という。）の合弁会社である。

##### ② 開発経緯等

2012年、パラダイスグループとセガサミーは仁川におけるIR開発のための合弁会社を設立することで合意した。この時すでに、パラダイスグループは、仁川におけるIR事業の入札に参加して優先交渉権を獲得しており、仁川国際空港公社と契約締結に向けて交渉を行っている段階であった<sup>113</sup>。一方、セガサミーは、グループの中・長期構想として「日本におけるIR事業への参入」を掲げており、カジノ施設の運営ノウハウを直接習得すること等を狙いとしていた。

2013年には、パラダイスセガサミーは、パラダイスグループが仁川国際空港隣接地で運営していたパラダイスカジノ仁川を取得した。これは、パラダイスカジノ仁川のライセンスを活用し、施設拡張という形でパラダイスシティを開発するためであった。<sup>114</sup>

同施設の建設は2014年に着工し、段階的に進められている。2017年4月には、当初の予定通り、第1段階1次開発としてホテルやカジノ等が開業する。その後、第1段階第2次開発としてショッピングモールやエンターテイメント施設等が2018年上期に開業する予定である。

---

<sup>113</sup> セガサミー 2012年5月11日付報道発表資料  
[http://www.segasammy.co.jp/japanese/pdf/release/20120511korea\\_ir\\_j\\_final.pdf](http://www.segasammy.co.jp/japanese/pdf/release/20120511korea_ir_j_final.pdf)

<sup>114</sup> セガサミー 2013年7月1日付報道発表資料  
[http://www.segasammy.co.jp/japanese/pdf/release/20130701%20press\\_release\\_\\_final\\_j.pdf](http://www.segasammy.co.jp/japanese/pdf/release/20130701%20press_release__final_j.pdf)

### ③ 計画概要

パラダイスシティの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-4 パラダイスシティの計画概要<sup>115</sup>

パラダイスシティ	
外 観	 <p>パラダイスセガサミーHP より引用</p>
立 地	仁川
開業予定時期	第1段階1次 2017年4月 第1段階2次 2018年上期
投資額	1兆3,000億韓国ウォン(1,300億円)
面 積	敷地面積 330,000㎡ カジノ面積 15,632㎡ コンベンション面積 2,935㎡
同一建物・敷地内にある施設の内容	<p>&lt;第1段階1次&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 711 室)、</li> <li>・カジノ(テーブル 154 台、スロットマシン 281 台、電子ゲーム 4 台 62 席)</li> <li>・コンベンション</li> </ul> <p>&lt;第1段階2次&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングモール、文化施設</li> <li>・スパ</li> <li>・エンターテイメント施設</li> <li>・デザイナーズホテル</li> </ul>
備 考	仁川国際空港からモノレールで5分

<sup>115</sup> セガサミー2017年3月8日付報道発表資料  
[http://www.segasammy.co.jp/japanese/pdf/release/20170308segasammy\\_release.pdf](http://www.segasammy.co.jp/japanese/pdf/release/20170308segasammy_release.pdf)

## (2) シーザーズカジノ仁川(仮称)

### ① 開発事業者の概要

シーザーズカジノ仁川(仮称)(以下「シーザーズカジノ仁川」という。)の開発は、米国を中心にカジノ事業を手掛けるシーザーズエンターテイメント(Caesars Entertainment Corporation)と、中国の不動産開発会社広州 R&F プロパティ(Guangzhou R&F Properties Co., Ltd.)との合弁事業として行われる予定である。


### ② 開発経緯等

シーザーズカジノ仁川は、仁川国際空港周辺における IR 開発計画である。当初、同計画は「LOCZ korea」の呼称で、シーザーズエンターテイメントとインドネシアの大手財閥リップー<sup>116</sup>、シンガポールの OUE インターナショナルホールディングス<sup>117</sup>との合弁事業として進められていた。2014 年には、外資系企業として初めて、韓国政府文化体育観光部から条件付きで IR 開発の許可を得たものの、2016 年にリップーが、アジアのカジノ市場の見通しと世界経済の不安定性を理由に、計画からの撤退を表明した。その後、2016 年 12 月、同計画はシーザーズエンターテイメントと広州 R&F プロパティとの合弁会社によって、引き継がれることが明らかとなった。<sup>118</sup>

### ③ 計画概要

シーザーズカジノ仁川の計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-5 シーザーズカジノ仁川の計画概要<sup>119</sup>

シーザーズカジノ仁川	
外 観	 ワールドカジノディレクトリ HP より引用
立 地	仁川
開業予定時期	2020 年
投資額 <sup>120</sup>	7 億米ドル(805 億円)
面 積	敷地面積 38,000 m <sup>2</sup> 延床面積 170,000 m <sup>2</sup> 以上
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 720 室以上) ・カジノ ・エンターテイメント施設 ・コンベンション ・ショッピングモール

<sup>116</sup> Lippo Limited

<sup>117</sup> OUE International Holdings Pte Ltd

<sup>118</sup> 広州 R&F プロパティ 2016 年 12 月 5 日付報道発表資料  
<http://www.rfchina.com/vancheerfile/files/2016/12/20161205054015010.pdf>

<sup>119</sup> 広州 R&F プロパティ 2016 年 12 月 5 日付報道発表資料  
<http://www.rfchina.com/vancheerfile/files/2016/12/20161205054015010.pdf>

<sup>120</sup> GGRAsia 2017 年 1 月 20 日記事  
<http://www.ggrasia.com/caesars-entertainment-eyes-japan-steps-up-on-korea/>

### (3) インスパイアインテグレートッドリゾート

#### ① 開発事業者の概要

インスパイアインテグレートッドリゾートの開発事業者は、米国でカジノ事業等を手掛けるモヒガンサン<sup>121</sup>と韓国の建設資材・化学製品製造メーカーである KKC<sup>122</sup>により設立されたインスパイア・インテグレートッドリゾート (Inspire Integrated Resort Co., Ltd.) である。

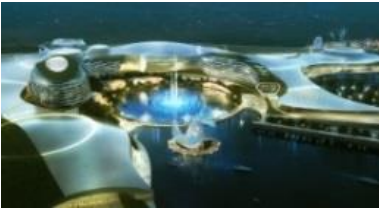
#### ② 開発経緯等

2016年2月、韓国政府文化体育観光部は、仁川空港周辺におけるIR開発の事業者として、インスパイア・インテグレートッドリゾートを選定した。同年8月には、仁川国際空港公社と土地の長期賃貸と開発の契約を行い、インスパイアは2020年完成に向けて建設を開始した。<sup>123</sup>

#### ③ 計画概要

インスパイアインテグレートッドリゾートの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-6 インスパイアインテグレートッドリゾートの計画概要<sup>124</sup>

	インスパイアインテグレートッドリゾート
外 観	 モヒガンサンインスパイア HP より引用
立 地	仁川
開業予定時期	2020年
投資額	第1期 16億米ドル(1,840億円) 総額 50億米ドル(5,750億円)
面 積	敷地面積 <sup>125</sup> 2,670,000㎡ カジノ面積 20,000㎡
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 1,350室) ・カジノ(テーブル 250台、スロットマシン 1,500台) ・ショッピングモール ・エンターテインメントアリーナ(15,000名収容) ・テーマパーク

<sup>121</sup> Mohegan Sun

<sup>122</sup> KCC Corporation

<sup>123</sup> Mohegan Tribal Gaming Authority の Annual Report2016年  
<http://newsroom.mtga.com/investor-relations/annual-report/>

<sup>124</sup> モヒガンサンインスパイア HP <http://mohegansuninspire.com/en/our-vision/index.html>

<sup>125</sup> The Korea Herald 2016年8月1日記事 <http://www.koreaherald.com/view.php?ud=20160801000647>

#### (4) 済州シンファワールド

##### ① 開発事業者の概要

済州シンファワールドの開発事業者は、中国の不動産開発会社ランディング・インターナショナル・デペロップメント（Landing International Development Limited、以下「ランディング・インターナショナル」という。）である。

##### ② 開発経緯等


同計画は、当初、ランディング・インターナショナルとゲンティン・シンガポールとの合弁事業として、「リゾートワールド済州（Resorts World Jeju）」の計画名で進められていた。しかし、2016年11月、ゲンティン・シンガポールは、日本においてIR法案が成立した場合に備え、同計画からの撤退を発表した<sup>126</sup>。これに伴い、「済州シンファワールド」として、ランディング・インターナショナルにより計画が継続されることになった<sup>127</sup>。

現在、2017年第4四半期の開業を目指して、建設が進められている。

##### ③ 計画概要

済州シンファワールドの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-7 済州シンファワールドの計画概要<sup>128</sup>

済州シンファワールド	
外 観	 ランディング・インターナショナルの HP より引用
立 地	済州
開業予定時期	2017年第4四半期 <sup>129</sup>
投資額	24億米ドル(2,760億円)
面 積	敷地面積 2,500,000 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 2,000 室以上) ・カジノ ・テーマパーク ・エンターテイメント複合施設 ・コンベンション ・ショッピングモール
備 考	全面開業時には直接雇用約 5,000 人を見込んでいる。

<sup>126</sup> ゲンティン・シンガポール 2016年11月11日付報道発表資料  
<http://www.gentingsingapore.com/#!/en/media>

<sup>127</sup> ランディング・インターナショナル 2017年1月3日付報道発表資料

<sup>128</sup> ランディング・インターナショナル HP [http://www.582.com.hk/html/pro\\_1.php](http://www.582.com.hk/html/pro_1.php)

<sup>129</sup> ランディング・インターナショナル 2017年1月3日付報道発表資料

## (5) ドリームタワープロジェクト

### ① 開発事業者の概要

ドリームタワープロジェクトの開発事業者は、韓国の総合旅行会社であるロッテ観光開発（Lotte Tour Development Co., Ltd.）と中国最大の不動産開発会社である緑地グループ（Greenland Group）のコンソーシアムである。

### ② 開発経緯等

2016年4月、ロッテ観光開発と緑地グループは、同プロジェクトの施工業者として、中国の大手建設会社である中国建築工程総公司を選定した。現在、2019年の開業を目指して建設中である。

なお、開発後は、ロッテ観光開発は、ホテル、外国人専用カジノ、複合ショッピングモールなどを所有及び運営し、一方の中国緑地グループは、ホテルレジデンスを韓国及び中国において分譲する計画である。<sup>130</sup>

### ③ 計画概要

ドリームタワープロジェクトの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-8 ドリームタワープロジェクトの計画概要<sup>131</sup>

ドリームタワープロジェクト	
外 観	 ニューデイリー経済より引用 <sup>132</sup>
立 地	済州
開業予定時期	2019年
投資額	7,000億韓国ウォン(700億円)
面 積	延床面積 302,777 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 776 室)、ホテルレジデンス(客室数 850 室) ・外国人専用カジノ ・複合ショッピングモール
備 考	済州道で最も高い地上 38 階建てのツインビルとなる計画である。

<sup>130</sup> 中央日報 2016年4月6日記事 [http://japanese.joins.com/article/150/214150.html?servcode=300&sectcode=300&cloc=jp|main|top\\_news](http://japanese.joins.com/article/150/214150.html?servcode=300&sectcode=300&cloc=jp|main|top_news)

<sup>131</sup> 中央日報 2016年4月6日記事 [http://japanese.joins.com/article/150/214150.html?servcode=300&sectcode=300&cloc=jp|main|top\\_news](http://japanese.joins.com/article/150/214150.html?servcode=300&sectcode=300&cloc=jp|main|top_news)

<sup>132</sup> ニューデイリー経済 2015年10月5日記事 <http://biz.newdaily.co.kr/news/article.html?no=10087505>

## 3.2 マカオ

### 3.2.1 新規 IR・カジノの開発動向

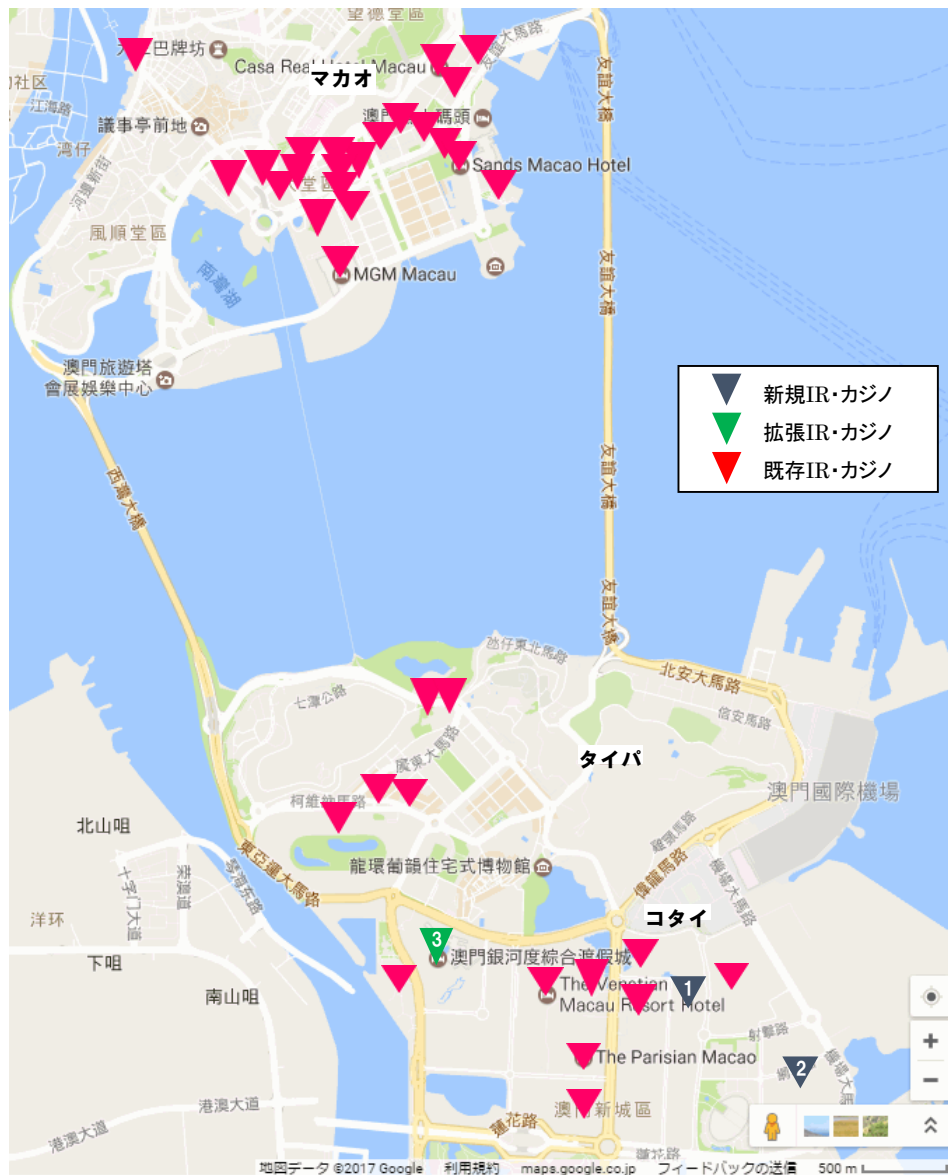
マカオでは、2002年のカジノ市場の自由化以降、ライセンスをもつ6つのカジノ運営事業者によるIR・カジノ施設の建設が続いている。近年、開発の中心となっているのは、タイパ島とコロアネ島の間を埋め立てて造成されたコタイ地区である。コタイ地区においては、カジノリゾートから国際観光都市への転換を掲げるマカオ政府の方針の下、すでに4社が、ホテルやMICE施設、エンターテインメント施設、ショッピングモールなど、カジノ以外の要素にも力を入れた大型IRを開業している。

現在、残る2社による2箇所のIRの新規建設と既存施設1箇所の拡張が計画されている。

図表 3-9 マカオにおいて開発予定のIR・カジノ一覧

No.	施設名	立地	新規・拡張
1	MGM コタイ(MGM Cotai)	コタイ地区	新規
2	グランドリスボアパレス (Grand Lisboa Place)	コタイ地区	新規
3	ギャラクシーマカオ(第3期、第4期)(Galaxy Macau)	コタイ地区	拡張

図表 3-10 マカオにおいて開発予定のIR・カジノ位置図



1	MGM コタイ
2	グランドリスボアパレス
3	ギャラクシーマカオ(第3期、第4期)

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成



## 3.2.2 計画概要

### (1) MGM コタイ

#### ① 開発事業者の概要

MGM コタイの開発事業者は、MGM である。現在、マカオにおいては、子会社の MGM チャイナ・ホールディングス（以下「MGM チャイナ」という。）を通じて、MGM マカオを運営している。

#### ② 開発経緯等

MGM コタイはコタイの宝石箱としてデザインされ、2013 年に起工した<sup>133</sup>。当初は 2016 年の開業を予定していたが、2014 年から 2015 年にかけてのカジノ市場の低迷や競合施設の開業時期を考慮し、2017 年へ開業時期を延期した<sup>134</sup>。

#### ③ 計画概要

MGM コタイの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-11 MGM コタイの計画概要<sup>135</sup>

	MGM コタイ
外 観	 MGM チャイナ 2013 年 2 月 27 日付報道発表資料より引用
立 地	コタイ地区
開業予定時期	2017 年下期
投資額	240 億香港ドル(3,600 億円)
面 積 <sup>136</sup>	カジノ面積 46,500 m <sup>2</sup> コンベンション面積 27,900 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある	・ホテル(客室数約 1,500 室) ・カジノ(テーブル 500 台、スロットマシン 2,500 台)

<sup>133</sup> MGM チャイナ 2013 年 2 月 27 日付報道発表資料  
<http://en.mgmchinaholdings.com/image/EN-Press-20130227.pdf>

MGM チャイナ 2016 年 12 月 15 日付報道発表資料  
<http://en.mgmchinaholdings.com/media-releases?item=126>

<sup>134</sup> Las Vegas Review-Journal 2016 年 7 月 17 日記事  
<http://www.reviewjournal.com/business/casinos-gaming/mgm-cotai-opening-pushed-back-second-half-17>

<sup>135</sup> MGM チャイナ 2013 年 2 月 27 日付報道発表資料  
<http://en.mgmchinaholdings.com/image/EN-Press-20130227.pdf>  
MGM チャイナ HP <http://en.mgmchinaholdings.com/MGM-COTAI>

<sup>136</sup> Las Vegas Review-Journal 2016 年 7 月 17 日記事  
<http://www.reviewjournal.com/business/casinos-gaming/mgm-cotai-opening-pushed-back-second-half-17>

	MGM コタイ
施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンベンション</li> <li>・スパ</li> <li>・ショッピングモール</li> <li>・シアター</li> </ul>
備考	総面積の 85%以上をカジノ以外の施設が占める。

## (2) グランドリスボアパレス

### ① 開発事業者の概要

グランドリスボアパレスの開発事業者は、香港に本社を置く SJM である。同社は、現在マカオにおいて、18 箇所の IR・カジノ施設を運営している。

### ② 開発経緯等

SJM は 2014 年にグランドリスボアパレス（当初計画名リスボアパレス）の建設計画を発表した<sup>137</sup>。当初は総面積の 90%以上をカジノ以外の施設とする計画であったが、非カジノ比率の向上を目指すマカオ政府の方針を受け、総面積の 95%以上に引き上げた。

現在、2018 年上期の開業を目指して計画を進めている<sup>138</sup>。

### ③ 計画概要

グランドリスボアパレスの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-12 グランドリスボアパレスの計画概要

グランドリスボアパレス	
外 観	 SJM の HP より引用 <sup>139</sup>
立 地	コタイ地区
開業予定時期	2018 年上期
投資額	300 億香港ドル(4,500 億円)
面 積	延床面積 521,435 m <sup>2</sup> カジノ面積 27,000 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数約 2,000 室) ・カジノ(テーブル 最大 700 台、スロットマシン 1,200 台) ・ショッピングモール ・多目的シアター
備 考	総面積の 95%以上をカジノ以外の施設が占める。

<sup>137</sup> SJM 2014 年 2 月 13 日付報道発表資料

<http://www.sjmholdings.com/resources/images/uploads/sjm-lisboa-palace-set-to-open-during-201722-04-2014.pdf>

<sup>138</sup> NNA ASIA 2017 年 3 月 2 日記事 <http://www.nna.jp/news/print/1578068>

<sup>139</sup> SJM HP <http://www.sjmholdings.com/>

### (3) ギャラクシーマカオ(第3期、第4期)

#### ① 開発事業者の概要

ギャラクシーマカオ(第3期、第4期)の開発事業者は、香港に本社を置くギャラクシーである。

現在、マカオにおいては、6箇所のIR・カジノ施設を運営している。

#### ② 開発経緯等

ギャラクシーマカオは、2011年にコタイ地区3番目のIRとして開業した。2015年には、第2期拡張工事を終え、同施設の隣接地にあったホテルを買収、改修したブロードウェイマカオと同時に営業を開始した。これにより、施設の総面積は従来のおよそ2倍にあたる110万㎡となった<sup>140</sup>。

2013年に発表された第3期、第4期計画は、MICEやエンターテイメント、ファミリー向けの施設に重点を置いたリゾート施設で、カジノ以外の施設面積が全体の95%以上を占める<sup>141</sup>。当初は、2013年末から2014年初めに着工する予定であったが、計画は見直され、同社の最新の発表では、2017年上期に着工する可能性があるとしている<sup>142</sup>。

#### ③ 計画概要

ギャラクシーマカオ(第3期、第4期)の計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-13 ギャラクシーマカオ(第3期、第4期)の計画概要<sup>143</sup>

	ギャラクシーマカオ(第3期、第4期)
外 観	—
立 地	コタイ地区
開業予定時期	第3期:2018年12月 第4期:2020年10月 <sup>144</sup>
投資額	500~600億香港ドル(7,500~9,000億円)(第3期、第4期計)
面 積	敷地面積100万㎡以上 <sup>145</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数5,500室) ・カジノ(テーブル最大1,000台、スロットマシン3,000台) ・多目的アリーナ(10,000席) ・コンベンション(50,000㎡)
備 考	総面積の95%以上をカジノ以外の施設が占める。

<sup>140</sup> ギャラクシーInterim Report2016

<sup>141</sup> Annual Report 2012, p.3, Galaxy Entertainment Group Ltd.

<sup>142</sup> ギャラクシー2017年2月28日付報道発表資料  
<http://www.galaxyentertainment.com/uploads/investor/610cb8ea4a2a660f45dd69427bbc5a623f8f537c.pdf>

<sup>143</sup> ギャラクシーAnnual Report 2012

<sup>144</sup> マカオ政府によって完成開業を求められている期日。ギャラクシーAnnual Report2016によると、ギャラクシーは、ギャラクシーマカオの土地利用権に基づいて、第3期、第4期の開業をそれぞれの期日までに完成させることを、マカオ政府から要求されている。

<sup>145</sup> ギャラクシー2017年2月28日付報道発表資料  
<http://www.galaxyentertainment.com/uploads/investor/610cb8ea4a2a660f45dd69427bbc5a623f8f537c.pdf>

### 3.3 カンボジア

#### 3.3.1 新規 IR・カジノの開発動向

カンボジアでは、1箇所の IR・カジノの拡張が計画されている。

図表 3-14 カンボジアにおいて開発予定の IR・カジノ一覧

No.	施設名	立地	新規・拡張
1	ナガ2(Naga2)	プノンペン	拡張

図表 3-15 カンボジアにおいて開発予定の IR・カジノ位置図



出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### 3.3.2 計画概要

#### (1) ナガ2

##### ① 開発事業者の概要

ナガ2の開発事業者は、ナガコープである。ナガコープは、首都プノンペンで、国内最大のIR施設ナガワールドを運営している。

なお、ナガワールドについては、「2.4.3 運営概要(1)ナガコープ」を参照すること。

##### ② 開発経緯等

既存のナガワールドは、客室稼働率は通常でも80～90%であり、施設能力の限界に達しつつある。そのため、ナガコープは、ナガワールドを拡張し、ナガ2を建設することを決定した。

##### ③ 計画概要

ナガ2の計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-16 ナガ2の計画概要<sup>146</sup>

ナガ2	
外 観	 <p>ナガコープのHPより引用</p>
立 地	プノンペン
開業予定時期	2017年
投資額	3億6,900万米ドル(424億円)
面 積	延床面積 110,105 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 1,033 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 200～300 台、スロットマシン 500 台)</li> <li>・ショッピング施設</li> <li>・多目的シアター(2,100 席)</li> </ul>

<sup>146</sup> ナガコープ HP <http://www.nagacorp.com/eng/business/property.php#Naga2>

ナガ2の延床面積は 110,105 m<sup>2</sup>であり（うち 13,248 m<sup>2</sup>はナガシティウォーク）、延床面積 113,307 m<sup>2</sup>のナガワールドとほぼ同じ規模である。

ナガ2は、TSCLK コンプレックスとナガシティウォークから構成される。TSCLK コンプレックスはホテルや、カジノ、多目的シアター等を備えた複合施設である。ショッピング施設や公共スペースを備えるナガシティウォークにより、既存施設のナガワールドと結ばれる計画になっている。<sup>147</sup>

図表 3-17 ナガ2の建設予定地



出典：NagaCorp Ltd の HP より引用

<sup>147</sup> ナガコープ HP <http://www.nagacorp.com/eng/business/property.php#Naga2>

## 3.4 フィリピン

### 3.4.1 新規 IR・カジノの開発動向

フィリピンにおいては、2009年にニノイ・アキノ国際空港の隣に国内初の大型 IR リゾートワールドマニラが開業したのを皮切りに、マニラ首都圏に大型 IR の開業が相次いでいる。政府が国を挙げて進めるエンターテイメントシティ・マニラ・プロジェクトは、マニラ湾の埋立地に4つの IR を集積させる計画で、同プロジェクト3番目となるオカダマニラが、2017年3月に全面開業を予定している。また、残る1箇所のウェストサイドシティリゾートワールドの開発計画も進行中である。

このほか、マニラ以外の地域においても IR・カジノの新規建設の計画があり、現在、合計で4箇所の IR・カジノの新規建設と、既存施設1箇所の拡張が計画されている。

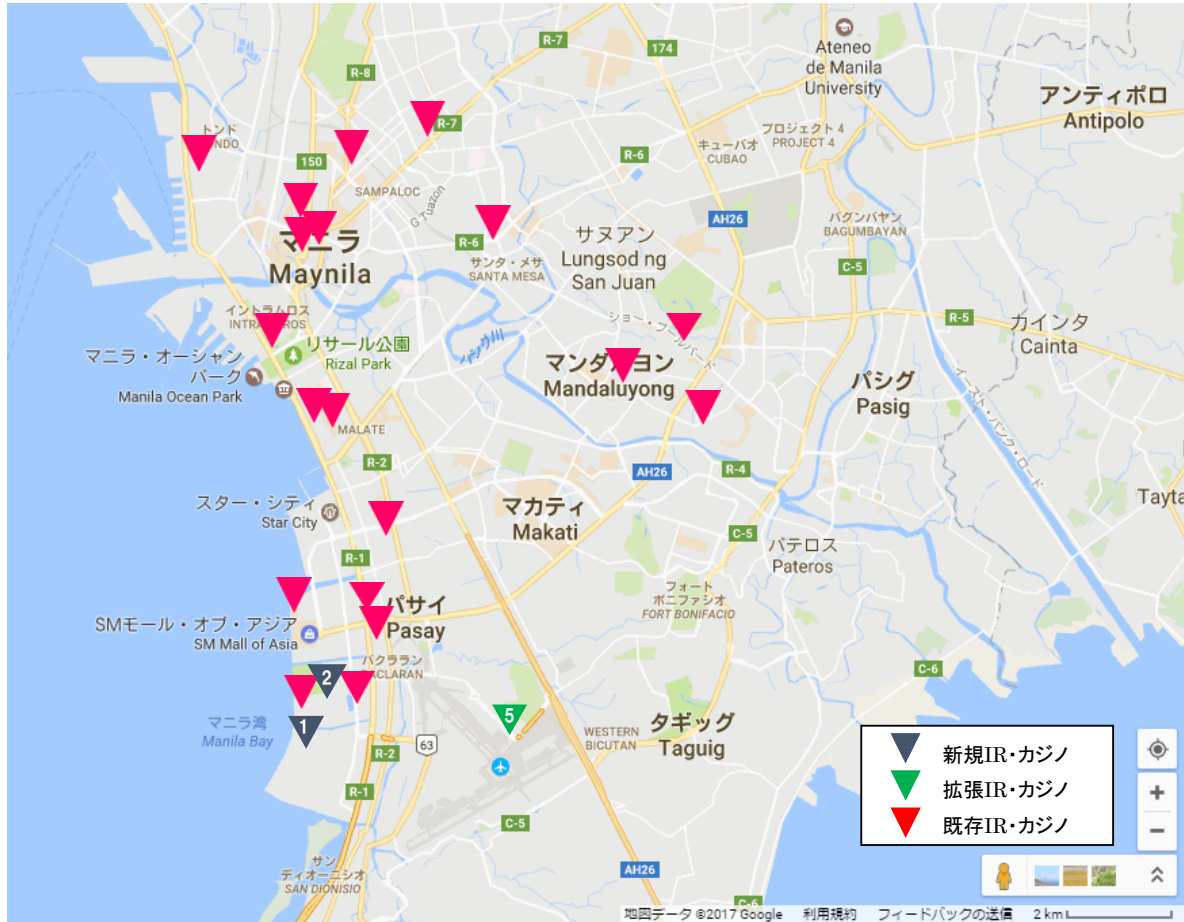
なお、オカダマニラについては、2016年12月に一部開業しているが、新規施設として本章で取り上げる。

図表 3-18 フィリピンにおいて開発予定の IR・カジノ一覧

No.	施設名	立地	新規・拡張
1	オカダマニラ (Okada Manila)	マニラ	新規
2	ウェストサイドシティリゾートワールド (Westside City Resorts World)	マニラ	新規
3	マクタンレジャーシティ (Mactan Leisure City)	マクタン島	新規
4	ブルームベリーリゾートツケソンシティ (Bloomberry Resorts Quezon City)	ケソン	新規
5	リゾートワールドマニラ (第3期) (Resorts World Manila)	マニラ	拡張



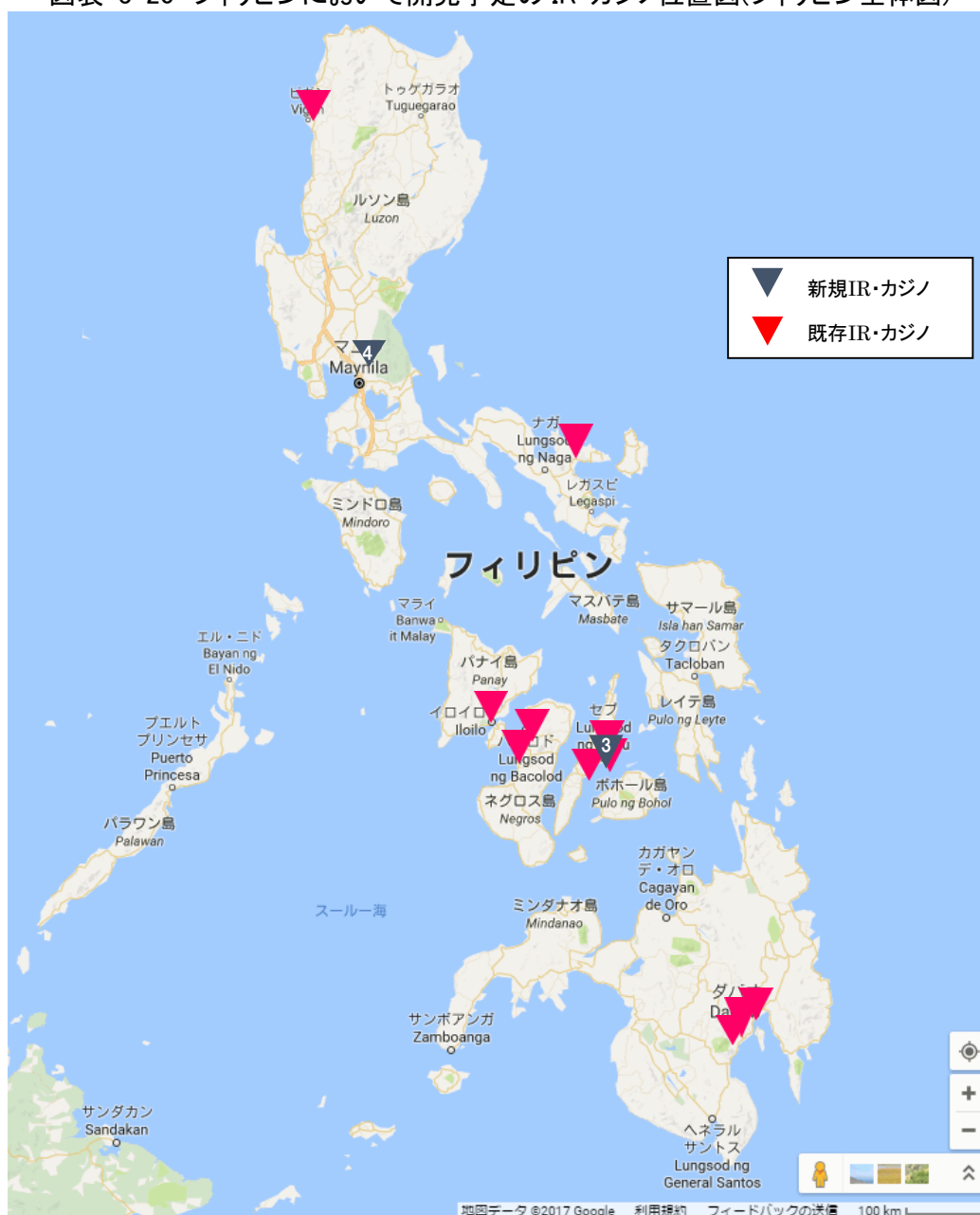
図表 3-19 フィリピンにおいて開発予定のIR・カジノ位置図(マニラ近郊)



1	オカダマニラ
2	ウェストサイドシティリゾートワールド
5	リゾートワールドマニラ(第3期)

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 3-20 フィリピンにおいて開発予定のIR・カジノ位置図(フィリピン全体図)



3	マクタンレジャーシティー
4	ブルームベリーリゾートケソンシティ

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 3.4.2 計画概要

### (1) オカダマニラ

#### ① 開発業者の概要

オカダマニラの開発事業者は、パチスロ機・パチンコ機・周辺機器の開発・製造・販売を行う日本企業、(株)ユニバーサルエンターテイメント(以下「ユニバーサル」という。)である。フィリピンにおけるIR開発は、同社は、現地子会社のタイガー・リゾート・レジャー・アンド・エンターテインメント(Tiger Resort Leisure and Entertainment)を通じ、単独で開発を進めている。

なお、ユニバーサルにとって、自らが主体となるIR開発は初めてである。

#### ② 開発経緯等

ユニバーサルは、2008年にプロジェクト用地を取得し、2010年に外資100%企業としてカジノ事業の運営を許可された。従来であれば、フィリピン国内でカジノ事業を行うためには地元フィリピンのパートナーとの合弁事業とすることが必要であったが、これにより単独で事業を行うことが可能となった<sup>148</sup>。

しかし、当初は2014年の上半期の開業を予定していたものの<sup>149</sup>、現地パートナー企業との提携解消や資金面の問題で計画は遅延し、当局にプロジェクト保証金を没収される事態となった<sup>150</sup>。これに対し、ユニバーサルは、新しい現地パートナー企業との提携や、海外私募債の発行等によって事態を乗り切り、2016年12月にオカダマニラを一部開業した。引き続き、ホテルや噴水施設等の建設を進め、2017年3月に第1期の全面開業を予定している<sup>151</sup>。また、第1期開業後も、段階的に拡張を進める計画である。

---

<sup>148</sup> ユニバーサル 2010年4月19日付報道発表資料  
[http://www.universal-777.com/corporate/news/pdf/2010/20100419\\_2.pdf](http://www.universal-777.com/corporate/news/pdf/2010/20100419_2.pdf)

<sup>149</sup> ユニバーサル 2012年1月31日付報道発表資料  
<http://www.universal-777.com/corporate/news/pdf/2012/20120131.pdf>

<sup>150</sup> ロイター通信 2015年5月20日記事  
<http://www.reuters.com/article/philippines-gambling-universal-ent-idUSL3N0YB1E520150520>

<sup>151</sup> ユニバーサル 2017年2月10日付報道発表資料  
[http://www.universal-777.com/corporate/news/pdf/2017/IR\\_20170210.pdf](http://www.universal-777.com/corporate/news/pdf/2017/IR_20170210.pdf)

### ③ 計画概要

オカダマニラの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-21 オカダマニラの計画概要<sup>152</sup>

オカダマニラ	
外 観	 <p>ユニバーサルの報道発表資料より引用<sup>153</sup></p>
立 地	マニラ
開業予定時期	2016年12月一部開業、2017年3月全面開業
投資額 <sup>154</sup>	第1期 24億米ドル(2,760億円)以上 総額 40億米ドル(4,600億円)
面 積	敷地面積 450,000 m <sup>2</sup> 、第1期は 220,000 m <sup>2</sup> 延床面積 600,000 m <sup>2</sup> カジノ面積 28,000 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(第1期 客室数 993 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 500 台、スロットマシン 3,000 台)</li> <li>・ショッピングモール</li> </ul>

<sup>152</sup> ユニバーサル 2012年1月31日付報道発表資料  
<http://www.universal-777.com/corporate/news/pdf/2012/20120131.pdf>

オカダマニラ HP <http://www.okadamanila.com/casino>

<sup>153</sup> ユニバーサル 2017年2月10日付報道発表資料  
[http://www.universal-777.com/corporate/news/pdf/2017/IR\\_20170210.pdf](http://www.universal-777.com/corporate/news/pdf/2017/IR_20170210.pdf)

<sup>154</sup> Manila Bulletin 2016年7月19日記事  
<http://2016.mb.com.ph/2016/07/19/okadas-manila-investment-to-reach-4b-eyes-davao-and-palawan-resorts/>

## (2) ウェストサイドシティリゾートワールド

### ① 開発事業者の概要

ウェストサイドシティリゾートワールドの開発事業者は、トラベラーズである。同社は、フィリピンのアライアンスグローバルグループ<sup>155</sup>とゲンティン香港の合弁企業で、2009年にニノイ・アキノ国際空港の隣に大型IRのリゾートワールドマニラを開業した。

なお、開業済みの同施設については、「2.6.3 運営概要(2) トラベラーズ・インターナショナル・ホテル・グループ」を参照すること。

### ② 開発経緯等

ウェストサイドシティリゾートワールド<sup>156</sup>は、4つの大型IR施設を集積させるエンターテイメントシティ・マニラ・プロジェクトにおける最後のIR計画である。

2015年には住居棟の開発が追加され、住居棟部分については、トラベラーズとメガワールド<sup>157</sup>の合弁会社が開発を担当している。

トラベラーズが単独で進めるIR部分については、基本計画を策定している段階であり、完成は2020～2021年の予定としている<sup>158</sup>。

### ③ 計画概要

ウェストサイドシティリゾートワールドの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-22 ウェストサイドシティリゾートワールドの計画概要<sup>159</sup>

ウェストサイドシティリゾートワールド	
外 観	 <p>Megaworld Bayshore Property Holdings Inc.の Facebook より引用<sup>160</sup></p>
立 地	マニラ

<sup>155</sup> Alliance Global Group

<sup>156</sup> 当初の計画名称はリゾートワールドベイショア (Resorts World Bayshore) であった。

<sup>157</sup> Megaworld

<sup>158</sup> calvinayre.com 2016年6月17日記事

<http://calvinayre.com/2016/06/17/casino/travellers-intl-delays-entertainment-city-casino-opening/>

Manilastandard.net 2016年6月17日記事

<http://thestandard.com.ph/business/208477/travellers-delays-casino-project-.html>

<sup>159</sup> トラベラーズ 2014年10月1日付報道発表資料

<http://www.travellers.com.ph/10-01-2014-travellers-owned-rwbc-groundbreaks-bayshore-city-resorts-world-project/>

<sup>160</sup> メガワールド Facebook

<https://www.facebook.com/www.megaworldbayshorepropertyholdings.com.ph/photos/a.675274649302047.1073741827.635419589954220/675434832619362/?type=3&theater>

	ウェストサイドシティリゾートワールド
開業予定時期	2020年～2021年
投資額	総投資額は14億米ドル(1,610億円) IR部分投資額11億米ドル(1,265億円) 住宅棟部分投資額3億米ドル(345億円)
面積	敷地面積 310,000 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数約1,500室) ・カジノ ・オペラハウス(座席数 3,000席) ・ショッピングモール

### (3) マクタンレジャーシティ

#### ① 開発事業者の概要

マクタンレジャーシティの開発事業者は、フィリピンで農業関連事業を手掛けるカラタ・コーポレーション（Calata Corporation）である<sup>161</sup>。


#### ② 開発経緯等

2016年8月、カラタコーポレーションは、米投資会社シノ・アメリカ・ゲーミング・インベストメント・グループ（Sino-America Gaming Investment Group）と英国領ヴァージン諸島に設立されたレジャー関連企業マカオ・リソーシズ・グループ（Macau Resources Group Limited）と提携し、フィリピン・セブ州のリゾート地マクタン島にカジノリゾート「マクタンレジャーシティ」を開発すると発表した<sup>162</sup>。2017年に開発を開始する予定で、2020年の開業を目指している。

#### ③ 計画概要

マクタンレジャーシティの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-23 マクタンレジャーシティの計画概要<sup>163</sup>

マクタンレジャーシティ	
外 観	 <p>マクタンレジャーシティの Facebook より引用<sup>164</sup></p>
立 地	マクタン島
開業予定時期	2022 年
投資額 <sup>165</sup>	650 億フィリピンペソ(1,495 億円)
面 積	敷地面積 140,000 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル</li> <li>・カジノ</li> <li>・エンターテインメント施設</li> <li>・コンベンション</li> <li>・ショッピングモール</li> <li>・ヨットクラブ</li> </ul>

<sup>161</sup> Rappler 2016年8月23日記事

<http://www.rappler.com/business/industries/real-estate/143966-calata-sino-mactan-leisure-city>

<sup>162</sup> 2016年8月26日のフィリピン証券取引所回覧 05060-2016号

[http://www.calatacorp.com/panel/\\_files/modbuild/reply\\_to\\_exchange%27s\\_query\\_8.26.16.pdf](http://www.calatacorp.com/panel/_files/modbuild/reply_to_exchange%27s_query_8.26.16.pdf)

<sup>163</sup> International Business Times. 2016年8月29日記事

<http://www.ibtimes.ph/calata-mactan-leisure-city-integrated-estate-set-groundbreaking-3648>

<sup>164</sup> マクタン・レジャー・シティ Facebook <https://www.facebook.com/MactanLeisureCity/>

<sup>165</sup> NNA ASIA 2016年8月25日記事 <http://www.nna.jp/news/show/1498179>

#### (4) ブルームベリーリゾートケソンシティ

##### ① 開発事業者の概要

ブルームベリーリゾートケソンシティの開発事業者は、ブルームベリーである。同社をフィリピンに本社を置くカジノ運営事業者で、2013年にマニラベイ地区に大型IRソレアリゾート・カジノを開業した。

なお、開業済みの同施設については、「2.6.3 運営概要(4) ブルームベリー・リゾート」を参照すること。

##### ② 開発経緯等

2015年に、ブルームベリーは、子会社を通じて、ケソン市内のヴァーティスノースプロジェクト<sup>166</sup>対象地域の一角に、19億ペソ（44億円）で15,676㎡の土地を取得した<sup>167</sup>。同社は、この土地において、ソレアリゾート・カジノに続く2箇所目のIR・カジノ施設を2019年に開業する計画を進めており、2017年半ばには建設を始める予定である<sup>168</sup>。

なお、ヴァーティスノースプロジェクトは、45万㎡の区画に、ビジネス、商業、ホテル、住居などを含む45棟の高層ビルを建築する大規模開発計画である<sup>169</sup>。

##### ③ 計画概要

ブルームベリーリゾートケソンシティの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-24 ブルームベリーリゾートケソンシティの計画概要<sup>170</sup>

ブルームベリーリゾートケソンシティ	
外 観	—
立 地	ケソン
開業予定時期	2019年
投資額	200億フィリピンペソ(460億円)
面 積	敷地面積 15,676㎡
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル ・カジノ ・ショッピングモール ・コンベンション

<sup>166</sup> Vertis North Project

<sup>167</sup> Philstar Global 2016年4月25日記事  
<http://www.philstar.com/business/2016/04/25/1576334/razon-build-2nd-casino-quezon-city>

<sup>168</sup> Malaya Business Insight 2016年6月8日記事  
<http://www.malaya.com.ph/business-news/business/casino-qc>

<sup>169</sup> ヴァーティスノースプロジェクト HP <https://vertisnorth.wordpress.com/>

<sup>170</sup> Bloomberg 2016年9月19日記事  
<https://www.bloomberg.com/news/articles/2016-09-18/billionaire-razon-plans-casino-amid-duterte-s-gambling-crackdown>



## (5) リゾートワールドマニラ(第3期)

### ① 開発事業者の概要

リゾートワールドマニラ(第3期)の開発事業者は、トラベラーズである。

なお、開業済みのリゾートワールドマニラについては、「2.6.3 運営概要(2) トラベラーズ・インターナショナル・ホテル・グループ」を参照すること。

### ② 開発経緯等

トラベラーズは、2009年にリゾートワールドマニラを開業した後、施設拡張計画を進めており、2016年9月には第2期計画としてホテル228室と4,000人収容のボールルームが完成した。さらに、第3期計画では、ホテルの新設や拡張及びカジノの新設を予定している<sup>171</sup>。

### ③ 計画概要

リゾートワールドマニラの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-25 リゾートワールドマニラの計画概要<sup>172</sup>

リゾートワールドマニラ(第3期)	
外 観	 <p>トラベラーズ HP より引用</p>
立 地	マニラ
開業予定時期	2017年末から2018年に順次開業予定
投資額	95億フィリピンペソ(219億円)
面 積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地面積<sup>173</sup>190,000 m<sup>2</sup></li> <li>・カジノ面積 14,000 m<sup>2</sup></li> <li>・ショッピングモール面積 3,200 m<sup>2</sup></li> </ul>
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 855 室)</li> <li>・カジノ<sup>174</sup>(テーブル最大 285 台、スロットマシン 最大 1,710 台、電子ゲーム最大 1,710 台)</li> <li>・ショッピングモール</li> </ul>
備 考	・これに続く第4期では、カジノ施設は含まない計画で、2018年以降に建設開始予定である。

<sup>171</sup> The Manila Times 2017年1月18日記事  
<http://www.manilatimes.net/resorts-world-spends-ipo-proceeds-expansion/307513/>

<sup>172</sup> Business World online 2016年6月11日記事  
<http://www.bworldonline.com/content.php?section=Corporate&title=p10-b-earmarked-for-resorts-world-expansion&id=128829>

<sup>173</sup> トラベラーズ HP <http://www.travellers.com.ph/expansion-plans/>

<sup>174</sup> トラベラーズ HP <http://www.travellers.com.ph/phase-3-expansion/>

## 3.5 ベトナム

### 3.5.1 新規 IR・カジノの開発動向

近年ベトナム政府は、観光産業の促進のため、IR の開発を推進してきた。しかし、ベトナム人が入場できない外国人専用カジノであることや、政府が求める投資条件が厳しいこともあり、IR の建設は思うように進まなかった。そこで、ベトナム政府は、2017 年 3 月から試験的に、ベトナム人のカジノ入場を条件付きで許可するとともに、大型 IR 計画に対して求めてきた最低投資額を 40 億米ドル(4,600 億円)から 20 億米ドル(2,300 億円)に引き下げた。

現在、ベトナムでは、以下のとおり 2 箇所の IR・カジノの新規建設が計画されているが、上述のベトナム人のカジノ利用の容認や投資条件の緩和により、今後、IR 開発がより活発化する可能性がある。<sup>175</sup>

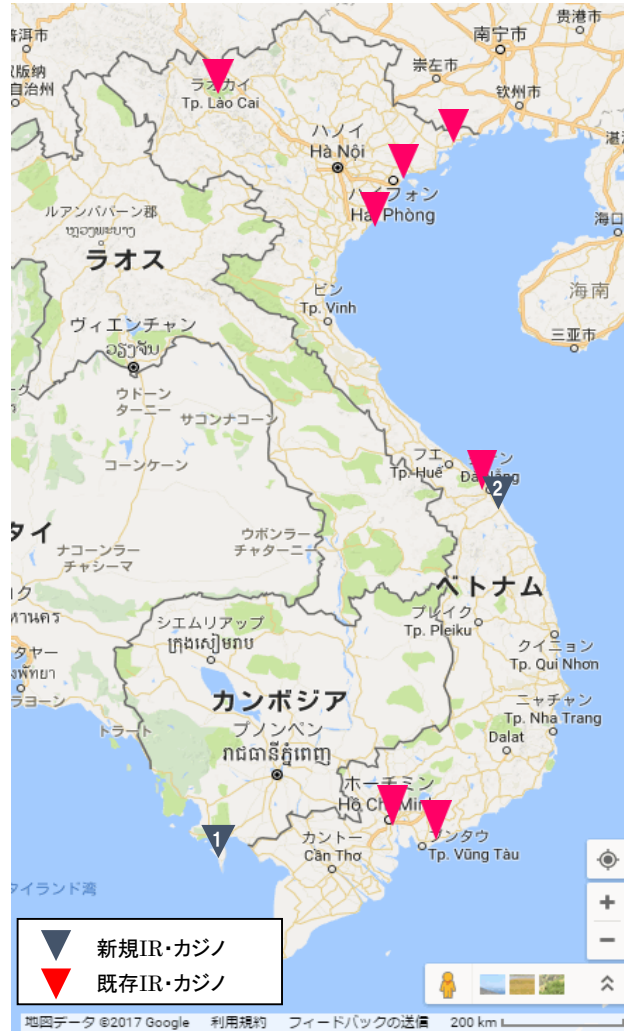
図表 3-26 ベトナムにおいて開発予定の IR・カジノ一覧

No.	施設名	立地	新規・拡張
1	ヴァインパールフーコックカジノ・リゾート (Vinpearl Phu Quoc Casino and Resort)	フーコック島	新規
2	ナムホイアンカジノリゾート (Nam Hoi An Casino Resort)	ホイアン	新規

<sup>175</sup> VN Express 2017 年 1 月 21 日記事

<http://e.vnexpress.net/news/news/it-s-official-vietnam-oks-casino-gambling-for-locals-3531741.html>

図表 3-27 ベトナムにおいて開発予定のIR・カジノ位置図



1	ヴァインパールフェニックスカジノ・リゾート
2	ナムホイアンカジノリゾート

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### 3.5.2 計画概要

#### (1) ヴィンパールフーコックカジノ・リゾート

##### ① 開発事業者の概要

ヴィンパールフーコックカジノ・リゾートの開発事業者は、ベトナムの不動産会社ヴィングループ（Vingroup）である。同社は、ベトナム国内で多くのホテルやリゾート施設を展開しており、フーコック島においては、同施設のほかにも複数のリゾート施設の開発を手掛けている。

##### ② 開発経緯等


2015年、ベトナム政府は、観光の拠点として期待を寄せるフーコック島の長期開発計画の中で、カジノリゾートの設置を承認した。

当初、ヴィングループは、2017年4月の開業を目指して計画を進めていたが、最終的な開業時期については明らかにされていない。

##### ③ 計画概要

ヴィンパールフーコックカジノ・リゾートの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-28 ヴィンパールフーコックカジノ・リゾートの計画概要<sup>176</sup>

ヴィンパールフーコックカジノ・リゾート	
外 観	 <small>hotel.com HP より引用<sup>177</sup></small>
立 地	フーコック島
開業予定時期	不明
投資額	40億米ドル(4,600億円)
面 積	敷地面積 30,000㎡ カジノ面積 18,800㎡
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 1,440室)</li> <li>・カジノ(テーブル 200~400台、スロットマシン 2,000台)</li> <li>・ショッピングモール</li> <li>・コンベンション</li> <li>・シアター</li> <li>・スパ</li> </ul>

<sup>176</sup> Casino on Phu Quoc HP <http://www.casinoonphuquoc.com/>

<sup>177</sup> Hotels.com HP

<https://uk.hotels.com/ho675373/vinpearl-phu-quoc-convention-casino-resort-phu-quoc-vietnam/#hotel-information-anchor>

## (2) ナムホイアンカジノリゾート

### ① 開発事業者の概要

ナムホイアンカジノリゾートは、ベトナムに拠点を置く投資会社ビナキャピタル (VinaCapital) と、香港の複合企業である周大福、マカオのVIPカジノ大手のサンシティグループ (SunCity Group) の三社による合弁事業として開発が進められている。

### ② 開発経緯等

ナムホイアンカジノリゾート計画は、2010年に開発許可を得た。当初、ビナキャピタルはゲンティンマレーシアと開発を計画していたが、ベトナム政府が新規カジノ開発に課す40億米ドル(4,600億円)以上という厳しい投資条件を背景に、2012年にゲンティンマレーシアが事業から離脱した。

その後、計画は停滞していたが、2015年に周大福とサンシティグループが参画し、オーストラリア等でのカジノ開発の経験をもつ周大福を中心に計画が再開されることとなった。2016年4月に着工し、2019年の開業を目指して建設が進められている。<sup>178</sup>

### ③ 計画概要

ナムホイアンカジノリゾートの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-29 ナムホイアンカジノリゾートの計画概要<sup>179</sup>

	ナムホイアンカジノリゾート
外 観	 GGR Asia HP より引用
立 地	ホイアン
開業予定時期	第1期 2019年 全体の開業は 2035年
投資額	総投資額 40億米ドル(4,600億円) 第1期 5億米ドル(575億円)
面 積	敷地面積 9,850,000㎡ 第1期 1,600,000㎡
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル ・カジノ ・ゴルフコース ・エンターテインメント施設

<sup>178</sup> Asia Gaming Brief 2016年4月13日記事  
<http://agbrief.com/news/construction-nam-hoi-casino-resort-begin>

<sup>179</sup> GGR Asia 2016年5月4日記事  
<http://www.ggrasia.com/vietnams-hoi-an-has-three-hotels-in-phase-one-suncity/>  
Viet Num News 2016年4月12日記事  
[http://bizhub.vn/news/4b-casino-resort-project-to-break-ground-in-hoi-an\\_16029.html](http://bizhub.vn/news/4b-casino-resort-project-to-break-ground-in-hoi-an_16029.html)

## 3.6 ロシア沿海地方

### 3.6.1 新規 IR・カジノの開発動向

沿海地方ウラジオストク近郊プリモリエ特区は、ロシアにおいてカジノ開設が認められている特区の一つである。プリモリエ特区は、ウラジオストク国際空港から約 15km に位置し、東京、北京、ソウルなどの大都市との距離が近いことを強みとしている。

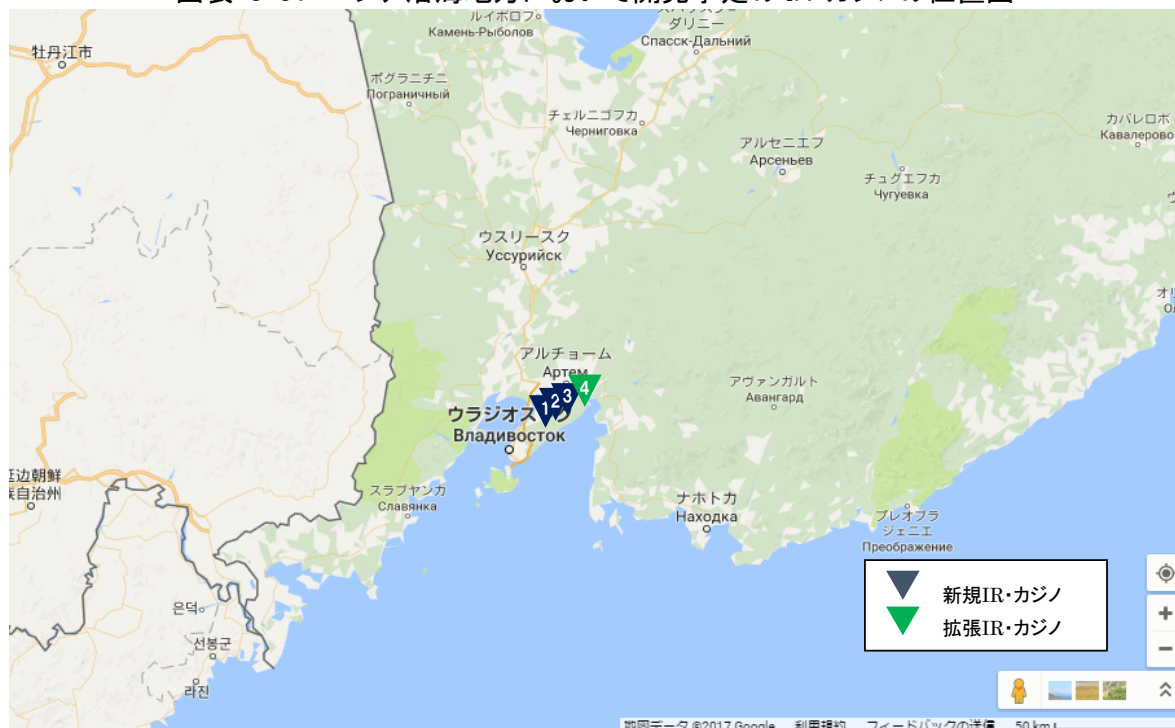
総面積 619 万㎡のうち、当面 263 万㎡が開発の対象とされており、2012 年に開発事業者 4 社が選定された。2015 年には、プリモリエ特区で第 1 号となるティグレデクリスタルが開業した。<sup>180</sup>

現在、残る 3 箇所の IR・カジノの新規建設と、ティグレデクリスタルの拡張が計画されている。

図表 3-30 ロシア沿海地方において開発予定の IR・カジノ一覧

No.	施設名	立地	新規・拡張
1	プリモリエエンターテイメントリゾートシティ (Primorye Entertainment Resort City)	ウラジオストク	新規
2	セレナワールドリゾート・カジノ (Selena World Resort & Casino)	ウラジオストク	新規
3	フェニックスリゾートカジノプリモリエ (Phoenix Resort Casino Primorye)	ウラジオストク	新規
4	ティグレデクリスタル(第 2 期) (Tigre de Cristal)	ウラジオストク	拡張

図表 3-31 ロシア沿海地方において開発予定の IR・カジノの位置図



出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>180</sup> Primorsky Krai Development Corporation HP <http://www.cdprim.ru/iez-primorye>

### 3.6.2 計画概要

#### (1) プリモリエエンターテイメントリゾートシティ

##### ① 開発事業者の概要

プリモリエエンターテイメントリゾートシティの開発事業者は、ナガコープ（Naga Corp Ltd.）である。ナガコープは、カンボジアの首都プノンペンで、同国最大の IR 施設ナガワールドを運営している。同社にとって、カンボジア以外の国への進出はロシアが初めてである。

なお、ナガワールドについては、「2.4.3 運営概要(1)ナガコープ」を参照すること。

##### ② 開発経緯等


2013年9月、ナガコープは、プリモリエ特区におけるプリモリエエンターテイメントリゾートシティ計画を発表した<sup>181</sup>。

その後、ナガコープは、2016年11月から建設を開始することを明らかにし、2018年夏の第1期開業を目指して計画を進めている。計画全体では第3期まで予定されており、投資規模は3億5,000万米ドル（403億円）以上、2021年の完成を予定している。<sup>182</sup>

##### ③ 計画概要

プリモリエエンターテイメントリゾートシティの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-32 プリモリエエンターテイメントリゾートシティの計画概要<sup>183</sup>

プリモリエエンターテイメントリゾートシティ	
外 観	 ナガコープ HP より引用 <sup>184</sup>
立 地	ウラジオストク
開業予定時期	第1期開業 2018年、全面開業 2021年
投資額	3億5,000万米ドル以上(403億円)
面 積	敷地面積 216,083 m <sup>2</sup> <sup>185</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 1,000 室)</li> <li>・カジノ(テーブル 100 台、スロットマシン 500 台)</li> <li>・シアター(2,000 席)</li> <li>・エンターテイメント施設</li> <li>・飲食施設</li> </ul>

<sup>181</sup> ナガコープ 2013年9月9日付報道発表資料

<sup>182</sup> Asia Gaming Brief 2016年10月16日記事  
<http://agbrief.com/news/nagacorp-begin-construction-primorye-resort>

<sup>183</sup> The Cambodia Daily 2013年9月10日記事  
<https://www.cambodiadaily.com/archives/nagacorp-to-invest-in-%E2%80%88russian-casino-resort-42007/>

<sup>184</sup> ナガコープ HP <http://www.nagacorp.com/eng/business/property.php#VladivostokRussia>

<sup>185</sup> "Primorsky Krai Development Corporation" JSC HP <http://www.cdprim.ru/iez-primorye>

## (2) セレナワールドリゾート・カジノ

### ① 開発事業者の概要

セレナワールドリゾート・カジノの開発事業者は、ダイヤモンドフォーチュンホールディングス（Diamond Fortune Holdings）である。同社は、2010年に、ロシア沿海地方におけるリゾート開発計画のために設立された<sup>186</sup>。

### ② 開発経緯等

2016年3月、ダイヤモンドフォーチュンホールディングスは、当局からプリモリエ特区におけるセレナワールドリゾート・カジノの建設計画の承認を得た。同施設は、サンカジノ・リゾート、ゴールデンゲート、ムーンゲートの三つの区画からなる。

現在、2018年の開業を目指して、第1期のサンカジノ・リゾートを建設中である。<sup>187</sup>

### ③ 計画概要

セレナワールドリゾート・カジノの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-33 セレナワールドリゾート・カジノの計画概要<sup>188</sup>

	セレナワールドリゾート・カジノ
外 観	 ダイヤモンドフォーチュンホールディングスの HP より引用
立 地	ウラジオストク
開業予定時期	第1期 2018年
投資額	9億1400万米ドル(1,051億円)
面 積 <sup>189</sup>	敷地面積(第1期) 200,000 m <sup>2</sup> 延床面積(第1期) 120,000 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 1,936 室) ・カジノ(テーブル 686 台、スロットマシン 5,040 台) ・スパ ・その他(スキー施設)

<sup>186</sup> ダイヤモンドフォーチュンホールディングス HP <http://www.diamondfortune.ru/language/en/about-us/>

<sup>187</sup> Asia Gaming Brief 2016年3月8日記事  
<http://agbrief.com/news/diamond-fortune-reveals-plans-selena-world-resort-located-primorye-zone>

<sup>188</sup> GGRAsia 2016年5月18日記事  
<http://www.ggrasia.com/russian-operator-plans-to-deal-its-cards-in-primorye/>

<sup>189</sup> ダイヤモンドフォーチュンホールディングス HP  
<http://www.diamondfortune.ru/language/en/the-project/#gaming-zone/>



### (3) フェニックスリゾートカジノプリモリエ

#### ① 開発事業者の概要

フェニックスリゾートカジノプリモリエの開発事業者は、ロイヤルタイムグループ (Royal Time Group) である。同社は、2008年に設立された投資会社であり、ロシアや周辺諸国において、カジノ、エンターテインメント、建設等の事業を行っている。<sup>190</sup>


#### ② 開発経緯等

2015年4月、ロイヤルタイムグループは、プリモリエ特区におけるフェニックスリゾートカジノプリモリエ計画を発表した。同計画は2期で構成されており、第1期開業は2017年下期を予定している。<sup>191</sup>

#### ③ 計画概要

フェニックスリゾートカジノプリモリエの計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-34 フェニックスリゾートカジノプリモリエの計画概要<sup>192</sup>

フェニックスリゾートカジノプリモリエ	
外 観	 ロイヤルタイムグループ HP より引用
立 地	ウラジオストク
開業予定時期	第1期 2017年下期
投資額	2億1500万米ドル(247億円)以上
面 積	敷地面積 151,901 m <sup>2</sup> 延床面積 第1期 43,000 m <sup>2</sup> 、最終 250,000 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル(客室数 400 室)</li> <li>・カジノ(第1期:テーブル 30 台、スロットマシン 500 台 最終:テーブル 150 台、スロットマシン 3,000 台)</li> <li>・シアター(1,500 席)</li> <li>・エンターテインメント施設</li> <li>・コンベンション</li> </ul>

<sup>190</sup> ロイヤルタイムグループ HP <http://www.royaltimigroup.ru/en/about/>

<sup>191</sup> ロイヤルタイムグループ 2016年4月16日付報道発表資料  
<http://www.royaltimigroup.ru/en/news/new/22/>

<sup>192</sup> ロイヤルタイムグループ 2016年4月16日付報道発表資料  
<http://www.royaltimigroup.ru/en/news/new/22/>

GGRAsia 2016年5月18日記事  
<http://www.ggrasia.com/russian-operator-plans-to-deal-its-cards-in-primorye/>

#### (4) ティグレデクリスタル(第2期)

##### ① 開発事業者の概要

ティグレデクリスタル(第2期)の開発事業者は、G1 エンターテインメント(G1 Entertainment)である。同社は、香港のサミットアセットホールディングスの子会社で、2015年にティグレデクリスタル(第1期)を開業した。

なお、開業済みの同施設については、「2.11.3 運営概要(1) G1 エンターテインメント」を参照すること。

##### ② 開発経緯等

ティグレデクリスタルは、2015年10月に開業した。第2期計画は、2017年下期に着工し、2019年上期に開業の予定である。<sup>193</sup>

##### ③ 計画概要

ティグレデクリスタル(第2期)の計画概要は、以下のとおりである。

図表 3-35 ティグレデクリスタル(第2期)の計画概要<sup>194</sup>

	ティグレデクリスタル(第2期)
外 観	—
立 地	ウラジオストク
開業予定時期	2019年上期
投資額	5億米ドル(575億円)
面 積	敷地面積 100,000 m <sup>2</sup>
同一建物・敷地内にある施設の内容	・ホテル(客室数 500 室) ・カジノ(VIP テーブル 100 台、一般テーブル 70 台、スロットマシン 500 台) ・ショッピングモール ・コンベンション
備 考	雇用創出は約 2,000 人を想定 <sup>195</sup>

#### 3.6.3 参考情報

観光客やビジネス客を増やすことで極東地域の発展を促すため、ウラジオストクなどロシア極東地域の一部で、入国手続きを大幅に簡素化する法案が、2017年2月、下院議会で可決された。今後大統領が承認すれば、外国人は、4日前までにインターネットで申請を行うことで、入国の際にビザを取得できるようになる。

<sup>193</sup> サミットアセットホールディングス Interim Results 2016 年  
<http://www.saholdings.com.hk/eng/doc/ann/2016/20160831/e0102.pdf>

<sup>194</sup> サミットアセットホールディングス HP <http://www.saholdings.com.hk/eng/ourproject-ourproject.html>

<sup>195</sup> GGRAsia 2016年11月24日記事  
<http://www.ggrasia.com/russias-tigre-de-cristal-phase-2-bill-us500-mln-exec/>

## 第4章 IR・カジノ市場の分析及び IR 導入にあたっての課題

### 4.1 アジアを取り巻く IR・カジノ市場の分析

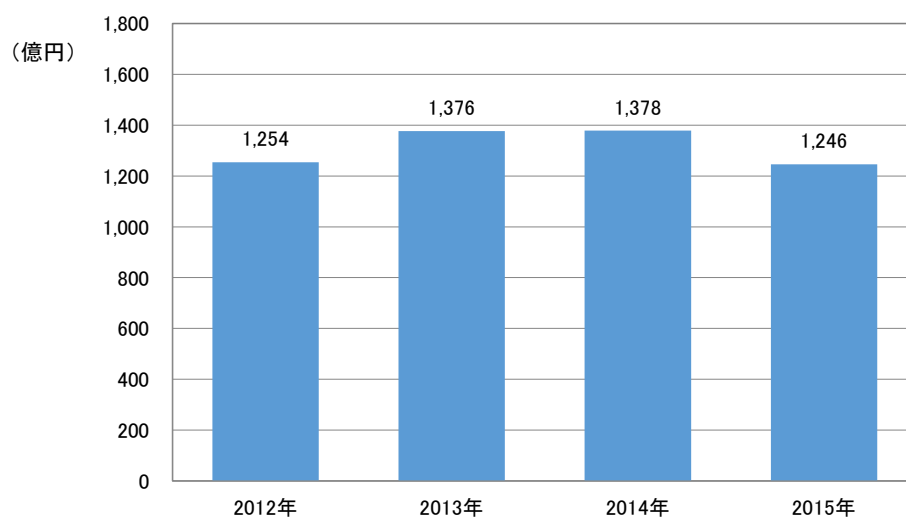
本節では、第2章及び第3章を踏まえ、アジアを取り巻く IR・カジノ市場の動向について、韓国、マカオ、シンガポールを中心に分析する。

#### 4.1.1 主要国におけるカジノ市場の動向

##### (1) 韓国

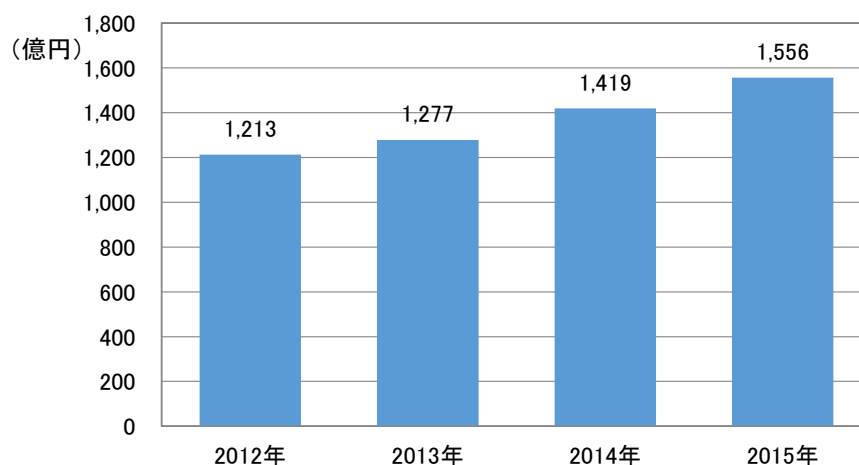
韓国におけるカジノ売上高の推移をみると、外国人専用カジノ 16 施設のカジノ売上高合計は 2012 年以降 2014 年まで増加傾向であったが、2015 年は前年比 9.6% の減少であった。一方、唯一韓国人が入場可能なカンウォンランドは、2012 年以降順調に増加している。

図表 4-1 韓国におけるカジノ売上高の推移(外国人専用カジノ)



出典：パラダイスグループの四半期 Earnings Results を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

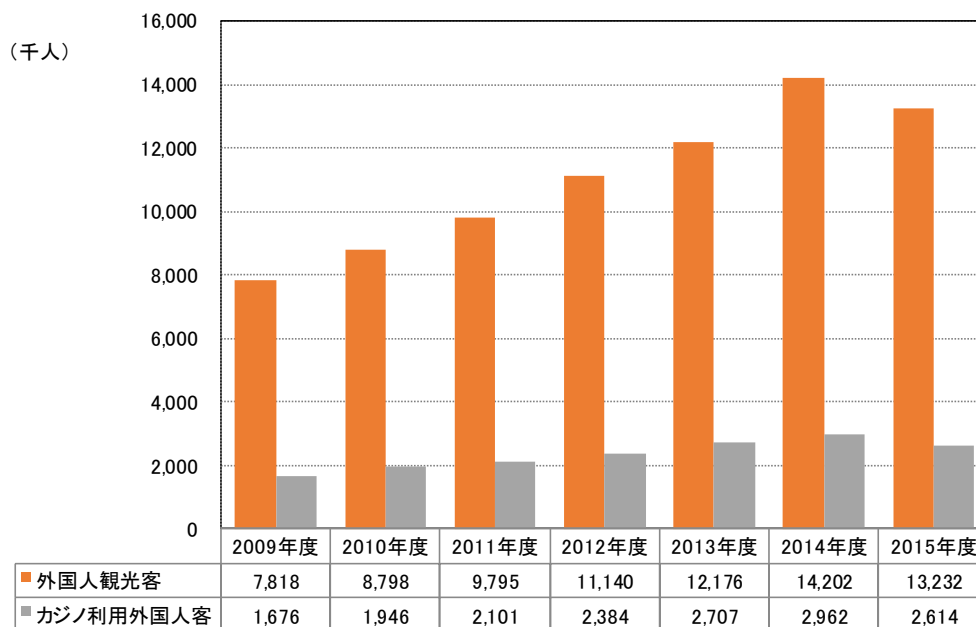
図表 4-2 カンウォンランドにおけるカジノ売上高の推移



出典：カンウォンランド四半期 Results を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

韓国への外国人観光客とカジノ利用外国人客数の推移<sup>196</sup>をみると、2009年度以降2014年度までは、いずれも順調な伸びを見せていたが、2015年度には減少に転じた。

図表 4-3 韓国における外国人観光客及びカジノ利用外国人客数の推移



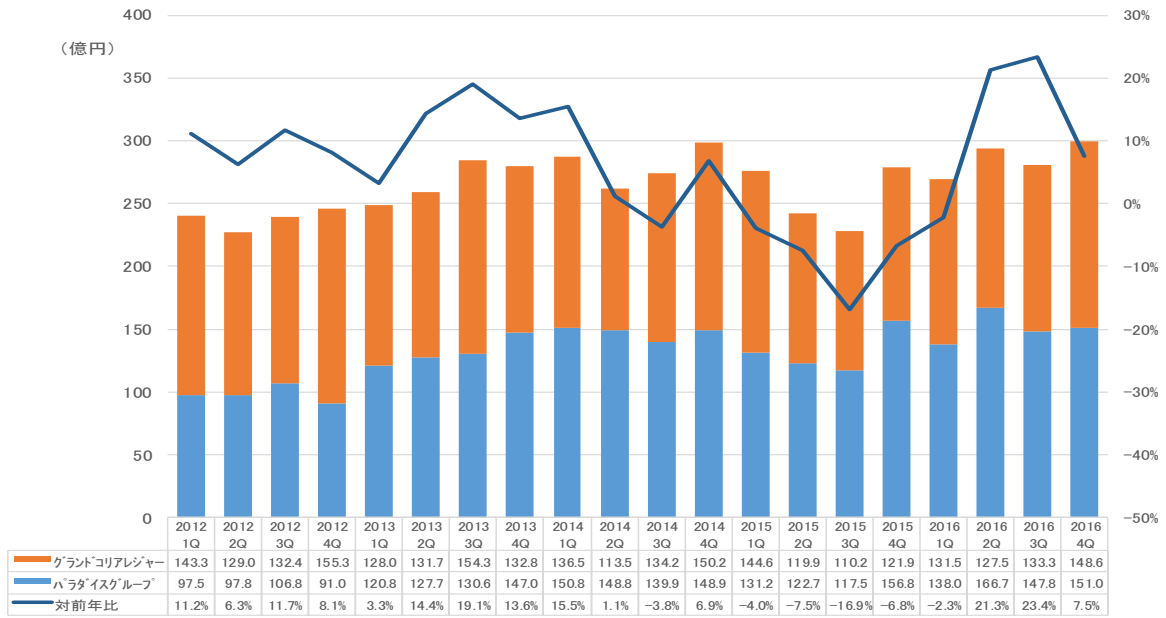
出典：韓国政府文化体育観光部 HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>196</sup> 韓国政府文化体育観光部 HP  
[http://www.mcst.go.kr/web/s\\_data/statistics/statList.jsp?pSearchType=01&pSearchWord=%EC%B9%B4%EC%A7%80%EB%85%B8](http://www.mcst.go.kr/web/s_data/statistics/statList.jsp?pSearchType=01&pSearchWord=%EC%B9%B4%EC%A7%80%EB%85%B8)

韓国の主要な外国人専用カジノ運営事業者であるパラダイスグループとグランドコリアレジャー2社のカジノ売上高合計の推移を四半期単位でみると、2014年第4四半期をピークに2015年第3四半期にかけてカジノ売上高が減少したが、2015年第4四半期以降は回復傾向をみせている。また、対前年比をみると、2015年第3四半期に底を打ち、2016年第2四半期よりプラスに転じている。<sup>197</sup>

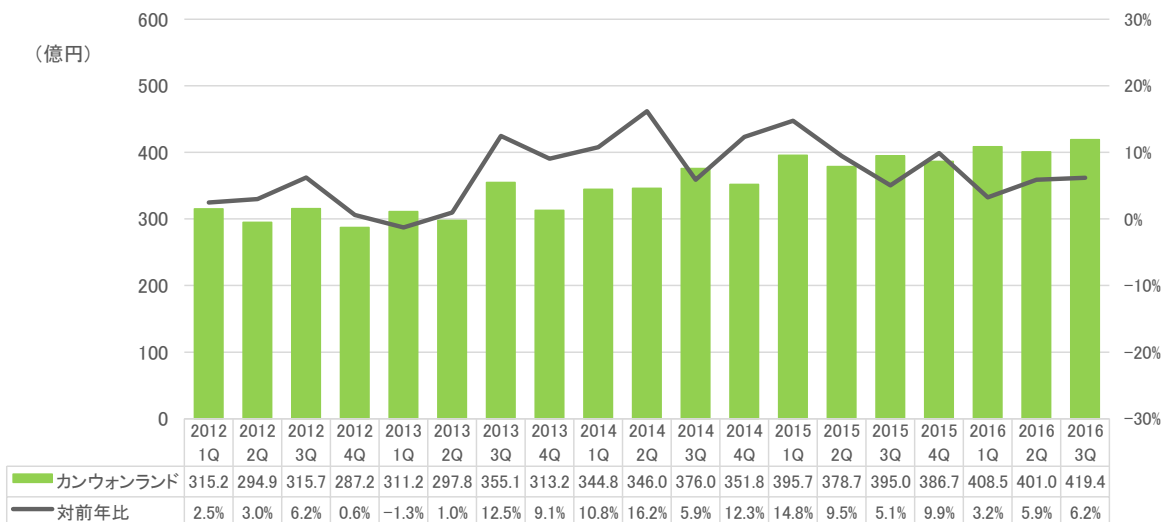
一方、カンウォンランドのカジノ売上高は順調に推移している。

図表 4-4 主要な外国人専用カジノ運営事業者のカジノ売上高の推移(四半期)



出典：パラダイスグループの四半期 Earnings Results 及びグランドコリアレジャー提供資料を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 4-5 カンウォンランドのカジノ売上高の推移(四半期)



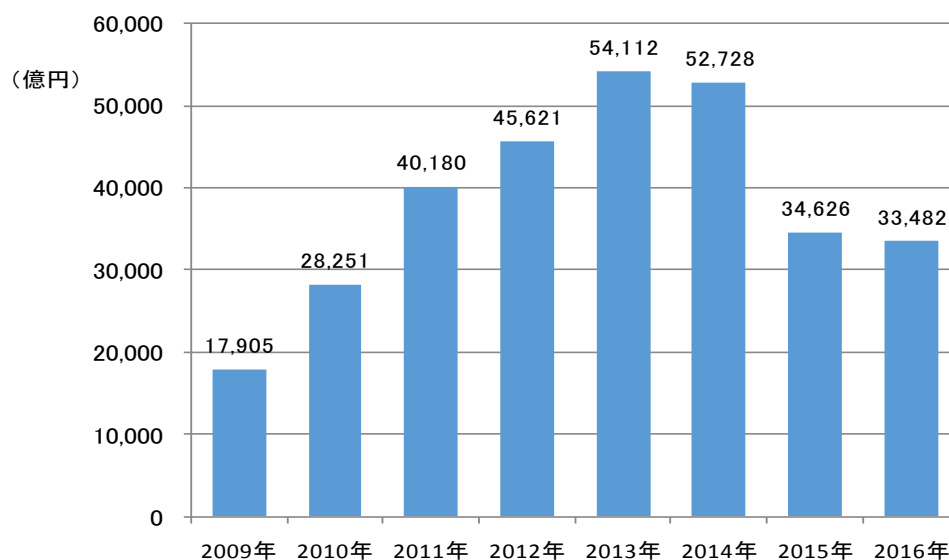
出典：カンウォンランド四半期 Results を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

<sup>197</sup> パラダイスグループ HP [http://paradisegroup.co.kr/eng/invest/ir\\_data.asp](http://paradisegroup.co.kr/eng/invest/ir_data.asp)  
 カンウォンランド HP <http://kangwonland.high1.com/eng/ndr/board-list.high1>

## (2) マカオ

マカオにおけるカジノ売上高の推移をみると、2009年以降カジノ売上高が急増していたが、2013年をピークに2014年には減少に転じ、2015年には、2014年比34.3%減少と大幅に売上高が落ち込んだ。

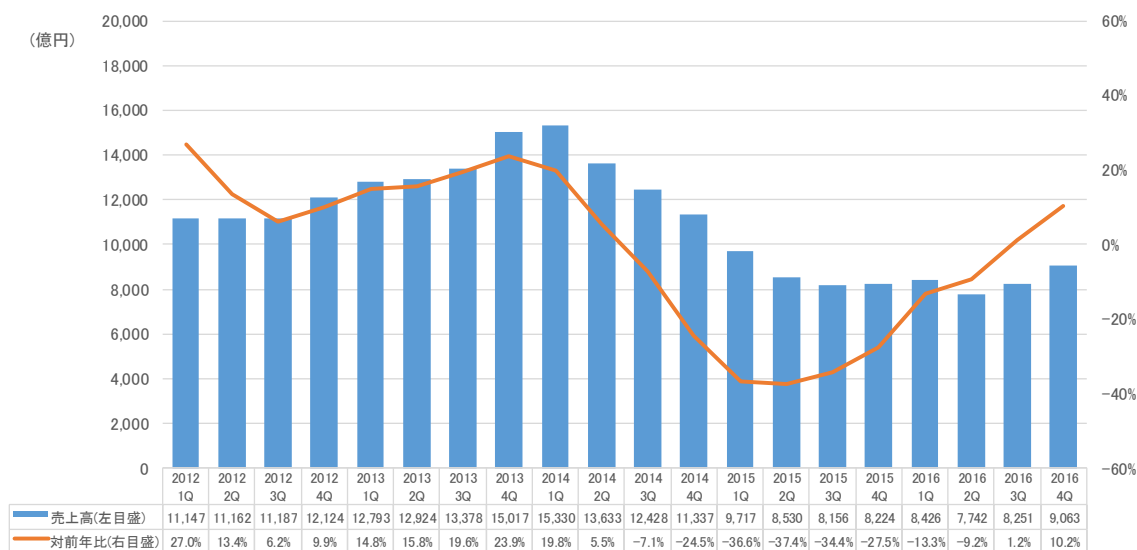
図表 4-6 マカオにおけるカジノ売上高の推移



出典：マカオ政府博彩監察協調局（DICJ）のHPを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

マカオにおける最近の四半期単位のカジノ売上高をみると、2016年第3四半期以降、下げ止まりの傾向をみせている。また、対前年比をみると、2015年第3四半期以降は改善をみせ、2016年第3四半期にはプラスに転じた。

図表 4-7 マカオにおけるカジノ売上高及び対前年比の推移(四半期)

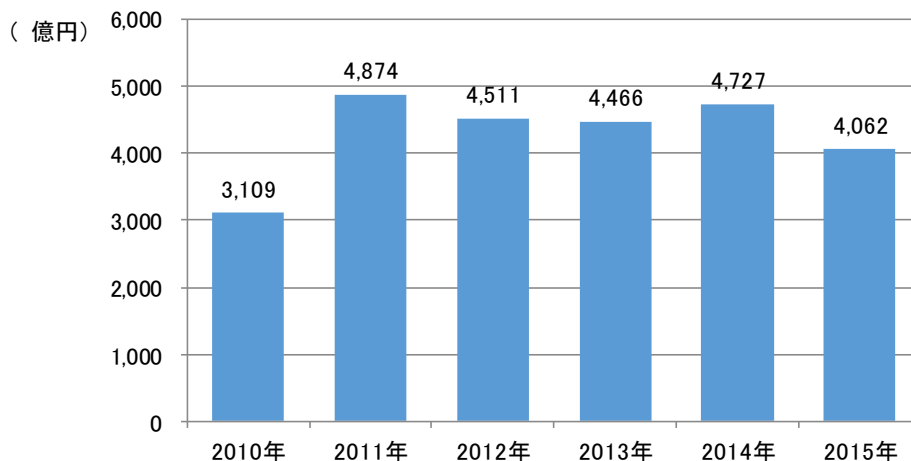


出典：マカオ政府博彩監察協調局（DICJ）のHPを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) シンガポール

シンガポールにおいては、2010年1月にリゾートワールドセントーサ、2010年4月にマリーナベイサンズのIR・カジノが開業した。開業以降、2社のカジノ売上高の合計は、多少の増減はありつつも安定的に推移してきたが、2015年は前年比14.1%の減少であった。

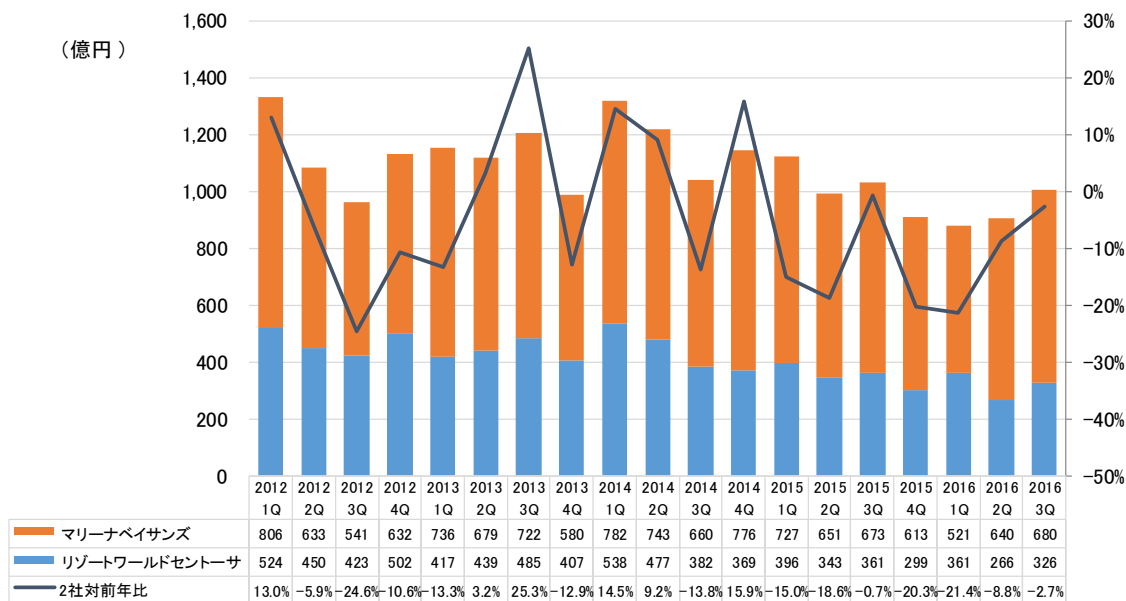
図表 4-8 シンガポールにおけるカジノ売上高の推移



出典：ラスベガス・サンズ Annual Report 及びゲンティン・シンガポール Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

シンガポールにおける、四半期単位の2社合計のカジノ売上高及び対前年比をみると、2012年以降、増減を繰り返していることがわかる。2015年第1四半期以降は、対前年比がマイナスの状態が続いていたが、2016年第2四半期、第3四半期と改善をみせている。

図表 4-9 シンガポールにおけるカジノ売上高及び対前年比の推移(四半期)



出典：ラスベガス・サンズ Annual Report 及びゲンティン・シンガポール Annual Report を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

#### (4) 総括

韓国やマカオ、シンガポールのカジノ売上高の推移をみると、近年堅調に推移してきたが、いずれの国・地域も 2014 年から 2015 年にかけて売上高が減少した。しかし、2016 年後半は回復傾向がみられた。

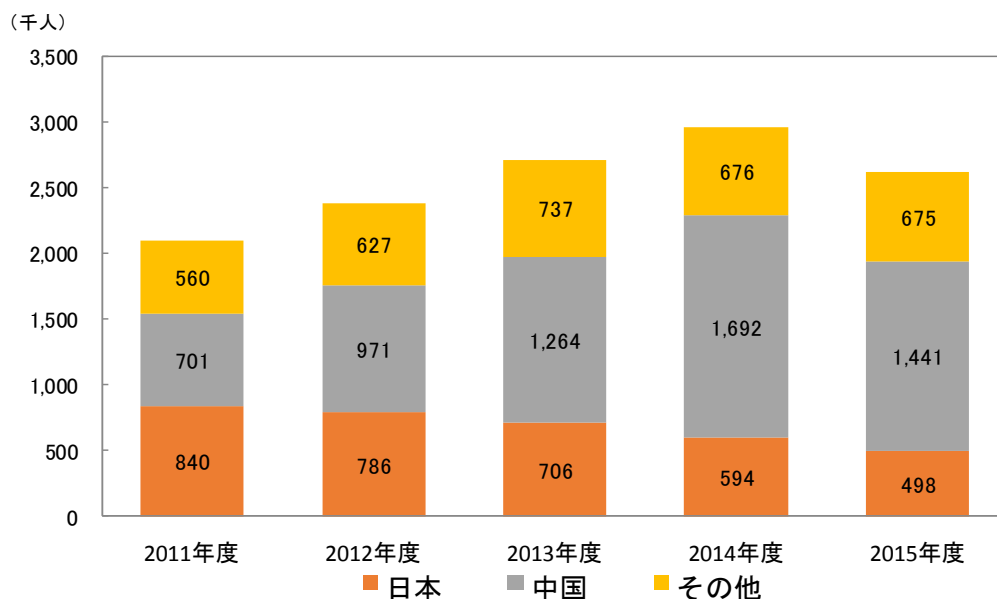


## 4.1.2 主要国における顧客属性及び売上分析

### (1) 韓国

韓国における国籍別カジノ入場者数の推移をみると、2011年度以降、日本人客は減少の一途をたどっている。一方、中国人客は急増しており、2014年度には2011年度の約2.4倍になった。しかし、2015年度には減少に転じ、2014年度比14.8%の減少であった。

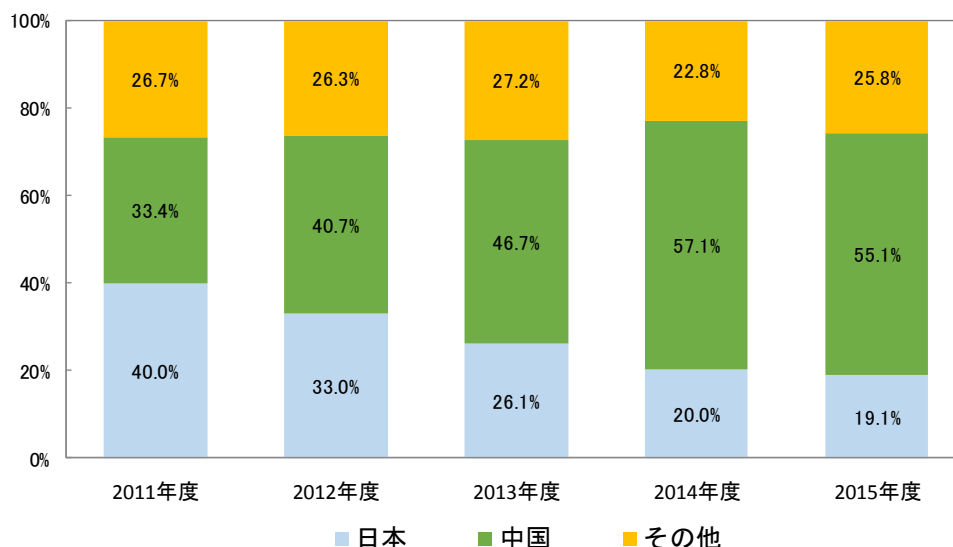
図表 4-10 韓国における国籍別カジノ入場者数の推移



出典：韓国政府文化体育観光部 HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

韓国における国籍別カジノ入場者数の構成比をみると、2011年度には、日本人客が一番多かったが、2012年度に中国と逆転し、以降は中国人客が最多となっている。

図表 4-11 韓国における国籍別カジノ入場者数の推移(構成比)



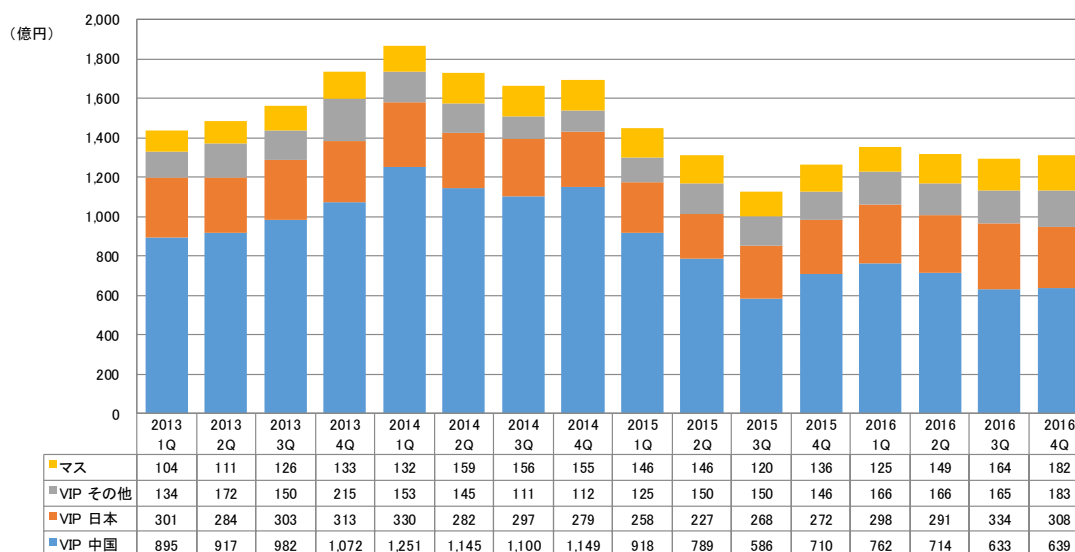
出典：韓国政府文化体育観光部 HP を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

パラダイスグループの顧客別チップ売上高<sup>198</sup>をみると、2015年第1四半期から第3四半期にかけて、全体のチップ売上高が大きく減少した。特に、2014年第4四半期にはVIPチップ売上高全体の約75%を占めていた中国人VIPのチップ売上高が大幅に落ち込んでおり、2015年第3四半期には、2014年第4四半期の約半分になっている。一方のマスチップ売上高は、2014年第4四半期と比較すると22.6%の減少であり、VIPチップ売上高ほどの落ち込みは見られなかった。

これらの結果、パラダイスグループのカジノ売上高も、2014年第4四半期から2015年第3四半期にかけて3割近く減少した。

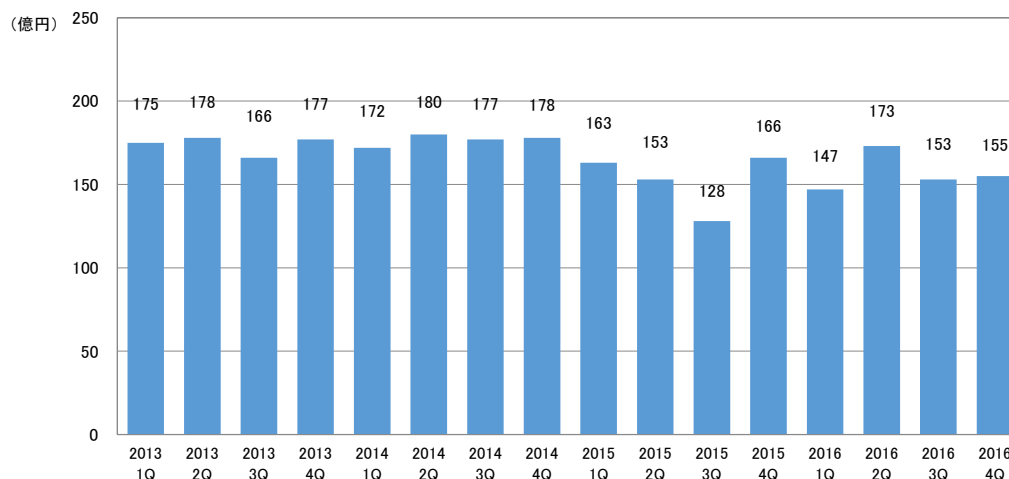
なお、VIPとマスではチップ売上高の集計方法が異なるため、チップ売上高におけるVIPとマスの比率は、カジノ売上高におけるVIPとマスの比率とは異なる。

図表 4-12 顧客別チップ売上高の推移(パラダイスグループ 四半期)



出典：パラダイスグループ 四半期 Earnings Results を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 4-13 カジノ売上高の推移(パラダイスグループ 四半期)



出典：パラダイスグループ 四半期 Earnings Results を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

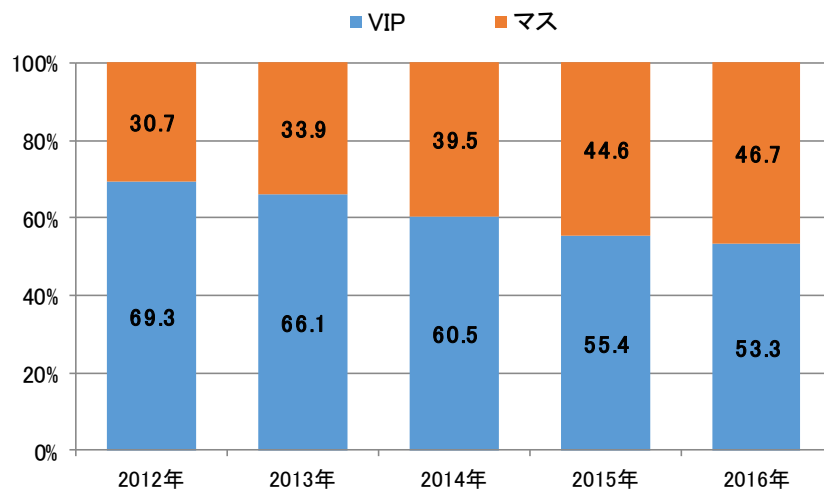
<sup>198</sup> soft drop：ゲーム中にディーラーやピットボス（複数テーブル単位でディーラー等を監督する責任者）が手作業で記録したチップの売上高

## (2) マカオ

マカオにおけるカジノ入場者の国籍別内訳は公表されていないが、ギャラクシーエンターテインメントグループの国籍別顧客内訳は、中国人が約7割、香港人が約2割を占め、残り約1割は日本人、台湾人、韓国人が中心である。

マカオのカジノ売上高におけるVIPとマスの構成比をみると、売上高が好調であった2012年から2013年にかけては7割近くをVIPの売上高が占めていた。その後、VIP売上高の減少やマス向け施設を充実させた新規IR・カジノが開業したことなどから、徐々にVIPの割合は低下してきており、2016年はVIP53.3%、マス46.7%となっている。

図表 4-14 マカオのVIP、マス別のカジノ売上高構成比の推移

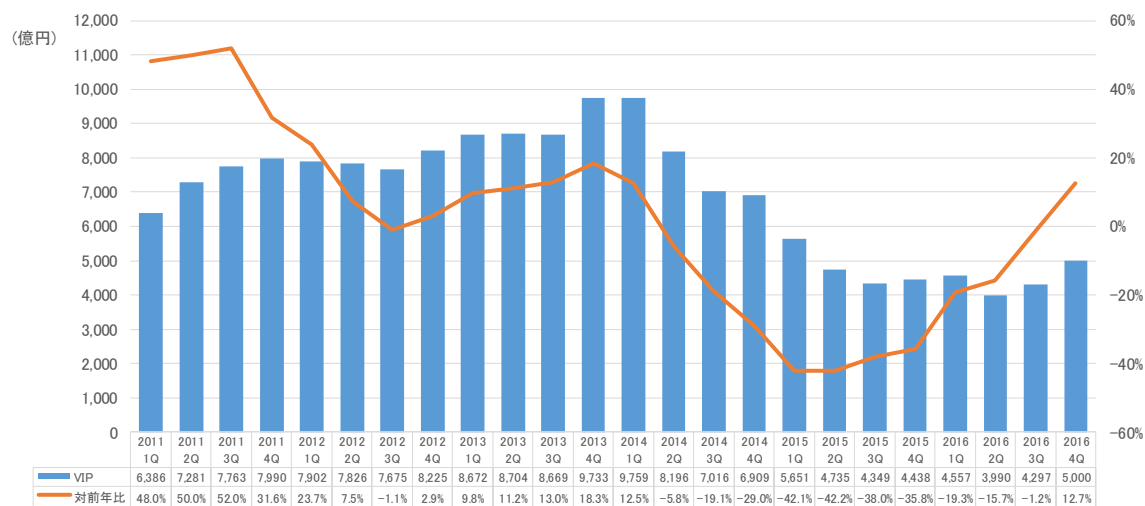


出典：マカオ政府博彩監察協調局（DICJ）のHPを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

マカオのVIP、マス別のカジノ売上高の推移をみると、2014年から2015年にかけての売上高減少においては、特にVIPのカジノ売上高の落ち込みが大きく、マスは比較的落ち込みが小さい。

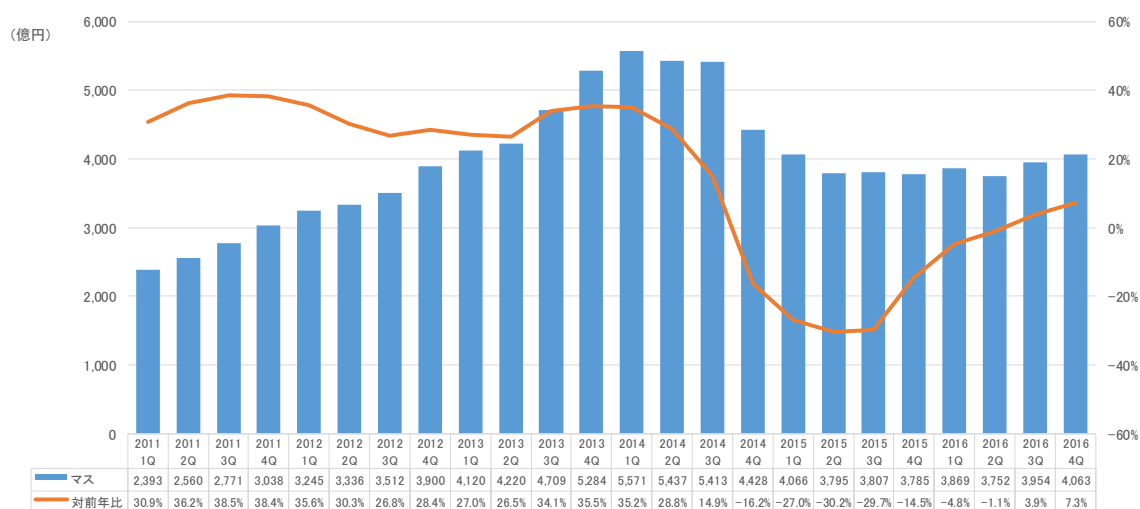
対前年比の推移をみると、VIPは2014年第2四半期から2016年第3四半期まで10四半期にわたってマイナスが続いたが、2016年第4四半期にプラスに転じた。一方のマスは、2014年第4四半期から2016年第2四半期までの7四半期にわたってマイナスが続いたが、VIPに比較して回復が早く、2016年第3四半期にプラスに転じた。

図表 4-15 マカオのVIP売上高及び対前年比の推移(四半期)



出典：マカオ政府博彩監察協調局（DICJ）のHPを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 4-16 マカオのマス売上高及び対前年比の推移(四半期)



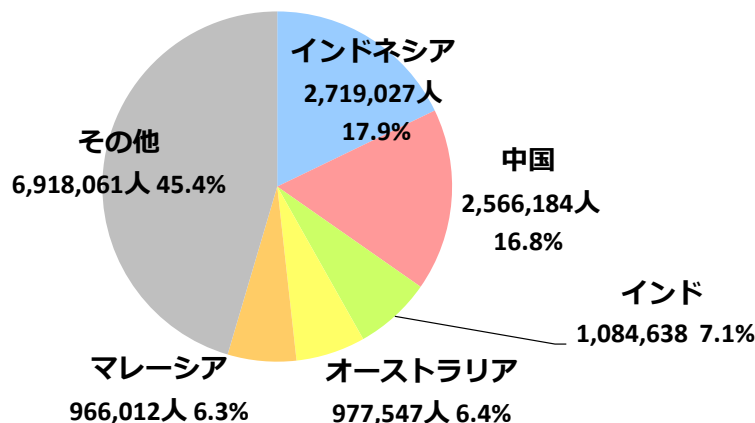
出典：マカオ政府博彩監察協調局（DICJ）のHPを基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) シンガポール

シンガポールにおけるカジノ入場者の国籍別内訳は公表されていない。

なお、マカオを訪れる外国人旅行者の6割以上が中国からであるのに対し、シンガポールへの中国人旅行者は16.8%（2015年）にとどまる。

図表 4-17 シンガポールへの外国人旅行者数（2015年の上位5箇国・地域）



出典：国連世界観光機関「Yearbook of Tourism Statistics/World Tourism Organization」による「Arrivals of non-resident visitors at national borders」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

マリーナベイサンズのカジノ売上高全体に占めるVIP売上高の割合は、2015年は40%～45%、2016年は約33%である。前述のとおり、マカオにおけるカジノ売上高全体に占めるVIP売上高の割合は、2013年時点では66.1%、VIP売上高の割合が減少した2016年でも53.3%であることと比べると、シンガポールは比較的VIPへの依存度合が低いと言える。

「4.1.1 主要国におけるカジノ市場の動向(3)シンガポール」でみたとおり、2015年のシンガポールにおけるカジノ売上高は、前年比14.1%の減少であった。前年比34.3%の減少であったマカオに比べ、カジノ売上高減少が少なかったのは、VIPへの依存度合が比較的低かったことが一因と考えられる。

### (4) 総括

韓国、マカオ、シンガポールにおける2014年から2015年にかけてのカジノ売上高減少について、国籍やVIP・マスといった顧客属性から分析した結果、当該期間におけるカジノ売上高減少の要因としては、国・地域によって影響の度合いは異なるものの、中国人客、とりわけ中国人VIPの減少が影響したと考えられる。

なお、中国人VIPの減少の理由としては、中国の景気減速と習近平政権が進める反腐敗運動<sup>199</sup>の影響が挙げられる。

<sup>199</sup> 習近平政権が進める政府幹部や国有企業幹部の汚職、腐敗摘発を強化する取組。この一環として、政府幹部等のマカオへの出入りやクレジットカードの決済等を監視しているとされる。

#### 4.1.3 マス層の獲得に向けた動き

##### (1) マス層の獲得に向けた動き

前述のとおり、中国の景気減速や習近平政権が進める反腐敗運動の影響により、高額な掛け金で遊ぶVIPが減少し、2014年から2015年にかけて、アジア主要国のカジノ売上高は落ち込んだ。特に、中国人VIPに大きく依存していたマカオにおいては、2015年のカジノ売上高が前年比で34.3%減少、VIPのカジノ売上高は39.9%も減少した。このように、特定の国・地域の顧客やVIP客に依存していると、売上高の変動が大きく、安定的な経営が難しい。

そこで、各国・地域の政府やカジノ運営事業者は、VIP以外のマス層の獲得に乗り出している。

##### ① マカオ政府の方針

2016年、マカオ政府は「世界における観光とレジャーの中心を目指す」ことを目標に掲げた初の5か年発展計画<sup>200</sup>を発表した。かねてよりカジノに依存した経済構造に危機感を覚えていた政府は、同計画において、2020年までに官民の協力の下、カジノ運営6事業者の売上高のうちカジノ以外の売上高が占める割合を、2014年の約6.6%から約9%まで拡大する目標を定め、非カジノの拡大方針を明確に打ち出している。

また、同じく2016年に政府により公開されたカジノ産業の中間レビュー<sup>201</sup>においても、今後、VIPへの依存度を下げ、マス層を拡大していくため、非カジノを強化していくことに言及している。

---

<sup>200</sup> The Five-Year Development Plan of the Macao Special Administrative Region (2016-2020)  
[http://www.cccmtl.gov.mo/files/plano\\_quinquenal\\_en.pdf](http://www.cccmtl.gov.mo/files/plano_quinquenal_en.pdf)

<sup>201</sup> Interim Review of Gaming Liberalization for Games of Fortune in Macao: economical, social, livelihood impacts and operating conditions of the Concessionaires  
<http://www.dicj.gov.mo/web/en/news/Year-2016/mid-report/index.html>

## ② マカオ 6 事業者によるコタイ地区開発

マカオでは、コタイ地区において、ライセンスが付与されている 6 事業者それぞれが、マスの拡大を見据えた開発を進めてきており、2015 年から 2017 年にかけてマス向けの施設を充実させた新しい IR・カジノの開業が続いている。

また、これらの新しい IR・カジノの開業においては、マカオ政府がコタイ地区の土地の割り振りを調整し、計画的に建設を進めた。

図表 4-18 マカオ・コタイ地区における各事業者の新規 IR カジノ建設用地



出典：MGM 提供資料を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 4-19 マカオ・コタイ地区における新規開業・施設拡張の状況

運営事業者	新規開業・施設拡張の状況
SJM	【新規】グランドリスポアパレス(2018 年予定) 有名デザイナーが手掛けるホテルや多目的シアターなど。
ウィンリゾート	【新規】ウィンパレス(2016 年) 施設前の噴水ショーと施設を周遊するゴンドラが特徴。レストラン、スパ、ショッピングエリアなど。
ギャラクシー	【新規】プロードウェイマカオ(2015 年) 3,000 席のシアターや、飲食店や小売店が軒を連ねる「ザ・プロードウェイ」など。 【拡張】ギャラクシー・マカオ(第 3 期、第 4 期)(開業時期未定) MICE やファミリー向けの施設に重点を置いた施設となる予定
ラスベガス・サンズ	【新規】パリジャンマカオ(2016 年) 20 世紀のフランスを彷彿とさせるエンターテイメントホテル。世界トップクラスの演劇やショー、ショッピングエリア、レストランなど。
MGM	【新規】MGM コタイ(2017 年予定) ショッピングモール、レストラン、スパ、シアター、コンベンションなど。
メルコ・クラウン	【新規】スタジオシティ(2015 年) 映画そのものをテーマにしたリゾート。8 の字の観覧車やショッピングモール、エンターテイメント施設など。

### ③ マカオ以外の国・地域における開発計画

第3章で述べたとおり、近年、韓国やフィリピン、ロシア沿海地方など、マカオ以外の国・地域においても、新規 IR・カジノを建設する動きが活発になっている。近年の傾向としては、カジノ中心ではなく、幅広い客層を取り込むべくカジノ以外の施設の充実を図った複合型の施設が主流となっている。

例えば、韓国のパラダイスシティでは、2017年に開業予定のホテルやカジノ施設などに続き、2次開発として、プレミアムスパやショッピングモールのほか文化施設や韓流テーマパーク等、エンターテインメントを意識した施設づくりを進めている。

図表 4-20 パラダイスシティにおける開発計画



出典：パラダイスセガサミー社提供資料より引用

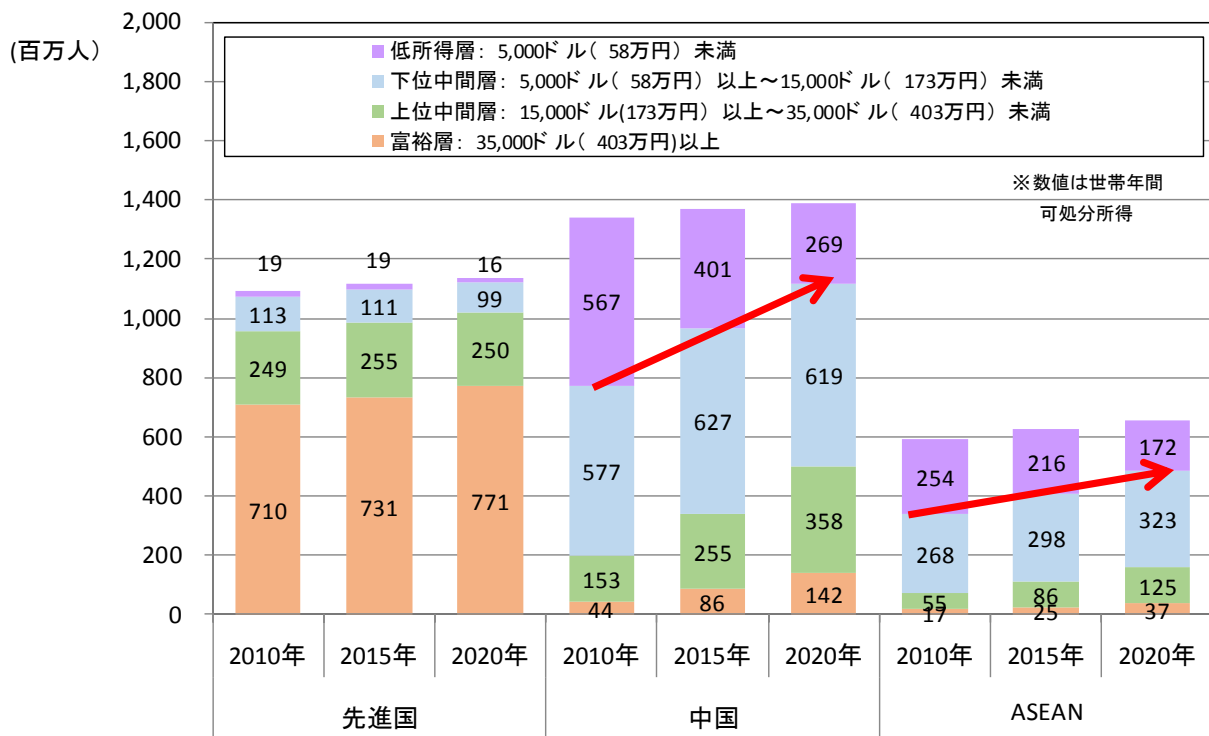


## (2) マス層獲得に向けた動きの背景

前述のように、各国・地域の政府やカジノ運営事業者は、特定の国・地域の顧客やVIP客に過度に依存せず、安定的な経営を実現するため、マス層を呼び込むための取組を進めている。

この背景には、アジア地域において、富裕層だけでなく中間所得層の人口増加が見込まれることがある。国・地域別の所得階層別人口をみると、特に中国においては、低所得層の人口が大幅に減少する一方、2010年には7億3,000万人だった上位中間層・下位中間層の人口が、2020年には9億7,700万人と、2億4,700万人増加することが見込まれている。

図表 4-21 国・地域別の所得階層別人口

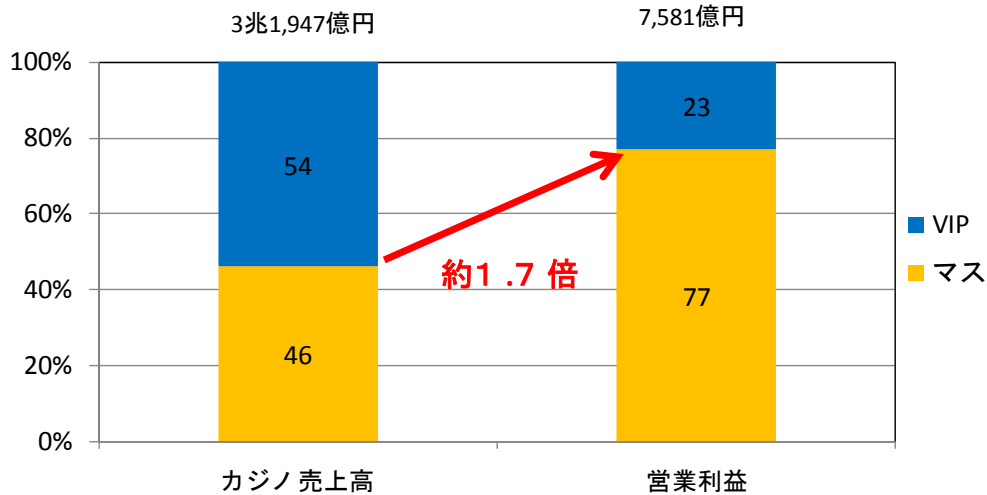


※世帯可処分所得別の家計人口。各所得層の家計比率×人口で算出。2015年、2020年の各所得階層の家計比率は推計。

出典：経済産業省「通商白書 2013」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

また、マスは、VIP と比較して、カジノ売上高における利益率が高いという特徴を持つ。マカオにおける年間カジノ売上高と推定営業利益をみると、カジノ売上高では 46% であったマスの比率が、利益では 77% となっている。

図表 4-22 マカオにおける年間カジノ売上高と推定営業利益



※営業利益は、マカオ政府博彩監察協調局(DICJ)が発表のカジノ売上高（2015年第2四半期～2016年第1四半期実績）を基にラスベガス・サンズが推計したものである。

出典：“Las Vegas Sands Investor Update” June 2016

加えて、前述のマカオ政府が発表したカジノ産業中間レビューでは、カジノに参加した客が、飲食、ショッピング、娯楽、観光などのカジノ以外の消費に貢献すると同時に、カジノ以外に魅力を感じて訪れた客がカジノでの消費にも貢献するといった、カジノと非カジノ間の相乗効果が存在すると述べられている。すなわち、カジノ以外の施設を充実させてマス層を呼び込むことは、カジノ以外の売上を拡大するだけでなく、相乗効果によるカジノ売上高の増加も期待できると言える。

これらのことを背景として、各カジノ運営事業者は、カジノ以外の施設に重点を置いた開発を行って他事業者との差別化を図り、マス層の獲得に努めている。

## 4.2 日本及び東京の特性

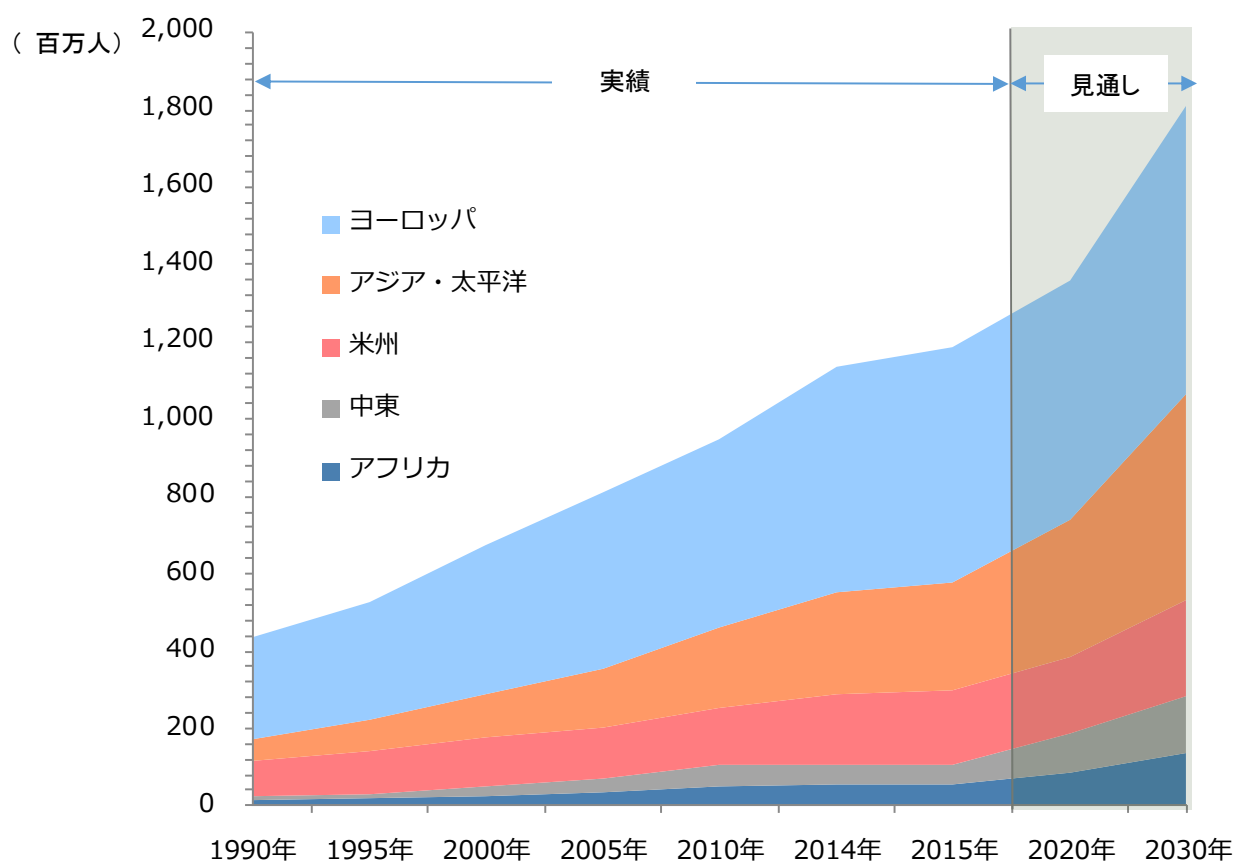
本節では、アジアの IR・カジノ市場からみた日本及び東京の特性について述べる。

### 4.2.1 外国人旅行者数の推移

#### (1) 世界の外国人旅行者数の推移

国連世界観光機関によると、世界の旅行者数は増加傾向が続いており、2015年には11.9億人に達している。こうした傾向は今後も長期間に渡って継続することが見込まれており、2020年には約13.6億人、2030年には約18.1億人まで増加することが予測されている。

図表 4-23 世界の外国人旅行者数の推移



	1990	1995	2000	2005	2010	2014	2015	2020	2030
アフリカ	14.8	18.7	26.2	34.8	50.4	55.3	53.5	85	134
中東	9.6	12.7	22.4	33.7	54.7	52.4	53.3	101	149
米州	92.8	108.9	128.2	133.3	150.2	181.9	192.6	199	248
アジア・太平洋	55.9	82.1	110.4	154.0	205.5	264.3	279.2	355	535
ヨーロッパ	261.5	304.5	386.6	453.2	489.4	580.2	607.7	620	744

[単位：百万人]

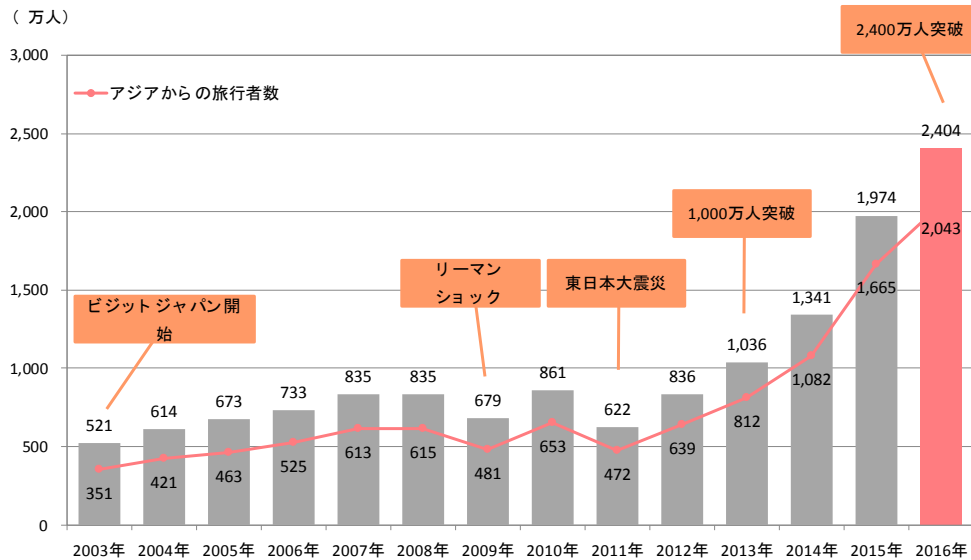
出典：世界観光機関「Tourism Highlights 2016 Edition」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## (2) 訪日外国人旅行者数の推移

日本を訪れる外国人旅行者は、2003年に政府がビジット・ジャパン・キャンペーンの取組を開始して以来、一時的な落ち込みはあるものの、順調に伸びており、2016年の外国人旅行者数は2,403万9千人に達した。

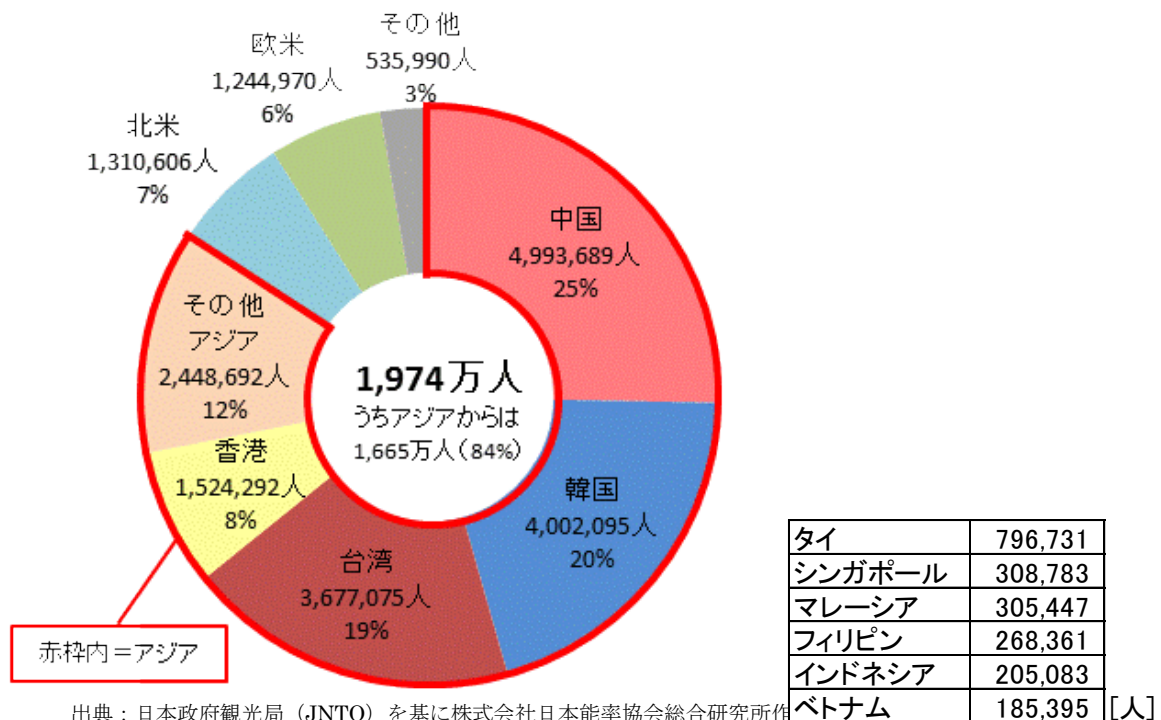
2015年の訪日外国人旅行者数の内訳をみると、アジアからの旅行者が1,665万人と全体の約84%を占めている。

図表 4-24 訪日外国人旅行者数の推移



出典：日本政府観光局（JNTO）を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

図表 4-25 訪日外国人旅行者数の内訳(2015年)

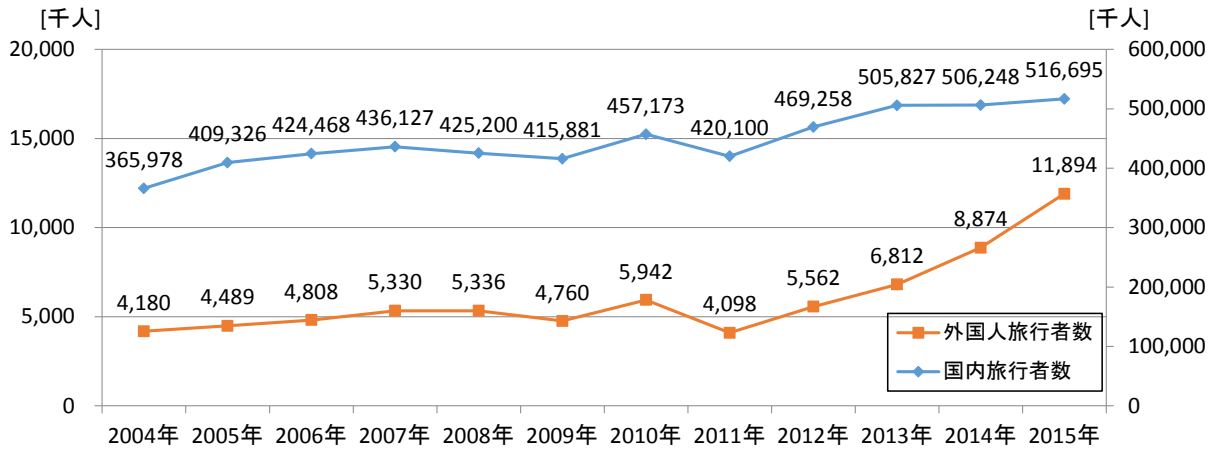


出典：日本政府観光局（JNTO）を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

### (3) 訪都外国人旅行者数の推移

2015年に東京都を訪れた外国人旅行者は約1,189万人（対前年比34.0%増）となった。訪都外国人旅行者数は、円安や消費税免税制度の拡充、中国及び東南アジア諸国の査証発給要件の大幅緩和措置等の影響を受け、過去最多となった。

図表 4-26 訪都外国人旅行者数の推移

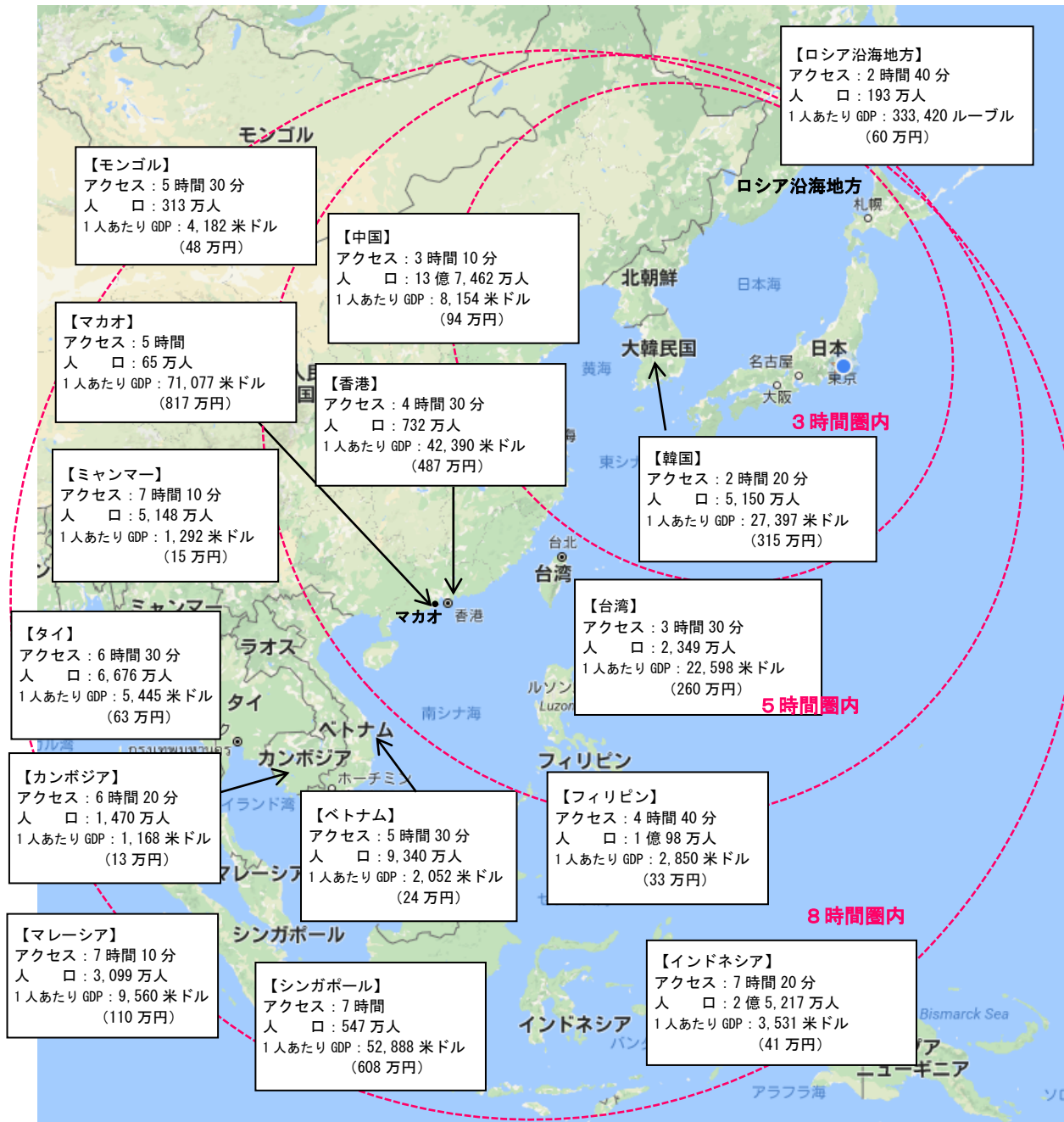


出典：「東京都観光客数等実態調査（東京都）」を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

## 4.2.2 各国・地域の分析

東京から飛行機で、3時間、5時間、8時間以内のアクセス圏内をみると、以下の国・地域が含まれる。

図表 4-27 各国・地域の状況



※外務省から渡航自粛要請が通達されている北朝鮮は分析から除外した。

出典：Google Map を基に株式会社日本能率協会総合研究所作成

各国・地域について、東京からのアクセス、人口、訪日者数、1人あたりGDPについて整理すると以下のとおりである。

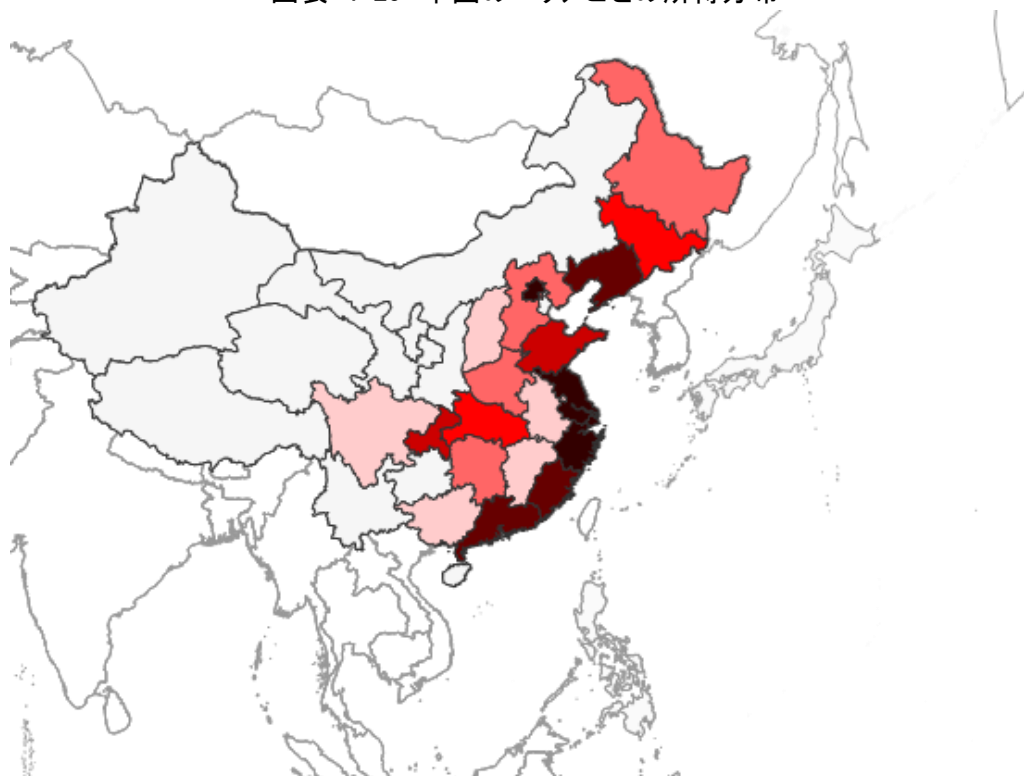
東京からのアクセスが5時間以内の国・地域をみると、韓国、台湾、香港、マカオといった1人あたりGDPが高い国・地域が含まれていることがわかる。中国については、現在の1人あたりGDPは他の国・地域と比べて低いものの、「4.1.3(2)マス層獲得に向けた動きの背景」で述べたように、今後富裕層だけでなく上位中間層・下位中間層の人口が大幅に増加することが見込まれている。また、中国のエリアごとの所得分布をみると、日本に近い沿海部に1人あたりGDPが高い地域が集中していることがわかる。2015年の訪日者数が約500万人と最多であり、前年比+107.3%と大きく増加していることも併せて考えると、日本にとって重要な市場であると言える。

図表 4-28 各国・地域の比較

国・地域	人口 [万人]	2015年 訪日者数 [万人]	2015年 訪日者数 前年比伸率 [%]	1人あたり GDP [万円]	東京からの アクセス	
					[分]	分類
韓国	5,150	400	45.3	315	140	3 時間
ロシア沿海地方	193	-	-	60	160	
中国	137,462	499	107.3	94	190	5 時間
台湾	2,349	368	29.9	260	210	
香港	732	152	64.6	487	270	
フィリピン	10,098	27	45.7	33	280	
マカオ	65	-	-	817	300	
モンゴル	313	-	-	48	330	8 時間
ベトナム	9,340	19	49.2	24	330	
カンボジア	1,470	-	-	13	380	
タイ	6,676	80	21.2	63	390	
シンガポール	547	31	35.5	608	420	
マレーシア	3,099	31	22.4	110	430	
ミャンマー	5,148	-	-	15	430	
インドネシア	25,217	21	29.2	41	440	

※各国・地域における1人あたりGDPは、2015年の数値。ただし、台湾、フィリピン、ベトナム、タイ、インドネシアは2014年の数値。

図表 4-29 中国のエリアごとの所得分布



分類	地方	1人あたりGDP	
		[米ドル]	[万円]
12,000米ドル以上 138万円以上	北京市(Beijin)	16,453	189
	上海市(Shanghai)	15,863	182
	江蘇(Jiangsu)	13,578	156
	浙江(Zhejiang)	12,003	138
10,000～12,000米ドル未満 115万円～138万円未満	福建(Fujian)	10,523	121
	広東(Guangdong)	10,466	120
	遼寧(Liaoning)	10,091	116
8,000～10,000米ドル未満 92万円～115万円未満	山東(Shandong)	9,920	114
	重慶市(Chongqing)	8,100	93
7,000～8,000米ドル未満 81万円～92万円未満	吉林(Jilin)	7,993	92
	湖北(Hubei)	7,832	90
6,000～7,000米ドル未満 69万円～81万円未満	湖南(Hunan)	6,645	76
	河北(Hebei)	6,222	72
	黒龍江(Heilongjiang)	6,066	70
	河南(Henan)	6,046	70
5,000～6,000米ドル未満 58万円～69万円未満	四川(Sichuan)	5,700	66
	江西(Jiangxi)	5,676	65
	安徽(Anhui)	5,576	64
	広西(Guangxi)	5,448	63
	山西(Shanxi)	5,409	62
	その他	-	-

出典：“Las Vegas Sands Investor Update” June 2016 を基に株式会社日本能率総合研究所作成



### 4.2.3 競合分析

本調査の対象国・地域のうち、カジノ売上高が大きい韓国、マカオ、シンガポール並びに近年複数の IR・カジノの建設が計画されているフィリピン及びロシア沿海地方について、その特徴や日本との競合関係を整理した。

図表 4-30 各国・地域の特徴と競合関係

国・地域	特徴	競合関係
韓国	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既存の 17 のカジノに加え、今後複数の大型 IR・カジノの開業が予定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本より先に大型 IR・カジノが開業する予定であり、また、日本との距離も近く、競合となりうる。</li> </ul>
マカオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●36 の IR・カジノが開業しており、世界でも有数の IR・カジノが集積した都市である。近年は政府の方針として、カジノ以外の施設も強化した大型 IR・カジノが開業している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様な観光資源を持つ日本とは、旅行者の目的が異なると考えられ、差別化を図りやすい。</li> </ul>
シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2 つの大型 IR・カジノが開業している。1 つは、MICE 機能が充実したシンガポールのアイコンとなる IR であり、もう 1 つはリゾートをコンセプトとした IR である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本との距離が離れており、また、当面、新規 IR・カジノの開業予定もないことから、直接の影響は大きくないと考えられる。</li> <li>●IR・カジノ以外の観光資源が限られているため、誘客において、多様な観光資源を有することが日本の強みとなりうる。</li> </ul>
フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多数の小・中規模カジノ施設のほか、4 つの大型 IR・カジノが開業しており、更に今後も複数の大型 IR・カジノの開業が予定されている。また、観光立国を目指し、治安の改善を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国等、一部市場圏が重なる可能性がある。</li> <li>●フィリピンは道路、鉄道、空港などのインフラが整備途上であり、成熟した都市としての魅力という面では日本に強みがある。</li> <li>●また、治安面についても、日本に強みがある。</li> </ul>
ロシア沿海地方	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1 つの IR・カジノが開業しており、更に今後も複数の IR・カジノの開業が予定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本で想定される IR に比べると小規模であり、また、ロシア沿海地方には観光資源も少ないことから、影響は限定的と考えられる。</li> </ul>



## 4.3 IR 導入にあたっての課題

本節では、前項までの内容を踏まえ、IR 導入にあたっての課題について整理する。

### (1) 地域にふさわしいコンセプト

- 世界を代表する IR は、それぞれ明確なコンセプトに基づいて設置されており、地域にふさわしいコンセプトを持った IR であることが必要である。

図表 4-31 シンガポールにおける IR のコンセプト

施設名	コンセプト
マリーナベイサンズ	世界有数の MICE 施設を有する、シンガポールのアイコンとなる IR 
リゾートワールド セントーサ	ファミリー層もターゲットとしたリゾート型 IR 

出典：画像は各社公式 HP より引用

- また、シンガポール政府のように、IR 運営事業者を選定するにあたり、基本的なコンセプトを政府が決定した上で、そのコンセプトに沿った提案を募集した例もある。この方法を用いる場合は、自治体は事前に十分なコンセプトの検討を行い、事業者への提案募集前にコンセプトを決定しておく必要がある。

### (2) 良好な交通アクセス

- 海外から IR に誘客するためには、国際空港からのアクセスが良い場所に IR を設置することが好ましい。

### (3) 幅広い顧客層の誘客

- IR・カジノにおいて、カジノ売上高が全体に占める比率は依然として大きいものの、安定的に施設を運営していくためには幅広い顧客層の誘客が重要であり、エンターテインメント施設や MICE 施設など、カジノ以外の施設の充実が求められる。

図表 4-32 各国・地域の IR におけるカジノ以外の施設

国・地域	施設名	特徴的な施設
韓国	パラダイスシティ (新規開業予定)	韓流コンテンツや韓国文化を発信するショッピングモール、国際会議が開催可能な会議施設、プレミアムスパ 
マカオ	ブロードウェイ マカオ	ブロードウェイ・シアター、ザ・ブロードウェイ (ショッピングモール) 
	スタジオシティ	ゴールデンリール(8の字の観覧車)、有名キャラクターをテーマにしたアトラクション 
シンガポール	マリーナベイサンズ	スカイパーク(3つの建物の屋上をつなぐ船型の庭園及びプール)、科学美術館、シアター(4,000席)、コンベンション(4万5,000人収容、ボールルーム含む) 
	リゾートワールド セントーサ	ユニバーサルスタジオ・シンガポール、シー・アクアリウム(アジア最大級の規模を誇る海洋水族館) 
フィリピン	オカダマニラ	ショッピングモール、大規模噴水、屋内ビーチ 

出典：画像は各社公式 HP より引用

#### (4) 国際観光誘致との一体化

- IR への誘客にあたっては、都市景観、水辺、夜景等の地域を象徴する様々な景観や、歴史・文化、食、アニメ、ファッション等の観光資源を活用し、外国人旅行者の誘致と一体的な計画づくりが必要である。

#### (5) 営業活動

- ターゲットとする国の旅行者や旅行代理店等に対して、IR を含めた観光資源の魅力をアピールするなどの営業活動が必要である。また、MICE 施設を活用した国際会議の誘致については、旅行者とは異なるアプローチでの営業活動が必要である。
- シンガポール政府観光局では、マリーナベイサンズをシンガポールのアイコンとした HP、パンフレット、テレビ CM 等による観光客誘致活動を積極的に行っている。また、同施設を運営するラスベガス・サンズが世界に保有する支店等を通じた営業ネットワークを活用し、MICE 施設への国際会議の誘致に成功している。

#### (6) ギャンブル依存症対策

- IR 導入にともない懸念されるギャンブル依存症問題に対する対策の実施が必要である。
- シンガポールでは、ギャンブル依存症対策として様々な検討を行い、本人または家族の申請により、カジノ施設への入場を自主的に規制する等の仕組みを導入し、IR 導入前よりもギャンブル依存症患者の有病率を低減することに成功している。

#### (7) セキュリティ対策

- IR・カジノ導入にともない懸念される反社会勢力の関与リスクや、IR 設置地域の治安悪化リスクに対する対策の実施が必要である。また、大勢の客が集まる場所となるため、近年世界的に多発しているテロ事件のターゲットとなるリスクも考えられ、対策の実施が必要である。
- シンガポールの IR 運営事業者においては、シンガポール警察のセキュリティライセンスを持った人材を採用する等の取組例がある。



平成 28 年度海外における特定複合観光施設に関する調査分析業務委託報告書

発行月 平成 29 年 3 月

発行 東京都港湾局

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

Tel 03-5321-1111

調査分析実施 株式会社日本能率協会総合研究所

